

源標定中隊より成る。

英軍
英國砲兵に野砲大隊、重砲大隊測地中隊があり、測地中隊は音源標定小隊、地上標定小隊、測地小隊がある。

米軍
軍團砲兵の野重旅團に音源及火光標定大隊がある、大隊は本部、本部中隊、中隊二より成り、中隊には火光標定小隊、音源標定小隊、通信小隊等がある。

空中観測に就ては尙未解決の若干の問題がある。其の一は飛行機、他の一は氣球である。

飛行機の發達に伴つて空軍化し、或は既に空軍として獨立したつた國も多いので、地上部隊と協力する飛行機を如何にすべきかは研究の餘地が大きい。如何なる飛行機を使ふべきか、編制を如何にすべきか、又高射機關砲、驅逐機の發達した今日如何にして観測すべきかも皆問題である。オートチャ

イロといふものも砲兵協力用として各國に於て相當研究されつゝあるが、之もまだ海のものとも山のものとも決定し難い。

氣球は飛行機の發達した今日、専ら砲兵の観測機關と化したことは我が國の氣球が航空兵から砲兵に移管されたことに依つて明かであるが、之も亦空中戦力の増大した今日、大いに研究の餘地がある。

三、軍の機械化及機械化部隊

(1) 軍機械化の理念と趨勢

四年の長年月と四千億圓に及ぶ國幣を消費し、各國其國力を賭して戦つた前大戰も、戰後久しからずして早くもベルサイユ條約調印、國際聯盟成立と背馳し、年々醸成された世界不安に對しては、列強齊しく數次の陸海軍縮會議に出席しては陽に平和を主張し乍ら國內に於ては已に大戰直後より戰略、戰術、武器、器材は勿論新戰術、新兵

器等の研究に著手し、如何にして「次の戦争」に於て勝利者たるべきかに苦心没頭しつゝあつたことは、今更隠れもない現實であつたのである。

而して此等研究の對象が先づ前大戰に向けられ、政略、戰略、戰術、兵器等各方面に亘つて検討のメスを振ひ、就中最後の決をなす戰術の研究が、生しい前大戰勝敗の由つて来る所以を第一に取り上げたのも亦當然の發見點であつた。

抑々前大戰が四年有半に亘る長期消耗戰となつた事は戰術上より觀れば確に退歩であつた。其は火力萬能の弊に陥つて軍の運動性を忘れた爲であつた。茲に大戰の尊き體驗に基き漸次作戦指導の思想に一大變革を齎らし、之に裝備を一致せしむる爲先づ大空軍の擴張と並行し、戰車及自動車に依り軍に絶大の武力と卓越せる運動性と堅韌なる防護力とを兼備せしめんとする所謂軍機械化と云ふことが重要視せらるるに至つたのである。而して結局今日

に於ては將來戰の形態としては國家總力戰が豫想せられ、各國民は持久長期の經濟戰を覺悟せねばならぬが、戰略戰術上の觀點よりせば、少くも部分的又は一戰局に於ては依然速戰速決主義こそ千古變らざるべき鐵則である結論に到達したのであつた。

此の如き速戰速決主義なる戰爭の指導方針より觀るも、同じく「武裝」「防護」「遠力」の三者を兼備せる軍機械化こそ最も此主義に合致する勝利の鍵であるとの歸結を見たのも亦當然であつた。

斯くの如き思想に基き各國共軍機械化に關する研究の爲至大の努力を續けて來たのであるが、今日に於ては區々議論の時代は通り越して一意實行の時代に入り著々各方面各兵種を一丸とした軍の機械化が增強せられつゝある状態である。唯問題としては之に要する軍需生産力及技術力並に之が背景をなす軍需資源及資材、更に經濟力が物を云ふことも見逃されぬことで、一面又

此の如き高度軍機械化の促進には國軍全般の科學的裝備を軍の要望する程度に達せしむる必要があり、更に之に必要なる工業能力の飛躍的發達及國民の科學的機械的智能の向上を圖る事が緊要であることは之も多言を要しないところである。

(2) 戰車及對戰車砲

一、沿革

大戰後列強の戰車研究熱は益々盛んで技術上劃期的な進歩をなし、列強は其の裝備數の多きを競ひ空には飛行機、地には戰車を骨幹とする機械化部隊が近代化した軍隊の要素となつてゐる。

最新式戰車の進歩は其の速度の早いことである。速度を早くする爲に構造技術は極めて困難となり、有らゆる點に於て劃期的の改善を必要とした。前大戰にはじめて出現した頃の戰車の速度は八軒以下を普通とし、十四軒に達するものは高速度戰車と認められたが、現在では三十軒、四十軒は普通で

特別の構造により七十軒、八十軒、今次戰亂には九十軒を走るものすら出現した。大戰當時の牛歩遅々の戰車は敵彈の目標となつて損害を受けることが多かつたが速度が早くなつたので、敵彈の照準は困難となり射彈を被らぬ内に敵陣に突入することが出来る。又低速度の戰車は陣地戰専用であつたが、高速度の戰車は自動車と行動を共にし機械化部隊の骨幹となつて大規模の機動戰に参加し得るのは、今次事變及歐洲戰亂の幾多の戰例が之を實證してゐる。

速度の要求が益々大となつた結果、無限軌道と車輪とを併用するもの、即ち高速度の路上行進には護謨輪帶附の車輪を用ひ、路外の行動を必要とする場合には此の車輪の上に無限軌道を裝するもの、或は車輪と無限軌道とを相互に轉換し得るものなどが考案され、又上陸戰闘、渡河戰闘などの任務に服する爲に水上に浮び陸上を疾走する水陸兩用戰車がある。

二、概説

現在使用せられてゐる戦車を大別すると、軽戦車、中戦車、重戦車、超重戦車、巡航戦車等の種類がある。此の分類法は各國に依つて區々であるが、先づ重量より區別してゐるのである。此の外、装甲師團の發達に従つて装甲車輛が出来、之と同時に装甲索引車も必然的に我々の前に現れて來たが、以上の戦車及装甲車等が對戦車砲の獲物たり得るもので、其の性能は次の如くである。

装甲及重量

戦車の運動性よりすると、成るべく装甲板を薄くし重量とすることを要求されるが、一方砲彈の侵徹効力を減少させる爲には成るべく装甲板を厚くする方がよいので、装甲板の厚みを増すこと、重量にして運動性を増大することとの兩者を満足するやうに戦車を設計製作せねばならない。現在の戦車装甲車の装甲板の厚みは大體次のやうである。

装甲車級	最厚部の装甲	約一〇耗
輕戦車級	"	約一五耗
中戦車級	"	約二〇耗 乃至三〇耗
重戦車級	"	約三〇耗以上
超重戦車級	"	約三〇耗以上 乃至四〇耗

近來優秀なる金属材料が生産されるやうになつた爲に薄肉強靱なる防弾鋼板が出来、其の爲に重量を軽減する傾向となりつゝあるが、蘇聯邦には五〇噸戦車、一〇〇噸戦車があるらしく、佛國にも七〇噸戦車と云ふのがあるとのことである。

(2) 裝 備

裝備兵器は、各國戦車に依つて區々であるが、機關銃一乃至二銃を有するもの又は機關銃、戦車砲を併せ有するもの、七五耗乃至一五五耗砲と云ふ大きい火砲を裝備してゐるもの、高射機關銃又は高射砲を裝備してゐるもの等がある。

(3) 運 動 性

戦車は普通キヤタビラ即ち無限軌道に依つて馳驅し、如何なる地形にも適するやうに出來てゐて、四五度位の傾斜を攀ち登り、一・五米位の障礙物を超越し、二米位の壕を通過し、重戦車に至つては直徑六〇乃至七〇厘米の樹木を平氣で倒して前進することが出来る。行動範圍は輕戦車級で三〇〇厘米迄重戦車級でも一〇〇厘米迄行動することが出来る。勿論地形、貯油量、發動機の馬力、戦車の重量に依つて差のあるのは當然のことである。速力も前大戰の頃のものは時速一〇耗にも及ばなかつたが、現在では時速三〇乃至五〇耗が普通で、路上二〇〇耗位出せる戦車も出現して來た。

(4) 發 動 機

戦車の發動機は大體空冷式の自動車用ガソリン發動機と同一であるが、蘇聯邦の一部ではディーゼル機關を、米國には航空機用發動機を裝備してゐるものもあつて、出力は小は六〇馬力よ

り大は三〇〇馬力に及ぶものがある。

(5) 其 の 他

以上の他戦車指揮に必要な無線通信裝置を有して短波通信をなし、戦車相互間に連繫を保ちつゝ行動するやうになつてゐるものが多い。

三、細 説

輕戦車—重量二—八噸、乗務員二、三名、路外に於ける時速二〇哩以上、行動半徑一〇〇哩以上、装甲板の厚さ半吋以上、機關銃一二(機關銃二の場合には砲塔上に同軸に裝置し旋回して全周射撃が可脂とされてゐる)である。

中戦車(輕い型のもの)—重量一八噸迄、路外時速三〇哩、行動半徑一二五哩、装甲板の厚さ一吋以上。乗務員五—六名、砲塔に同軸に砲一、機關銃一を全周射撃が可能なやうに搭載し、車體中に機關銃二を有する。(或場合には側面に小砲塔を設け之を裝置してゐる)

重戦車(重い型のもの)—歩兵に協同するもの、重量三〇噸迄、路外時速一

五哩、行動半徑一〇〇哩、装甲板は前述の中戦車より厚く、主砲塔に輕砲一側面の小砲塔に機關銃三を有する。

超重戦車—三十噸以上の戦車について

は最初の間は理論的可能性は成立するとしても、製作及實用に關し難點あり、加ふるに列國共に秘密にしてゐるので不明であり、従つて今次歐洲戰亂の白佛戰場に獨軍の花形として出現した七十噸戦車は當時専門家の間にも一時疑問視せられたのであつたが、其後其實在が明かとなり、又佛軍に於ても七十二噸超重戦車を使用し、獨軍に分捕られた其の寫眞迄到着したので、其の外貌も見ることが出來た。今獨軍七〇噸戦車及佛軍九十二噸戦車につき外誌の所載記を要約すると、獨七十噸戦車は時速十耗乃至五十耗で、其の装甲は、最有效の對戦車砲と云はれる七十耗砲に對しても防護十分であり(此の装甲は戦車の重量と相關々係あり、二十耗火砲に對して八噸以上の戦車、四十七耗火砲に對しては三十噸戦車に

非ざれば對抗し得ず、七五耗火砲に對しては約百噸の戦車を必要とすると云はれ、之が今回超重戦車の出現を見た一因子である)武裝は機關銃數門、野砲より幾分小口径の火砲數門を備へて居ると云はれる。

佛軍の九十二噸戦車に至つては一五五噸又は七五噸の砲一門、機關砲二、機關銃一〇を具へて居ると傳へられるから、正しく陸の甲鐵艦又は動く要塞とも見られる、従つて其機關も頗る強力なものが要求せらるゝのは當然であつて、ディーゼル機關に重油を用ひてゐるであらうと傳へられる。尙前記の獨軍に鹵獲せられた佛軍七十二噸超重戦車も獨軍の精良な對戦車砲又は高射乗用對戦車砲により穿貫せられて居るのを見ると、戦車と對戦車砲との拮抗は將來各國軍事技術家間の興味ある課題であらう。

快速戦車—超重戦車又は超々重戦車が前述の如く使用せられて居る一方、同じく今次戰亂に活躍を傳へられる

重 破陣 壞地	中 隨步團機突陣 動 件兵用兵破地											
	英 昆 式	ソ T 32	佛 B	佛 A	佛 3C	米 クリ ス	ソ b T	獨	米 T 2	ソ T 28	佛 R 35	英 昆 式
三三〇	三三〇	三〇〇	九二〇	七五〇	チ	一〇二	一〇二	一三〇	一八〇	一一〇	一六〇	五〇
三三二	三〇〇	三〇	一五	一五	裝軌 六二〇	一	一	四〇	四五	二五	三二〇	九五
三三〇	三〇〇	一	一二〇	一五〇	一	一	一	一四五	二〇〇	一〇一三〇	九五	二五
二五	二五	四五	三〇一五五	三〇一五五	六二一六	一	一	六二二	二二一三五	一〇一三〇	二五	二五
機四七 關銃	機四七 關銃	機四七 關銃	機高射 關銃	機一五 關銃	機四七 關銃	機四七 關銃	機四七 關銃	機四七 關銃	機四七 關銃	機四七 關銃	機四七 關銃	機四七 關銃
四	一	一	一〇	一	四	一	一	一	一	一	一	一
					BT リ	快速 奇襲 戰車 トモ 謂フベ キモノ						

對戰車砲

戰車が戰場に其威力を振ふに到るや

之を撲滅すべき對戰車砲の必要は愈々切なるものがある。戰車の速度が増大するにつれ、之に對抗して隨時隨所に

其の奇襲を破滅する爲には、成るべく輕易で、常に歩兵と行動を共にし得るものが必要であるが、一方今日の進歩

した裝甲に依つて十分防禦せられた戰車を破壊する爲には侵徹威力の大なる火砲を以てしなければならぬ。此の運動性と威力とは火砲の構造上相反する要求であつて、此等を如何に調和せしむるかは各國の齊しく苦心する所であらう。即ち運動性と發射速度とを主とするものは英、米軍の口径十三耗級佛軍の二十五耗加農等で威力を主とするものは獨、英、米の三十七耗砲、蘇軍の四十五耗砲等である。

英、米、蘇、獨の對戰車砲

一、獨逸

獨逸は今次大戰に於て對英佛戰、對ギリシヤ戰及阿弗利加戰線其の他に於て縱横無盡に對戰車砲を使用し、華々しい戦果を獲得してゐる。その爲には對戰車砲中隊乃至重戰車砲大隊を編成し歩兵聯隊、師團又は裝甲師團に直屬せしめて集團的效果を擧げるやうに用ひ、初めて功を奏したのである。勿論獨逸全軍に裝備された数は莫大なものであることは論を俟たない。

併し獨逸戰に於ては蘇聯が獨逸の意表に出た超重戰車の出現に對し、從來獨軍に裝備してゐる三七耗級及四七耗の對戰車砲を以てしては如何ともすること能はず、遂に野砲、高射砲を以て漸くその侵入を喰止めたと報せられてゐるが、此處に對戰車砲の將來に關する問題が新しく提供されてゐるのであるまいか。

ラインメタル式四七耗對戰車砲

本砲は砲口制限機附四七耗對戰車砲で砲身長五五口径、構造は大體に於てラ式三七耗對戰車砲と同様である。即ち輕合金製管狀開脚式砲架、自動開閉水平鎖栓式閉鎖機、輪板式空氣入ゴム輪帶輪及防桶等の構造に於て三七耗砲と略々類似してゐる。

本砲の主要諸元は次のやうである。
口径 四七耗
砲身長 五五口径

- 閉鎖機 自動開閉水平鎖栓式
- 復座機 水壓駐退、ばね復座式
- 砲架様式 裝輪開脚(管狀)式
- 高低射界 負七度、正二五度
- 方向射界 五〇度(開脚)
- 彈種彈量 徹甲彈 一・六耗 榴彈 一・七耗
- 初速 徹甲彈 八三〇米・秒 榴彈 八〇五米・秒
- 發射速度 二〇一二五發・分
- 最大射程 約八、五〇〇米
- 運搬様式 機械牽引
- 放列砲車 約六三〇耗

二、蘇聯邦

蘇聯邦はラインメタル式の四五耗對戰車砲を主として裝備してゐるが、ラインメタル式三七耗砲(獨逸の項を参照)も裝備してゐる。併し三七耗砲は漸次四五耗砲に代へられつゝある。蘇聯邦は近年戰車、裝甲車等莫大な數を準備してゐるが之に對して對戰車砲も相當多數裝備してゐると考へられ

る。而もその裝備狀況は狙撃師團、騎兵師團等に統一使用を企圖してゐるがその裝備門数は全軍劃一ではない。

一九三二年式四五耗對戰車砲

本砲はラインメタル式三七耗對戰車砲を模倣したもので、蘇軍對戰車砲及大隊砲の主力火砲である。四五口径四五耗砲で、外觀はラ式三七耗對戰車砲と殆ど同形の防楯、輕合金製管狀開脚式砲架であつて、閉鎖機は垂直鎖栓式(自動式)車輪は懸吊式空氣入ゴム輪帶車輪である。運搬は前車を附して輕裝甲車牽引車、豆戰車等に依る(大隊砲用のものは鞍馬曳とす)。

本砲使用の彈丸は徹甲彈、榴彈の二種あつて、徹甲彈は徹頭假帽彈(彈量一・四五斤)彈體は特殊鋼を用ひ初速七六〇米・秒に及び其の徹甲威力は大である。

本砲の諸元は左の通りである。

口径 四五耗
砲身長 四五口径
閉鎖機 自動開閉垂直鎖栓式

砲架様式 輕合金製管狀開脚式
高低射界 負九度、正二五度
方向射界 左右各二八度
發射速度 二〇發分
彈種彈量 徹頭假帽附徹甲彈一・四五斤
初速 七六〇米・秒
最大射程 七、九〇〇米
運搬様式 前車附機牽引
放列砲車重 四四〇斤

三、英國

英國の裝備する對戰車砲は主としてピツカース四〇耗對戰車砲(對戰車二封度砲)である。

ピツカース式四〇耗對戰車砲(對戰車二封度砲)

本砲には外觀の多少相違する二種がある。その主なる相違點は防楯であつて、其の他は殆ど同じ型式を採用してゐる。

本砲の特徴は三箭材式三脚砲架にて射撃姿勢を安定にし得るやうになつて

ある。その際車輪は其方へ浮動して支持するか或は脱輪するかに依つて方向射界三六〇度を附與出来る。併し運行の際は三箭材を疊んで自動車牽引に便なる如くするが、火急の際には運行姿勢より直ちに射撃姿勢に移る爲に車輪を脱輪或は浮動するやうなことはない。

英國の對戰車砲部隊は本砲を主力火砲として裝備してゐて、各師團に一個大隊を配屬してゐる。自動貨車ブレンガンキヤリヤー、ドラゴン牽引車等で牽引するから、従つて車輪は空氣入ゴム輪帶を裝着してゐる。

本砲の主要諸元は次の通りである。

口径 四〇耗
砲身長 五〇口径
砲架様式 三箭材式
高低射界 負一〇度、正二〇度
方向射界 三六〇度
彈種彈量 曳光徹甲彈 一・〇七斤
初速 七二〇米・秒
最大射程 六、〇〇〇米

全備重量 約八四〇斤

四、米國

米國に於ては前世界大戰後平射步兵砲を改良して機動性を良好にし又射程を増大して對戰車砲としたが、列國の趨勢に刺戟せられて數年前新しくM一三型三七耗戰車砲を制式兵器として採用した。本砲は實戰に使用せられたことがないから眞の威力は分らないが米國では著々本砲を裝備しつつある現狀である。

本砲は三單位師團の歩兵聯隊に對戰車砲中隊として、裝甲師團に對戰車砲

列國對戰車砲諸元一覽表

名	稱	採用國	口径(耗)	射程(米)	物速(米秒)	彈量(斤)	重量(斤)	發射速度(每分)
マドセン	對戰車砲	米	二〇	六、〇〇〇	九〇〇	〇・三二	一・一六	三五〇
ホツチキス		佛	二五	八、五〇〇	九〇〇	〇・二九	一・三二	四三〇
ピツカース		英	二五・四五	九〇〇	九一〇	〇・二五	一	一〇〇

大隊として裝備されてゐる。

新制式M一三型三七耗對戰車砲

本砲は前述の如く歩兵用として制式に採用せられたものであつて、砲架は開脚式で輪板式空氣入ゴム輪帶を裝し自動車を以て時速六〇乃至八〇軒の高速度牽引をする。射撃操作の爲には一名の砲手は彈丸を裝填し、他の一名は照準及發射の任に當る。彈丸初速大で徹甲威力が大と云ふことである。

口径 三七耗
閉鎖機 垂直鎖栓式
駐退機 水壓駐退ばね復座機
復座機

高低射界 負一〇度、正一五度
方向射界 左右各三〇度
彈量 榴彈 〇・五四六斤
初速 八四〇米・秒
發射速度 二五―三五發・分
放列砲車重 四一四斤

米軍三七耗新對戰車砲は自動貨車を以てする高速度牽引に適するやう砲架上に搭載されて居り、近距離に於ける臂力牽引可能にして砲車は防楯を裝してゐる。

四、理學兵器、電氣兵器

銃砲火力が益々威力を發揮する様になつたのは、火力の運用殊に射撃術の進歩に負ふ所頗る多く、適時適當なる地點に有效なる火力を集散離合し、最も有効に威力を發揮することが、今日進歩せる射撃術の眞髓であつて、之が爲には各種光學的電氣的測測、射撃指揮及照準用具を必要とする。即ち戰場に於て敵の未だ視えざるに我は十分敵情を偵知し、敵の距離測定等の精度不良なる際、我は速かに精密なる諸元を決定し敵に先んじて、有效火力を發揚することは精密なる理學兵器の力に俟たなければならぬ。又火光、砲聲に依り敵の位置を決定する。

火光測定機、音源測定機や、高所又は上空より寫眞又は測量に依り、地理的位置を決定する光學的兵器等、理學兵器の進歩は甚に著しいものがある。今次歐洲戰爭に於ては、英獨空軍は

赤外線探知機、テレビジョン、透雲光線等を用ひ、從來不可視とせられた雲霧も全然障礙とならざる迄も相當程度は克服して爆撃又は防空に資して居る。

電氣兵器は之を分類すると電氣應用兵器と電氣的威力兵器とに區分することが出来る。電氣應用兵器は通信器材警戒及測測器材、聽測器材、照明器材各種動力器材等其の種類が多く、今や世界は電氣の世界と稱せらるゝが如く兵器に於ても益々其の使用範圍擴大せられつゝあるが、此等は寧ろ補助兵器である、戰闘の主目的たる殺傷、破壊等の威力兵器として歐洲大戰後半期より列國に於て研究せられつゝあるものに殺人光線、無線操縱、電氣砲等があると傳へられる。

物理的兵器 電氣や電氣現象利用のものとして既に新聞紙に報道されてゐるものに、強力な電波によつて神經を麻痺させ、人馬を殺傷する電磁光線、怪力線があり、電力によつて一日五十

五、海軍兵器

米も掘開しうる電氣穿孔器、無線による無人戰車の操縱、又は電氣利用の機械水雷、感度の高い飛行機探知機又は地雷探知機等がある。このうち、今次歐洲戰爭に實用に供されてゐるものは磁氣機雷、飛行機探知機、地雷探知機等であると考へられる。

音響や音波利用の兵器はどうかといふと、サイレン又は擴聲機、水中聽音器の利用、飛行機から投下する音響のみを發するスクリーム爆彈等がある。要するに科學の不斷の進歩發達に伴ひ各國共將來科學的新兵器の研究創造に多大の努力を拂ひつゝあり、又我國に於ては曩に陸軍が科學者に呼びかけ科學兵器協會の結成を見たことは別項の如くである。

〔海軍要覽〕(有終會發行)より一部抄録

一、艦砲

目次

級巡洋艦の主砲は六吋砲に限定せられてゐたが、軍縮條約廢棄後は此の制限はなくなつた。

航空母艦には八吋砲を裝備せるものと、多數の高角砲のみを有するものとある。驅逐艦の主砲は四吋乃至五吋砲であつて、新式米國驅逐艦の五吋砲の如きは對空射撃を可能ならしめてゐる。

二、高角砲

世界大戰直後、海上戰闘に於ける航空機の積極的用法が未だ發達しなかつた時代には、大艦と雖も防空砲として僅かに三吋高角砲數門を有するに過ぎなかつた。又射撃指揮用具とても格別なるものなく眞に幼稚なものであつた。

併し乍ら其の後の進歩著しく、今日列國海軍に於ては各種の高性能を有する高角砲が艦種に應じて用ひられ、又其の彈丸及び信管に於ても極めて有效精密のものが用ひらるゝに至つた。更に之に加ふるに精巧なる砲火指揮裝置

- 二、高角砲
- 三、機銃
- 四、彈丸
- 五、指揮裝置
- 六、魚雷
- 七、飛行機魚雷
- 八、機雷
- 九、掃海
- 十、對潛兵器
- 十一、煙幕
- 十二、高速魚雷機
- 十三、豆潛水艦

一、艦砲

艦砲は軍艦の最も重要な攻撃兵器の一であつて、發射速度迅速なる爲短時間に克く大量の射撃を發し得るのである、従つて艦船の戰闘能力を計較するに方つては、其の主砲は固より、副砲、高角砲等も重要な要素となり、嘗つての軍縮條約等に於て、主砲の大小は艦の排水量と共に制限條項の主なるものであつた。

現在軍艦に裝備されてゐる艦砲の中

で、最大なのは十六吋(四〇徑)砲であつて、砲身重量約百噸、其の長さ六十尺餘、彈丸約一噸の重さがある。之を裝備してゐるのは、世界各國中日本の長門、陸奥、英國のネルソン、ロドネー、米國のコロラド、メリーランド、ウエストバージニアの七戰艦のみである、併し今や十八吋砲も出現し米國の新計艦ケンタッキー級には搭載さるべしと言はれてゐる。

之に亞ぐ巨砲は十五吋砲、十四吋砲十三吋半砲、十三吋砲及び十二吋砲であつて列國海軍の主力艦に夫々搭載してゐる。此等の巨砲は華府條約の結果一時其の進歩を阻まれた形で、各國共其の後多少の改造は行つたとしても根本的大改造は行はれてゐないと見るのが至當であらう。併し乍ら砲架の改造による仰角の増進、或は彈丸の改良等は可能範圍内に於て進歩發達してゐるものと思はれる。

主力艦に亞で有力なのは甲級巡洋艦であつて、其の主砲は八吋砲に、又乙

を具へて防空射撃の完璧を期しつゝあるのである。

高角砲に要求せらるゝ條件を列挙すれば次の如きものである。

- イ、大仰角射撃可能なること。
- ロ、鞍耳は出来るだけ低いこと。
- ハ、旋回、俯仰迅速なること。
- ニ、發射速度大なること。
- ホ、初速大、彈道平低従つて彈丸飛行秒時小なること。
- ヘ、一彈の威力大なること従つて口徑成るべく大なること。

何れにせよ、任意の仰角に於て迅速なる裝填を可能ならしめんが爲等の見地より、高角砲は彈藥包使用の藥莢砲たるべきことには意見一致せるもの如く、従つて横栓式若くは縦栓式閉鎖機を用ひたる半自動砲である。

尙ほ近代的艦船に於ては、其の攻撃諸性能増大の要求に應じ得しめんが爲め、砲の裝備場所を制限せらるゝは止むを得ざる趨勢であつて、従つて重量軽減の必要上、兵器、人員を能率的に

使用せんが爲めに、砲を防空射撃に用ふるのみならず、併せて對艦射撃にも使用し、又對艦射撃用砲を防空射撃用に併用せんとする傾向あるは當然である。

現今列國艦船裝備の高角砲としては口徑七糧半より十三糧七に至る各種のものがあり、初速六百米乃至八百五十米秒程度のものが多い。而して國によつて初速に重點を置くものあり、或は一彈の威力の大なることを欲して初速は、多少犠牲としても口徑の大なるものを採用せらるるものもある。

又裝備砲數に在りても、既成艦の建造當時には僅かに三、四門に過ぎなかつたが、改裝の都度其の倍數若しくは其れ以上に及び、新に建造さるゝ艦船には成るべく多數の高角砲を裝備すべく努めてゐる。

日本海軍に於ても、其口徑八糧、十二糧、十二糧七等の高角砲を有し夫々周到なる独自の研究工夫が加へられてゐる。特に第一線部隊に裝備され

ものは信頼に値するものである。

三、機銃

來襲する急降下爆撃機又は掃射飛行機等に對し、比較的近距离に於て有效なる射撃を行はんが爲、多數の防空機銃が艦船に裝備さるゝ様になつた。之も海上戰闘に航空機利用法の廣くなつたことに伴ふ新しい現象である。

此等機銃中口徑二十糧以上のものには炸藥彈を用ひ、鋭敏なる瞬發信管を裝備し縦ひ飛行機の翼布に觸れても直ちに炸裂して之に大なる損害を與ふることを得るのみならず、數發毎に曳光彈を混入し以て彈道を表示せしめてゐる。殊に四十糧程度のものには時限信管をも用ふる事が出来る。何れにせよ其の大發射速度と相俟つて缺くべからざる近代的防空兵器となつてゐる。

四、彈丸

徹甲彈 彈帽を有し、此の彈丸の主目的は重裝甲板を貫徹し且重要部を破壊するにある。従つて大口徑砲用彈丸に主用される。

通常彈 概ね第二流以下の裝甲を貫徹し、且其の内部機關に大損害を與へんとするもので、徹彈彈に比較すれば炸藥量を多くしてあり中口徑砲用彈丸に主用される。

高爆彈 爆發威力により非裝甲部を破壊し人員を殺傷せんとするにあるので、多量の炸藥を有し小口徑砲に使用される。

機銃彈丸 之は對航空機用として使用され、襲撃し來る敵機を擊墜する爲には高角砲と機銃とを併用するの必要を生じ、列國軍艦は兩者を併せ搭載す。彈丸の大きさは昆式四十糧から留式七糧七に至る迄種々雜多であり、又同じ口徑の機銃彈でも用途により彈丸の種類が分れる。

五、指揮裝置

元來飛行速度甚大はる飛行機を射撃して命中せしめんが爲には、迅速に射撃諸元を決定し瞬時に有效射撃を送らねばならぬ。即ち飛行機を射撃し得る時間は一一般に數分間、天候によりて僅

數數十秒間に過ぎない、従つて其の射撃法も指揮用具も之に應じ得べき新形式のものである。

六、魚雷

英國戰艦ネルソンは六十一糧二門、米國戰艦ウエスト、ヴァージニアは五十三糧水中發射管二門、佛の戰艦ダンケルクは發射管を有せず、獨逸の一萬噸型所謂豆戰艦ドイツランドは五十三糧八門を有してゐる。但し近次主力艦は魚雷を有せざるを可とする議論英國に於て行はれ、伊太利に於ても戰艦は勿論巡洋艦に發射管半減又は全廢を傳へられてゐる。米國に於ては一萬噸型重巡には水雷武裝を不適當と認め不搭載に決した。其の理由は大體の魚雷發射は活用する事が稀で且使用困難なること、並に他に搭載を要する兵器増加したる等猶ほ又砲彈に對する防禦上の觀點から來て居るのである。

輕巡洋艦に於ては、米國オマハ級は五十三糧六門、英國のエメラルドは五十三糧發射管を十六門有してゐる。

潜水艦に於ては、佛のシュールクーアが五十五糧發射管十四門を艦首に六門、艦尾に四聯裝水上發射管二臺を裝備してゐる。

驅逐艦に於ては、英國の千三百噸級は皆五十三糧を四聯裝二臺として八門裝備してゐる。米國の新驅逐艦も五十三糧四聯裝二臺である。佛國は五十三糧三聯裝二臺、伊太利は五十三糧三の發射管を同様に三聯裝二臺として具備してゐる。

魚雷の遺憾とする處は、その排氣の氣泡を水面に噴出し即ち航跡を残す點である。故に機關を改良し遠距離に高速を以て航走し、而も航跡を残さざる點に研究を進められてゐる。

七、飛行機魚雷

各國共に熱心に研究を進められてゐる。英國に於ては高さ三十米以上より落射し時速百三十哩の魚雷に成功したと云はれる。伊太利に於てはパラシュートに魚雷を附して落下させ、着水と同時に傘を捨て、自力推進を始め孤獨

形航跡を描く縦舵機を以て、雷速五十節を以て敵の大艦隊の集合する港内又は碇泊地に突入するものを研究中であると云はれてゐる。

八、機雷

昔は水上艦艇を以て機雷を敷設したが、歐洲大戦では潜水艦により、今次大戦には飛行機を以て敵地に積極的敷設してゐる。機雷用兵の妙味である斯くの如く機雷は、その用法と共に最新、新奇であることが必要條件で、どうゆゑものがあると言ふことを知られると、價値は半減する。各國が極秘中の極秘としてゐる所以である。獨逸の磁氣機雷なども、すでに一中尉の決死的行爲に依つて其の分解に成功した。英國は其の對策を考へ出して、或る程度その脅威から免れてゐる。今度は獨逸は如何なる機雷を持ち出すか、毫に興味あるところである。

用したのが米國であり、獨逸潜水艦の暴威を救つた水中線機雷は米國の一素人の發明である。金にあかした技術の國米國は今頃如何なる機雷を造りつゝあるか。今次支那事變に於て、支那軍は長江に機雷を敷設して、我が軍の溯航進撃を妨げようとした。これは機雷として奇用したのではなく機雷を正攻法に使つた例である。幸に我が海軍の周到にして忍耐強き掃海により實害は少ない。支那軍の使用機雷は各國の機雷を使用してゐる所に、寧ろ參考となつた所が多く、支那軍にして、機雷を巧みに使つたなら、彼の爲に惜むものである。

機雷は、防禦兵器の範圍に入るものであるが、近代本兵器の發達に伴ひ概ね何れの海面にも所要の深度、間隔を以て任意に敷設することを得るに至り、使用法の如何によつては多分に攻撃的性能を帯ぶるに至つた。機雷種別には管制式、非管制式、無

際維式あり、管制式には感知發火式、電氣觸發式あり、非管制式には際維式無際維式あり、無際維式には自働式、他働式あり、今各名稱に就き作働の大要を述べる。

電氣管制機雷 信號浮標、水中聽音機又はスモーク、パイ等を管理して敵艦位置を感知し、陸上に發火する。視發兼觸發機雷 陸上に敵艦を視認發火するか、或ま敵艦の觸雷により發火する。

普通機雷(角式機雷) 一般に使用されてゐる標準機雷で、罐の外部に突出せる數本の角が艦船に觸れると内部のガラス罐が破壊し、其の藥液が電池の基板に作用し電流を起し信管に通ずる。

特殊機雷(アンテナ機雷) 機雷罐の上一定の長さのアンテナを附し、其の何れの部分が艦船に觸れても發火する。即ちシーセルを應用したものである。

二重機雷 一箇が爆發するか又は敵

に掃海されると、他の一箇が海底から上昇して有效な位置をとるもの。

潮流機雷 強潮流の海面では機雷が傾くので、流壓の少ない流線型にしたもの。

潜水艦用機雷 潜航中敷設するもので、筒の中より送り出すものと艦外搭載のものを離脱せしむるものとある。

連擊機雷 機法二箇を繋いで沈置するもので、型式ではなく使ひ方による名稱である。

網機雷 防潜網に附けるもの。

時限機雷 敷設後暫く海底に留まり調定時限經過後適宜な深度に浮上するもの。

浮流機雷 浮沈水雷の一種で潮上から敵艦へ流しつけるもの、又上下に浮沈して一定の調整深度を保つもの、二種がある。

曳航機雷 機雷を曳航して之を潜水艦に衝突させ、爆破の目的を達する爲に用ひられる。

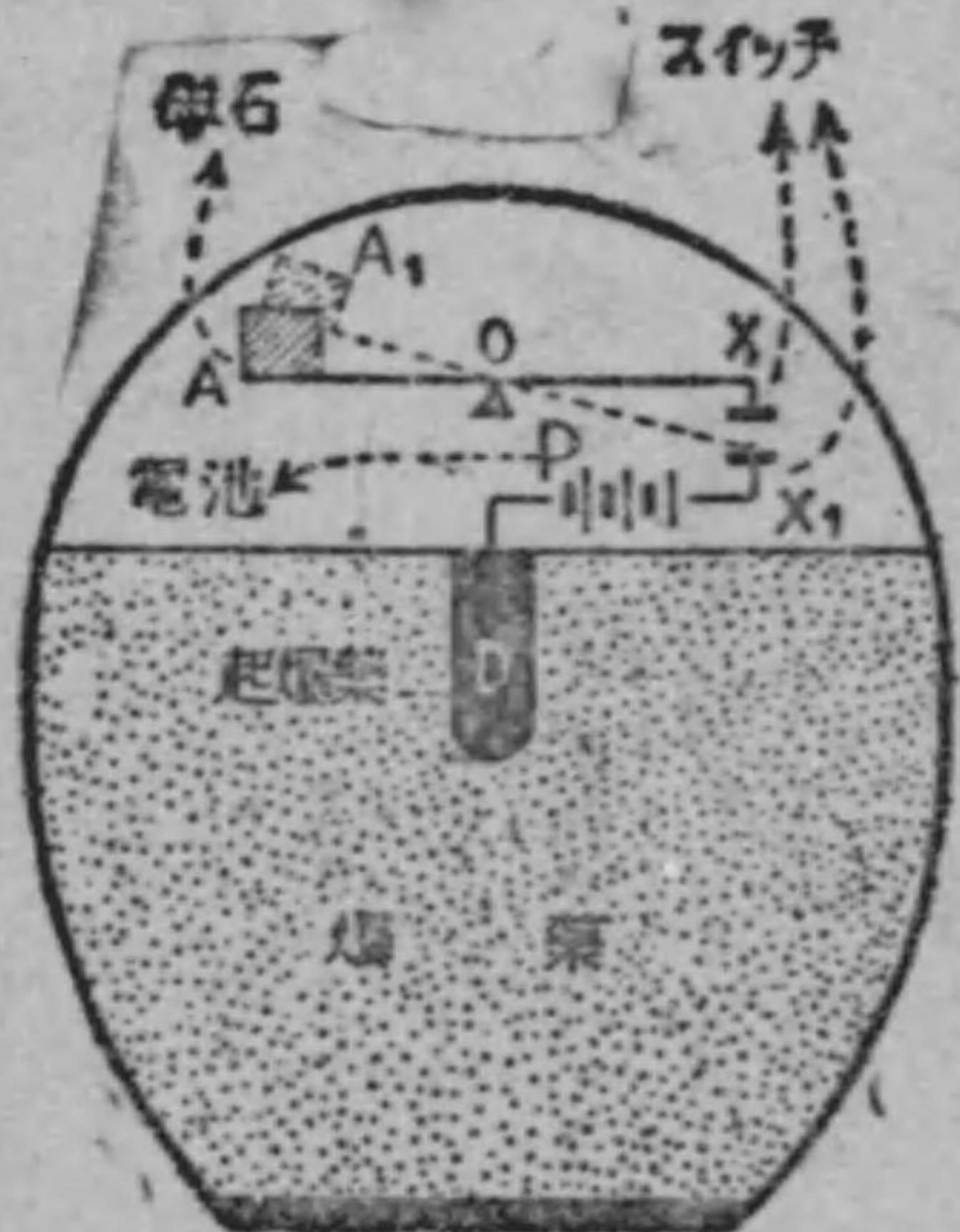
磁氣機雷 今次歐洲海上戦に初めて

現出したもので、獨逸海軍が昨夏以來使用したと云はれるものである。

長さ八呎、直徑二呎、重量千二百斤裝藥量六百五十斤、外殼はジュラルミンの如き非磁性のものである。

本機雷は任意の海上に、飛行機によりパラシュートを附し落下され海底に沈下敷設される。

作用は上方海面に船舶が來ると電磁針の一端が上つて接觸器に觸れ、電液器に作用して電池を働かせ、切斷器を閉ぢ爆發するのである。



管雷機雷 實用價値は不明であるが目下各國研究中のようである。

九、掃海

掃海は、機雷の逆を行くものである従つて、敵の機雷の何たるかを知らず上でなければ有功な掃海は出来ない。普通の際維索を持つた機雷の掃海は二隻の掃海艇で掃海索を張つて、際維索を引懸けることが出来るが、海底に沈座して餌食を待つてゐる機雷、又は際維索が切れて流れてくる根なし機雷に對しては、曳索は何の役にも立たない。

前大戦に考へたパラベーン(敷設水雷排除機)は當時の機雷に對しては有効適切であつたが、現在の百鬼夜行的機雷に對してはその價値は確かに減少してゐる。しかし現在の電磁機雷に對しては、電磁掃海が成立してゐる。長江の湘江掃海は戦史に見ない難澁執拗なものであつた、これは掃海の定石であつて、忍耐も根氣も亦常道である。長江は相當に流れが急で、従つて普通の機雷も掃海し難い状態となる。この流速に對する考慮は日本海軍に新しい掃海戦術を作らせるに役立つた。

何しろ水中に没して眼に見えない機雷、しかもどんな状態でどんな形状かも分らない機雷を掃海するといふことは、極めて困難なことで一度や二度掃海しても安心の出来ない所に、掃海者の苦心がある。

十、對潜兵器

前歐洲大戰で潜水艦が登場した、之に對抗するものは爆雷であり、防潜網であつた。しかし現在の潜水艦は、水中音響を利用して針路を測ることが出来るやうになつたから、潜望鏡をあげることなしに敵港灣深く侵入できる。そこで眼に見えない潜設潜水艦を探して、その所在をつきとめた上爆雷攻撃をせねばならなくなつた。水中聴音機水中測距儀等を大戰以來各國が競つて作つてゐるのも之が爲である。

水中に於ける音響の傳播速度は空氣中の約五倍である。従つて空氣中より遠くへ届くわけで、推進器の音を遠くから聴音機で聴くことに依つて、その艦船の種類が判り、音の来る方向から、

その艦がどの方向にあるかも知る、もし、こちらから音を出して、其の音の反響を聴けば、その時間差で距離が分る。佛國のランヂェバンが水晶を發音體として創造したものは、大いに大戰末期に使用された。水中の音響を利用することは、今も尙一層研究されつゝあり、或は潜水艦の暴威を完全に妨げる時代が近く来るかも知れない。獨逸では船を建造するに際し、音の少い艦を作ることが一つの條件になつてゐる。潜水艦は音を出す鐵で出来てゐる熱線を出してゐる。これ等を利用して潜水艦を見つけることも各國すでに研究に着手してゐる。

爆雷 圓錐形をなし、内部には爆薬と發火裝置とを包藏してゐる、發火裝置は水壓により作動する如き機構を有し、豫め調整された深度に達すると、擊發發火によつて爆薬を爆發せしめるのである。爆雷は艦艇の艙部投下臺に搭載し、直接人力によつて滑落せしめるか、又は臼砲をY字形に組立てたや

うな爆雷投射砲を以て擊發發火により投射を行ふ方法がある。爆雷砲の射程は約五十米で投射の方向は艦艇の操縦により目標指向せしめるのであるが、旋回俯仰自在の遠距離爆雷砲を裝備するものもある。爆雷を搭載する艦艇は、専ら潜水艦特に使用する快速内火艇を始めとし、沿岸警備に任ずる哨戒艇、又は艦隊の護衛艇として其の前後左右に隨伴する驅逐艦等である。

水中聴音機 出現當初のものは潜水艦艇に從事する艦艇の艦尾より曳行し或は陸岸基地より水中に設置し、潜水艦推進器翼の回轉によつて傳播される音響を電氣的裝置を介して聴取するにあつたが世界大戰中幾多の實驗を経て漸次發達を遂げ、各種艦艇の艦腹に之を裝置するに至つた。米、獨、佛各國海軍に於ても用ひてゐる。

大東亞戰の一月十三日ハワイ西方沖で米航空母艦レキシントンを屠つた我潜水艦も之を用ひて其成功を確証した。僅網を突破して進んだと報ぜられてゐる。

およそ港灣防禦に使用する鋼製網に二種類あつて、一つは普通の防禦網でこれは網目體が丈夫に出来てゐるのみならず、海底にしつかりと錨定してゐる。されば潜水艦がこれに當るときつき破つて進むか阻止されるかである。

捕獲網の方は手輕なもので、かつ輕く海底に錨止してゐるので、潜水艦が大型なもので相當の速力で走るときこの網にかゝつても知らずに進むことさへある。

ところが網の上部、水面に浮んでゐるところには、鳴子のやうな鈴がつけられてあつたり、浮子が連結してあつて、潜水艦の走るにつれてどこまでもこの仕かけがついて行くので、相手方の見張りの船がこれを見付け、爆雷を投げるとか、またはどこまでも追跡して行つて、電池力の消耗、浮上の際に捕獲するといふ計畫である。(廣瀬海軍大佐)

潜水艦が潜航したまゝ敵艦の接近を知り、こつそり敵艦に肉薄する時艦長が敵情を知るために用ひるものに潜望鏡と水中聴音機がある。潜望鏡を潜水艦の眼とすれば水中聴音機はその耳のやうなもので水中の音波を捕へる捕音器によつてその音の来る方向を測定する。

捕音器は結局ラジオのマイクロフォンのことで、海中の使用に適するやう堅牢に造つてゐる。

音波の入り方で、つまり音波が正面から入つたか、側面から入つたか、その感ずる音に大小強弱ができて来る。

この性質を捕音器の「指向性」と稱しこの性質を利用して方向を測る、この測定方法にも種々あるが大體、一、二つの捕音器を適當に並べる方法二、多數の捕音器を一定の形式で排列する方法

三、一箇の指向性の鋭敏な捕音器で音波を捕へ、それを旋回する方法の三種が主に用ひられてゐる。

水中の聴音はなかく難しく推進器の音響の外に波や渦、艦體の震動まで聞えるので目ざす敵艦の推進器の音響をはつきり聴分ける一戰艦か巡洋艦かディゼル機關か蒸氣機關かまで判別するには生やさしい修練ぢや出来ない。従つて水中聴音員は忍耐強く音感の良いたことが必要である。雑音騒音の中から必要な音源を探せるのは一に平素の訓練によるが「絕對音感なくして雑音感訓練は出来ぬ」といはれその絕對音感の訓練にまづ二箇年はかゝるといふ別項「帝國海軍」の條に記せる水中測的兵とは即ち此の任に當る兵員を養成してゐるのである。

少年時代から絕對音感を訓練し軍籍に入るまでに音感教育の完成を心懸けることりそ大東亞戰爭下最も必要なことだ。

防潜網と潜水艦捕獲網

わが特殊潜航艇がマダガスカルや、シドニーに奇襲を加へたとき潜水艦捕

十一、煙幕

煙幕は可成り以前より鳥賊戦法として考へられてゐたもので、其の目的は二つに分けることが出来る。

(一) 自艦又は味方の艦の周圍に近く煙幕を張つて、優力なる敵の砲火の目標たることから逃れんとする場合。

(二) 敵艦隊の全部又は一部を煙幕を以て蔽ひ大砲の發射を不可能ならしめ、其の際に乗じて自分は有利なる位置を占めんとする場合。

煙幕の展張法は或は艦の煙突から出した煤煙幕、或は艦の甲板に特別の發煙裝置を設けその中に、クロールサルフォニック・アシッドといふ化學藥品を或る瓦斯の作用により押出して濃煙を發生させたのである。尙ほ其の外に發煙ボックス(函)がある。之は鐵製で、艦上より海中へ放り込むと、水中に浮ぶ函の中に發煙劑が入れてあるので、煙は函の上部の孔より出るやうになつてゐる。

以上は艦にて、煙幕を張る方法なるも、更に行動の輕快迅速なる飛行機を以て煙幕を展張するものも最も便利である。

軍艦の煙突より噴出する煙幕を煤煙幕と稱して黒色であり、發煙裝置で張る煙幕を藥煙幕と稱し白色である。何れが有效なるかは、状況に依つて異なり、遽かに斷じ難い。

戰術上煙幕の使用は極めて慎重を要するのであつて、萬一これが使用を誤るときは、友軍の行動を阻碍すること甚大なることを忘れてはならない。

十二、高速魚雷艇(水雷艇)

經濟軍備の見地から、小艇を軍用に使ふことは、特に小海軍國に早くから着眼されたが、前歐洲大戰ではこれと異なつた意味で、小艇が大海軍國間にも用ひられた。

即ち、英國は北海の機雷艇を乗り越えて、その奥にある敵國軍艦を襲撃するために高速魚雷艇を多數建造した。一九一五年ハンブデン大尉他二名の海

軍士官によつて造られた高速魚雷艇がそれである。この艇は沿岸用發動艇と呼ばれ、排水量四・三噸、魚雷四五種のもの一本を搭載した。この艇は、競走艇に範を採り、その小型高速を利用しようとしたものである。

イタリヤも前大戰中驅潜發動艇を二百隻も建造してゐる。一九一八年六月十日早朝、アドリア海においてイタリヤ海軍少佐ビゾー氏指揮の驅潜發動艇は、その魚雷でオーストラリア戰艦セント・イストラランを撃沈して勇名を轟かせた。これは英國のものより大型で、排水量十二噸、魚雷二本を搭載してゐる。小型高速を利用したことは變りはないが、地中海で使用しようとして型が大きくされてあることが注目される。フランスとドイツは大戰中この種の小艇を建造しなかつた。

大戰後これ等の高速魚雷艇が、いかなる發達をしたかを調べて見ると、その將來の方向を推察することが出来る。

英國では、前大戰後此の使用を一時止めてしまつた。これはドイツの降伏によつて當分の必要がなくなつたためであらう。しかし商品としては盛んに諸外國に賣られた。従つて進歩發達の見るべきものがある。最近では名稱も發動機附魚雷艇となつてゐる。満載排水量二八・五噸、機關馬力三〇〇〇、速力三五節、航續力は二〇節の速力で四五〇哩、魚雷五二種二本、二〇耗聯裝機銃一基、乗員一〇名、となつてゐる。本艇は英國から地中海マルタ島まで航海した記録をもつてゐるが、日數四十日以上を費し、その上海上の平穩な時を過び、陸岸傳ひに航海してゐる。即ち、洋上使用において未だ實用の域に達してゐないことを示してゐる。

イタリヤでも、大戰後イギリスの向ふを張つて高速魚雷艇を建造し、高速の記録をだしてゐる。最近のものである、排水量一九噸、馬力二〇〇、速力五五節、魚雷二、機銃二を搭載した

ものがある。

この種の艇の生命は確かに速力であるが、艇が小型であるため、海上の模様によりこの速力發揮が制限を受け、またその航續力の少いことがその使用を制限することは争はれない。

ドイツでも、大戰後高速魚雷艇の發達を見てゐる。その發達は大體イギリスのものに似てゐるが、最近になつて耐波性、凌波性と航續力を増加するため、排水量九〇噸のものを建造したことは注目に値する。ドイツでは、その機關としてガソリンエンジン以外に、重油エンジンを使用し、安全性と耐久性を増してゐる。

アメリカは蚊艇隊(モスキート)なるものを建造してゐる。P16は其代表的のもので、四大節、乗員二十名、航續二千哩と稱してゐる。

南太平洋の海戦に偉功を層してゐる我水雷戰隊も此種のものを見て差支あるまい。

高速魚雷艇は、元來小型高速艇であ

るから、耐波性と航續力は一般の水上艇艇に及ばない。従つてその使用に方つては、母艦を造り之に搭載して戰場に運搬せねばならぬと思はれる。

十三、豆潜水艦(特殊潛艇)

豆潜水艦とは、極めて小型の潜水艇をいつてゐる。潜水艇の發達は高速魚雷艇とはその趣を異にし、最初はみな極めて小型であり、今日からいへばみな豆潜水艇と云ふべきものであつた。

潜水艇は水中に潜入し、その隱密性を利用して、よく大艦に近づき、魚雷を發射して、これを沈没させるのに使用される。その形が小さいことは經濟軍備の點から小海軍國軍備として恰適である。小海軍國ばかりでなく、大海軍國もこれを使用してゐるのは、その隱密性を利用してゐるのである。小型艇の缺點は、耐波性と航續力が劣弱であること、この缺點を除去するため、小型から大型に進んでゐる。現今では二〇〇噸乃至三〇〇噸の大型潜水艇が大海軍國において建造使用されて

る。

現在豆潜水艦といふべきものは、フィンランドの一〇〇噸潜水艦を除くと、ドイツの二五〇噸潜水艦を挙げねばならない。この型の潜水艦が今次歐洲戦争の初期において、イギリスのスカパフロー軍港に侵入し、英國戦艦ロイヤルオークに二發の魚雷を命中、これを沈没させて偉功を樹てたことは吾々の記憶に新たなところである。なほドイツでは小型潜水艦を商船に搭載し、その航続力を補つてゐるとの風説や、燃料彈藥魚雷の補給し當る補給船を伴つて活動してゐるとの噂もあるが、その當否は明かでない。

潜水艦の連続航続し得る時間には制限があるから、水上航走による移動性が附與されないと使用範圍が極めて局限される。水中の行動圏が小さいことは大型も小型も大差ないから、本來の特性である隱密性を最大に利用しようとするれば、その數を増すことが必要である。従つて今日の技術的進歩を應用

的な躍進をとげ國防國家建設に寄與するところ大であるが、殊に大東亞戰爭勃發するや各種兵器の製造にあつた民間軍需各工場は卓抜な技術と追隨を許さざる創意によつて軍の作戦遂行に協力し皇軍をしてよく今日の大戦果をあげしめた功績は、赫々たるものである。今回陸軍では皇軍の作戦遂行に協力した三菱重工業、日本製鋼、日本光學の民間三軍需工場を兵器本部長から表彰することになり、五月二十八日午前十時から同本部に三工場の代表者を招き兵器本部長齋藤中將から表彰狀を授與しその功績を顯彰した。

三、動くトーチカ戦車

スターリンググラードをめぐる繰り展げられてゐる獨ソ兩軍必死の攻防戦はあらゆる科學兵器を總動員して世界注視の裡にあるが、獨軍は清々とソ聯鐵壁の陣を打破つて市内へ突入し輝かしい戦果を挙げた、この獨軍猛攻の赫々たる戦果はソ聯の全く意表を衝いた

し、小型であつて有力な潜水艦を多數造ることが、再び考究されるだらう。同時に、その補給の道について、更に新たな問題を提供することにならう。

此の豆潜水艦を一層小型にしたものが大東亞戰史輝く我海軍の特殊潛航艇であるが、現在に於ては記述の自由をもたない。唯軍神各勇士に敬意を捧ぐると共に、如何に精銳な武器でも要は之を活用する人に在ることを此篇の末尾に特記しておくものである。

(下) 彙報

一、優秀刀の鍛錬製造

武人の魂、軍刀は支那事變以來その威力が遺憾なく發揮されてゐるが、大東亞戰爭勃發で更に軍刀の需要が増大する一方であるのに鑑み、陸軍では軍刀増産の時局に便乗するナマクラ軍刀の氾濫を防ぐと共に、武人の魂として恥かしくない優秀な軍刀を將校に供給するため、陸軍兵器本部に文部省囑

託本間順治氏他刀劍界の權威者四十餘名を網羅する將校軍刀鑑査委員會を設立、昭和十七年發會式を挙げ十月から業務を開始することになった。

同委員會は陸軍兵器本部長の隸下に會長、參與、委員長を置き第一部會で古刀、新刀、新々刀現代刀の鑑定、刀身の評價及び研究を行ひ第二部會では鍛冶、研ぎ、外裝、技術等の指導研究等を行つて今後陸軍將校の軍刀は同委員會の鑑査のものに限るとされ、更に同會では軍刀の急激な需要に備へて刀匠の養成を圖る一方材料、設備もどしどし提供して優秀な軍刀の増産に拍車をかけることになった。

二、民間兵器三工場を陸軍當局表彰

支那事變以來わが兵器科學陣は驚期

戦車隊の前方へ更に進出する大型「動くトーチカ戦車」の活躍であると外電は報じてゐる。

この動くトーチカは特別の裝甲板をもつた物凄く大きな特殊な自動車で、普通戦車と異なるのは、爆彈投射器をもち、このほか對戦車砲は勿論砲、機銃を裝備しその上この中には更に決死歩兵部隊を多數乗込ませてゐるのが特徴で常に戦車隊の進撃戦に挺進し渡河、橋梁の確保等戦車隊の進撃路を導き敵戦車を破壊しまた決死歩兵隊は火焰放射器、煙幕で後方から白兵戦を挑むものだといはれる。

四、壓搾空氣彈

獨ソ東部戦線で、獨軍が新兵器として「壓搾空氣彈」を使用、非常に恐るべき威力を發揮したと傳へてゐる。

これがどういふ構造のものか詳かでないが、これと類似のものに今次大戦の初期に英國が液體酸素を使つて製作したと發表した強力爆彈があり、これ

を改良したものではないか、と想像される。

液體酸素の爆力は、大體今日各國で普通使はれてゐる火薬と同程度でありその爆薬自體の威力も、ダイナマイトと比較して概略その五十パーセントといはれさほど驚くべきものではない。しかも液體空氣爆薬は使用上種々難點がある。

すなはち液體空氣は蒸發しやすく彈丸に密閉保存することがなか／＼困難なので、使用直前に充填しなければならぬ。したがつて液體空氣の製造裝置を携行する必要がある。さもなければ容器につめて持つてゆかねばならぬが、この運搬も經濟上短時間にせねばならぬ。更に炸薬としては彈丸に充填後、なるべく早く使用せねばならない等の缺點がある。

獨軍がこれらの難缺點を如何に克服して實用化し、しかも強力な爆壓を生起するやうにしたか、技術上からみて、なか／＼興味ある問題である。

五、獨の新兵器（新戰闘機と火炮）

新戰闘機なるものは最近製作のフオツケウルフ戰闘機で、時速九百キロを出すといはれ、またドルニエ・二一七型急降下爆撃機の性能も驚異的である。更にドイツ軍が最近クリミア半島のケルチ地峡方面で使用してゐる火の玉砲と呼ばれる新型砲の破壊力は極めて驚くべきものがある、この砲弾が落下した個所から三百メートル以内に入る人々は悉くその血管が破裂するといはれてゐる。

かゝるドイツ軍兵器の絶対優勢に對し、ソ聯側は人的資源においてはドイツ軍に優つてをり、兵器の優秀に對して兵力の優勢が如何なる抗戦振りを見せるかが注目されてゐる、なほソ聯側の生産力は一時ドイツ軍の占領地擴大によつて約七割を喪失してゐたが、その後工業の奥地移轉によつて現在では戦前の五割以上にまで挽回したといは

れてゐる。

六、獨軍巨砲二種

昨年の六月頃、獨軍がセバストポリの要塞を猛攻してゐた時、口径が八十センチといふ前代未聞の超巨砲を使つてゐるといふ噂がバツと擴がつて鵜の目、鷹の目で新兵器の出現を注視してゐた世界の軍事専門家を驚かせたものである。

しかし、これについては獨軍當局からの正式発表はなく、詳細は一切不明なので歐洲の専門家の間にも、種々の議論を醸し、何しろ前大戰の時に四十二センチもある攻城用のベルタ砲を持ち出した獨軍のことだから、今次大戰には當然八十センチくらゐの砲は出現すべきだといふ一派と八十センチなどといふ巨砲は砲身の製造が困難なばかりでなく出來たとしても全重量が五萬トン以上を超え、第一どうして輸送するかと問題であり、また組立が大變で折角据付けでも砲の命數が短く、敵の

砲弾や爆弾の好目標となるにすぎないから、戰術的價値はないといふ一派に分れて一時賑やかな論争を捲き起したものである。

ところが正しく口径八十センチもあらうといふ超巨砲の寫眞が發表されて物の見事にこの論争に斷を下し、各國の専門家を啞然とさせた。

砲身は、二十メートル以上もありさうな長砲身の列車砲で、レールの上から、その一番高いところまでは、おそらく十メートルもあらうといふ巨大な鐵の塊りである。

從來、世界最大の列車砲は隣りのフランスが記録を持つてをり、口径五十二センチの白砲で彈丸の重量は一・六トン、射程は最大七十七キロ、全重量二百五十トンの巨體を二輛のボギー車の上に鐵橋の橋桁のやうな枠を組み、その中央に砲身を据えつけてゐたものである。

これにたいし獨軍の八十センチの超巨砲は複線レールの上にまたがつた列

車砲で、數輛の頑丈なボギー車複線の上にならべその上に高さ六メートルもあるやうな強固な槽を組みあげて槽の中央部に口径八十センチで長さ二十メートル以上、重量は、おそらく二百トン近くもありさうな大砲身を取りつけてゐる。

方向を變へるには、下のレールが複線のまゝ曲つてゐるから、その上を普通の列車砲のやうに移動すればよいので彈丸發射の衝撃に備へて、レールが敷いてある。砲身の俯仰は水平に近い位置から四十五度以上にも及ぶものゝやうだ。

砲弾は寫眞から判斷すると長さが三メートル以上と考へられる。尖銳徹甲彈で重量は五トン以上もあるのではなにかといはれ、白砲と違つて長い砲身から大初速で射ち出されるのだから射程も非常に大きい、歐洲の専門家の意見ではベトン堡壘を底の方から崩してしまふだらうし、この巨砲弾にたいしては厚さ六メートルのベトンでも保つ

まいといつてゐる。

次に、この八十センチの超巨砲とは別に素晴らしい大白砲の寫眞が發表された。

戰車のやうなギヤタビラーを兩側に持った特大型のトラクタールの上に、口径五十センチ以上もあるやうな白砲を据えつけたもので、列車砲より射程は少いが、そのかはり前線のどこへでも自由に移動して、ベトン堡壘の上から大きい落角で巨砲を浴びせる一種の自走砲といふ形式のものである。別に彈藥を運搬するキヤタビラー形式の車輛がついてゐて、起重機で巨砲を吊り上げて白砲にこめるやうにしてゐる。

この自走砲には「トール」といふ愛稱がついてゐて、雷雨の神トールのやうに敵陣に巨砲を雨下するのだといふソ聯の列車砲は口径三十センチ内外と見られてをり、自走砲も重量五十トンの十五センチ戰車を筆頭に二十センチ級がとまりである。

各國の専門家の興味のは、どんな

材料を使つて口径八十センチの砲身を作つたかといふことで、何か特殊の合金處理で砲身の内孔を固めてあるのではないかといはれる。

七、ソ聯の携雷犬

ハリコフ戦線では獨ソ兩軍とも新兵器を使用し、殊に獨軍の對戰車砲用大口径高熱彈は恐るべき威力を發揮してゐるが、赤軍もまた四聯式自動機關銃および携雷犬すなはち爆彈を背負つて敵陣地へ突入するやう訓練された軍用犬などを初めて使用してゐたことが捕虜の自由によつて明らかにされた、捕虜の言によると、實戦ではその能力なく、また携雷犬といふのは主として夜暗に紛れ敵陣へ潜入し裝甲車の下や彈藥庫などへ忍び込み一氣にこれを爆破させる仕組で、ソ聯軍は八百頭以上を使い獨陣地を突破しようとしたが、獨軍の銃聲に脅えた犬は逃げ歸りソ聯兵にじやれつたため、却つて味方陣地で爆破して多數の死傷者を出した。

製品種目

諸兵器類
採油鑿井機



塚本精機株式會社

取締役社長 塚本藤三郎

本店營業所 東京市京橋區銀座西四丁目三番地
電話京橋(56)四五六一—三
大崎工場 東京市品川區東大崎五丁目三番地
電話大崎(49)一〇六〇五二七
古河工場 茨城縣猿島郡古河町



中村ドラム罐工業株式會社

東京市瀧野川區西ヶ原一三六八番地
電話 駒込(82)一四四五一番
王子 二〇四七五二番

營業品目

ガソリン、アルコール、香料用、グリセリン
エーテル、ベンゾール用、亞鉛引及錫引各種
ドラム罐、苛性、硫化曹達用アスファルト及ベ
イント用、其他化學工業藥品用各種ドラム罐

軍事科學篇

本篇は軍陣醫學、衛生、衣糧、兵住等兵器裝備以外の軍事應用科學關係資料で概ね此一年間に其業績文獻の發表せられしものを輯録するものである。

目次

野戦兵食を御祝膳に召さる

陸軍南方作戦と糧食	陸軍省經理局
日本軍陣醫學の進歩	竹村文一
マリアア豫防薬の發明 (受賞)	平松源一
航空醫學について	陸軍航空本部
陸軍新偵察機 (受賞)	久保富弘
爆撃機の迷彩効果	西野爲三
戦争と氣象	間野爲三
冬季日本海航空氣象の研究 (受賞)	今里能報
動物質纖維の再生法 (受賞)	長野正滿
三角型兵舎の考案 (受賞)	伊藤節三
船種と船型	技術院
技術院の誕生	技術院
敵性特許權の處置	特許局
經濟戰略	陸軍省戰備課長 岡田菊三郎

野戦兵食を御祝膳に召さる

天皇、皇后兩陛下には大東亞戰爭下アリユーション、滿洲、支那大陸から南方諸地域におよぶ蜿蜒二萬餘キロの廣大なる戦線において、あらゆる困苦缺乏に堪へて、日夜勇戦奮闘するわが陸海將兵のうへを深く偲ばせ給ひ、第一線將兵と御ともに征戰第二春を壽がせ給ふ有難き患召をもつて、一月元旦御祝御膳の御朝食に長くも左の如き御献立による野戦兵食を親しく召させられた。

野戦兵食料理御献立

小豆粥 米、さげ小豆、岩鹽
牛肉昭南燒 牛肉、味噌
野菜煮 乾海老、南瓜、玉葱
味噌汁 味噌、支那筍、甘藷
御香の物 杓子菜、澤庵、トマト
御料理は陣中における將兵のそれと同様に飯盒によつて供し奉られた極めて御質素なものであるが、兩陛下には第一線將兵の勞苦を偲ばせ給ひつゝ、

御感ひとしほ深く召させられた由に洩れ承る

元旦に際して野戦兵食を召させ給ふは去る昭和十五年新春以来の御事例であるが、このたびは「前線と全く同様に」との具き思召により、御料理の材料には内地産のものは一品もなく、米牛肉、野菜から味噌、岩鹽等の調味料澤庵にいたるまで、すべて現地産のものを用ひしめられたと承るは、前線將兵はもとより、銃後の民草ひとしく恐慄感激申上げるところである。

- (別報) 御献立の材料には支那、滿洲の大陸はもとより、本年は特にバインアップル、椰子の實等遠く南方第一線を偲ばせられる大御心の程感激に堪へぬところである。
- 御朝食 (野戦兵食)
- 一、雑炊—相鴨、菠薐草、木瓜
 - 二、野菜會保呂掛—水牛、皇帝豆、白菜
 - 三、野菜早漬—バインアップル
 - 芽蕪菁、若胡瓜
 - 香物—澤庵、梅干
 - 味噌汁—椰子實、支那筍

香困難なのは生物給養である、殊に兵馬を運ぶ輸送船は貨物船を偽装した上人馬を收容するものが多いので食料品の貯蔵冷蔵設備も極めて不完全である従つて生野菜は玉葱や馬鈴薯のやうに比較的永保ちのする品種を選んでも、その保有期限には限度があり、なほ乾燥野菜や野菜罐詰類を利用しなければならず、ビタミンの補充に苦心した譯である。

馬の輸送は人に比較するときは一層困難で、熱い船倉の狭い馬欄に數日間身動きもせずに輸送されしかも上陸後、猛烈なる活躍をするには果して可能であらうかと少なからず危惧したのであるが、幸ひ馬を取扱ふ兵や關係官の努力により損耗も極めて少く、目下盛に炎熱炎天下に活動してゐるのは感激に耐へない次第である、なほ上陸作戦に際しては舟艇より海水中に飛び込み上陸するので、飯盒等に海水が入り飯が食へなくなるのを防ぐために「セロファン」筒を利用したり飯盒に

○陸軍南方作戦と糧食

今次南方作戦においては將兵は一體どんな食物を食べてゐるのだらうかといふ質問をしばしば受けるので本日は南方作戦にける兵食につき若干述べ見る、大體今度の南方作戦は、給養上からいつても次のやうな特色を持つてゐる。

熱帯特有の作戦

赤道附近に大兵を動かして作戦をしたのは開闢以来今回が最初で、給養上からいへば食物の腐敗を如何にして防ぎ、體力の消耗を如何にして補充するかといふことが大きな眼目になつた。例へば日本人の食物として缺くべからざる味噌や醬油も熱帯地に長く置くときは醗酵腐敗してしまふ、大體日本軍隊は米と味噌さへあれば大抵のところで作戦が出来るがこの日本軍の必要缺くべからざる調味品の腐敗は如何にして防いだかといふと支那事變當時より實用に供することが出来るやうになつ

海水の入るのを防ぐやうにしたり、この邊にも目に見えぬ考慮を必要とするのである。

豊富な現地物資

第三の特色は南方地域は、一般に現地物資比較的豊富な土地における作戦といふことである。この第三の特色は第一、第二の特色が給養を困難ならしむる要因であるに反し、給養を有利にする要因で我々はこの第三のに點おいて多大の便宜を得た。

即ち近代戦では夥しい數量の彈藥や燃料や兵器資材の追送を必要とするのは御承知の通りで一方兵馬の日々消費する糧秣の數量はこれまた莫大であり糧秣が現地において調達出来るかまたは後方から追送せねばならぬか作戦上如何に大きな影響を持つかは自ら明かなことである。南方作戦においては糧秣の總量中の大部分たる米と馬糧とを全部現地で調達出来るので、これが如何に作戦を有利にし輕快にしたかは贅言を俟たないところである。

た粉味噌、粉醬油を大量に殆ど全量使用した。これらは眼に見えぬが効果が極めて大であつた。

なほ飯の腐敗を防止するためには大量の梅干を追送した、今までの戦線に送つたよりも大量の梅干が使用されたのである、梅干の供出では従来から國民各位の熱烈な支援を受け、これが今次作戦に有功に利用されたのであつて、この點深く感謝してゐる次第である。なほ飯の腐敗防止に就ては豫てより種々研究の結果「防腐錠」と言つて飯と一緒に炊き込むときは二日間位腐敗を防止するものも一部利用したのである。

長距離の船舶輸送

第二の特色は長距離船舶輸送に伴ふ上陸作戦である、今回のやうに極めて長遠なる距離を船舶輸送したのち、猛烈果敢なる上陸作戦を敢行し、一擧に敵を撃滅するためには長途航海中に兵馬の氣力體力を消磨せしめざることに絕對に必要であるが航海中の給養上一

以下各品目について述べると次の通りである。

米 南方地域が米の寶庫であることは御承知の通りで、泰、佛印からは各年に約一千萬石、ビルマからは約二千萬石の輸出餘力があるといはれてゐる。従つて作戦部隊は全量現地米を調達利用してゐるので精米、精麥は船舶輸送間必要なる分を除いては一切送つてはゐない、たゞ現地米はゆる外米は風味氣味などで嗜好に適しない點はあるが炊事方法等に工夫し、また嗜好等のごときは、この大作戦遂行上物の數ではないので、現地米を遺憾なく利用してゐる。

なほ現地米は完全精白であるためビタミンB補充食として色々のものを併給し脚氣預防上遺憾なきを期してゐる米の問題については一言致したきは軍は佛印や泰や緬甸よりの米の選送につき關係方面と密に協力してゐるのであつて、寧ろこれも作戦の一部なりと考へてゐる次第である、これら現地米も

逐次内地に到着しつゝある状態で、一面消費の節約と共に食糧問題の前途に對してはますます光明が認められる。

調味品 醬油は一部現地産のものがあるが味増はない、醬油は魚醬といつて魚相等より作つたものもあり、これらも利用中である、作戦のためには粉味噌、粉醬油を大量に追送したことは前述の通りである。

なほ味噌も戦鬪段落を機會に現地に醸造施設を設け速醸味噌を製造し各部隊に補給しつつあるのであつて、將來は内地より調味品の追送も不要ならしむる豫定である。

副食物 (イ)肉類 作戦地は一般に家畜ことに牛や水牛が多く、肉類には不自由をしなければならぬ。

魚類は佛印の大湖などの魚で乾鹽魚をつくり一部補給した、今や作戦の大進展と共に邦人漁夫の進出により魚の補給も逐次潤澤になりつゝある。

(ロ) 野菜類 熱帯地方は一般に野菜に乏しい、即ち平地においては酷暑

炎熱スコールのため害虫や雜草の繁茂に妨げられるので、野菜は高冷地、例へば比島のバギオ、マレーのカメロン高地、ジャバのバンドン、スマトラ島のトバ湖附近などで栽培するほか從來相當量を輸入してゐたのである。

従つて野菜の不足が特に多量の野菜をとる習慣を持つてゐる我將兵を相當に苦しめたのである、これがため一部乾野菜類を追送補給するほか海藻類を利用し、または現地産の果實類を採つて極力不足を補つた次第である、緬甸作戦のとき泰國境を突破した部隊などは野菜の不足に惱み椰子やバナナの若芽などを食つたことは新聞に報道せられた通りである、要するに、今次の南方作戦は給養上よりいふも幾多の困難なる條件があつたにも拘らず、よくこれを克服しまた現地の物資は遺憾なくこれを活用し、迅速にして猛烈果敢なる攻撃を續行し、赫々たる戦果を擧ぐるを得たるは誠に感激に耐へざるところである。

最後に一言したきことは正義の戦が我が軍の給養を著しく有利ならしめたことである。即ち現地において糧秣を調製するには住民の協力を必要とし住民の協力を得るためには正義の戦を行はねばならぬ。試みにビルマにおける作戦を見るに、英將軍は路上の物資を燒盡して退却せしに拘らず、我が軍の行くところ住民は簞食壺漿して我を迎へ、これに反し英將軍は北部緬甸の山間を放浪し住民に襲撃せられて路頭に迷ひつつあるを見れば、いづれが正義の戦ひでありいづれが不義の戦であるか一見して明瞭ではないか。

○日本軍陣醫學の進歩

竹村文詳

東大に開かれた第十一回日本醫學會の分科は三十五、これに新たに創設さ

れた東亞醫學會を加へて軍陣衛生ないし戰場外科に關する演題は、おびたしい數に上つてゐる。酷暑耐寒のやうな間接的なものを省いて、いはゆる第一線醫學だけをとりつても宿題ないし特別講演として次の有力なテーマをあげることが出来る。

- 軍陣法醫學……………法醫學會
- 頭部戰傷……………神經精神醫學會
- 帝國海軍における航空機上……………軍陣醫學會及日本醫學會
- 戰傷による胸膜感染……………日本醫學會
- 本年度における末梢神經損傷の外科的治療……………會聯合
- 戰傷骨折……………整形外科學會

航空醫學……………東亞醫學會
航空と耳鼻咽喉……………耳鼻咽喉科學會
骨傷治療用機械……………醫科器械學會
我國軍陣醫學が、その迫力ある精神の上に築かれた無比の技術陣であることはドイツのケーファア一總監、米のフオックス軍醫等も讚嘆措かざるところである。ソ聯の貧困は野戰衛生の窮乏にあるといはれる。疾風枯葉を卷くマ

リーの進撃、そこには唯〇名の傳染病患者をみだにすぎない。灼けつくバルシヤガル草原は給水部隊の鮮血に彩られた。

戰闘は必ず醫學の顯現を約束する。それは連續射撃時の彈塔内逆流ガスとして現はれ、軍艦二重底の中毒、ジャングルの地統彈創としてみられる。そして近代戰は空に飛行機、地に戰車の刻印をうつた。ポーランド進撃におけるパンニツヒの經驗は水力學的機構による心臟破裂にとどめを刺す。しかし戰車創はいはゞその限りに於いて傷たるにすぎない。

が、航空は實に無限の醫學的問題を含む。高々度飛行事故の僅か十二パーセントが操縦ないし機械の故障によりあとの八十八パーセントが酸素缺乏によるといふドイツの統計をみても空中戦ないし爆撃行と併行する渴するが如き醫學への欲求が感じられる。急降下爆撃、落下傘下降、カタパルト發射旋回、成層圏飛行等および今日の研案で

あり明日の解決である。

空を制する者は世界を制す。今次大會における田中中將、馬淵大佐等の發表は、この意味で軍事醫學の尖端を切る大東亞的飛躍の一つのオペリスクをなすものであらう。

○臨時東京第三陸軍病院

臨時東京第三陸軍病院は今事變勃發直後、軍内治療の最後の治療をうける傷病兵の病院として設立されたもので設備の完全さは素晴らしく、現症的診斷、豫後診斷の検査器具、理學療法十アメク紫外線浴室等の機械化部隊をはじめ、蒸氣による水治療法室、鑛泥浴室までが完備してゐる。

適職選定の組織

更に治療と並行して實施されてゐるのが組織立つた職業準備教育である、傷兵の適職選定のためには
一、國策に順應する職業たること
二、廣義の適性検査成績が適職標準に合格すること

三、一身上の關係（本人の希望家庭の事情その他）に支障なきこと
四、原勤務場所との關係關係明瞭なること

の四項を基礎として精神教育、志操、感情教育を行ひ次いで農業、工業、商業の各部門に亘つて知的教育及び職業技能の準備教育が傷病の程度に應じ、その残存する機能と退院職業を顧慮して行はれる。

例へば今まで指を使ふ職業にあつたものが戦傷で指の運動が不自由となつた場合これに印字をやらせたり札數へをやらせたり、或は彫刻する等の指の運動訓練をさせ、興味を持ちながら知らず／＼の間に昔の職に歸り得るといふ自信を持たせるやうにしてゐる。

職業準備教育の作業室に来て見ると白衣の勇士が汗にまろれて一心に従事してゐる。本棚、椅子等が立派に作られたり、時計修繕も初心者ながら機械を解體、分解掃除に餘念がない、邦文歐文、各印字では全くの素人から二ヶ

月後には歐文一分間七十五字を打つやうになつた元會社員の大縫一等兵（新潟縣出身）をはじめ多數の勇士が白衣のまゝキイをたゞき、その隣室では石版印刷、謄寫版、速記、珠算、竹材への精密な彫刻等々義手、義足の勇士も混つて元氣に作業する姿は涙ぐましく全く崇高そのものである。

義肢に屈せず勉強

農業については元農夫であつた者が左手を失つた場合にはこれに作業用の義肢を支給農耕作業を實地について訓練させるが、同院裏の農園では義肢に屈せず鋤を取り、鎌を持つて收穫に従事し藥切り、蜜蜂、アングラ兔の飼育に致々として働いてゐる。

かうした訓練の成績は極めて良好であり、ある病院の調査によると退院後原職に復歸したもの五割、新職についても四割、合計九割が名譽の傷痍軍人としてお役に立つてゐる。

院内には傷兵が義肢のまゝ自轉車を操つたり、二十五米のプールに飛沫を

あげて游泳する潑刺とした姿が見られまた裏手の松林からは白衣の軍樂隊のかなでる活潑な軍歌の奏樂が聞かれる。

○マラリヤ豫防薬の發明

（受賞）

陸軍薬劑少佐 平松 源 一

マラリヤの治療に缺くべからざる薬劑としては従来キニーネ、アテブリンおよびプラスモヒンの三種を併用し、このうちひとつを缺くこともできないのである、ところでキニーネは御承知のやうに南洋特産の規那の皮から製するものでわが臺灣の一部に少量に産するのであるが、わが國としては従来その需要の大部分を關印に仰いできた、さらにアテブリン、プラスモヒンは從來ドイツの特産品で、わが國の需要はほとんど全量をドイツに仰いでゐたのである。かゝる状態においても南方に一朝事ある場合、わが南方作戦遂行上に皇軍將兵を守るべき抗マラリヤ劑

の入手といふことは全然見込みがたないものである、こゝにおいて數年前すでに今日あるを豫想した陸軍衛生材料本廠では、緊急この對策を考案すべき必要を痛感し、綿密なる計畫の結果、一方臺灣における規那の増殖をはかるとともに、他方ひろく國內研究機關および民間諸會社との密接なる連絡協力のもとに、敢然合成劑アテブリン、プラスモヒンの國産發明とその工業的大量製造方法の研究に著手したのであつた。

時あたかも支那事變に際會し、漢口作戦途上皇軍將兵に多數のマラリヤ患者を發生した苦心経験は、抗マラリヤ劑の多量生産の必要を一層痛感せしめた。加ふるに歐洲戰亂の勃發以後はドイツ汽船の遭難のため、わが國に輸入さるべきアテブリン、プラスモヒンが入手一步手前で海底に沈められるなどかねての憂慮がつひに深刻なる現實となつてあらはれるにいたつた、研究が進むにつれて複雑な製造工程はときに

は研究員たちを絶望の淵に陥れることもたび／＼だつた。研究半ばにして藥品から發生する有毒化合物の中毒のため尊い犠牲者さへ幾名か出した。その防毒裝置の考案を完成してまたつぎの研究に進む、原料の蒐集にはもつとも苦心を拂つた、製鐵工程の副産物として、石炭から採取されるトルオールを原料とするのだが、これが爆薬原料として別途の重要な役割をもつてゐるものだけにその蒐集は困難を極めた、また研究當初においては、各民間會社の研究費は嵩ばつて、輸入品を使用するよりも遙に高價につき、採算は到底合はなかつた。しかも各會社は國策のため將來戦ひのためとあらゆる犠牲を忍んで協力してくれたのである。永いあひだの忍耐と努力、數百名にのぼる研究員の幾年にわたる不眠不休の努力がつひに實を結んで、畫期的なこの合成劑の新製法が發明される日が來た、わが軍陣醫學に凱歌のあがつた日、その感激の思ひ出はいまも自分の胸底に燒

きつて忘れることはできないものである。しかも新製法は従来諸外國で研究されたどの方法よりも精製が容易で藥品の純度が優秀なものであつた、これまで外國の特許に縛られてきたわれ／＼がこんどは逆に諸外國を抑へる特許を一舉に五つも獲得した。ときにいまを去る〇年前、正に今次大東亞戰爭開戦に先立つほんの寸前の發明完成であつたことを思へば、こゝにも大きな天佑神助が皇國に幸ひしてゐることを痛感しないではゐられぬ。

かくて新なる製法を得て、新製薬劑の工業的生産は夜を日にいで行はれた、大東亞戰爭の開始されるやマレービルマ、關印、フィリッピンその他大東亞共榮圏の廣大なる地域に活躍する皇軍の勇士たちは片手に銃を、そして片手にこの新薬を忘れなかつたのである。その結果はこんどの戦果にも周知のごとく藥品の效力の偉大さはわづかに將兵千人に二人のマラリヤ患者を出したのみといふ成績のうちにも明白に物

語つてゐる。第一次歐洲大戰當時軍陣醫學の優秀さを誇つた獨逸軍でさへマラリヤ入院患者二〇萬、兵員千名につき二十名を數へた、近くは一九三五年の南部佛印における暴動鎮壓に際して佛印軍のマラリヤ罹病率七〇パーセントといふ數字に比較してもわれらの勝利は陸軍技術の世界制覇といふも過言ではないと信ずるのである。

〇航空醫學について

陸軍航空本部

航空日本の強味

かつて飛行機の自動操縦器が發明された時、歐米の一部では、今後は誰でもが機械仕掛けで自由に飛んで歩けるといふやうな考へを抱いた者が現はれた。しかしロボットは遂に機械であつて人間ではなかつた。このやうな淺薄な考へは、誰でもそのまゝ葬るに躊躇しないが、かやうな思想を産出する精神の弱點は、今日の大東亞戰爭において赤裸々な戰果となつて露はされた。

物を持たずに人を忘れることの誤りは明白となつたのである。我が人と物に對する精進と精勵は、遂に見敵必墜の荒駕魂となり、體力氣力の羽搏となつた航空日本の強味はこゝにある。

航空醫學とその任務

飛行機の進歩發達については、今さらこゝに喋々を要しない。今を去る僅か四十年前、ライト兄弟が三メートルの高さで五十九秒飛んで世界を驚かせたものが、今や高度において一萬メートルを優に超え、速度においても時速七百キロの飛行機が出現してゐる。今日わが國が新鋭機を造れば、敵もまた明日は新機軸を出す。武力の戦ひと共に技術の闘が、今日も今も續けられてゐる。飛行機の性能は、日に月に駈々として進歩し、殆んど底止するところを知らぬ。

しかし、これに搭乗する人間の能力には限りがある。例へば、水が無くては魚が死んでしまふやうに、どんなに強い人でも空気を吸はずにはゐること

は出来ない。ところが八千メートルの高空に行くと、生存に必要な最低限の酸素が肺胞内に攝れなくなつて、遂に搭乗者は失神してしまふ。また空中格闘や急降下の際、飛行機を急激に引起す時は、遠心力によつて血液が身體の一方に集まつてしまひ、高度の腦貧血を起す。またこの遠心力は、容易に地球の重力の數倍となり、五分間もその状態が續くと操縦者は氣を失ひ、飛行機は墜落して終ふことになる。

このやうなわけで、高性能の飛行機が次ぎ／＼に出来ても、もし人間の耐性を考へなければ、飛行機そのものが制限され、従つて飛行機の發達が遅延することになることが想像される。

そこで何とか人間の能力—可耐限界を擴大強化するか、或ひは如何に高度をとり、速度や飛行時間を増大しても搭乗者の能力が衰へないやうに—即ち航空體力の保持増強を圖るあらゆる方法、手段を、基礎から醫學的に研究し解決せねばならぬといふことになつ

た。そしてこの切實な要求から、こゝに航空醫學が、近代的に改めて意義を持つことになり、その短い搖籃時代から、一躍先進科學の間に伍して、今や各國とも火の出るやうな研究が行はれてゐるのである。

航空醫學の今日まで

さて、それならば航空醫學は今日まで如何なる貢獻をして來たであらうか。いま航空發達の歴史をひもとく時、そこに我々は瞬時も變むことのない航空技術の輝かしい進歩發達の蔭に、幾多航空醫學者の粒々辛若の跡をみて、深い感激を覺ゆるのである。

いま一例を飛行機の高度記録についてみると、支那事變の初め既に一萬七千八百三メートルに到達してゐる。大體、前記のやうに八千メートル以上では、生存できない等の人間が、どうしてこのやうな高度に到達できたのであらうか。これは酸素の少い高空においても、搭乗者に酸素を吸入させれば安全な事實を、醫學が發見したためで、

酸素吸入器の發明は、世界高度記録を六千二百二十メートルから一躍一萬三千五百メートルに引上げたのである。

その後、さらに酸素吸入だけでは、それ以上上昇することの不可能であることが研究され、特殊の氣密服といふ物が考案され、つひに前述の一萬七千八百三メートルといふ記録が樹てられたのである。また、かやうな高度では後に述べるやうに地上とは全く異つた環境となり、人體生理の状況もこれに伴つて變化するので、この對策として、いろ／＼な防寒被服や糧食、藥劑等が工夫考案されたのである。

航空醫學の諸問題

元來、地球表面にのみ棲んでゐた人類が、空中を飛ぶといふことは、萬事が新しい問題なのである。もちろん高空における生理の研究は、すでに高山登攀や、氣球による上昇でもつて、十八世紀の頃から行はれてゐた。しかしこゝ十數年來の「飛行」は、實に「航空」であつて、しかも航空機の軍用兵

器化となつて以來は、單に從來論ぜられてゐたところの氣壓、酸素、溫度、濕度および放射線等、高度に伴ふ自然環境のほか、高速度、急旋回、長時間飛行、その他戰術といふ人工的な環境についての研究題材をも提供した。こゝには、その一部を極く概略して述べることにしよう。

高々度飛行及び成層圏飛行

最近の航空は、高く／＼と要求されてゐるが、何故であらうか。非常に高空に行くと、そこには現在われ／＼が生活してゐる空間とは甚だ異つた空間はゆる成層圏があり、そして地上からこゝまでの空間を對流圏と稱してゐる。

現在、普通の飛行機は、對流圏を航行してゐるのであるが、對流圏と雖も成層圏に移行する間は、高度に伴つてもちろん環境の變化があり、それが人體にいろ／＼な影響を及ぼすのである。まづ第一に問題となるのは、空氣の

密度の問題である。即ち既述のやうに高空に上昇するに従つて空氣の密度が減少する。空氣の成分中で生命に一番大切なのは酸素であつて、大氣中には約二割が含有されてゐる。上空においても、その割合には變りがないが、空氣全體の密度が減少して來るので、人體は自然、呼吸や脈搏を頻回にして、酸素を攝らうと勵むものゝ、遂に八千メートル位になると、餘りにも空氣は稀薄となり、もはや生命を保つことが出來なくなる。そこで、酸素吸入の必要が生ずるが、これも一定割合の炭酸ガスを混用して、呼吸中樞に活力を與へる等、醫學的に合理的な方法が肝要なのである。それにまた、生理的に經濟的行動に邪魔にならぬ器械でなくてはならない。わが荒鷲は、よくこの良器を活用して、その威力を發揮しつゝある。

即ち、大氣の壓力は高度とは逆に降下して、五千メートルの上空では地上氣壓の約半分、一萬メートルでは、約四分の一となる。従つて身體内の空洞や血液、諸臓器に滞在または溶解してゐる空氣は膨脹し、或ひは蒸發を始める。窒素ガスは特にその状態が甚だしく、二萬メートルにおいては、そのために身體が膨れ上る有様となり、また血液等は沸騰する状態となる。

これ等の事柄が成層圏飛行について、特に研究を要するところで、要するに對策としては、人工的に空氣を壓縮濃密にした、いはゆる「氣密室」を採用すればよい。

氣密室といふ物は、その小さい物であつて、潜水服のやうに作つた可撓式の氣密室である。成層圏飛行とまでは行かなくても、高性能の飛行機で急激に上昇すると、體液に含まれてゐた氣體は前述の如く氣泡となつて分離する。若し心臓や、腦血管にこれが填まれば瞬時に死を招くのであつて、その

對策としても酸素吸入器の巧妙な作用が必要なのである。かやうに酸素補給と空氣加壓は高々度飛行、特に成層圏飛行の研究中、醫學的の重點ではあるが、なほ防禦その他いろいろの事項について細密に研究を行はねばならない。またこの種の飛行は、長時間に互るのが常であるから、單に生存のための生理にとまらず、次第に生活のための生理研究へと考へを進めねばならない。

加速度の問題

加速度は、旅客輸送飛行の如き水平飛行には問題にならないが、軍用機の活躍に際しては、人と機械に大きな影響を及ぼす。これは、高速機が急旋回したり、急降下を終つて上昇のため、機體を引起す時に生ずる飛行機の運動（方向變換）に伴ふ特殊な力學的な環境で、言ひ換へれば前述の遠心力である。以上の場合、飛行機の速度が大きいか、また旋回の半径が小さいほど、即ち急激に飛行機を作動させれば

させるほど遠心力は大きく、現在の飛行機では、地球重力の五倍位の加速度が生ずる。即ち、物の重さと人の重さが、急に五倍位になるのであつて、そのため人體においては、血液の循環に異常を呈し、失神することがある。しかもその間における搭乗者の任務は常に正確な攻撃である。従つてこの醫學的對策も必要である。大東亞戰爭に、友邦ドイツの空襲に、赫々たる戰果を擧げつゝあるのは、その人と機體の優れた調和運用の顯はれである。

航空體力の増強

昔の飛行機は搭乗者も一人か二人であり、その任務も簡單であつたが、現今では長距離を征く重爆撃機などは、操縦者、機關係のほか、航法、通信射撃、爆撃、觀測等の特別任務に服する者が専門に分科されて、飛行機はあたかも空征く軍艦とも稱すべきものとなつた。しかもその全員が打つて一丸となつて初めて、完全な機能を發揮することになるので、搭乗員の質的な優

秀性はますます重要となつて來た。まづ性格からしても、よき空中勤務者は、大膽にして細心の人格者でなければならぬ。ところが飛行中は、地上における生理、心理の状況とは變つて來るものがある。即ち呼吸作用、血液循環、筋肉動作、消化の機能および意識感覺の作用までが影響を受ける。従つて「飛行の生理及び心理」が研究されねばならない。そしてその結果によつて合理的な空中勤務者の選定の方法を定め選定の上は、これをよく保育訓練して、航空の耐性を増強する一方航空における疲勞を研究して、その能率の向上に努め、もつて航空體力と勢力を整備しなければならぬ。

そのためには、休養の方法、生活の様式・施設、被服、糧食等を醫學的に根據つけて工夫せねばならない。苟くもこの根據なきものは、總て對人對策としては無價値である。

荒鷲はいま酷熱酷寒の地に活躍してゐる。數分間のうちに炎熱の地上と氷

點下の高空の間を往復して攻撃を遂行してゐる。その勞苦に感謝すると共に健康保持、體力増進のため、關係者は勿論、一般國民も眞面目に科學し、理解せねばならない。

航空醫學の將來と教育

航空醫學は、以上述べたやうに、航空機の進歩に伴つて發達しつゝある。しかしながら、未だ他の科學に比して日淺く幼稚の域にある。今日までのところ、航空醫學が導いて飛行機的设计を構想させた事實は稀である。即ち今までは人間が機械に乗せられて來たのであるが、しかし、今や人間のために機體がより合理的に考案され、製作されるべきで、航空醫學の任務は、また、かくあらねばならないのである。他面人間の方においても、ますます航空適性の正鵠と耐性の増強をはかり、こゝに渾然たる人と機の有機的な結合を行ひ、鳥の如く、昆虫の如く、否「人」である限りそれ以上の能力を空間に具現せねばならない。

再び述べるが、航空醫學は今や必裝
不可缺の一科學であつて、決して珍稀
特別な學問ではない。従つて國家醫學
教育には勿論、國民學校の教育にまで
組入れらるべきものである。國民もま
た理解と熱意を以てこれが努力を吝む
べきではない。

○陸軍新偵察機 (受賞)

三菱重工技師 久保 富夫
同 西澤 弘

新偵察機は全金屬製の複座偵察機で
最初に大體偵察機として昭和十〇年陸
軍航空技術研究所から試作命令を受け
翌年基礎研究に着手、同年四月に第一
回の實大模範審査を受けた。

第一回試作機の特徴は速度を第一義
とし、かつ操縦者同乗者の連絡を重要
視したために操縦者の視界は多少犠牲
にしたものであつたが支那事變の經驗
に基いて改訂が命ぜられ、この實大
模範審査が同年〇月に行はれ、こゝに
おいて現在の型式が決定され、いよ

細部設計に着手したわけである。
第二回試作機では操縦者の位置を前
進させて操縦者同乗者の連絡が悪く
なつたが、操縦者の視界をよくした、
かくして第一回試作機の飛行を行ひそ
の後いろ／＼細部の改良を加へたのが
現在使用されてゐる新鋭偵察機である
これにまた多少の變更を加へ、かつ發
動機の性能向上を圖つてゐる。

つぎに設計、製作計畫についていへ
ば、飛行機の設計は、一つの綜合技術
であるから、それ自身として獨得の技
術を必要とするが、同時にその當時の
技術的環境に多分に依存する、飛行機
の性能向上は、極めて簡單に考へて發
動機出力の増大、プロペラの効率向
上、ならびに機體抵抗減少の三點に依
存する。

このうち第一に發動機出力の増大と
いふことは本機設計の初期には許され
なかつたわけである、プロペラ効率
の向上といふことも、離陸、上昇、巡
航等においてはともかく、全速に關し

形がきれいな線をしてゐること、局部
的に油冷却器の空氣採入れ口が突出し
たりしないといふやうな方針を採つ
た。

第三に脚並に尾輪の收容は既に前の
機體でも引込式を採用してゐたのであ
るが、これらの脚引込はなほ完全とは
いひ難く、引揚げた後にもなほ一部が
外部に出てゐるといふ程度であつたの
を、本機では完全に收容して、恰も脚
尾輪がないのと同じの域にまで達して
來た。このことは機體構造に相當の不
利を強ひる結果となつたが、あくまで
性能に重點をおいて、以上のことを強
行したわけである。

最後に主翼は速度の點からは薄いは
うが有利であり、強度の點からは厚い
はうが有利である、當時はまだ層流翼
の理論などが發展してをらず構造を無
理にしても薄いはうを採用しようとい
ふわけで、中央において薄い翼形を採
用した。これが新偵察機であつて、そ
の主要性能はおほよそ次のやうなもの

である。全備重量〇トン、主翼面積〇
〇平方メートル、最大速度、高度〇千
メートルにおいて約〇〇キロ、航続距
離高度〇千メートル、速度〇〇キロ、
この性能向上は一部機體外形の改良と
ともに、主として發動機出力の増大並
にその油壓高度の増加に起因するもの
である。われ／＼ははよ所期の目的を
達成することが出來た、すなはちこの
性能は、最高速度と航続距離とを同時
に考へて、當時の實用機としては、十
分外國の飛行機に匹敵し得るものと考
へられる、なほ將來は更に性能が向上
する豫定である。

最後にわれ／＼技術者から見た本機
の價値についていふと飛行機は日進月
歩であるから一つの飛行機の壽命が、
そんなに長いものとは思はれない、隨
つて本機が飛行機の進歩に多少でも寄
與するところがあれば、十分その任務
を果し得たと考へてゐる、そこでどう
いふ點が前のものと違つてゐるかとい
ふとまづ機體について多少でも前のも

ては効率の低下を防ぐといふ消極的の
意味しかない、隨つてわれ／＼は主と
して機體抵抗の減少といふことによつ
て高速機といふことを主眼として性能
の向上を圖らなければならなかつた。
機體抵抗の減少については主として
各部の流線型化並に容積の減少の二項
目に歸すると思ふ。このためには最も
努力し、各部の寸度は必要な最小限度
に抑へ、かつ極力流線型化することに
努めた、特に搭乗者の旋回操作につい
ては、ふだんの操作と機關銃操作とに
よつて抵抗の差違がないやうに工夫し
た。

さらに發動機であるが現在の空冷を
裝備したのでは當時の最高速度約五百
キロを越すときに急激な抵抗増加を來
して、馬力に比例するやうな速度増加
は得られないのではないかといふ懼れ
が多分にあつたので、極力流線型化に
努めた。この形を決める方針としては
前面面積を最小限に抑へるといふ方針
をとらずに、前面面積は多少殖えても

のより流線型化してゐるといふことが
その一つ、次に本機設計の當時におい
ては、水冷發動機と、空冷發動機の間
題が喧しく論ぜられて、外國の戰闘機
の水冷却動機を裝備したものは非常に
高速を出してゐるのに反して、空冷發
動機を裝備したものはなかく性能
が出ないといふやうなことから、空冷
發動機の將來に關し多少疑問が生じて
ゐたが空冷發動機も相當な速度が出る
といふ一つの回答を與へたことは、本
機の最も大きな任務を果したものの一
つであると思へてゐる。

○爆撃機の迷彩效果

問 野 爲 三

敵から發見されるのを成るべく遅く
らせて、目標に十分接近し得るならば
その效果も大きくなる。爆撃機は、地
上から姿をかくすことは難かしくとも
上空より急降下して攻撃に移つて來る
戰闘機に對しては、迷彩の效果を大に
發揮することが出来る。特に低空爆撃

を行ふ場合には殊更のことである。

一體、物が見えるか、見えないかの限界は、その物の眼に寫る大さと、その物自体に當る光線の陰影の強さと、背景との明るさの對比によつて定まる。その上、戦闘機上から低空を飛ぶ爆撃機を發見するとなると、高度差、速度差、視角度による移動の影響などが關係して來るので爆撃機の迷彩は極めて難かしいとされてゐる。

一般に、高速で移動する物體から他のものを見るときは、細かい迷彩は無効で、大柄な方がいゝといはれる。従つて、爆撃機の迷彩もこの點に重大な考慮が拂はれ、場所、地勢によつて迷彩の異なるのは勿論のこと、たとへば密林地帯を目標に迷彩を施すならば緑一色、或は緑に他の一色を配することも考へ得るわけである。また都會を目標にするならば、自ら異なつた迷彩が施されなければならないのは、當然のことといひ得るであらう。

○戦争と氣象

氣象と作戦

いま私達は全力を擧げて大東亞戦争の完遂に邁進してゐますが、氣象はこの戦争とは實に深い關係を持つてゐるもので、日々の戰況發表や從軍記事等でも氣をつけてみてゐますと、氣象と作戦に關係のあるいろいろな事實を拾ふことが出來ます。

古い戦史で申しますと、弘安四年の元寇の役の時、鷹島沖で元の軍船多數が颱風のために滅茶々になつてしまつたことは餘りにも有名なことです。これは當時、北九州の住民は、初秋の頃には大抵颱風が襲來することを覺えてゐたので、元軍の上陸を出來るだけ阻んで海上に浮ばせて置き、見事に作戦通り颱風によつて元軍を殲滅したのだといはれてゐます。

その後の歴史上の事實にも、氣象と作戦といふ見地からみて興味深いものが澤山あります。例へば、織田信長

が桶狭間に今川義元を攻めたのも、折柄の雷雨を利用し、自己の行動を秘匿しながら奇襲によつて勝利を博したのです。

かやうに悪天候を克服し、利用することは、兵法の一つであります。また日本海の大戦が、低氣壓の通過した後の北風の強い清明な日に行はれたことは、「天氣晴朗なれども浪高し」の語の通りであります。これもまた天氣の上からみますと、非常に都合の良い日に當つてゐたのです。

當時わが艦隊の意氣が非常に揚つてゐたのに對し、敵艦隊は長途の航海に疲れて意氣は振はず、風強く波の低いことは非常に不利であつたわけで、また遠方まで見送しのきく清明な天氣であつたことは、敵艦隊を残りにくく殲滅するのに非常に都合がよかつたのでした。もし海戦が前日に行はれたとしますと、丁度低氣壓の前面で、遠望は非常に悪い状態でありましたから、敵が遁走するには都合がよく、従つてあ

れだけの戦果を擧げ得たかどうかは疑問です。

大東亞戦争と氣象

支那事變や大東亞戦争でも、作戦に關係のあつた氣象は、いろいろと算へることが出來ます。開戦前夜のハワイ空襲やマライ半島の敵前上陸にしても天氣の都合のよい日に行はれてゐます。ハワイ空襲の際は、北東の風が強かつたことですが、母艦からの飛行機の發着に差支へる程のことではなかつたし、またハワイ島の上は雲が切れて断雲片々といふ状態であつたことですから、一回の爆撃毎に敵高射砲の彈幕から逃れて、我が機體を雲に隠すことが出來たものと考へられます。

マライ半島の上陸作戦も、丁度季節風の襲來の合ひ間を確認して行はれてゐます。マライ方面の冬の天氣は、やはり内地と同様に、シベリア高氣壓の影響を受けることが非常に大きく、シベリア高氣壓から寒波が吹き出して來

ますと、内地は北西の風が強くなつて氣温が降りますが、南支那海からマライ東海岸方面は、北東乃至東の風が強くなり、雲は低く雨が多くなります。これに反し、高氣壓が衰へて季節風が弱くなりますと、概して天氣はよくなりますが、午後にはスコールや雷雨が多くなつて來ます。

このスコールは、一方では航空の邪魔になつて、目的地の攻撃企圖を挫折させることもありませんが、また一方では、その雲や雲の下の雨足の中に機影を没して、敵の見張りからのがれるといつた利點もあります。

アリニューシヤン作戦も實に巧みに氣象の推移の見當をつけて行はれてをります。基地を出發してからの數日間には波浪と濃霧とに悩まされながら、爆撃占領の日には、濃霧がかりりと霽れ上り、鳥影がはつきり見えたといふのですから注文通りです。この天氣模様から察しますと、これは低氣壓中心の直後の位置に當るのではないかと思はれ

ます。もしさうだとしますと、アリニューシヤン列島とカナダ又は米本國との間には低氣壓があることになり、それを突切つて急に救援隊を送ることは一寸できないといふ絶好の條件になります。

陸戦と氣象

次に陸戦と氣象について考へてみましょう。先づ第一に兵力の輸送に關係のある氣象状態が問題になります。南方について考へてみますと、雨が重大關係をもち、道路の泥濘度と戦車や砲車、兵站部隊の運動性の問題があります。次ぎには雨量と河川の流量によつて渡河の可能、不可能がきまります。また北方について考へますと、河川や濕地帯、湖沼等の凍結程度で、戦車や自動車、馬車等の通過の可能性がきまります。また夏になりますと、その流量が問題になることは、南方と同じです。なほ北洋について申しますと、濃霧の季節が重要であります。大體、これらの條件で作戦の時期が決定されるこ

とになります。

航空と氣象

次に戦争が始まつてから後のことを考へてみますと、第一に用ひられるのは航空撃滅戦で、これによつて敵の航空基地を叩き潰して、友軍の戦車や歩兵部隊の行動に支障のないやうにするのですが、航空と氣象との關係は非常に密接なものがあつて、例へば、氣象状態によつて遠望の程度、即ち視程は非常に違つて來ます。飛行機で敵地に進入して行く時は、どうしても地面か海面を確認しながら自分の位置を標定しながら行かねばなりません、これが視程と重大な關係をもつてゐます。砂塵や煙等のために特別に空氣が濁つてゐるとか、霧がかゝつてゐる時には、特に視程が悪く、行動半徑よりも視程が短い時には、自機の進路に邪魔物が見えてから變針したのでは間に合はず、その物に打突かつてしまふことになりまふ。雲の底の高さが低く、雲底と地面との間の距離がいくらもな

い時とか、霧が地面に接してゐる時には、航空保安の設備がない限り、離着陸とも殆んど不可能です。この飛行場の霧を霽らすことは、昔から試みられてゐますが、最近でも未だ實用にはなつてゐません。

なほ雲の底の高さだけでなく、雲の厚さがどれだけあるか、即ち雲の頂きは何千メートルに達してゐるか、また雲が二層になつてゐる時は、その隙間が何千何百メートルから何千何百メートルの間にあるかわからねばなりません。また雲の中では、よく雲粒が機體に凍りついて、いはゆる着氷現象を起します。これは翼の形を變へてしまひその結果、浮力を減じて、酷い時には墜落事故を起すこともあります。

積亂雲と航空

このスコール雲や雷雲は、氣象の言葉では積亂雲と呼ばれてをりますが、これは航空には非常に恐ろしいものでこの中を突破することは殆んどないといつてよい程です。あの入道雲の頂き

は、内地でも一萬メートル位には悠々と達しますし、南方へ行けばもつと高く一萬三、四千メートルに達することもあります。その上、この雲の中では極端に氣流が悪く、上昇氣流や下降氣流の強いものがあつて、この上昇氣流の強さは、秒速三十メートル以上に達することもあり、また下降氣流にも同様のものがあるやうです。ですから雷雲の中へ突込んで無事に脱出することは、異例中の異例とされてゐます。

このやうに積亂雲は、氣流の悪いために航空を邪魔しますが、その他この雲の中には電氣現象が必ず隨伴してゐますので、雲の中から無線通信に障礙を與へる空電が出て來ます。これは航空機お互ひの間の通信や、航空機と基地の間の通信に妨害を與へ、通信不能にする場合もありますので、これを何とかして除去しようといふ試みもあります。なほ航空機に對する雷雲の障礙として、他にもう一つ機體を通る放電があつて、このため機體の一部が

融解して缺損したり、備へ付けの航空用機器の示度に變化を與へたりします。

また地上の風向や風速は、離着陸の時にぜひ必要ですが、上層の風は飛行機の偏流を起させますから、各高さの風向や風速がわかりますと、それによつて最短時間で目的地に達する高度をきめることが出來ます。

このやうな各要素について、飛行機の行動する廣い範圍の全體に互つて豫報を出すことが必要になつて來ます。それも時間的に量的に詳しく行ふ必要があり、殊に攻撃目的の地については詳しい豫報が必要で、戰爭中は各國とも氣象の放送をしませんから、敵地の範圍の氣象情報は少しもわからず、それに對し、天氣豫報は右のやうに絕對に必要です。

次に敵前上陸や敵前渡河でありませんが、舟艇への移乗、進航、接岸には先づ風が弱く、波が低いのが都合です。支那事變の南支海岸や北海上陸は

風速二十メートルの季節風を備いて行はれたのですが、これ等は敵の意表に出た異例の場合です。また飛行機の跳梁をゆるさぬ點からいへば、雲の低い場合の方が完全で、霧の存在は利、不利が相半ばするやうに考へられます。杭州灣やバイアス灣の敵前上陸は、丁度霧のある時に所定地に近付き、霧の霽れるのを待つて上陸してゐます。濃霧中に海岸に近付かうとするのは、味方の姿を晦せる點では都合がよいのですが、目標が見えないためにお互ひに離れぬになつて、共同動作のとれない憾みがあります。

射撃と氣象

次に大砲の射撃と氣象との關係も深いものがあります。目標がはつきり見えた方がよいことは勿論ですが、専門的に考へてみても、砲彈の飛んで行く路に當る所の風の方向と強さ、これが彈道に影響を與へます。ですから、豫じめ測風氣球とか無線測風器(ラジオ・トラッキング)などで上層の風を

測つて補正します。また砲彈の飛んで行く所の空氣の密度によつても、彈道が影響されますから、これは無線探測器(ラジオ・ゾンデ)などで高層氣象を觀測して、補正を加へます。

次に問題とすべきことは、戦力の維持といふことでもあります。これには後方からの物資補給の問題もあります。前線における氣象状態に對して、將兵の體力と精神力を常に緊張した状態におくことでもあります。冬の獨ソ戦線で不意に襲ひ來つた酷暑のために、獨軍が一時後退してゐたこととか、夏の北阿戦線で猛暑にも隨する色なく、獨伊樞軸軍が一路、東に猛攻を續けてゐること等が、この例として擧げられます。

しかし悪天候を克服してわれに利用するといふ點では、古來わが軍は常に敵に一步をぬきん出でゐます。

海戦と氣象との關係も、また概ね右と同様であります。たゞ相手が艦船ですから、波浪やうねりの状態が大きな

問題になります。海流は平均の状態は變らなくても、細かくみますと、年々相當の變化があり、その變化は艦船の航海に大きな關係があります。また海水の色とか透明度なども問題になります。それは敵の潜水艦が濁つた海水の中に潜航すれば、全く發見できないからです。

防空と氣象

次に防空と氣象を考へてみます。東京なら東京に襲來して來ると豫想される敵の基地の氣象や、敵基地と東京間の氣象状態に注意し、それが飛行不能の状態かどうかを判断して、防空警戒の目安とすることが大切であります。次に東京そのものの氣象状態が爆弾投下や火災延焼、毒ガス流動に對しどんな關係をもつか問題です。爆弾や焼夷彈の投下に伴つて火災が起りますが、この火災の延焼と氣象状態との關係を調べた結果は、湿度と風とが密接な關係をもつことがわかりました。即ち、この日の湿度は、當日の

出火件数と關係が深く、これは薄い紙や布、壁や畳の表面等の乾濕は、その日その日の湿度でまことに對應するものです。次に出火件数の中から小火を除いて、普通の火災について調べてみますと、これは三分位の厚さの板の乾濕と關係が深いのです。さらに大火について調べてみますと、これはもつと厚い板か太い柱の乾濕によつてまきまるやうで、勿論、乾いてゐる方が燃え易いのです。また風との關係は、風下の方に燃え延びることは常識的に考へられる通りで、風速と共に延焼速度は早くなります。風上や横風への延焼速度は、風下に比べますと大變に小さいが、いづれもやはり風速と共に早くなる點は注意せねばなりません。以上のやうに、戦争と氣象はきつてもきれぬ縁がありますから、戰場には各種の氣象隊が働いてをります。その取扱ふ氣象に關する報せも、次ぎのやうに澤山のものです。

(イ) 實況氣象報

- (一) 一般實況氣象報
- 1 陸上實況氣象報
- 2 海上 "
- (二) 航空實況氣象報
- (三) 對機 "
- (四) 高層 "
- (五) 氣流 "
- (六) 天氣豫報
- (一) 一般天氣豫報
- (二) 航空 "
- (七) 警報氣象報
- 毒ガスと氣象

次に、都市防衛の見地から、毒ガスの流動と氣象との關係について考へてみます。

第一は地面附近の風で、風がないとガスはたゞ一地點の附近のみに影響を與へるだけで、次第に稀薄になります。適當な強さの風があると、風下の方向に流れ、薄くなるまでの間に多くの被害を與へます。なほ餘り風が強いと、擾亂されて早く薄くなつて、餘り被害がないことになります。ですから

丁度中位の強さの風の時が一番警戒を要します。また風向に平生からよく注意して、各自の住んでゐる所の附近につき一般の風向と街路に沿ふ風との關係等を頭に入れておき、突陸の場合にはあはてぬ用意が肝要です。

毒ガスには、もう一つ地面上の高さに對する温度分布が大きな關係をもつてゐます。普通の場合、地面に接してゐる空氣の温度が一番高く、高い所ほど温度は低いものです。かやうな時には、ガスは容易に高い所の空氣とまじつて稀薄になつてしまひます。これは焚火の煙が風に流されるのと同様です、ところが時としては、温度の分布がこれと反對に、高い所の温度が高く地面に近い所の温度が低いことがあります。

かやうな時は、低い所の空氣ほど密度が大きく重いから、空氣層の重なり方は安定で、入り混じることがありません。かういふ時に毒ガスを、流されますと、どこまでも地面に接して匍つ

て流れますから、被害が大きいといふことになります。かういふ湿度の分布は、晴れた夜から朝にかけて起ることが多いやうです。

このやうに防空と氣象とは、非常に關係が深いので、戦争遂行中、その時の氣象に關する事項は、ラジオや新聞その他一切公表を禁じられ、軍用資源秘密保護法といふ法律で取締られてをります。ですから國土防空上、氣象情報の秘匿に關しては、國民各位の協力を更に希望します。

○冬季日本海航空氣象の研究 (受賞)

陸軍航空兵少佐 今里 能

冬期の日本海の航空氣象研究の目的は、冬期になると大陸に高氣壓が發生し、北西の季節風が東西全般に吹きすさぶため裏日本の天候は非常に悪くなり、これに反し表日本ばかりでなく、大陸まで好天つゞきといふのがすでに一般の常識となつてゐるところだ。と

ところがこの裏日本の悪氣象悪天候を研究しておくことは表日本と大陸の兩快晴地區を結ぶ航空路の高度決定あるいは國土防衛の見地から考へて是非とも行はねばならなかつた。

そこで陸軍氣象部ではラジオ・ゾンデを活用して裏日本の悪氣象と四つに組み立體的な研究にかゝり、昭和十四年の冬以來三冬にわたつて氣象と連續的な戦ひをつゞけて來た。準備としては北は樺太から北海道、本州、朝鮮、大陸と日本海を圍む各地にある氣象部隊や新鋭氣象部隊を配置する等、陸軍氣象隊を總動員して完璧の氣象觀測網を構成、研究の萬全を期した。觀測方法はラジオ・ゾンデによるものは毎日午前、午後の二回、氣流に對しては一日數回といつた要領だがこれでは陸地における觀測しか出來ず肝腎の海上觀測はどうしても日本海を渡る船上に觀測陣をおかねばならないそこで日本海の定期船を利用した。冬の日本海は荒天つゞき船に強い氣

象隊員を選抜したが、連続的勤務に船
暈ひが續出し、ゲロを吐きながら観測
具にすがつてゐた者すらあつたほどだ
そのうへ強風のため観測具が吹き飛ば
されたり、観測用の風船が飛び散つた
り、大變な苦勞だつた。

この作業は全國一斉同時に観測記
録をとらねばならないので、寒さや烈
風のため準備がはかどらず、泣いても
泣き切れない時もある、観測作業は戸
外の作業で場所によつては零下何度と
いふ寒氣と戦はねばならない、おまけ
に精密機械を取扱ふので防寒手套の使
用ができないため凍傷にかゝる。こと
に観測具の金屬部に手が觸れたが最後
くつゝいて離れず、樺太の観測部隊で
は零下三十五度の烈風中で作業せねば
ならなかつたので犠牲者も出た。

しかし苦しいうちにもこんな珍談も
ある。それは夜の氣流観測には風船の
下に提燈をさげて飛ばすか、この風船
が氣流のまに／＼上つたり下つたりふ
はり／＼と浮び出したものだから事情

を知らない土地の人たちの間に人玉が
出るといふ噂がバツとたち、それが毎
夜必ず一定の時刻に飛び出すといふ
ので純朴な村では大評判、つひには近
在の村々から見物人がくり出すといふ
騒ぎ。

またある所では寒さに備へて、どつ
さり着込み變な恰好をして出かけたも
のだから、ルンペンに見へたのだから、
引率者の曹長がどう説明しても「偽
軍人」だと判定されて弱つたこともあ
つた。しかし國防婦人會や青年團の温
かい協力を得て涙の出るほど喜び、感
激の報告をしてきた観測部隊もあつ
た。

立體的観測だから荒天を冒して飛行
機による観測もした、三冬にわたつて
かうした苦勞をつんでわが陸軍氣象部
隊は、種々な氣壓配置下における日本
海の立體的氣象狀況をラジオ・ゾンデ
によつて概ね正確に把握することに成
功し、航空氣象の豫報に役立つ資料を
得、また季節風の場合における雲の構

成について正確に判断が出来るやうに
なり、日本海における氣塊の變形や脊
梁山脈による氣塊の變形についても貴
重な資料を得た。

氣象観測なんていふと空を見てゐる
だけの暢氣な仕事のやうに考へられ勝
ちだが、夜の勤務はもちろんのこと二
六時中撓まざる不斷の緊張を必要とす
るので、忍耐力に富み强健な體力の所
有者であることが絶対要件だ。かくし
て航空部隊が安心して飛びたてるやう
に必勝の観測陣を布陣し、誤つた豫報
によつて目的を果す前に悪天候のため
航空部隊の活躍を阻害しないやう務め
てゐるのだ。またこれまで戰場におけ
る氣象部隊といふと第二、第三線部隊
のやうにいへれたが、決して後方勤務
ばかりでなく必要によつては勇敢に第
一線を突破して任務を果すが、こんど
のマレー作戦ではジョホール・パハル
で任務を果さうと第一線をとび出し
た。氣象隊員の中に壯烈な戦死者も出
した。

○動物質纖維の再生法 (受賞)

(羊毛裁断屑利用)

陸軍被服本廠技師 長野 正滿

陸軍被服本廠ではおびたゞしい獸毛
屑が出るので、これを何とかして利用
しようと思出したものだ。大體毛とい
ふものゝ化學成分は人間の爪等によく
似て複雑な蛋白質のゲラチンを主とし
たものである。人工的にその代用品を
つくるには先づその分子構造を究めて
かゝらねばならぬ。そのためX線分析
法を行つた結果、纖維の軸の方向に鎖
状に連る構造があり、これが側連結で
互ひに連絡してゐる。この側連結があ
るために羊毛特有の弾力を有すること
がわかつた。

この結合を分解せずに利用出来ない
ものかと頭を悩ました。まづ羊毛を溶
かす方法だ、文献を調べて見たがうま
く行つた例は見當らぬ。

いろ／＼苦心の結果アルカリで處理
して二硫化炭素を加へて放置した、三

四時間経つたら、うまい工合に粘稠な
液體が出来上つた、さてこの出来た物
質は何か、これを確めるため分光學的
研究の結果、ゲラチン・キサントゲン
酸曹達と名づく可き物質であることが
わかつた。羊毛と苛性曹達および二硫
化炭素との化合物は、纖維素と苛性曹
達二硫化炭素との化合物と同様である
ことがわかつた。

これは新発見だつた、ところでこれ
を紡糸して見たところ羊毛溶液だけで
はできたものが硬くて使ひものになら
ぬ。そこでダイスコースと混合して紡
糸して見た、即ち羊毛溶液は羊毛屑、
截断屑からのものでこれをダイスコ
ースに三十パーセント加へて紡糸する、
溶液の熟成、混合の時機等研究したが
羊毛の分解を防止するために、グリセ
リンを入れたり防水のためにダイスコ
ースに硫酸アルミニウムを加へたり
して極めて好成绩を上げるに至つた。
濃度はなるべく高くして紡糸した方が
強度も伸度もよくなる。

製品として重要なのは濕潤時と風乾
時の強度の比で人絹、スフ等は濕潤時
は半分以下になるのに、本品は優に六
十パーセント以上を示してゐる、この
製品の特長としては、羊毛と同じ染料
で處理し得ること、僅か三十パーセン
トの羊毛を加へることによつて羊毛に
劣らぬ弾力性を示すこと、従來廢品と
されてゐた毛屑を利用した三つの點で
ある。

本法を利用して倉敷絹織に撥毛糸を
つくらせて防寒下衣として現地に實地
試験を依頼した結果、まだ十分とはい
へないが、相當良好な成績をあげるこ
とが出来た。將來羊毛不足の場合の大
量整備にも間に合ふ豫定である。實驗
中爆發を起して負傷したり、分光學的
検査のために視力を損じたりしたが、
自分としては今後も研究を續けて更に
完全なものにしたいと思ふ。

○三角型兵舎の考案 (受賞)

陸軍技師 伊藤 節三

強力無比の皇軍が必ず完勝を獲得するところ、常に強大なる敵と自然の暴敵の二者を、完全に制壓した成果であつたわけでも、厳冬期の大部隊設置は自然征服の歴史である、嚴寒の曠野にわが陸軍建築技術は立派な防塞兵舎の築造を可能にした、以下陸軍技師伊藤節三氏の解説する「三角型兵舎」がそれである。

獨り戦が始まったとき、獨軍は短期決戦をもつて完勝を得なければナポレオンの二の舞、例の自然の猛將「冬將軍」の暴威に遭つて思ひもかけぬ惨敗を喫するかも知れないと危惧されたそれは嚴寒のために人間と兵器の活動が阻害されるといふこともその一つだが、それよりも大部隊の冬營が第一問題であつた、嚴寒地の作戦を想定するとき、敵は必ず焦土戰術に訴へ、あまつさへ廣漠たる大陸では、冬季における大部隊の設置が解決されなくては大作戦は到底企圖出来ない。そこで我々に要請されたものは熱帯地、温帯地に

おける野戦建築よりも、急速に寒地にも大兵力の冬營に耐へる建築を成功させることであつた。

しかも作戦進行中に建てるといふ狙ひがあるのだから、種々雑多のことで制約を受ける、まづ後方から輸送關係を顧慮すれば、使用材料の種類と量は出来るだけ少くなくてはならない。努力不足と時間の關係から、専門建築職工をつれて行くのでは間に合はない。出来れば兵隊自身が少人数で、しかも大量の兵舎を、鋸と金槌だけで建て、しまひたい、かやうな簡単な構造の上にあの零下何十度を凌ぐ防寒が出来ねばならぬかうなると従来考案されてゐた木材や鐵骨を使用した組立式の兵舎建築法では材料の種類と量は餘りにも過多で、専門の木工でなくては造れない。軸部(壁や柱)の防寒はうまく行かぬ。凍つた土で壁を塗ることが出来ない等々、難點の列擧にいとまがなくなつて來た。そこで散々考へた結果、従來の兵舎の缺陷は立方體の建築に壁

を持つことに氣がつき、こゝに幸ひにも日本民族の建築史上最古のものに屬する三千餘年前の、丸太を大地に突き立て、その先を組み合はせて縄で縛り草葺きにした「天地根元づくり」にそつくりそのまゝ貴重なヒントを得た、只それが近代技術を應用考案して半組立式「三角型兵舎」と名づけたまゝである。

その構造と特徴だが、この兵舎に用ひる材料の種類は、全部で僅かに十四種で、在來の野戦建築の五分の一程度簡便にするために屋根骨になる「合掌」は、天地根元づくりでは、単に縄で縛るところをポールトを心棒にして折り疊みが出来るやうにし、輸送や側壓で壊れないために織ぎ目に鐵輪の「ジベル」を嵌め込んでおく。このほかに戸板に似たパネルをつくり、床にもなるが机にもなり、また入口の扉や棚にもなるやうにする。後方で豫め組立て、おくのは、このほか窓ぐらゐのもの、あとは杭と板、硝子と釘だけで輸送は

簡便、また材料の積み置き保存にも、別に倉庫などを要しないやうな工夫がしてある。

努力の點では大工、建具工、左官や入夫が全部素人の兵隊自身がこれに従事するから著るしく節約出來、實驗では〇〇名が完全に住める兵舎を、大工三人と土工二人が二日間の工程で完成してゐる、内部は寢室をはじめ事務室浴場、厩、便所、炊事場が完備し、元來穴居式に造つてあるから、兵隊が仰臥すれば地面以下となり、銃架は眼前の小屋材に設け、その横には脱出口と銃眼を兼ねた窓がつく、外部は建築全體が土裏で掩はれてゐるから對空、對地の遮蔽は達せられる、以上の要領で嚴寒地で相當大部隊を收容する兵舎を試作したが、非常に住みよく、衛生状態も種々の試験で、結果其好との報告が來てゐるがまだ改良せねばならぬ點は澤山ある。

○戦時標準船 (週報)

船種と船型

今日、わが國のあらゆることが大東亞戰爭の完遂といふことを目標にして活潑に敢行されてゐることは、すでにご承知の通りですが、船舶の建造もまた、大東亞共榮圏内の重要物資を輸送することを主眼として、鋼船は次ぎの通り決定しました。

一、貨物船	FEDCBA型	(六、四、三、二、一)型	總噸	三〇〇〇	四〇〇〇	七〇〇〇	九〇〇〇	一、五〇〇〇	二、〇〇〇〇
二、油槽船	一、五〇〇〇	總噸	一、五〇〇〇	二、〇〇〇〇	三、〇〇〇〇	四、〇〇〇〇	五、〇〇〇〇	六、〇〇〇〇	七、〇〇〇〇
三、鑽石運搬船	五、五〇〇	總噸	五、五〇〇	六、〇〇〇	七、〇〇〇	八、〇〇〇	九、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一一、〇〇〇
一、木造貨物船	二、〇〇〇	總噸	二、〇〇〇	三、〇〇〇	四、〇〇〇	五、〇〇〇	六、〇〇〇	七、〇〇〇	八、〇〇〇

二、木造解船

これらのものは、とり敢へず戦時標準船として選定したものでありますから、今後情勢が變化すれば、船種や船型が増減することもあるわけです。

設計の方針

前述のやうに、戦時標準船を造るには出来るだけ運航能率を下げないで、しかも努力や資材を節約し、短時間に竣成させることが肝腎で、このためには、ある程度構造を簡單なものにし、また資材の關係で代用材を使はなければならず、しかも急速に設計しなければなりませんから、別個に新船を設計するといつた悠長なことは許されないことです。

そこで、貨物船は今まで船舶改善協會が設定した、いはゆる標準船の設計に前述の主旨を加味し、さらに改良したものを、ひとまづ戦時標準船とすることにしました。

この設計の改變の中で特筆すべき點は、今まで多種多様であつた鋼材の寸法を取纏めて、新らしく船舶用鋼材標準寸法を定めたこと、このために、今までの寸法と種別の數は、五分の程度に減り、製鋼と資材融通の能率を非常に高めることが出来ることになりました。

標準船はこのやうにして設計されたものですから、前世界大戦當時アメリカが盛んに急造した戦時標準船のやうに粗悪極まるものではありません。アメリカでは、當時、單に急造することだけに重點を置き、なんでも海面上浮いて物が運べさへすれば良いといつた工合で、極端に人手を省いたために、どう見ても船とはいへぬやうなものまでも造り出し、結局、性能は悪く、耐久力は弱く、全く失敗してしまつたのでした。

政府では、こんな失敗をせぬやうに戦時下、特に貴重な資材で建造する戦時標準船の性能を十分に維持するやう

に設計しました。

建造の方針

このやうに戦時標準船の設計は、非常に適宜なものではありませんが、しかしどんなに合理的な設計であつても、適切な方法で建造しませんが、折角の優秀な設計も無駄になり、豫期通りの計量造船の實を擧げることは出来ません。

そこで計量造船では、各造船所では各造船所に一または二の一定した船型の船舶を連続的に建造させることにしました。これは、今までのやうに一つの造船所で多種多様の船舶を建造することは、急速造船には非常に不利であるからです。同じ型の船舶を何隻も繰り返して造ることは、非常に能率が上り、技術も進歩し非常に有利で、大量生産の要諦といふことが出来ます。

なほ、機關とか補助機關、その他の主要な機部品や船用品も、同様に大量生産を行ふ方針です。

性能と内容

戦時標準船がどのやうな性能をもつてゐるか、これを數字で以て發表することは許されませんが、とにかく今までの標準船に比べて、決して劣つてゐないことだけは確言できます。

なほ構造を簡單にする前に申しましたが、これは、今までの無駄や贅澤な部分を出来るだけ制限し、華を去り實を採るといふ意味で、船體の強度まで減らして構造を簡單にするといふのではありません。たゞ、外觀等はある程度犠牲になり、また主要性能船は直接に關係ありませんが、代用資材を使用する關係で、品質が少しは低下することは覺悟しなければなりません。(下略)

○技術院の誕生 (週報)

技 術 院

昭利十七年一月三十一日に官制が公布され、二月一日に開設された技術院は、さきに政府が發表した「科學技術新體制確立要綱」(週報第二四三號に

紹介)の趣旨に基づいて、わが國の科學技術行政の中樞機關として創設されたもので、これこそは、要綱で基本方針として掲げられた高度國防國家の根幹である科學技術の總力戰體制の確立、科學技術の劃期的振興發達、科學精神作興、大東亞共榮圈の資源と環境に基づく科學技術の日本的性格の完成、といふ大理想實現の重大使命を擔つて誕生した國家機關である。

即ち、官制の第一條に、技術院は科學技術の國家總力を綜合發揮せしめ、科學技術の刷新向上を圖るとその目的を明らかにされてゐる。また官制第一條の後段に、就中、航空に關する科學技術の躍進を圖るべきことが特記されてゐるが、これは現下内外の情勢に鑑み、航空に關する科學技術の躍進を圖ることが急務であるから、特に技術院の任務遂行に當つては、常にその躍進目標として念頭に置かねばならぬ大前提を示したものであつて、技術院は單なる航空技術院ではなく、飽くまでも

廣く科學技術全般に涉つて刷新向上を圖る機關である。

次に官制第二條に示された技術院の所掌事務を説明して技術院の機能や權限の全貌を概説しよう。

一、國策遂行上必要ナル科學技術の躍進ヲ圖リ且之ニ關スル各廳事務ノ調整統一ヲ圖ルコト

國策遂行上必要ナル科學技術の躍進を圖るには、技術院自身がこれに當るほかこれらに關する各廳事務の調整統一を行ふのである。「國策遂行に必要な科學技術」といつても、その範圍は非常に廣いので、前の大前提の趣旨を承けて先づ第一着手として、航空部門から始めることになつてゐる。しかし今後の情勢の推移等によつて、他の部門の科學技術にも及ぶべきものであることはいふまでもない。

なほ、技術院が科學技術の躍進を圖るといつても、技術院は本來行政機關であつて研究機關ではないから、技術院でいろいろと研究したり試作したり

することは出来ない。その躍進を圖るには、各方面の官民研究機關に研究を委託したり、特殊の研究を命令して、その成果を得ることになるが、技術院は躍進に關する目標その他の諸計畫を立て、研究の成果の活用は勿論、現在なされてゐる研究の有機的な連絡を圖るほか、研究員の配置や研究用資材、資金の斡旋等、研究の促進に必要なあらゆる具體的な措置を講ずるのである。

二、科學技術ノ水準向上ニ關スル各廳事務ノ調整統一ヲ圖ルコト

科學技術の水準向上策は、從來、關係各廳で独自の行政と立場から各個ばらばらに行はれてゐたが、今後は技術院が一定の國家方針に基づいた綜合計畫を立て、これに基づいて各廳が實施することになるのである。

三、科學技術ノ動員ニ關スル各廳事務ノ調整統一ヲ圖ルコト

總動員業務の中、科學技術に關する部門は、今後技術院が擔當することに

なり、從來、企畫院第七部が行つてゐた事務は全部技術院に移つた。

四、民間試験研究機關ノ助成及び指導ニ關スルコト

技術院の使命達成の基底をなすものは、すべて科學技術の研究であるといつてもよい。従つてこれを生み出す研究機關の助成と指導は、技術院の重大責務の一つである。技術院では、全國官民研究機關の育母として、その助成指導に當らねばならない。尤も官廳研究機關に對しては、現行の官制上それ／＼所屬官廳を通じて一定計畫の下に行ふが民間試験研究機關に對しては、技術院が直接その任に當ることになる。

以上のほか局制には、「四、工業標準化及び工業品ノ規格統一ニ關スルコト」「五、内外ノ科學技術及び之ニ必要ナル資源ノ調査ニ關スルコト」の二項があるが、いづれも技術院の業務完遂のために不可欠の事項である。五、に關する事務のうち、工業品の規格統一

に關する事務は、技術院の創設によつて商工省から移管されたものである。

また、航空機と航空機用器材の規格統一の仕事も、航空局から移管されることになつたから、今後の日本標準規格や戰時臨時規格等の主な工業品の規格は、すべて技術院で制定することになる。

以上が技術院の機能と権限の概要であるが、科學技術行政の中樞機關としての技術院は、科學技術に關する綜合企畫官廳として、企畫院と並んで内閣の幕僚たる地位を占めるものであるから、政府でも特に親任官の總裁を置き活潑な機能の發揮を期待してをり、従つて技術院の今後の運営に當つては、關係各方面、特に全國の科學者、技術者の積極的な協力を切望してやまない。

○敵性特許權の處置

特許局

大東亞戰爭開始と共に、米英等の敵

國人が我が國にもつてゐる特許權を、どう處置するかといふことが、或が國の生産力擴充、産業技術の振興上重大な問題となつた。この敵性特許權の處理の方針として、昨年七月十四日、政府は「敵性特許權處理要領」を決定發表したことは周知の通りである。以下敵性特許權と「敵性特許權處理要領」の概要を述べてみよう。

大東亞戰爭と敵性特許權

大東亞戰爭は、我が國の人的、物的のあらゆる力を綜合して、米英撃滅の日まで戦ひ抜かなければならない國家總力戰であつて、殊に産業方面では、生産力擴充、産業技術の振興に不斷の努力を傾注し、戰爭遂行の物的資源の確保供給に、萬遺憾ないやうにしなければならぬことは、今さらいふまでもない。

従つて、少しでも我が國の生産増強の障礙となるもの、産業技術の振興を妨害するものは一切排除し、生産力擴充を完全に遂行しなければならぬ。

ところが、米英等の敵國人が我が國にもつてゐる特許權は、我が國の産業技術に重大な影響を及ぼすものであつてこれの處置如何は、直ちに生産力擴充に影響を生ずる。従つて、これをどう處理するかは現下の重大な問題で、直接生産に關係ある方面では殊に關心が深く、各種の意見が行はれた。

米英等の敵性特許權が、何故に生産力の擴充に重大な影響を及ぼすかといへば、第一に、その數が次表のやうに多數に上つてゐるからである。

敵國人所有特許權數

本年一月末現在

米 國	二、〇五八
英 國	五四五
オランダ	一一八
ベルギー	二四
カナダ	二二
濠洲聯邦	一三
メキシコ	一
計	二、七八一

第二に、この多數の敵性特許權の内

容が、機械、化學、電氣の各部門に亘つて極めて重要なものが多いからである。例へば、米國のデュ・ボン社のもつてゐるクロロブレン系の人造ゴムに關する多數の特許權は、耐油、耐熱等の特性のため天然ゴムとは自ら異つた用途があり、殊に航空關係に重要である。同じく米國のゼネラル・モーター

ス・コーポレーションが持つてゐる、いはゆるフレオン・ガスといふ冷凍用ガスの製造法の特許權も、その製品が優れた冷凍の性能をもつてゐる等、我が國の生産力擴充に重要な影響があることが分るのである。この多數の重要な特許權は、そのまゝに放置すると、生産力擴充や、産業技術の振興に大きな障礙となり、従つて國家總力戰の完遂に支障を來す結果になるので、これに對し、速かに有効適切な處置を講じ我が國の國力増進に活用する必要があるのである。

工業所有權戰時法

ところが、この敵性特許權の處置は

工業所有權戰時法に規定されてゐるのである。工業所有權戰時法は、大正六年、前歐洲大戰の際に、當時の聯合國間の經濟會議の決議に基づいて立法されたものであつて、敵國人の有してゐる特許權、その他の工業所有權に對する種々の措置を規定してゐるのである。

工業所有權戰時法の規定する措置は大別して敵國人が現に特許又は登録出願中のものに對するものと、すでに特許又は登録された權利に對するものと二つに要約されるが、權利に對する措置としては、特許權と商標權の兩者に異なる規定がある。

特許權だけについていへば、取消と専用免許の二途が規定されてゐる。この二途によつて、敵性特許權の我が國の産業に及ぼす影響を排除し、これを有効に活用することが出来るのである。こゝに敵性といふのは、敵國人だけでなく、戰時法第七條により「敵國人ニ非ザル者ノ」……特許權……ニシ

テ其ノ利益カ主トシテ敵國人ニ歸スルモノノをも含む意味である。

第一に取消の處分は、特許權そのものを消滅させることを目的とする。第四條に「時局ノ關係ニ於テ軍事上又ハ公益上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ敵國人ニ屬スル特許又ハ商標ノ登録ヲ取消スコトヲ得」とあるが、軍事上または公益上必要あるときは、敵國人の特許權について、その特許を取消することが出来るのであつて、取消によつて特許權は消滅し、以後は誰でもその發明を實施することが出来、營業者はこれを生産力の擴充に十分活用できるわけである。この取消は權利そのものを根柢から消滅させるのであつて、假に平和回復後でも、權利が復活することはないのである。取消處分は將來に互つて權利を消滅させることであつて、民法の取消のやうに初めから效力を喪はせることも、また開戦時に適つて效力を喪はせることもできない。敵性特許權活用の今一つの方法は專

用免許である。第五條「敵國人ニ屬スル特許發明ハ免許ヲ受ケタル者之ヲ專用スコトヲ得前條ノ規定ニ依リ取消サレタル特許發明ニ付亦同シ 前項ノ規定ニ依ル專用權ノ存續期間ハ當該特許權ノ殘期間ノ範圍内ニ於テ定メタル期間トス 專用權ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム」すなはち専用免許とは敵性特許權を特定の者にだけ利用させるやうに國家が特別な權利を賦與することである。従つて専用免許があれば、戦時中はその特許權については特許權者自身も、また從來契約によつてその發明の利用を特許權者から許されてゐる實施權者も、共にその發明を利用することが出来なくなるのであつて、専用免許を受けた者が、恰も特許權者の地位に代つたやうなことになるのである。しかしながら、専用免許による専用權は、一人または數人に與へることが出来るのであるから、この點で特許權のやうに一人だけの獨占排他的權利

とは異なる。専用免許を爲すのは、矢張り軍事上、公益上の必要のある場合に限るのであつて、これは戦時法の施行令に規定されてあるのである。取消も専用免許も、共に軍事上または公益上の必要から行ふのであるが、どんな場合に取消を行ひ、どんな場合に専用免許をするかは、法律上判然とした區別はなく、運用に委ねられてゐる。この専用權の存續期間は、特許權の存續期間の範圍内で定めらるることになつてをり、それより長くすることは出来ない。専用權の存續中に平和が回復すれば、戦後専用權は特許權と相並んで存在する。専用權は軍事上、または公益上の必要から與へられるのであるから、他人がその權利を侵害した場合に、特許權侵害の場合と同様に、刑罰を科して保護するのである。この取消と専用免許の二つの處分によつて敵性特許權は、我が國の産業上障礙となることもなく、かへつて採つて以て我が國の生産力擴充に大きな力

を附與することになるのであつて、戰爭遂行に遺憾なきことを期すことが出来るのである。これ等の處分は内閣總理大臣がするのであるが、取消は申請を俟たず職權を以て、専用免許は申請に基づいて、いづれも工業所有權戦時法調査委員の審査を経て行ふのである。

工業所有權戦時法の運用の實例

前に述べたやうに、工業所有權戦時法は、前歐洲大戰に際して制定されたもので、當時これがどう運用されたかをみると、敵性特許權の活用方法として専ら専用免許によつてをり、取消は一件も行つてゐない。前大戰當時の運用例

敵國人特許權數	九五八
専用免許申請件數	九三二
専用免許申請ニ係ル特許權數	二五五
専用免許權數	四九一
専用免許アリタル特許	

權數

この表で明らかになやうに、當時の敵性特許權中、二割強のものが我が國の産業上必要とされたのであつて、この中には、有名なハイパー・ボッシュの窒素固定法の特許等が含まれてゐた。しかし、當時の我が國の産業界は未だ發達の途上にあつて、これ等の特許權を十分に活用するだけの技術に乏しかつたやうである。當時、工業所有權戦時法の運用に當つて取消を行はず、専用免許だけによつたことも、恐らくかういふ事情があつたからであらう。

敵性特許權處理要領

ところが、今次大東亞戰爭は前歐洲大戰と全く性格を異にし、國家の總力を擧げて戦ひ抜かなければならない大事業である。従つて、我が國の産業界に課せられた生産力擴充、産業技術振興の責務は眞に重大なるものがある。また我が國の産業界も前大戰當時とは比較にならないほど充實し、産業技術の躍進もめざましいものがあり、敵性

特許權を十分に活用するだけの實力を所有してゐるのである。そこで工業所有權戦時法の運用によつて、敵性特許權を處理する方策もまた前大戰當時とは異らざるを得ない。また工業所有權戦時法は、開戦と同時に發動をみたのであるから、開戦後まもなく専用免許の申請が續々なされてゐる。(七月十四日現在一、四二〇件)。

それ故、政府は敵性特許權處理の重大性に鑑み、工業所有權戦時法をどう運用すべきかについて、極めて慎重に検討し、去る七月十四日の閣議で敵性特許權處理に關する方針を決定、これに基づいて「敵性特許權處理要領」を發表し、政府の方針を明らかにしたのである。「要領」の第一は、まづ敵性特許權が大東亞戰爭の完遂上、わが國の生産力擴充に重大な關係のあることを認め、その活用を圖る處理の方法として、工業所有權戦時法に規定される取消または専用免許の二途を必要に応じて適用

する旨を明らかにしてゐる。取消または専用免許は、個々の特許権につき、具體的にその何れを運用するかを決定すべきものである。現下の我が産業界にとつて重要な特許権については、現在、専用免許の申請のあるものは勿論申請のないものも、また處理してゆかなければならない。その處理は、すべて個々の特許権につき具體的に調査して決定すべきである。

右の取消をすべき場合として、「要領の第二は、軍事上または公益上の必要あるものは取消す旨を掲げてゐる。軍事上または公益上の必要があるかどうかは、工業所有權戰時法調査委員の審査を経て決定すべき問題である。取消は申請を俟たずに内閣總理大臣が職權を以て行へるのであつて、すでに専用免許の申請のあるものも取消せるのであり、反對に、未だ申請のないものについても、取消よりも専用免許を適當とするものは、これを取消すべき限りではない。敵性特許権を取消した場

合、以後その發明は誰でも任意に利用できるものであるから、關係業界は全部その利益を享けることが出来るのであるが、取消は大いにこれを活用させるために行ふ處分であるから、當業者方面においては、生産力擴充上、遺憾のないやう十分に活用されたい。「要領」の第三は、一人または數人に専用免許を行ふ場合を掲げてゐる。

前述のやうに、専用免許は戰時中免許を受けた者だけが發明を利用できるやうにする處分である。この専用免許を與へる場合としては、

(イ) その發明を實施するために大規模な設備が必要であり、または巨額の資金を投下しなければならない場合或ひは發明を企業化するためには、相當な工業化のための試験研究、いはゆる中間試験を行はなければならない場合、或ひはその發明を工業的に實施しても、經營的にみて採算が困難な場合等で、このやうな場合は、専用免許を與へて國家が事業を保護する必要があ

るのである。かやうな場合、若し取消して一般の利用に委せると、業者は容易に手を出さない慮れがあるから、特定人に専用免許して事業を保護育成して行かなければならないのである。

(ロ) 専用免許をせずに取消して一般に開放すると、或ひは事業が濫立して産業界に無用の混亂を來し、或ひは粗悪品が市場に出たり、または使ひ物を浪費する結果となるやうな場合は、むしろ特定人に専用させることが生産力の擴充上必要である。

發明を一般に解放しても、現在の時局下では、各種の統制法規、または資材の配給等の關係もあり、また各種統制會もあるから、事業が濫立する虞れはないといふこともできやうが、現在の状態では、未だその方面からの統制は完璧とは言ひ難く、専用免許によつて特定人だけに利用させるのを適當とする場合もあるやうである。

(ハ) 以上二つの場合は、共に軍事

上または公益上、専用免許を適當とするものであるが、なほこの他にも専用免許を適當とする場合もあらうから、その軍事上または公益上の理由により専用免許を爲すを適當と認められるときは、専用免許を行へることとした。

以上のやうな場合には、専用免許を爲す旨を定めたが、専用免許は生産力擴充上の要請に基づき、申請人の技術經驗、資力等を調査し、また製品の供給状態等をも調査の上、一人または數人に與へられるものであつて、從來、實施權を持つて、その發明を實施して來た者は、技術もあり、經驗にも富んでゐるので、専用免許の場合には有利な立場にあることは當然であらう。専用免許を受けた者でも、單に専用の權利を徒らに擁するだけではなく、國家の要求する生産力の擴充に重要な責任を負へることを自覺し、十分發明の活用を圖らなければならないことは今さらいふまでもない。

従つて、一旦、特定人に専用免許を

した後でも生産力擴充上さらに他の者にも専用免許を爲し、或ひは専用免許を受けた者が適當に發明を實施せず、生産力の擴充に協力しないやうな場合には、その免許を取消すこともあるのであつて、「要領」の第四は、この點を明らかにしてあるのである。これは法律にも規定があるのであつて、國家總力戰の完遂のためには當然のことといはなければならない。

以上、「敵性特許權處理要領」の内容を述べたが、敵性特許權の處理は、我が國の生産力擴充上、關係する處が大きいので、速急にこれを處置する必要があるのであつて、特許局としては全力を擧げて調査を進め、この要領に基づいて至急に處理を完了して、生産力擴充に遺憾なきを期してゐる。本要領の基本觀念は、大東亞戰爭完遂上の要請である生産力擴充、産業技術振興のために敵性特許權の壓力を排除し、採つて以て我が武器として活用する點にあるのであつて、或ひは取消、或ひ

は専用免許の二途も、この觀念に基づいて適切に運用されなければならない。

従つて、取消または専用免許のあつた發明を十分に活用し、我が國の技術を向上させることが必要であるが、それは一に關係業界の努力に懸つてゐるのである。また本處理要領の完全な運用は、指揮監督の衝に當る關係各廳、統制會その他關係諸團體の協力に俟つところが大きいのである。

經濟戰略

陸軍省戰備課長 岡田菊三郎

作戰に大量給糧必要

大東亞戰爭の經濟戰略はその基本方針において大體三つの段階を畫し得る。即ち武力戰の方略と表裏一體の關係において第一段階は敵の經濟封鎖の突破、第二段階は經濟要域の確保、第三段階は大東亞の綜合經濟建設といふ様に逐次發展するのであつて、開戦以來先づ敵の經濟封鎖を突破し自給圏を

打ち倒す得るだけの經濟要域を占據し、その中に存する經濟力を我が支配下に掌握して戰爭遂行を中心にこれを綜合運用するといふ所までが第一段階で、我が國は此の目的を既に見事に達成し、只今は全般的に見て第二段階にあると言へる。この第二段階の特徴は敵の反攻の撃滅であつて、作戦的には戰略要點の爭奪を環つて、空海陸に互り敵との間に諸所に激戦が繰返へされるが、これが爲第一段階と同様多量の船腹を引續き經濟面より作戦面に抽出使用することとなり、經濟の面では維持確保全能力發揮、重點生産に急で積極的な大掛りの建設の如きは一時見送ることとなるのである。

我が國經濟の海運依存性は資源賦存状態よりして已むを得ぬもので、海運力が或る限度に下がれば、我が國の經濟は一大變貌を遂げざるを得ない。そして斯かる期間少くも一時的に經濟力の低下を來す譯で生産力も低下する。海運依存の建て直し

九州、北支といふ地域にあつて産業の主體が本州にあるため莫大な石炭を船舶に託す必要があり、又鐵關係では樺太や北支から製鐵用の石炭を運び鐵鑛石を中支やら海南島やら南方から運び、且副原料も鉄鑛輸送も海上を經由せねばならぬといふ根本的な事情の下にやむを得ないことなのである。

生産方式改善に創意

經濟戰第二段階において隨時隨所に敵の反攻を撃滅するため、勢ひ經濟面に活動する船舶を出来るだけ切り詰めて作戦の自由を確保せねばならぬ。そこで先づ輸送力節約のため、重點輸送といふことが取り上げられる。國防生産を確保することに力點を置いて他を犠牲とすることだ。それから海運強化のため、荷役能力向上等船舶の回轉を善くする工夫と修繕の促進、沈船の引上、木造船の急造等船腹増大の努力、特に逐次急速簡易造船への徹底等が行はれ、更に海運の負擔を軽減するため陸運への轉嫁、陸運非常體制の確立と

敵の反攻作戦は、最初執拗な潜水艦を以てする通商破壊戦に始まり、目下はソロモン方面の空、海の基地爭奪に集中されてゐる。何しろ我が大東亞戰略防衛態勢が絶対不敗の強固なものであるだけに、敵は先づその一角を崩さうと、死にも狂ひの反攻をやつてゐる譯で滿身創痕の敵ながらその反抗力は馬鹿にならぬ。第一線のわが將兵は補給の意に委せぬ中に、實に苦難の闘ひを續けてゐるのであつて、開戦の日ラジオで泣いた同胞一億は、大戰第二の新春を迎へて、またあの當時と同様な緊張を必要とする情勢に際會した譯なのだ。今年は敵の反攻を撃滅する年のみならず、今年に更に敵に大鐵槌を加へその戰意を撃碎せねばならぬ。従つて陸海空各域に互り激戦が展開されるであらうが、我等は到る處で斷じてこれに勝たねばならぬ。この爲に經濟事情が如何に深刻なものにならうとも飽くまで切り抜けねばならぬ。これには何を以ても生産増強だ。昨今朝野

いふ方策も講ぜられる。かういふ方策を講じて、輸送力の逼迫は一舉に解決し得ないので輸送力節約の目的を以てする生産方式の改善が創意されねばならぬ。

例へば製鐵事業でも鐵鑛石、製鐵用石炭等の使ひ方も能率本位より輸送節約本位へ轉化することも考へられるし

小型熔鑛爐の急速多數建設も敢行せねばならぬし、特殊の精練方式の採用も必要となつて來る。昨今靈動的な製鐵方式が續々現れて來つゝあることは、大いに意を強くするに足る。海運の負擔も陸運の負擔も軽減する新製鐵法が生れて來たことは、軍國日本の勝ち抜かん努力の前に多大の貢獻とならう。それから石炭問題であるが、これは本州の常磐炭、山口炭の増産に努力すると共に關門隧道によつて陸運に結ばれ得るに至つた九州炭の増産を圖るといふ様なことになる。然し何といつても石炭は海運の王座に坐つた物資であるから本州、四國地域へ必要量を搬入す

生産増強の叫ばれる所以もこゝにあらう。然し一口に生産増強といつても事情が事情だけに生やさしいことでない。非常對策を連續適切に講ずることのみが問題解決の鍵だ。即ち海運依存經濟を特異の情勢下に建て直す努力は尋常一様のものではない。その犠牲も大きい。全國民の理解ある隱忍と協力とを必要とする。所謂石にかじりついても勝つといふ眞剣な氣持で、一億火の玉の實を擧げねば絶対に成り立つまい。この氣持において缺ければ不平不満が募り國內的な人心統一にひびが入る。戰爭の勝敗といふものは結局對抗する民族集團の闘争心が總てを決するもので、意志と意志との抗争なのだ。經濟的な苦難が國民を襲ふこと位は、これだけの大戰争である限り當然だと思ふ。

從來の我が國の經濟事情では海運力の約三分の二に近いものを、石炭と鐵關係の輸送に振り向けて居つたのである。これは石炭産地が樺太、北海道、

ることが新情勢下においては至難なのである。石炭の減量は産業の操業減を意味する。

こゝに重點生産の必要が生ずる譯で

他の原料資源の問題と睨み合せつゝ、國防生産本位に眞に徹底した方策が講ぜられねばならぬ。この影響は可なり深刻なものがあらう。工場閉鎖の覺悟を要する面も生れて來る。これも勝たんための陣痛で、大東亞の盟主たるべき他日の日本の雄飛を思へば唇を噛んで隱忍するのみだ。

戰時規格の制定研究

生産増強は完成品で飛行機生産、船舶生産に徹底的重點が向けられる。これと相應して原料が資源としては鐵、石炭、アルミの生産増強が企圖せられ目下政治力をこれに集中し、血ろどろな事務官僚の努力と相俟ち政府は盡くすべきを盡くしつゝあるが、民間の運輸關係、生産關係も總動員の場合である。官が民を非難し民が官を攻撃した様なことは、もう過去のことである。

至難なる生産環境を克服して戦ひに勝つためには軍も官も民もない。陛下の赤子として國民が一體とならねばならぬ。生産増強といつても原料やら、燃料やらが運べない様な事情の下での生産増強は特に創意と工夫とが要る。潤澤に原材料も燃料も供給して徹底的に増産を促進する産業部門については、皆が能率能く働けばいいんだらうが、これだけでは切り抜け得ない部門が可成り生ずる。創意だ、工夫だ、特に技術陣營は擧げて奮起を要する。

生産増強に當つて戦時規格を制定することは、頗る重要なことである。政府は目下これに研究の歩を進めつつあるが、民間業界の協力が望ましい。生産増強を敢行するに當つて生産行政の多岐なることは屢々論議の的となるが、各廳の歩調を一にすることに就いては目下極力手段が講ぜられてゐる。

物資節約も重大任務

生産増強が重點的統制に徹する限り

犠牲産業面が從來以上に擴大すること必至であらうし、不急物資の生産が減ずるため國民生活必需物資の最小限は絶體確保せられることは勿論ながらその他のものについては國民は從來以上に物資不足に堪へねばならぬ。物資の節約は物資の増産と相並んで國防經濟力強化の捷徑なのであつて物資節約のため戦時生活の簡素化、剛健化は或る意味においてこそ新日本誕生の原動力ともいへよう。外國文化の滲透と共に一時歩み違へんとした大和民族の進路もこれで却つて是正されるかと思ふ。要するに生産増強に徹底的努力をすること、極力物資節約に堪へることとの二つは銃後における國民の最大の務めだ。銃後の汗は前線の血と繋り銃後の節約は前線の活躍を裏付けるものだ。

經濟戦第二段階の特異な情勢は概要を述べ終つたが、戦争の前途が如何に多難なること有るにもせよ、必勝の信念は絶対に失つてはならぬ。戰略的立

外 交

一、最近一年間外交主要事項

- 日米交渉經過(帝國外務省發表)
- 日獨伊三國協定及同軍事協定(大東亞戰開始直後)
- 防共協定擴大、日佛印軍事協定、日泰攻守同盟、チモール作戦通告、日泰經濟提携、日ソ漁業暫定協定、日マ法王廳へ使節派遣、泰へ二億圓借款供與、日佛印物資交易協定、日泰文化協定、大東亞省設立
- 二、在外公館
- 本邦駐在各國大使館及領事館
- 三、(追補)(昭和十八年)
- 中華民國國民政府宣戰宣言
- 日獨伊經濟協定

日米交渉經過

(外務省發表)

日米交渉經過

一、日米間の交渉は昭和十六年春頃から華盛頓に於て開始され四月中旬米國政府より非公式試案の提示があつた。右提案の内容は、(一)兩國の抱懐する國際觀念及び國家觀念、(二)歐洲戰爭に對する態度、(三)支那事變に對する態度、(四)日米兩國間の通商、(五)太平洋諸地域に於ける經濟活動、(六)太平洋地域の政治的安定、(七)比律賓中立化等の項目を含み之を太平洋全般の問題に關する一般協定の基礎たらしめんとした。本案には日本政府に於て受諾し得ざる幾多の點あり、同案中米國政府は日獨伊三國同盟條約に關しては米國が自衛に名を藉りて歐洲戰爭に參入する場合帝國が太平洋方面に於て米國の安全を脅威せぬことの保障を求め

場が我が國のため絶好のものであることは地理的環境を一瞥すれば判る。太平洋の戰略要地は悉く我手にある。これに依據する忠誠勇武の陸海軍が現存する限り勝利は永久に我がものだ。經濟的苦難の時期は可成り續くが、これとて運輸力の強化と共に逐次事情が變つて来る。東半球の要部を悉くガツシリ我手に收めた帝國の經濟力の將來は軍事的に不敗の立場と相應じて前途誠に洋々たるものといはねばならぬ。

又支那事變に關しては米國の容認する基礎條件を以て日支和平を仲介せんとした。依て帝國政府は五月中旬三國條約については我軍事援助義務は同條約規定の場合に發動する旨を明かにし又支那事變については米國は近衛三原則日支基本條約及び日滿華共同宣言を了承し我善隣友好政策に信賴して重慶に對し和平を勸告すべく重慶に於て右勸告に聽從せねば重慶援助中止を申入れたき旨を要求する等の修正を加へた對策を提出し交渉を重ねた處、六月下旬米國政府から前記四月案に比し米國の主張を更に具體的にした修正案の提示があつて爾後交渉は同案を繞り繼續された。

二、然るに七月第三次近衛内閣成立後間もなく帝國が佛國との間に締結した議定書に基き佛領印度支那共同防衛の措置を講ずるや米國は帝國に對し資産凍結を行ひ經濟的壓迫を加へてきたが帝國は依然として平和解決の希望に促され八月近衛首相からルーズヴェルト

大統領に對しメッセーヂを以て帝國政府の平和的意圖を開陳すると共に危局救済の爲には一刻も速かに兩國首腦者會合の必要なる所以を申送つた。之に對し米國は主義上賛意を表したるも交渉中の懸案特に三國條約問題、在支日本軍隊駐留問題及び國際通商無差別待遇問題の三つに關し先づ合意成立しなければ之を實行に移し難しとの態度を固執し且つ前記六月案を固執して譲歩せぬので我方は九月六日局面打開策を提示し交渉を重ねたが十月二日米國は豫てその國際關係の基準として固執される四原則、即ち(一)一切の國家の領土保全及び主權尊重、(二)他國の内政不干渉、(三)通商上の無差別待遇、(四)平和手段に依るの外太平洋に於ける現狀の不變更なる諸原則の適用に關する帝國の意圖並びに前記三問題に關し帝國政府の見解を更に明示せんことを要求、交渉は之が爲難關に達着するに至り遂に停頓の儘十月中旬第三次近衛内閣は桂冠した。斯くの如く兩國の

見解對立を來した所以は米國が國際關係處理につき獨善的見解に立脚せる架空の原則的理念を強硬に固執し東亞の實情を顧みず之をその儘支那其他にも適用せんことを主張し居ることに起因してゐるもので交渉の妥結は極めて困難な狀況にあつた。

三、東條現内閣に於ては太平洋の平和を觀念する爲交渉を繼續することに決し公正な基礎に妥結を圖らんとする見地から當時交渉の主要問題たりし三事項に付、

(一) 三國條約に關聯する自衛權問題については米國に於て自衛權の觀念を濫に擴大しない旨明確にすることを要求し

(二) 通商上の無差別待遇原則については右原則が全世界に適用せらるるに於ては右が支那を含む太平洋地域に適用されることに異議なし

(三) 撤兵問題については支那事變の爲支那に派遣された日本軍隊の一部は日支間和平成立後一定地域に所要

期間駐屯すべく爾餘の軍隊は平和成立と同時に日支間協定に従ひ撤去を開始し治安確立と共に撤去すべく又佛印に派遣せられ居る軍隊は支那事變解決するか又は公正なる東亞の平和確立するに於ては直ちに之を撤去すべし

との案を得右案により交渉を續行した。此の間政府は日米交渉成立の際には關係事項につき英國其他諸國とも同時に了解の成立方米國側に於て斡旋すべきことを要望し、尙本件交渉につき萬全の努力を拂はんが爲來栖大使を米國に急派し野村大使を援助せしむることとした。然るに米國側は日米協定成立せば帝國は三國條約を保持するの要なかるべく右は消滅若くは死文となることを希望する旨反覆力説し通商無差別原則は無條件に支那に適用することを主張し、列國共同の下に支那の經濟協同開發を行ふこと等を包含する經濟政策に關する日米共同宣言案を提出せり依て帝國政府は右に對し通商無差別原

則については帝國は同原則が全世界に適用せらるることを希望し右希望の實現に順應して支那に對しても同原則の適用を承認すとの趣旨を答へると共に右共同宣言案に付ては支那共同開發提案は支那國際管理の端緒となる處ある故受諾し難きを述べ米國側に撤回を求めた。

四、十一月十七日以來野村大使は來栖大使と共に大統領及び國務長官と會見を兼ね交渉急進妥結の要あることを力説した處、ル大統領は支那問題については日支間和平の「紹介者」たるの用意ありと述べ又ハル國務長官は帝國が獨逸と提携し居る限り日米交渉は至難なるを以て先づこの根本的困難を除去する必要がある旨を強調し兩三回に互り論議を重ねたが難關は依然として三國條約、國際通商無差別待遇問題及び支那問題にあること明かとなれるを以て帝國政府は兩國々交の破綻を回避する爲最善の努力を竭さんとする考慮に基き權要且つ緊急の問題に付公正な妥結

を圖る爲十一月廿日左の新提案を提出した。

- 一、日米兩國政府は孰れも佛印以外の南東亞細亞及び太平洋地域に武力的進出を行はざることを確約す
- 二、日米兩國政府は屬領印度に於て其必要な物資の獲得が保障されるや相互に協力するものとす。
- 三、日米兩國政府は相互に通商關係を資產凍結前の狀態に復歸すべし、米國政府は所要の石油對日供給を約束す。
- 四、米國政府は日支兩國の和平に關する努力に支障を與ふるが如き行動に出でざるべし。
- 五、日本國政府は日支間和平成立するか又は太平洋地域に於ける公正なる平和確立する上は現に佛印に派遣せられ居る日本軍隊を撤去すべき旨を約束す。

右に對し國務長官は帝國が三國條約との關係を明かにし平和政策採用を確言するに非ざれば右第四項を受諾し援將行爲を停止すること不可能なりと言ひ又大統領の所謂日支間和平の「紹介者」たらんと提案も日本の平和政策採用を前提とするものなる旨を述べて第四項につき大なる難色を示したので我方に於ては兩大使を以て國務長官に對し大統領の紹介により日支直接交渉開始せらるる場合和平の紹介者たる米國が依然援將行爲を繼續せんとするは平和成立を妨害するもので其態度に矛盾あることを指摘し米國政府の反省を要請せしめた。

五、然るに此間米國は英濠蘭及び重慶と協議する所あり十一月廿二日國務長官は兩大使に對し南部佛印の撤兵のみでは南太平洋方面の急迫した情勢を緩和するに足らずとする旨、並に大統領の所謂日支間の紹介は時機未だ熟せずと思考する旨を述べた。

米國政府は其後も前記諸代表と協議を重ねてゐるが、廿六日國務長官は兩大使に對し廿日の我提案については慎重研究を加へ關係國とも協議の結果遺憾乍ら同意し難しとして今後の交渉の基礎案として大要次の如き案を提出した

一、日米相互間に於て實際に適用すべき根本原則として政治關係に於ては前述四の原則を再述せるが唯其の中第四點を紛争の防止及び平和的解決並に平和的方法及び手續による國際情勢改善の爲國際協力及び國際調停

土主權を尊重し佛印の領土主權が脅威される場合必要なる措置に關し即時協議すべき協定の締結に努む
右協定締結國は佛印に於ける貿易及經濟關係に於て特惠待遇を排除し平等の原則確保に努む
(ハ) 日本政府は支那及佛印より一切の軍隊(陸、海、空及警察)を撤收すべし
(ニ) 兩國政府は重慶政府を除く如何なる政權をも軍事的、政治的、經濟的に支持せず
(ホ) 兩國政府は支那に於ける治外法權(租界及團匪議定書に基く權利を含む)を抛棄し他國にも同様の措置を懲罰すべし
(ヘ) 兩國政府は互惠的最惠國待遇及通商障壁低減の主義に基く通商條約締結を商議すべし(生絲は自由品目に置く)
(ト) 兩國政府は相互に資産凍結令を廢止す
(チ) 圓費爲替安定に付協定し兩國

夫々半額宛資産を供給す
(リ) 兩國政府は第三國と締結し居る如何なる協定も本協定の根本目的即ち太平洋全地域の平和確保に矛盾するが如く解釋せられざることに付同意す
(ヌ) 以上の諸原則を他國にも懲罰を提案した。
右に付兩大使は其の不當なるを指摘し強硬なる應酬を行つたが國務長官は讓歩の色を示さず、越えて二十七日大統領は兩大使に對し今猶日米交渉の妥結を希望せざるに非ざるも暫定的方法に依り局面打開を計るは兩國の根本主義方針が一致せざる限り結局無効と思考する旨を述べた、依つて帝國政府は米國に對し十一月二十日の我方提案は最も公正なる基礎に於て從來の彼我主張を充分考慮の上作成せられたるものなるにも拘らず米國が之に同意するを得ずと爲し東亞の現實を無視する新案を提出し、殊に支那問題に關し其の態

度を變貌せるは米國の誠意を疑はしむるものなるに付、米國側に於て反省せんことを要求せるが、國務長官は從來の態度を固執するのみにて交渉の本質的問題に付更に商議を進めんとする色なく、越えて十二月二日に至りウエルズ次官は大統領の命なりとて、情報によれば最近佛印方面に於て日本軍隊の移動増強行はれ居りとて右に關する帝國の眞意説明を要求した。依つて帝國政府は右は最近佛印と支那との國境附近に於て支那軍が傾りに蠢動し居るに鑑み之に備へんが爲北部佛印に於て一部兵力の増強を行ひたるものなる處之と關聯して自然南部に於ても部隊の移動が行はれたものなる旨を回答したが此の間米國政府は對日包圍陣を急速に増強すると共に輿論を指導し交渉決裂の場合の地固めを爲すに至つた。

一、帝國政府はアメリカ合衆國政府との間に友好的諒解を遂げ兩國共同の努力に依り太平洋地域に於ける平和を確保し以て世界平和の招來に貢獻せんとする眞摯なる希望に促され本年四月以來合衆國政府との間に兩國國交の調整増進並に太平洋地域の安定に關し誠意を傾倒して交渉を繼續し來りたる處、過去八月に互る交渉を通じ合衆國政府の固持せる主張並に此間合衆國及英帝國の帝國に對し執れる措置に付茲に率直に其の所信を合衆國政府に開陳するの光榮を有す。
二、東亞の安定を確保し世界の平和に寄與し以て萬邦をして各々其の所得しめんとするは帝國不動の國是なり曩に中華民國は帝國の眞意を解せず不幸にして支那事變の發生を見るに至れるも帝國は平和克服の方途を講ずると共に戰禍の擴大を防止せんが爲終始最善の努力を致し來り。客年九月帝國が獨伊兩國との間に三國條約を締結したるも亦右目的を達成せんが爲に外なら

然るに合衆國及英帝國は有らゆる手段を竭し重慶政權を援助して日支全面和平の成立を妨礙し東亞の安定に對する帝國の建設的努力を控制せるのみならず、或は關領印度を牽制し或は佛領印度支那を脅威し帝國と此等諸地域とが相携へて共榮の理想を實現せんとする企圖を阻害せり。殊に帝國が佛國との間に締結したる議定書に基き佛領印度支那共同防衛の措置を講ずるや合衆國政府及英國政府は之を以て自國領域に對する脅威なりと曲解し和蘭國をも誘ひ資産凍結令を實施して帝國との經濟斷交を敢てし明かに敵對的態度を示すと共に帝國に對する軍備を増強し帝國包圍の態勢を整へ以て帝國の存立を危殆ならしむるが如き情勢を誘致するに致れり。右に拘らず帝國總理大臣は本年八月事變の急速收拾の爲合衆國大統領と會見し兩國間に存在する太平洋全般に互る重要問題を討議検討せんことを提議せり。然るに合衆國政府は右

申入に主義上賛同を與へ乍ら之が實行は兩國間重要問題に關し意見一致を見たる後とすべしと主張して譲らず。

三、仍て帝國政府は九月二十五日從來の合衆國政府の主張をも充分考慮の上米國案を基礎とし之に帝國政府の主張を取入れたる一案を提示し論議を重ねたるが双方の見解に容易に一致せざりしを以て現内閣に於ては從來交渉の主要難點たりし諸問題に付帝國政府の主張を更に緩和したる修正案を提示し交渉の妥結に努めたるも合衆國政府は終始當初の原案を主張し協調的態度に出でず、交渉は依然滯滞せり。茲に於て十一月二十日に至り帝國政府は兩國國交の破綻を回避する爲最善の努力を盡す趣旨を以て極重要且緊急の問題に付公正なる妥結を圖る爲前記提案を簡單化し

(一) 兩國政府に於て佛印以外の南東亞細亞及南太平洋地域に武力進出を行はざる旨を確約すること

(二) 兩國政府に於て關領印度に於て

其の必要とする物資の獲得が保障せらるる様相互に協力すること

(三) 兩國政府は相互に通商關係を資産凍結前の状態に復歸すること、合衆國政府は所要の石油の對日供給を約すること

(四) 合衆國政府は日支兩國の和平に關する努力に支障を與ふるが如き行動に出でざること

(五) 帝國政府は日支間和平成立するか又は太平洋地域に於ける公正なる平和確立する上は現に佛領印度支那に派遣せられ居る日本軍隊を撤退すべく又本了解成立せば現に南部佛領印度支那に駐屯中の日本軍は之を北部佛領印度支那に移駐するの用意あること

等の内容とする新提案を提示し同時に支那問題に付ては合衆國大統領が曩に言明したる通、日支間和平の紹介者と爲るに異議なきも日支直接交渉開始の上は合衆國に於て日支和平を妨礙せざる旨を約せんことを求めたるが、合衆

國政府は右新提案を受諾するを得ず援將行爲を繼續する意思を表明し、次で更に前記の言明に拘らず大統領の所謂日支間和平の紹介を行ふの時機猶熟せずとて之を撤回し遂に十一月二十六日に至り偏に合衆國政府が從來固執せる原則を強要するの態度を以て帝國政府の主張を無視せる提案を爲すに至りたるが、右は帝國政府の最も遺憾とする所なり。

四、抑々本件交渉開始以來帝國政府は終始専ら公正且謙抑なる態度を以て銳意妥結に努め屢々難きを忍びて能ふ限りの讓歩を敢てしたるが、交渉上重要事項たりし支那問題に關しても協調的態度を示し合衆國政府の提唱せる國際通商上の無差別待遇原則遵守に付ては本原則の世界各國に行はれんことを希望し且其の實現に順應して之をも含む太平洋地域に適用する様努力すべき旨を表明し、尙支那に於ける第三國の公正なる經濟活動は何等之を排除するものにあらざることをも闡明せるが、更

に佛領印度支那よりの撤兵に付ても情勢緩和に資するが爲前述の如く南部佛領印度支那よりの即時撤兵を進んで提議する等極力妥協の精神を發揮せるは合衆國政府の夙に諒解する所なりと信ず。

然るに合衆國政府は常に理論に拘泥し現實を無視し其の抱懐する非實際的原則を固執して何等讓歩せず徒に交渉を遷延せしめたるは帝國政府の諒解に苦しむ所なるが特に左記諸點に付ては合衆國政府の注意を喚起せざるを得ず。

(一) 合衆國政府は世界平和の爲なりと稱して自己に都合なる諸原則を主張し之が採擇を帝國政府に迫れる處、世界の平和は現實に立脚し且相手國の立場に理解を持し相互に受諾し得べき方途を發見することに依りてのみ具現し得るものにして、現實を無視し一國の獨善的主張を相手國に強要するが如き態度は交渉の成立を促進する所以のものにあらず。

今般合衆國政府が日米協定の基礎として提議せる諸原則に付ては、右の中には帝國政府として趣旨に於て賛同に吝ならざるものもあるも合衆國政府が直に之が採擇を要望するは世界の現状に鑑み架空の理念に驅らるるものと云ふの外なし。

尙日、米、英、支、蘇、蘭、泰七國間に多邊的不可侵條約を締結するの案の如きも徒に集團的平和機構の舊構想を追ふの結果、東亞の實情と遊離せるものと云ふの外なし。

(二) 合衆國政府今次の提案中に「兩國政府が第三國と締結し居る如何なる協定も本取極の根本目的たる太平洋全域の平和確保に矛盾するが如く解釋せられざることに付合意す」とあるは即ち合衆國が歐洲戰爭參入の場合に於ける帝國の三國條約上の義務履行を牽制せんとする意圖を以て提案せるものと認めらるるを以て右は帝國政府の受諾し得ざる所なり。

由來合衆國政府は其の自己の主張

と理念とに誠懇せられ自ら戰爭擴大を企圖しつゝありと謂はざるを得ず合衆國政府は一方太平洋地域の安定を策し自國の背後を安固と爲しつゝ他方英帝國を援け歐洲新秩序建設に邁進する獨伊兩國に對し自衛權の名の下に進んで攻撃を加へんとするものなるが、右は太平洋地域に平和的手段に依り安定の基礎を築かんとする幾多の原則的主張と全然矛盾背馳するものなり。

(三) 合衆國政府は其の固執する主張に於て武力に依る國際關係處理を排斥しつゝ一方英帝國等と共に經濟力に依る壓迫を加へつゝある處、斯る壓迫は場合に依りては武力壓迫以上の非人道的行爲にして國際關係處理の手段として排斥せらるべきものなり。

(四) 合衆國政府の意圖は英帝國其の他の諸國を誘引し支那其の他東亞の諸地域に對し其の從來保持せる支配的地位を維持強化せんとするものと

廿四日をもつて滿五年の效力期間を経過したので、關係國政府間にその延長につき協議を進め、さらに五ヶ年間に延長することに決定、各國において必要な手續を完了し十六年十一月廿五日ベルリンで日獨伊をはじめ參加國たる滿洲國、ハンガリー、スペイン各國代表の間に協定延長に関する新議定書に正式調印が行はれ、こゝに同協定は同日から起算し向う五ヶ年間即ち昭和廿一年十一月廿四日まで效力を持続することになり、世界新秩序建設に邁進する防共樞軸國家の強固なる提携協力の基礎的紐帯が更新強化され、帝國の容共精神打倒の決意が改めて闡明された。

また同時に東亞において建設の巨歩を進めつゝある新生中華民国をはじめ歐洲で獨伊の新秩序建設に努力しつゝあるルーマニヤ、ブルガリヤ、フィンランド、スロヴァキヤ、クロアチヤおよびデンマークの七ヶ國が新たに同協定に参加、同協定參加國は十三ヶ國と

なつた、こゝにコミンテルンの赤化攪亂工作に對する防禦陣營は亞歐に跨つて一段と威力を増大、赤色策謀を完封する確固たる態勢が整へられたわけである。

日・タイ攻守同盟成立

(一六、一一、一一)

日・タイ攻守同盟條約は十六年十二月十一日坪上駐タイ大使とタイ國ビブン首相間に締結につき意見一致、兩國政府間で條約締結に関する一切の手續を了し廿一日ペンコックの宮殿内で帝國代表坪上大使とタイ國ビブン首相間に日・タイ間同盟條約(いはゆる攻守同盟)の調印が厳肅に行はれた、よつて同日情報局より左の通り條約全文が發表された。

第一條 日本國及び、タイ國は相互の獨立及び主權の尊重の基礎において兩國間に同盟を設定す

第二條 日本國は又タイ國と一または二以上の第三國との間に武力紛争發生する時はタイ國または日本國は直ち

にその同盟國として他方の國に援擡しあらゆる政治的經濟的、及び軍事的方法によりこれを支援すべし

第三條 第二項の實施細目は日本國及びタイ國の權限ある官憲間に協議せらるべし

第四條 日本國及びタイ國は共同して遂行せらるる戰爭の場合においては相互の完全なる諒解によるにあらざれば休戦または講和をなさざるべきことを約す

第五條 本條約は署名と同時に實施せらるべくかつ十年間有效とす、締約國は右期間滿了前適當なる時期において本條約の更新に關し協議すべし

軍事、經濟、文化三委員會成立

日・タイ攻守同盟締結の結果日、タイ間の連絡會議として軍事、經濟、文化の三委員會を設置し兩國より代表者を選出し各部門で緊密なる連絡をとりその目的遂行に邁進することに正式決定を見た、文化委員會は、すでに十二

假調印が行はれた。

日・佛印軍事協定成る

(一六、一一、八)

佛印と帝國との友好關係は十六年七月締結された「日・佛印協同防衛協定」によつて一時期を劃したが、さらに十二月八日、在佛印の帝國陸海軍最高指揮官と佛印當局との間に右協定に基づく日・佛印軍事協同に關する協定の成立を見た、これは帝國の企圖する世界新秩序建設としての大東亞共榮圈確立に佛印が欣然協力する態度をより鮮明ならしめたものである。

日・佛印經濟協定調印

(一七、七、一八)

十六年五月締結の日・佛印經濟協定に基づき十七年度の日・佛印間物資交換の實施取極めに關し十六年末以來ハノイで芳澤大使とドクイ佛印總督との間に交渉中のところ妥結を見、十七年七月十八日サイゴンのドクイ總督官邸で正式調印が行はれた。

日ソ漁業暫定協定

月十五日より第一次委員會を開催、初顔合せを行つたが、同席上タイ側より大東亞戰爭開始以來の宣傳上の説明があつた。

チモール作戦通告

(一七、二、二〇)

英蘭兩國軍は葡國政府の中立を犯して十二月十七日葡領チモールに侵入しこれを占據したので、帝國は防衛土同方面の英蘭軍を驅逐する必要に迫られ軍事行動をとることになつたので、二月廿日葡國政府に對して葡國が中立態度を維持する限り、領土保全を保障し自衛上の目的達成の上は速に撤兵する旨通告した。

日・タイ經濟提携成立

(一七、四、二一)

大東亞共榮圈確立に邁進する日タイ兩國間に具體的な經濟提携に關する交渉を進め、まづ兩國間爲替換算率改訂に關する諒解が成立し十七年四月廿一日外務次官官邸で帝國代表西外務次官とタイ國代表ワニット無任所大臣との

(一七、三、一三)

日ソ兩國間における十七年度漁業暫定協定については、建川駐ソ大使とヴィシンスキーソ聯外務人民委員長代理との間に交渉が進められ、十七年三月十三日の兩者會談では、歩み寄りが出来廿日クイブイシェフで正式調印を見た。

ローマ法王廟へ公使派遣

(一七、三、二七)

大東亞戰の驚異的戰果によつて大東亞の全域が皇軍の管轄下におかれるに至り、同地域内におけるカトリック教徒の數は夥しいものであり、わが國とローマ法王廟との間柄が必然的にますます緊密の度を加ふべき關係におかれるに至つたので、政府はヴァティカンに對し特派大使を派遣することになり初代特派公使として佛國大使館附參事官原田健氏を決定上奏御裁可を経たので十七年三月廿七日情報局からこれが發表と同時に外務省からも當局談が發表された。

泰へ二億圓借款供與

(一七、六、一八)

泰國中央銀行制度の整備、バートの圓貨への等價、バートと圓とのリンクの採用などに引續き泰國中央銀行は今回圓貨を發行準備に充當することとなつたので本邦より二億圓の借款を泰國政府に供與することとなり六月十八日右に關する契約が日本銀行および來朝中の泰國代表ワニット經濟使節との間に調印を了した。

日佛印物資交易協定妥結

(一七、七、一八)

日佛印經濟關係を規正する日佛印物資交易本年度實行協定はこのほど全面的妥結をみたので十八日午後六時三十分(日本時間)サイゴンの總督官邸において、芳澤大使、ドクー總督間に正式調印が行はれたので情報局では午後八時左の如き發表を行つた。

△情報局發表

客年五月の日佛印經濟協定に基き本年度の日佛印間の交換物資の具體的内容

を定むる實施取極に關する經濟交渉は

客年末河内に於て芳澤大使と「ドクー」佛印總督との間に開始せられ爾來兩代表は大東亞戰爭の進展に伴ふ經濟的環境の變化に即應しつゝ相互協力の精神を以て鋭意討議を續けたる結果最近交渉妥結に達し本十八日西貢に於て取極に調印を見るに至つた。

本實施取極に依り佛印は我方の必要とする重要物資を能ふ限り多量に我方に供給し我方よりは佛印の經濟維持の爲必要とする物資を供給することとなり茲に日佛印間の經濟的協力を一段と進め以て大東亞共榮團建設に寄與することとなつたことは同慶の至りである。

日佛印協定の特色 【七・一八一】 舊臘ハノイにおける芳澤ドクー第一次會談を皮切りに前後七ヶ月二十數回にわたり折衝が重ねられた結果今回正式調印の運びに至つたものである、取極の主要な點をあげれば

(一) 最も重要な米に就ては本年度は佛印が輸出に充て得る全量を合理的な

價格に依つて我方に供出する事とし、

佛印の本年度收穫量を數回にわたつて調査検討した上對日供給數量を決定し佛印政廳で責任をもつてこれを供給することとし同時に供給方法も詳細に規定した。

(二) 飼料として重要な玉蜀黍についても米に準じて輸出可能全量を我方に供給することとしこのため米、玉蜀黍の本年度供給量は昨年比して格段の増加を見た、なほ米、玉蜀黍の對日供給を圓滑にするためサイゴンに日佛印混合委員會を設置するに決定した。

(三) 米、玉蜀黍のほか佛印から我國に輸出すべき物資についても、牛皮、水牛皮、松脂その他の樹脂、タンニン材料、漆、桐油、ヒマシ油、胡椒、特殊醫藥材料、亜鉛、砒砂、鐵礦、マンガン礦、タングステン礦、燐灰石、ボキサイト、無煙炭など、農、林、鑛各種特産物三十餘品目を選び、各々佛印の輸出可能量の全部又は大部分に相當する對日輸出量を定めた。

こと等であるが一方佛印はその自國經濟を維持するに必要な物資はわが國に仰ぐほかない實情にあるので織維製品雜貨などの生活必需品のほか物資の生産に必要な原料、材料など各種の物資につきわが國からの供給數量も定めてあり、殊に綿製品の如き特殊のものもは

昨年度より減少しその代り、わが國より供給可能のものを増加するなどの調整を加へ、全體からみて大體昨年度協定の物資供給の水準を維持した。

日泰文化協定成立

(一七、一〇、二八)

情報局發表 昭和十七年十月二十八日東京に於て谷外務大臣とドイレック駐日タイ國大使とが署名調印したる日本國タイ國文化協定は帝國及タイ國に於て夫々批准を了し本二十一日バンコックに於て坪上大使とタイ國外務大臣との間に右協定の批准書交換を行ひ同

協定は本日を以て効力を發生したり、同協定の全文左の通り。

大日本帝國天皇陛下 大日本帝國天皇陛下 大日本帝國天皇陛下 大日本帝國天皇陛下 大日本帝國天皇陛下 大日本帝國天皇陛下 大日本帝國天皇陛下 大日本帝國天皇陛下 大日本帝國天皇陛下 大日本帝國天皇陛下

第一條 締約國ハ兩國間ノ文化關係ノ基礎ヲ堅實ナラシメ以テ兩國相互ノ認識及理解

ヲ深カラシムル機努力スベク且之ガ爲文化ノ有ラニル部門ニ亘リ最モ緊密ナル協力ヲ爲スベシ

第二條 締約國ハ兩國ノ文化ノ向上發展ニ付審議スルタメノ文化會議ヲ隨時ニ開催シ及右目的ヲ有スル會議ヲ助成スルニ努ムベシ

第三條 締約國ハ兩國間ノ文化關係ノ増進ニ資スベキ施設ノ設置、維持及發展ニ努ム且之ガ爲相互ニ能フ限り便宜ヲ供與スベシ 第四條 締約國ノ一方ハ自國ノ大學ニ於ケル他方ノ文化ニ關スル講座ノ設置、維持及充實ニ特別ノ考慮ヲ拂フベシ 締約國ノ一方ハ自國ノ適當ナル各種ノ學校ニ於ケル他方ノ國語ノ教授ニ特別ノ考慮ヲ拂フベシ

締約國ハ兩國ノ文化ニ關スル講義又ハ講演ヲ爲サシムル爲教授、學者及専門家ノ定期交換、派遣又ハ招聘ニ特別ノ考慮ヲ拂フベシ
締約國ハ前三項ノ規定ノ實施ニ付相互ニ能フ限リ便宜ヲ供與スベシ

第五條

締約國ハ兩國ノ協議決定スル所ニ從ヒ兩國ノ文化ヲ研究セシムル目的ヲ以テ研究員、學生及生徒ノ定期交換、派遣又ハ招聘ヲ行フベシ

締約國ハ實務見習生及短期講習生ヲ交換、派遣又ハ招聘スルニ努ムベシ
締約國ハ前二項ノ規定ノ實施ニ付相互ニ能フ限リ便宜ヲ供與シ且獎學資金ノ設定ニ考慮ヲ拂フベシ

締約國ノ一方ハ自國ノ文化研究ノ爲來ルル他方ノ學者及専門家ニ對シ同様ノ便宜ヲ供與スベシ

第六條

締約國ハ兩國間ノ文化關係ノ増進ニ寄與スベシト認ムル著述家、藝術家及宗教家ノ活動ヲ獎勵シ且此等ノ者ヲ交換

派遣又ハ招聘ニ努ムベシ

締約國ハ兩國間ノ文化關係ノ増進ニ寄與スベシト認ムル演劇、舞踊及音楽ノ上演ヲ獎勵シ且之ニ從事スル個人及團體ヲ交換、派遣又ハ招聘スルニ努ムベシ

第七條

締約國ノ一方ハ自國ニ於ケル出版物、映畫、幻燈、寫眞、音盤及樂譜ニシテ兩國相互ノ認識及理解ノ増進ニ寄與スベシト認ムルモノヲ能フ限リ多數且頻繁ニ他方ニ供給スルニ努ムベク他方ハ此等ノモノガ自國ニ於テ有效ニ利用セラルル様其ノ保存、頒布、上映及展示ニ特別ノ考慮ヲ拂フベシ

締約國ハ自國ニ於ケル出版物及藝術作品ニシテ相手國ニ紹介スル價值アリト認ムルモノノ表ヲ交換スベク且適當ナル方法ニ依リ此等ノモノヲ紹介普及スルニ努ムベシ

締約國ハ前記出版物及藝術作品ノ翻譯及複製ニ關シ必要ナル斡旋及助成ヲ爲スニ努ムベシ

締約國ノ一方ハ自國ノ圖書館及博物館

ニ他方ニ關スル圖書及展覽資料ヲ増加スルニ努ムベク且此等施設ノ利用ニ關シ他方國民ニ對シ能フ限リ便宜ヲ供與スベシ

第八條

締約國ハ兩國ノ學術、美術及工藝ニ關スル相互ノ認識及理解ヲ増進スル目的ヲ以テ隨時ニ展覽會ヲ開催シ及右目的ヲ有スル展覽會ノ開催ニ關シ必要ナル斡旋及助成ヲ爲スニ努ムベシ

第九條

締約國ノ一方ハ自國ノ放送局ヲシテ他方ニ向ケ定期放送ヲ行ハシメ且他方ノ定期放送ヲ中繼セシムベシ
締約國ノ一方ハ自國ノ放送局ヲシテ時ニ講演、演藝、音楽等他方ノ文化ニ關スル放送ヲ行ハシムベシ

第十條

締約國ハ兩國國民交遊ノ爲青少年團及運動競技選手ヲ交換派遣又ハ招聘スルニ努ムベシ
締約國ハ兩國相互ノ認識及理解ヲ増進

スル爲觀光旅行團及見學旅行團ヲ交換派遣又ハ招聘スルニ努ムベシ
締約國ハ前二項ノ規定ノ實施ニ付相互ニ能フ限リ便宜ヲ供與スベシ

第十一條

締約國ハ兩國間ノ文化關係ノ増進ニ寄與セシムル爲夫々相手國ノ首府ニ文化紹介機關ヲ設置スルニ努ムベク且右機關ノ事業ニ對シ相互ニ能フ限リ便宜ヲ供與スベシ

第十二條

締約國ハ本協定ノ實施ニ關シ兩國間ノ連絡ニ當ラシムル爲東京及バンコックニ文化連絡協議會ヲ設置スベシ

右協議會ノ組織及運用ニ關スル細目ハ締約國ノ外交機關之ヲ協議決定スベシ

第十三條

本協定ノ實施ニ關スル細目ハ締約國ノ外交機關之ヲ協議決定スベシ

第十四條

本協定ハ批准セラルベク且其ノ批准書ハ成ルベク速ニバンコックニ於テ交換セラルベシ

本協定ハ批准書交換ノ日ヨリ之ヲ實施シ且同日ヨリ十年間引續キ效力ヲ有スベク又締約國ノ一方ガ本協定ヲ終了セシムルノ意思ヲ右十年ノ期間満了ノ一年前ニ他方ニ通告セザル場合ニハ本協定ハ締約國ノ一方ガ其ノ廢棄ノ通告ヲ爲シタル日ヨリ一年ノ期間ノ滿了ニ至ル迄引續キ效力ヲ有スベシ

右證據トシテ各全權委員ハ本協定ニ署名調印セリ
昭和十七年十月二十八日即チ佛曆二千四百八十五年十月二十八日東京ニ於テ日本及タイ文ヲ以テ本書二通ヲ作成ス

谷 正 之

大東亞省設立

(一七、一一、一一)

大東亞省關係勅令

一、日公布の大東亞省關係勅令左の如し

- (一) 大東亞省官制
- (二) 大東亞省内臨時職員設置制
- (三) 興亞鍊成所官制

(四) 外交官及領事官々制中改正の件

(一) 大東亞省官制

第一條 大東亞大臣ハ大東亞地域(内地、朝鮮、臺灣及樺太ヲ除ク以下同シ)ニ關スル諸般ノ政務ノ施行(純外交ヲ除ク)同地域内諸外國ニ於ケル帝國商事ノ保護及同地域内諸外國在留帝國國民ニ關スル事務並ニ同地域ニ係ル移植民海外拓殖事業及對外交文化事業ニ關スル事務ヲ管理ス大東亞大臣ハ關東局及南洋廳ニ關スル事務ヲ統理ス

大東亞大臣ハ第一項ニ規定スル事務ニ付大東亞地域ニ駐在スル外交官及領事官ヲ指揮監督ス

第二條 大東亞省ニ左ノ四局ヲ置ク總務局、滿洲事務局、支那事務局、南方事務局

第三條 總務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一、大東亞地域ニ關スル重要政策ノ企畫及省務ノ綜合調整ニ關スル事項
- 二、大東亞地域ニ關スル調査及資料整

備並ニ情報ニ關スル事項
 三、大東亞地域ニ於ケル邦人要員ノ鍊成ニ關スル事項
 四、所管行政ノ考査一般ニ關スル事項
 五、他局ノ所管ニ屬セザル事項
 第四條 滿洲事務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 一、關東局ニ關スル事項
 二、滿洲國ニ關スル外政事項
 三、滿洲國ニ於テ事業ヲ爲スヲ目的トシテ特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル法人ノ業務ノ監督ニ關スル事項
 四、滿洲移民及滿洲拓殖事業ニ關スル事項
 五、對滿文化事業ニ關スル事項
 六、其ノ他關東州及滿洲國ニ關スル事項
 第五條 支那事務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 一、支那ニ於テ事業ヲ爲スヲ目的トシテ特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル法人ノ業務ノ監督ニ關スル事項
 二、對支文化事業ニ關スル事項

三、其ノ他支那ニ關スル事項
 第六條 南方事務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 一、南洋廳ニ關スル事項
 二、タイ國及印度支那ニ關スル外政事項
 三、南方諸地域ニ於テ事業ヲ爲スヲ目的トシテ特別ノ法令ニ依リ設立セラレタル法人ノ業務ノ監督ニ關スル事項
 四、南方諸地域ニ係ル文化事業ニ關スル事項
 五、其ノ他南方諸地域ニ關スル事項
 第七條 大東亞省ニ參事官專任六人ヲ置ク勅任トス大東亞大臣ノ命ヲ承ケ調査及審議立案ヲ掌ル
 第八條 大東亞書記官ハ專任二十六人ヲ以テ定員トス
 第九條 大東亞省ニ調査官專任十四人ヲ置ク奏任トス上官ノ命ヲ承ケ調査ヲ掌ル
 第十條 大東亞省ニ大東亞事務官專任三十人及大東亞理事官專任十一人ヲ置ク奏任トス上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第十一條 大東亞省ニ大東亞技師專任十四人ヲ置ク奏任トス上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル
 第十二條 大東亞省ニ通譯官專任二人ヲ置ク奏任トス上官ノ命ヲ承ケ通譯及通辭ヲ掌ル
 第十三條 大東亞省ニ電信官專任三人ヲ置ク奏任トス上官ノ命ヲ承ケ電信符號ニ關スル事務ヲ掌ル
 第十四條 大東亞屬ハ專任百二十二人ヲ以テ定員トス
 第十五條 大東亞技師專任二十八人ヲ置ク判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス
 第十六條 大東亞省ノ通譯官補專任四人ヲ置ク判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ通譯及通辭ニ從事ス
 第十七條 大東亞省ニ電信官補專任七人ヲ置ク判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ電信符號ニ關スル事務ニ從事ス
 第十八條 前諸條ノ職員ノ外大東亞大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官ノ中ヨリ内閣ニ於テ事務官ヲ命ズルコトヲ得

第十九條 大東亞省ニ於テハ陸海軍ニ策應協力スル爲大東亞地域内占領地行政ニ關スル事務ヲ行フモノトス
 付 則
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス對滿事務局官制、興亞院官制、興亞院連絡部官制及拓務省官制ハ之ヲ廢止ス

在 外 公 館

(昭和十七・八・一五現在)
 (但し交戰國、國交斷絶國を除く)

帝 國 大 使 館

フランス、ドイツ、イタリア、ソウェ
 ート、トルコ、アルゼンチン、タイ、
 滿洲國、中華民國

帝 國 大 使 府

佛領印度支那

帝 國 公 使 館

スイス、スペイン、ポルトガル、スエ

ーデン、フィンランド、ハンガリー、
 ルーマニア、ブルガリア、アフガニス
 タン、チリ(引上)

帝 國 使 節 館

グアチカン市、法王廳

帝 國 總 領 事 館

フランス (佛領印度支那) ハノイ、
 サイゴン、
 ドイツ ハンブルグ、ウイーン、
 ケーニヒスベルグ
 ソ 聯 邦 浦鹽浦德、アレキサンド
 ロフスク、ハバロフスク
 (一時引揚)

タイ バンコック
 ビルマ ラングーン
 中華民國 北京、天津、石門、太原
 青島、濟南、上海、南京
 漢口、廣東、海口、廈門
 滿洲國 哈爾濱、新京
 蒙 疆 張家口、厚和

帝 國 領 事 館

フランス本土、マルセイユ
 西亞、ペイルート(一時
 閉鎖)
 印度支那、ユエ、ブノン
 ベン
 モロッコ、カサブランカ
 バルセロナ(一時引揚)
 ポルトガル 澳門
 スエーデン ストックホルム
 ソ 聯 邦 オデッサ(一時引揚)オハ
 ブラゴウ、エスチエンス
 タ(一時引揚)ベトロパウ
 ロスク、ノヴォシビルス
 タ(一時引揚)

タイ チエンマイ、シンゴラ
 アルゼンチン ブエノスアイレス
 中華民國 徐州、芝罘、杭州、杭州
 蕪湖、九江、汕頭
 滿洲國 山海關、牡丹江、滿洲里
 黑河

本邦駐在各國大使一覽

大公使	館所在地——東京市
フランス大使	麻布區富士見町三三
ドイツ大使	麹町區永田町一ノ一
トルコ大使	澁谷區代々木山谷二八三
イタリア大使	芝區三田一ノ二八
滿洲國大使	麻布區櫻田町五〇
中華民國大使	麻布區飯倉町六ノ一
イタリヤ大使	芝區三田一ノ二八
スウェーデン大使	麻布區西町二二
デンマーク大使	麹町區九段四ノ一五
フィンランド大使	麻布區笹塚町六二
チリ大使	芝區白金臺町一ノ七
ポルトガル大使	目黒區駒場町八六一
ルーマニア大使	麻布區狸穴町一
ハンガリー大使	麻布區笹塚町四
ブルガリア大使	麻布區西町二二
ギリシア大使	麻布區市兵衛町一ノ二
ルーマニア大使	麹町區山下町帝國ホテル内
スウェーデン大使	大連、×神戶、東京、×長崎、×下關(門司)、×横濱
デンマーク大使	×大連、×神戶(大阪)、×長崎、×東京、×横濱
フィンランド大使	×大連、×大阪(神戸) ×横濱
チリ大使	×神戶、×横濱
デンマーク大使	×大連、×神戶(大阪)、×長崎、×東京、×横濱
フィンランド大使	×大連、×大阪(神戸) ×横濱

本邦駐在列國領事館

國名	所在地
ドイツ	大連、○大阪(神戸)横濱
アルゼンチン	○神戸、×名古屋、×大阪、×東京、横濱
チリ	×神戶、×横濱
デンマーク	×大連、×神戶(大阪)、×長崎、×東京、×横濱
フィンランド	×大連、×大阪(神戸) ×横濱

〔追補〕

昭和十八年一月末迄主要外交事項

一、中華民國參戰布告

(一八、一、九)

宣戰布告全文

九日午前十時發表された國民政府の宣戰布告文左の通り。

一昨年十二月八日天東亞戰爭勃發するや國民政府は日華基本關係條約の精神に基づき友邦日本と同甘共苦を決定せる旨聲明し、爾來新國民運動に着手し治安の保障、民生の改善をはかり以て國力を増強し大東亞戰爭の完遂に協助せん事に決すしかるに英米等の國は依然その百年以來の東亞分裂政策を踏襲し益々これを強化して遂に重慶側分子を誘拐し所謂英米戰線に参加せしめビルマ、インドに出征して東亞人をもつて東亞人を殺戮せしむるに至れり、最近その暴力は既に友邦日本の陸海軍

に擊破せられ東亞侵略據點また既に喪失せるも、かれ等は益々その陰謀を逞しうしかつ國民政府治下の大發展を嫉視し、重慶側分子を使喚して絶えず侵入、騒亂せしめ以て各種建設の進歩を阻害し、更に重慶側を根拠地として直接自國の飛行機を用ひわが武漢、廣東に對してしばしば爆撃を行ひ民衆を損傷しつゝあり、重慶側分子が甘んじて英米の驅使を受け自ら東亞の反逆者となれるは固より恥づべき所なるも英米が東亞に對して深く野心を包藏し總ゆる挑發離間の手段を盡し以てその最後の併呑の慾望を遂げんと圖りつゝあるは東亞民族の同仇敵愾措く能はざるところなり。

こゝに中華民國國民政府は今日より英米に對し戰爭状態に入れることを宣言す、正に全力を盡して友邦日本と協力し英米の暴力を一掃し、もつて中國を復興東亞の解放を圖るべし。

滿洲國、タイ兩國とは夙に友好を教くし東亞の共榮に對しては特にその志

フランス	大連、京城、神戸、長崎、横濱
イタリア	大連、○神戸(大阪)、臺北、横濱
滿洲國	×京城、×門司、×新潟、○大阪、新義州
ポルトガル	×京都、×神戸、×門司(下關)、×長崎、×名古屋、×大阪、×東京
ルーマニア	×大阪
スウェーデン	×大連、×神戶(大阪)、×長崎、×下關(門司)、×横濱
スイス	大連、×神戶、東京
タイ	×神戶、×名古屋、×大阪、×横濱
トルコ	×大阪、東京
ソ聯	大連、函館、○京城、敦賀
中華民國	元山、釜山、○京城、○神戸、長崎、新義州、○臺北、○横濱

を同じうし益々兩國との提携を固り以て道義に基づく東亞新秩序を建設すべし、獨伊の諸友邦は數年以來歐洲に於て英米の勢力と相戦ひしばしば勝利の光榮を獲たり、わが國は今茲に大東亞戰爭に参加したるをもつて正に相呼應して世界全體の公正なる新秩序に對し貢獻するところあらんとす。

わが國民は今や國父の大亞細亞主義を實現する唯一の機會到來せることを覺り、中華民國の復興と大東亞の建設並に世界全般の正義和平の獲得とは總てこの一擧によるを認識し、一徳一心終始戮力以てこの偉大なる時代の偉大なる使命を貫徹せしむることを期すべし。

二、日獨伊經濟協定成立

(一八、一、二二)

情報局發表

本年一月二十日獨逸國總統大本營において大島大使及リッペンントロップ獨

外相は經濟協力に關する日本國ドイツ國間協定に署名調印せり。又同日ローマにおいて加瀬駐伊代理大使およびチアノ伊外相は經濟協力に關する日本國イタリア國間協定に署名調印せり。

右協定は三國條約と同一の有効期間を有しこれが趣旨を經濟部面において具現するものにして、三國條約を擴大強化せるものと謂ふべし、日獨伊三國條約により確立せる政治的聯繫を終始強化しつゝありたる處、今やこゝに兩協定を締結し以て雄大なる經濟計畫を樹立し大東亞及歐洲の二大經濟圏の總力を擧げて共同の敵に對する戰爭を遂行せんとすると共に戰後における二大經濟圏開の恒久的經濟協力に關する基礎をも樹立せんとするものなり、しかして兩協定は各種經濟給付の廣汎なる交換を促進することを規定しかつ經濟上及金融上の有らゆる點に關する協力を規定するものなり。

日本國及ドイツ國間において並に日本國及イタリア國間において締結せら

れたる協定内容左の通り。

經濟協力に關する日獨伊國間協定

大日本帝國政府及

ドイツ國政府は(イタリア國政府)は大東亞および歐洲における新秩序建設のための今次戰爭においてその經濟總力を擧げて相互に援助すると共に、戰爭を勝利を以て終結したる後においてはそれ〴〵兩國の經濟圏内において廣汎なる建設計畫によりあらゆる當該民族の共存共榮を確保すべき新秩序を實現せんがため兩國政府間の經濟協力を一層緊密ならしめんことを決意せり依て兩國政府は左の通協定せり。

第一條 日本國及ドイツ國ハ其ノ經濟圏間ノ經濟給付ノ交換ヲ有ラユル部門ニ互リ全力ヲ擧ゲテ促進シ且ツ遂行スベシ

兩國ハ物資ノ調達及裝置ノ施設ニ際シ相互ニ援助シ且ツ緊密ナル技術協力ヲナスベシ

第二條 日本國及ドイツ國ハ前條ノ規定ノ實施ヨリ生ズル支拂ヲ容易ナラシムルタメ緊密ナル金融協力ヲナスベシ

第三條 日本國及ドイツ國ハ其ノ經濟政策ノ遂行ニ付テノ協力ヲ一層有效ナラシムルタメ緊密ナル連絡ヲ保ツベシ

兩國政府ハ之ヲタメ其ノ特ニ任命シタル委員ヲシテ兩國間ノ經濟關係ノ發展ニ對シ常ニ注意ヲ拂ハシムベシ

第四條 兩國政府ノ當該官憲ハ本協定ノ實施ニ必要ナル細目ヲ協定スベシ

第五條 本協定ハ署名ノ日ヨリ實施セラレ且昭和十五年九月二十七日即チ千九百四十年九月二十七日ノ日本國、獨逸國及伊太利國三國間條約ト同一期間有效タルベシ

附言

イタリア國との協定も略同文に付き略す

歐阿方面戰況月報

(前年版「歐洲動亂概要」第二篇に續く)

曆	月	主要作戰
其一	(昭 一六、十二月)	各方面水域潛航艇戰
其二	(同 一七、一月)	東地中海方面小海戰
其三	(同 二、二月)	ドーヴィー海峽英獨海戰
其四	(同 三、三月)	ソ獨冬期間小戰
其五	(同 四、四月)	英軍佛國上陸企圖不成
其六	(同 五、五月)	クリミヤ半島作戰(獨軍大攻勢開始)
其七	(同 六、六月)	英軍マダガスカル島侵略
其八	(同 七、七月)	北アフリカ方面作戰開始
其九	(同 八、八月)	コーカサス進軍開始
其十	(同 九、九月)	スターリンググラーード攻防戰(ソ聯反攻)
其十一	(同 十、十月)	米軍西アフリカ侵攻
其十二	(同 十一、十一月)	聯合軍北阿上陸及反擊

篇末挿圖 西亞、東歐、北阿交界地方及印度洋方面圖

(本篇は主として「有終」記事に據れり)

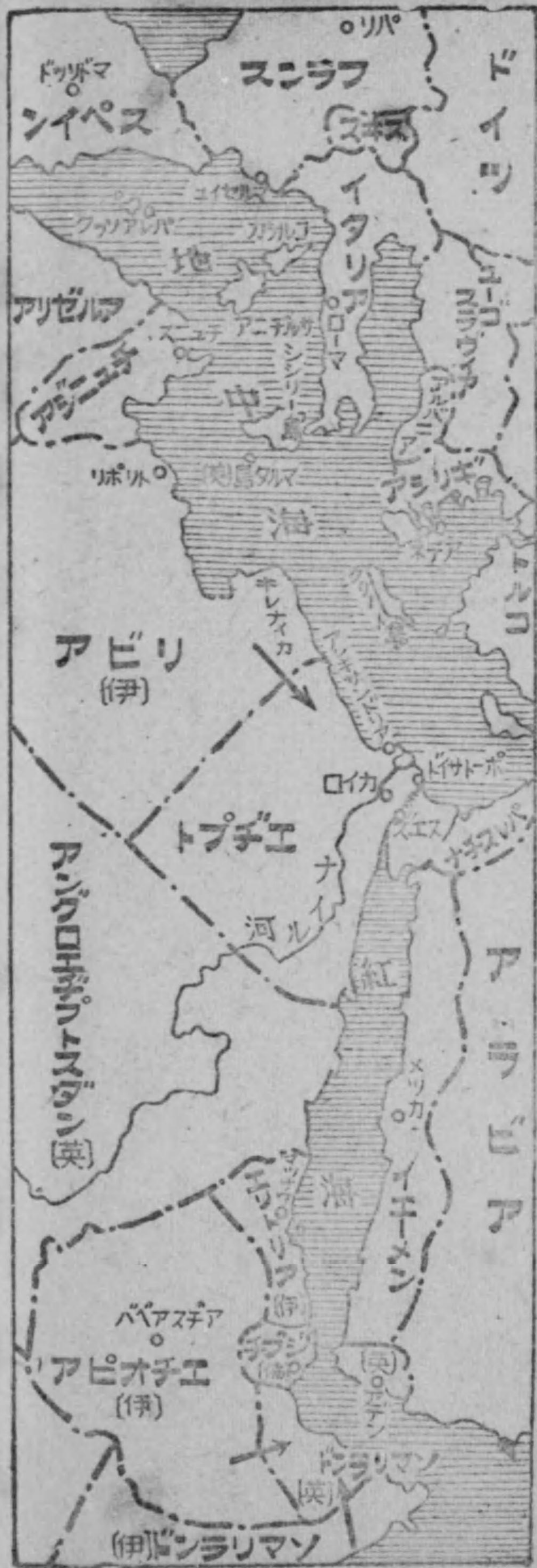
挿圖

- 東部地中海圖
- クリミヤ半島圖
- マダガスカル島圖
- ソ獨交戰地方圖
- 北アフリカ方面圖
- スターリンググラーード附近圖
- 獨ソ北方戰線圖
- アフリカ洲戰略要圖
- 西亞、東歐、北阿交界地方及印度洋方面圖

其一 自昭和一九四二年一月二十二日中甸至同

獨英海戦 プラシツ・レシユケ少佐及びフリードリッヒ・グツゲンベルグ少佐の指揮する獨逸潜水艦二隻は十一月十五日西地中海に於て英艦隊を襲撃し、航空母艦アークロイナル號を撃沈し更に戦艦マラヤ號(三一、一〇〇噸)に魚雷を命中せしめた。特にマラ

東部地中海圖



ヤ號の損害は重大で、ジブラルタルに曳航された。更に獨逸潜水艦隊は別に英の小艦隊を襲撃し同様魚雷を命中せしめた。

モール中尉指揮の獨逸潜水艦は大西洋上に於て、英艦巡洋艦ドラゴン號(四、八五〇噸)を撃沈した。

濠洲水域に於てデトマス大佐指揮の獨逸補助巡洋艦コルモラン號は濠洲巡洋艦シドニー號(六、八三〇噸)と會戦

砲力及び速力に於て遙に勝るシドニー號を撃沈、將校四十二名、兵員六百三名よりなる同艦乗組員は艦と運命をともにした。尤も右交戦に於てコルモラン號もまた大損傷を蒙つたので、乗組員は遂に同艦を抛棄するに決したが、乗組員の大部分は救助され、濠洲海岸に上陸した。コルモラン號は右海戦に至るまでに奇襲艦として多數の敵艦船を撃沈した。

濠洲艦隊所屬巡洋艦シドニー號(七、八三〇噸)は濠洲附近水域に於て獨逸シユタイエルマルク號(九、四〇〇噸)と交戦、兩艦ともに沈没した。

其二 自昭和一九四二年一月二十二日中甸至昭和一九四二年一月二十二日中甸

獨伊對英戦を觀るに、獨軍司令部發表に依れば、十二月十六日パウルセム少佐の指揮する獨逸潜水艦は東地中海アレキサンドリア沖合に於て、英巡洋艦隊を襲撃し、うち一隻を撃沈した。

獨軍司令部は十一月二十二日特別發表を以て、大西洋に作戦中であつたビ

ガルク大尉指揮の獨逸潜水艦は英航空母艦一隻に魚雷を命中せしめ、之を撃沈した旨公表したが、同當局は同二十四日右はユニオン號(噸數不明)と稱する英水上機母艦なることが判明した旨訂正發表を行つた。

倫敦發新聞通信に依れば、イギリス海軍省は一月三日巡洋艦ネブチューン號(七、一七五噸)及び驅逐艦カンダール號(一、六九〇噸)が十二月十九日地中海に於て糧輸潜水艦及び爆撃機の攻撃を受け沈没した旨發表した。

英海軍省は一月九日、英艦巡洋艦ガラティア號(五、二二〇噸)が魚雷攻撃を受け沈没した旨發表した。但し沈没の時、場所には全然言及してゐない。

獨軍司令部一月十二日正午發表に依れば、獨逸潜水艦は大西洋で英驅逐艦一隻を撃沈し、また地中海方面でも英驅逐艦一隻に魚雷を命中せしめた。

本年一月八日、伊軍司令部は左の如く發表した。

舊臘十八日夜伊海軍奇襲艦はエジプトのアレキサンドリア港内に突入し、英艦二隻に魚雷攻撃を行ひヴェイリアント(三〇、六〇〇噸)級英艦一隻に重大損傷を與へ船渠に擱留するのやむなきに至らしめた。

一、ダブルク附近で伊海軍は英艦巡洋艦ファイバー號(五、四五〇噸)に魚雷を命中せしめたが、沈没せるものと推定さる。

なほ、ロンドンのラジオ放送に依れば、ヴェリアント級一隻を大破、ファイバー號は撃沈されたことが救助された生存者の言に依り判明した。D N B通信一月十三日發表に依れば昨年十一月二十六日獨政府公表の戦況發表中、チーゼンハウゼン中尉指揮の獨逸潜水艦が北阿ソルム沖合で英艦一隻に魚雷を命中せしめた旨述べられてゐるが、その後英軍捕虜の言明により、右英艦は三萬一千噸の戦艦バラム號で、魚雷命中後直ちに沈没せる事が判明した。

英海軍省では一月十九日、英海軍潜水艦パーシユース號(一、四七五噸)が撃沈されたと発表した。

其三 自昭和一七・二・中旬 至同 二・中旬

北阿戦線 一月二十六日伊軍司令部発表に依れば、獨伊聯合軍は英軍を北阿アゲダビアより撃退したる後もアゲダビア東方に進撃し、英機中部隊に多大の損害を與へ一日にして大砲三十八門、戦車九十七臺、飛行機十三臺、その他自動車多數を捕獲し、獨伊側の損害は輕少であつた。かくて一月二十一日より二十六日までの獨伊軍の戦果は次の如くである。

大砲百十八門、戦車二百三十九臺、飛行機二十八機、その他捕虜數千名自動車その他の兵器多數。而して日本軍の東亞各地に於ける赫赫たる戦果に呼應して獨伊の北阿新攻勢作戦は漸次好調を示し、英軍の海陸空よりする猛烈執拗なる抵抗を排して

多數の兵員及び兵器を満載した輸送船が次々にリビアに到着した。他方英領マルタ島に對する猛攻撃は連日繼續された。

獨軍司令部は一月二十九日夜北阿の要衝ベンガジを奪還した旨次の如く發表した。

獨伊軍は二十九日朝要衝ベンガジを占領した。

地中海方面 イタリア軍二月三日發表の戦況は、マルタ島に對するドイツ軍の猛襲がますます熾烈となりつゝあることを指摘したの通り述べてゐる。

獨伊裝甲快速部隊はクレナイカ東方地區に於て敵の抵抗を排除し前進を續け、航空部隊も之に呼應して敵軍事基地を爆撃し大損害を與へた。ドイツ空軍は悪天候をものともせずマルタ空襲を繼續し格納庫及び諸港灣施設等を連爆した。なほイギリス機は二日夜イタリア領シチリア島パレルモ及び南伊ナポリを襲ひ高性能爆弾及び焼夷弾を投下した。

大爆撃を敢行、飛行場、港灣施設、燃料倉庫を爆撃した。

一、一月三十一日から二月十日までの期間に、獨軍は英機六十七機を撃墜破したが、うち三十八機は地中海及び北阿戦線における戦果である。

一、これに對し獨軍が同期間に英本土空襲に際して失つた飛行機は十三機である。

は二月十三日軍司令部発表を以てドーヴァ海峡に於ける獨英海戦を左の如く公表した。

昨十二日獨艦隊はドーヴァ海峡及び北海西部を航行中、英艦隊と遭遇し、これと交戦せり。現在までに判明せる戦況次の如し。

(一)チリアツクス中將麾下の戦艦シャロンホルスト、グナイゼナウ、巡洋艦プリンツ・オイゲンより成る獨艦隊は英驅逐艦一隻を撃沈、一隻を炎上せしめたり。

(二)獨艦隊は水雷艇一隻小破、哨戒艇一隻沈没せり。

伊軍司令部二月六日發表にキレナイカ戦線に於て伊軍が一月三十一日まで破壊した敵トラツクは千二百二十臺に上つた。獨伊空軍は敵航空基地を爆撃、英機數機を地上爆破したほか多數の飛行機に損害を與へた。

獨伊空軍はマルタ島軍事施設を爆撃多大の戦果を収めた。さらにマルタ島上空の空軍戦に於て英ハリケーン機三機を撃墜した。トブルク水域哨戒中の伊軍飛行機は敵輸送船團を襲撃、商船一隻を炎上せしめた。

伊軍司令部発表に獨伊空軍は二月六日マルタ島を爆撃し軍需工場、造船所及び海軍基地に爆弾の雨を降らせ、イギリス軍艦に火災を生じたことを確認した。

獨軍司令部二月十二日正午發表に、獨爆撃機隊はマルタ島附近の水域でデド級英巡洋艦(五、四五〇噸)に數個の命中弾を與へ、これを大破せしめた。

一、獨空軍はマルタ島英軍基地に對し

一、獨空軍はマルタ島英軍基地に對し

獨蘇戰爭 獨蘇戰爭獨軍司令部二月二十一日正午發表に、東部戦線中部地區に活躍中のロマ

伊軍司令部二月十六日正午發表に

(一)獨伊空軍は地中海沿岸所屬基地を足場として連日英護送船團及びマルタ島その他の各基地に對して攻撃を續行し、輝かしい戦果を収めつゝあるが十三、十四、十五の三日間の攻撃に於て敵商船七隻、驅逐艦一隻哨戒艇一隻を撃沈せるほか商船八隻驅逐艦二隻、巡洋艦五隻を大破せしめ、敵機二機を撃墜した(一)獨伊空軍編隊はマルタ島の軍事施設を反覆爆撃火災を生ぜしめた(二)イタリア潜水艦一隻は未だ基地に歸還せず。

ドーヴァ海峡の獨英海戦 獨軍當局

獨蘇戰爭 獨蘇戰爭獨軍司令部二月二十一日正午發表に

ル將軍麾下獨機械化部隊は四週間にわたり悪氣候を冒して激戦、特にロゼフ附近(モスクワ西北方二〇〇軒)に於てソ聯軍を包圍し、これに殲滅的打撃を加へ、將兵四千八百人を捕虜とせるほか武器彈藥を破壊乃至鹵獲した。この戰鬥に於けるソ聯軍の死者は二萬六千人の多數に上つてゐる。

▼東部戦線の現況につきドイツ軍司令部は二月二十二日、次の特別發表を行つた。

一、冬期開始とドイツ軍の攻勢作戦停止以來、ソ聯軍は兵員、物資の損害にも拘らず連續的に集團的攻撃を試み、もつて東部戦線におけるわが戦線の崩潰を圖らんとした。併し巨大なる犠牲にも拘らず此の敵の企圖は失敗に歸した。敵の無数の攻撃はわが方の冬期陣地の前方で崩潰した。

守してゐる。戦線が廣大なる結果、時として敵が局地的進出に成功した場合には、わが司令部は決然たる反撃に出て、作戦の自動性を奪取して敵に甚大なる損害を與へてこれを撃退した。

一、本年一月一日から二月二十日に至るまでの東部戦線に於けるわが方の戦果は捕虜五萬六千八百六人、死傷はこの數倍に達する見込、鹵獲又は撃破戦車九百六十、火炮千七百八十九門、その他ドイツ空軍が敵戦線の背後にて空襲により撃破した戦車火炮多數、

右期間に於ける空軍の戦果は各種車輛八百七十臺、鐵道機關車五十九輛、鐵道車輛五十九、なほわが方の組織的な爆撃の結果多數のソ聯鐵道線路が遮斷された。

一、敵の飛行機損害は空中戦による撃破六百九十九、高射砲による撃破百五十九、地上撃破三百三十一、合計千八百八十九臺。

一、わが方の損害百二十七臺。

獨軍司令部二月二十六日公表

一、東部戦線の獨軍はレニングラードの重要軍事施設に對し砲撃を行つたほか、獨空軍はムルマンスク鐵道の一部を猛爆、カンダラクシヤその他の鐵道施設に直撃彈を命中せしめた。

一、二月十五日より二十四日までソ聯空軍は飛行機四百三臺を失つた。そのうち二百六十五機は空中戦に於て四十四機は防空砲火によつて、他は地上爆破せるものである。この間に於ける獨空軍の損害は二十八機であつた。

▼獨軍司令部三月二日發表

一、ドネツ戦線にイルメン湖東南地區に於ては熾烈な攻防戦が展開中である。

一、ケルチ半島方面の獨軍は空軍協力の下に赤軍機甲部隊に對してさらに大損害を與へた。

一、ケルチ海峡東南水域に於て獨軍雷

撃機は敵六千噸級運送船一隻を撃沈するとともに、ケルチ地區のウオロニッシュ發動機工場並に飛行場に直撃彈を與へ、猛烈な爆撃を生ぜしめた。

一、二月二十四日より三月一日に至る間に赤軍は東部戦線に於て戦車二百四臺を失つた。

▼獨軍司令部三月十四日發表

一、クリミヤ方面のソ聯軍は戦車並に飛行機の掩護の下に、強力なる部隊を以てケルチ半島の獨、ルーマニヤ軍の陣地を襲撃し來つたが、獨軍は多大の損害を與へて撃退、敵戦車四十六臺を破壊した。

一、獨空軍は十三日空中戦に於てソ聯機十七機を撃墜した。三月六日より十二日までのソ聯空軍の損害は二百九機であつた。この期間に於ける獨空軍の損害九機のみ。

▼獨軍司令部二月二十一日特別發表

於て、またも十七隻(計十萬二千噸)の商船を撃沈した。その結果、米國沿岸に於て獨潜水艦が撃沈した商船は總計八十隻(計五十三萬二千九百噸)に上つた。

なほカリブ海に於ける作戦繼續中、一隻の獨潜水艦はトリニダッドのバリア灣内に落入し二隻を撃沈した。

▼ドイツ軍當局二十四日付特別發表

大西洋上に作戦中のドイツ潜水艦は、アメリカ海岸寄りの某海上に於て東航中の大輸送船團を發見、これに果敢なる攻撃を加へた結果、少くとも八隻總計六萬三千噸を撃沈した。うち五隻は油槽船である。

▼獨軍司令部二月二十六日正午特別發表

獨潜水艦は中部大西洋水域でまたも汽船七隻合計噸數五萬二千噸を撃沈したほか、油槽船一隻を含む六隻の汽船に損害を與へた。

▼獨軍二月二十八日發表

獨潜水艦は大西洋に於て敵船五隻合計四萬二千噸を撃沈したほか、二隻に魚雷を命中せ

しめ大損害を與へた。

▼獨軍司令部三月十日發表

獨潜水艦はカリブ海に於て商船十二隻總噸數七萬噸(この中三隻は油槽船)を撃沈した。これにより米國參戰以來獨海軍が大西洋水域に於て撃沈した敵商船は百五十一隻總噸數百二萬九千噸(この中油槽船は五十八隻總噸數四十四萬二千噸)となつた。

▲獨潜水艦・水上艦の英船に與へたる損害

○獨側の發表

獨官邊では二月二十六日、開戦以來の米英商船の損失は千五百五十萬噸以上になると左の如く發表した。

最近の英護送船團に對する攻撃により英國が失つた商船五萬二千噸を加算し、開戦以來の米英商船の損失は

都合一千五百五十萬噸以上に上る。これは開戦當時英國の所有せる商船總噸数の半分以上に當る。

○英側の發表

英國船主協會（チエムバー・オブ・シッピング）の發表によれば今次世界戦争勃發前に於ける世界各國船總噸数は約六千五百萬噸に達したが、一九三九年九月開戦より昨年十二月末日に至る二年四箇月間に戦争によつて喪失せる交戦各國船總噸数は約一千四百萬噸である。

この内英國及び其の聯合國側の損失噸数は八百三十萬噸で、獨逸及び其の他の樞軸國側の喪失噸数は五百萬乃至六百萬噸に上つてゐる。而して米英兩國は沈没せる船舶の補充として造船に努め、一九四一年の一年間には約百萬噸の新建造船が進水したが今年明の二年間には更にそれ以上のものがキールに置かれる豫定である。

其五 自昭和一七・三・中旬至同 四・中旬

地中海の海戦 四月二十二日より二十三日に亘り、東部地中海に於て伊軍は、約二十隻の軍艦及び商船より成る英護送船團に對し海戦を展開し、伊空軍雷撃機隊は繰返し護送船團を爆撃し巡洋艦一隻、艦型明確ならざる軍艦一隻並に一萬噸級船舶一隻を撃沈し、巡洋艦三隻、驅逐艦一隻、その他の船舶三隻に損害を與へた。

該護送船團は巡洋艦五隻、驅逐艦七隻輸送船八乃至十隻より編成され、蜿蜒たる縦列を作つて航行中のものであった。これを伊潜水艦がまづ發見し、その行動を監視した。二十二日朝、該船團はカタニアとベンガジとの間を航行中であつた。間もなく伊雷撃機編隊は之に攻撃を加へ、獨逸軍及び海軍も行動を共にして猛烈に攻撃した。攻撃はリビア方面及びシチリア方面より出撃した空軍により數次に亘り敢行され

噸を撃沈した。

した。艦は上陸戦による死者及び負傷者を伴つてをり、負傷者の大部分は重傷を負つてゐた。

獨潜水艦の活躍 獨潜水艦の活躍獨潜水艦隊は米本土沿岸に出沒、活躍を續け、米沿岸防備艦一隻、油槽船十四隻を含む商船二十八隻、貨物船一隻等を撃沈した。

地中海に於ては、獨潜水艦は強力な英護送船團を攻撃、四千噸級の油槽船一隻を撃沈し、また北阿ソルム沖でジャーヴィス級（一六九〇噸）英驅逐艦一隻を撃沈した。

英本土東方水域に於ては、哨戒艇一隻、驅逐艇二隻の護送を受けてゐる千五百噸級の英商船一隻を攻撃、右四隻を悉く撃沈した。

ソルム東方水域に於ては、強力な英護送船團を襲撃、驅逐艦一隻、五千噸級商船一隻を撃沈した。

北大西洋及び米國沿岸沖合に於ては油槽船八隻、合計七萬三千九百噸を含む米英貨物船十六隻、總計十一萬六百



島半ヤミリク

其六 自昭和一七・四・中旬至同 五・中旬

獨蘇戰爭 五月八日、獨軍及ルーマニア軍は、強力なる獨空軍部隊の援護下にケルチ半島に於て攻撃を開始した。かくて獨軍は、東部戦線の一角に於て冬季防衛の態勢から一變して、敢然積極的攻勢に出たものとおもはれた。夜に入つて攻撃は中止され、二十三日朝またもや再開、二十二日の戦闘に於て残存せる英小艦艇を破砕し、マルタ島補給の英國側の企圖を挫折せしめた。

英海軍の佛國上陸成らず 三月二十七日夜から二十八日未明にかけて、驅逐艦數隻及び多數の魚雷艇より成る英海軍部隊は獨潜水艦基地サン・ナゼールに對し敵前上陸を企圖した。獨軍は之に對し迅速なる逆襲を加へ目的を挫折せしめた。さらに英軍は舊型米驅逐艦を以て同港の閉塞を試みたが、目的點到達前に之を撃沈した。

該戦闘に於て、獨海軍部隊は英驅逐艦一隻、魚雷艇九隻を撃沈、同四隻を破壊し、他の部隊を遁走せしめた。而して獨軍はロアール河河口に上陸を企圖せる英軍を剿滅、百餘名を捕虜となし、右戦闘に参加せる英落下傘部隊を逮捕或は射殺した。

該敵前上陸に失敗せる英軍艦數隻は二十九日半旗を掲げて英國某港に歸還

る。これは、該半島に於て既に地上の各種條件が大規模作戦を可能とするに至らしめたこと、ソ聯軍が同方面に於て雪解け後強力なる陣地を設け、新たに多大の兵力を集中し多數の戦車、各種砲器を集め來つたので、まづ此の方面を攻撃する必要があつたことに起因するものと見られる。戦闘は開始以來激烈を極めたものゝやうである。

獨軍司令部は五月十三日特別發表をもつて、ケルチ半島に於ける赤軍防衛線突破作戦は成功した旨次の如く公表した。向去る八日開始されたケルチ半島における獨軍の赤軍防衛線突破作戦は今や獨軍の成功をもつて決定的に終了した。獨軍は同方面の赤軍を包圍殲滅し、現在までに赤軍將兵四萬を捕虜としたほか戦車百九十八臺、砲五百九十八門、飛行機二百六十臺その他多數の武器軍需品を擄獲、目下ケルチ港に向つて敗走する殘敵を急追中である。同じく十三日のソ聯軍當局發表に依れば、獨逸軍今回のケルチ島方面の攻

撃は昨秋以來最も激烈なもので、過去二日間の戦闘に於てソ聯は甚大な被害を被つた。

なほ、獨・羅兩軍のケルチ半島に於ける攻撃状態につき、獨軍司令部は同十三日次の如く詳細を發表した。

「ケルチ半島に對する攻撃は用意周到なる準備のち、五月八日早曉砲兵と空軍による攻撃によつて開始された。この初攻撃に乗り出した獨軍は前方に數千の地雷を敷設し、且廣い戦車壕によつて擁護され敵陣地に對し敢然攻撃に打つて出た。獨軍はこの奇襲において敵陣地を突破し深く敵地後方にまで突進した。攻撃第一日のこの成功に引つゞき第二日には獨羅快速部隊はさらに東方および北方に突進し、強力なる敵部隊の退路を遮斷した。

十一日には北方に進撃した獨部隊はアゾフ海岸に到達するに成功し、アクモナイ周邊において防禦中の敵部隊の後方連絡を遮斷した。他方西方より進撃せる獨羅兩軍部隊

は、包圍されたる敵各師團を極めて狭小なる地域に押しつめた獨羅兩軍によつて二方面より圍まれ、さらにアゾフ海の第三方面よりも包圍された敵軍は獨空軍にとつては好個の餌食となつた。すなはち獨空軍は全力をあげてこれに對し殲滅的攻撃を加へた。ソ聯軍は幾度か脱出を試みんとし、殊にアクモナイ周邊の敵は強力なる抵抗を試みたが、すべて失敗に歸し、包圍された敵諸部隊は殲滅あるひは捕虜の運命となつた。捕虜及び鹵獲品の數は刻々増すばかりである。

かくして包圍された敵各師團の運命が決したる一方、他の獨羅諸部隊は敗殘敵軍に對しケルチの方向へと間斷なく急追を試みた。

他方獨空軍は敵の抵抗を粉碎した後その攻撃の重點を敗走する敵軍の追求と殲滅とに置いた。この攻撃中概して天候は良くなかつたに拘らず、獨空軍は敗走する敵に對して重大なる損傷を與へるに成功した。敵後方の道路上に

於て東方に敗走中の多數の敵戦車、装甲自動車、またドイツの高射砲隊及び急降下爆撃機編隊も多數の装甲車及び砲兵陣地を破壊した。ケルチ周邊の水城にある敵船にも爆撃が加へられ、徹底的に破壊された。

本攻撃開始以來、空中戦に於て獨追撃機が撃墜した敵飛行機のみでも百八十三機に上る。

また今回の作戦に於て使用したと獨軍當局から發表された新兵器に就ては各方面から種々の報道が行はれてゐたが、獨軍當局は五月十五日、外國新聞記者會見の席上次の如き説明をなした。

「今回ソ聯が戰場に於て最も頼みとする戦車に對する新彈丸がドイツ側に於て使用され、偉功を奏してゐる。新彈丸は戦車に命中すると三千度の高熱を發するもので、五、六發によつて戦車は簡單に片づけられるといふ偉力を有してゐる。従つて從來の如く戦車によ

ち登つて手榴彈を投げ込むといふが如き手數はかゝらず、對戦車防禦方法が簡單になつた。これが今回の敵戦車殲滅百四十餘隻といふ數字となつて現れたのだ。ヒットラー總統の新武器の一つである。」

英佛海峡の海戦 獨軍司令部四月二十三日發表に依れば、獨哨戒艇隊は四月二十一日夜、英佛海峡水域で英水雷艇隊と數回にわたり遭遇戦を展開、これに多大の損害を與へた。

獨掃海艇隊も同夜北佛ブロイニユ沖に於て英快速水雷艇隊と會戦、内一隻を撃沈、他の二隻に大損害を與へたが獨側には一隻の損傷もなく基地に歸還した。この海上遭遇戦の間隙を利用して英軍の小部隊は北佛沿岸の一地點に上陸したが、獨沿岸防備軍により邀撃され大損害を受け、武器を遺棄して退却した。

撃沈された英米の諸艦 獨軍司令部五月四日發表に依れば、北氷洋の嵐と氷雪の中を獨海軍は空

軍と協力して數日間わたり有力な英護送船團を攻撃、獨一潜水艦は一萬噸級英巡洋艦一隻を撃沈、また獨驅逐艦隊は有力な英護衛驅逐艦を攻撃、その數隻に大損害を與へたほか護送船二隻一二、〇〇〇噸に魚雷を命中せしめ撃沈したものと推定される。獨驅逐艦一隻も損害を蒙つた。右の外獨潜水艦は彈薬を積載した汽船一隻六、五〇〇噸を撃沈他の一隻にも魚雷を命中せしめまた獨爆撃機は運送船三隻計一九、〇〇〇噸を撃沈、大型一隻にも大損害を與へた。

四月二十六日、英海軍省は英驅逐艦サウス・ウォルド號が撃沈された旨發表した。(新聞報)

英海軍省は五月七日、英一萬噸級巡洋艦エジンバラ號が北氷洋に於て樞軸軍のため撃沈されたと發表した。

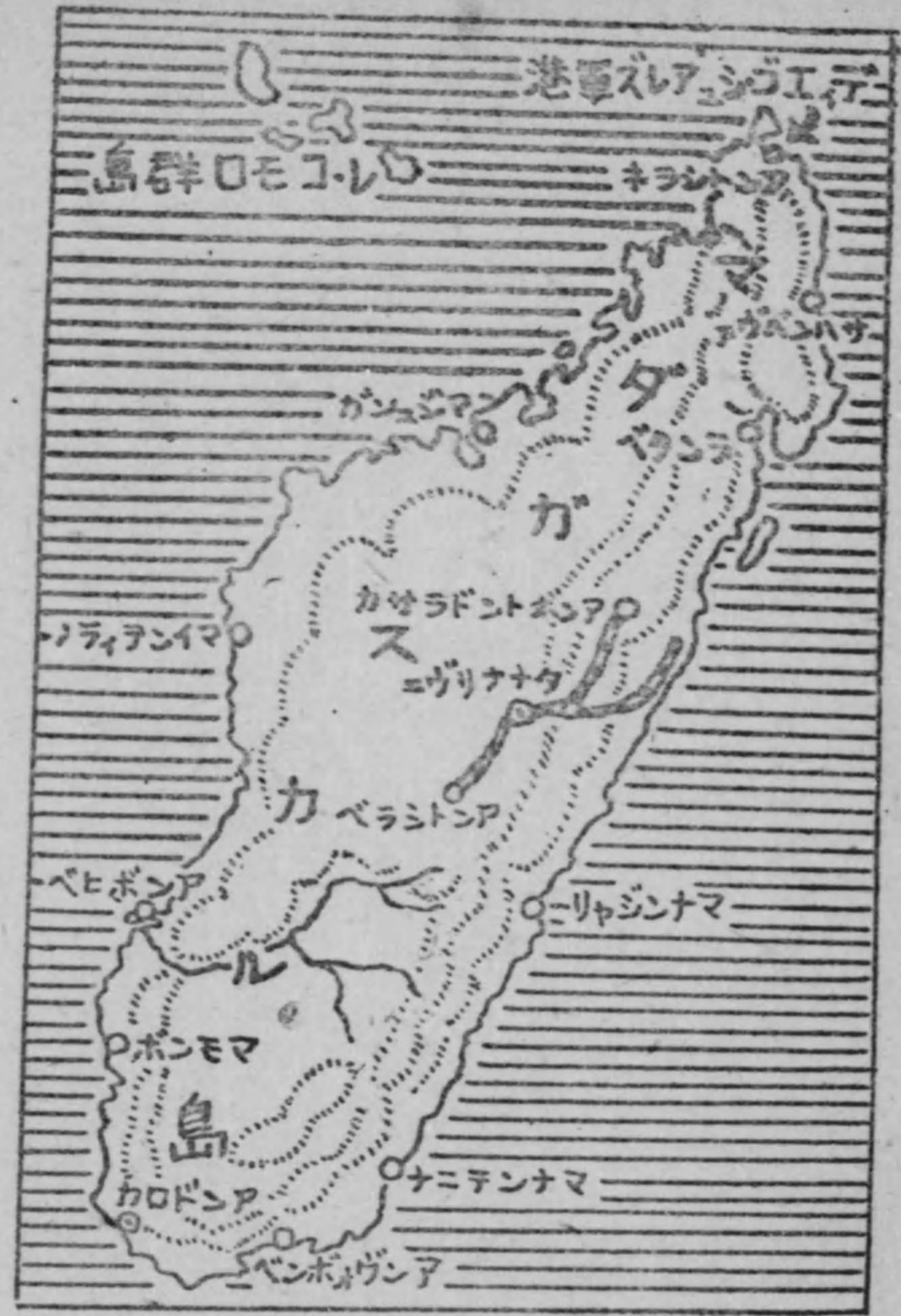
なほ該省は、右巡洋艦のほかに英艦船五隻が同じく北氷洋上に於て撃沈され、他の英艦艇にも損害があつた旨附加してゐる。(新聞報)

英側情報に依れば、英海軍省は五月十二日「英驅逐艦三隻は十一日夕刻地中海に於て獨機の攻撃を受けて沈没した。右はライヴリー、ジャツカル、キツプリングの三艦である。乗組員五百人以上が救助された」と發表した。(新聞報)

獨軍司令部五月十五日發表「獨空軍は十四日ノルウエー北端のノースケーブとスピッツベルゲン間の 上で米國艦隊を攻撃、ペンサコラ級大巡洋艦(九、一〇〇噸)一隻及び驅逐艦一隻並に碎氷船商船各一隻を撃沈した。(新聞報)

英軍マダガスカル島侵攻 英米側はかねてより佛領マダガスカル島を反樞軸の陣營に引入れて領勢を挽回せんとしてゐたが、ラザアル佛内閣が成立するや該島乗取り工作を更に一步を進めた。南阿聯邦の對佛斷交即ち之である。

五月五日拂曉、英陸海軍部隊は不法にも突如マダガスカル島に上陸作戦を



敢行した。マダガスカル島北端の強固な防備施設をもつたデイエ・ゴシユアレ軍港附近に上陸したもので、巡洋艦二隻、驅逐艦四隻、輸送船二隻を含む海軍部隊及航空母艦からの飛行機の掩護の下に約二萬の英軍が落下傘部隊を先發隊として上陸したものである。

そしてベタン佛國家首席及ダラン提督は即時マダガスカル島總督に對して佛國の名譽にかけて全力を盡くし抗戦せよ、と激勵した。英佛兩軍の現地に於ける實効力が甚だしく相違しある爲果して久しく佛軍がその侵略を阻止し得るやは疑問とされるが、佛軍は本國

よりの至急救援の至難なるにも拘はらず頑強に抵抗を續けてゐたが九月末英軍は山中の首都タナリダオを占領した。

(参考)

開戦以來沈没せる英巡洋艦

獨軍當局は五月四日一萬噸級英巡洋艦一隻(艦名不明)を撃沈した旨發表したが、之により戦爭勃發以來英國海軍巡洋艦沈没合計隻数は十九隻となつた。右沈没艦名並に噸数は左の如し。
エフィンガム(九、五五〇噸) カリプソ(四、一八〇噸) サザムプトン(九、一〇〇噸) ボナヴェンチャー(五、四、五〇噸) グロスター(九、四〇〇噸) ファイジ(八、〇〇〇噸) ヨーク(八、二五〇噸) カルカッタ(四、二〇〇噸)

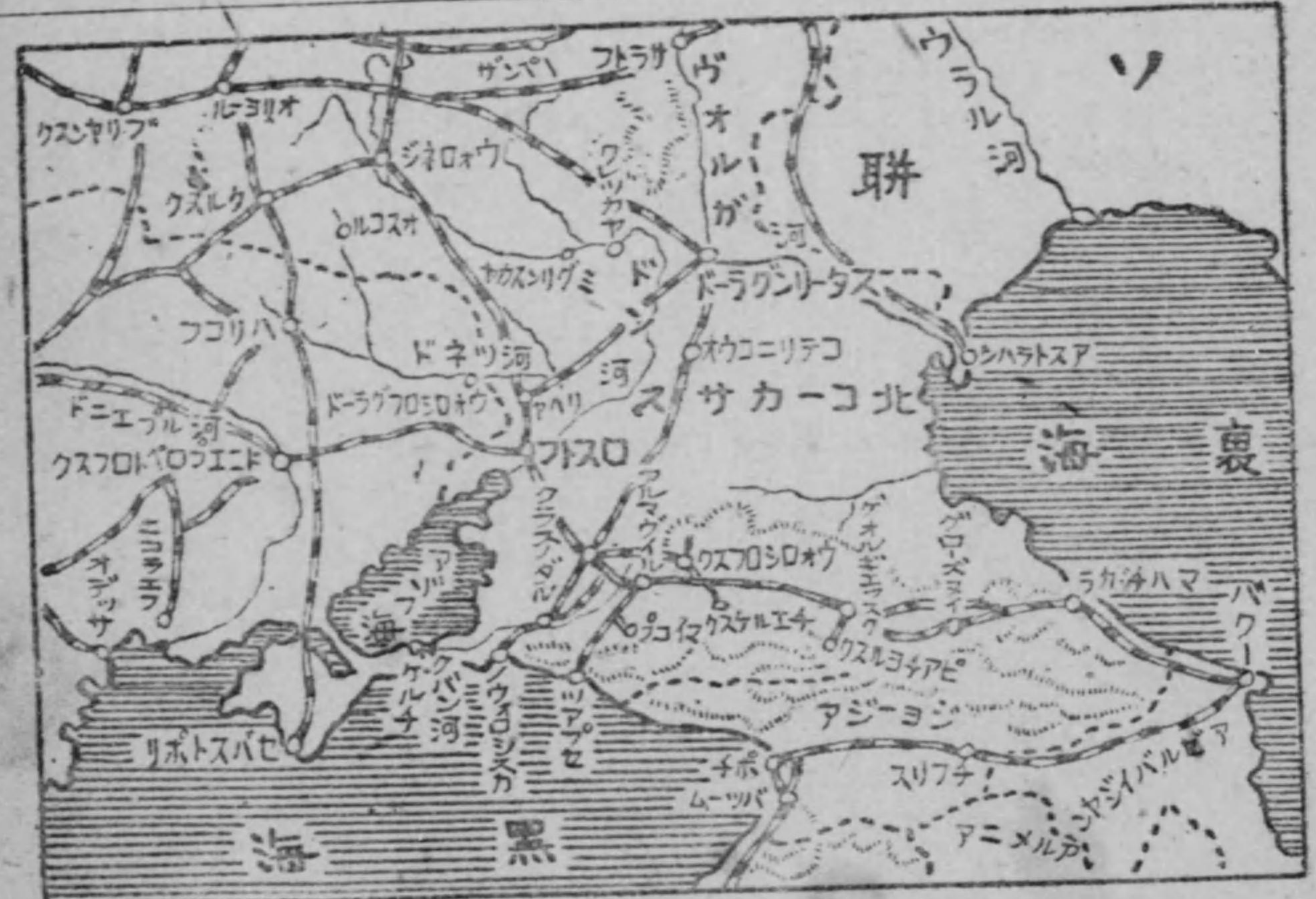
(新聞報五・六)

- 頓) ダニールティン(四、八五〇噸) シドニー(六、八三〇噸) ネプチューン(七、一七五噸) ガラテア(五、二二〇噸) ナイアッド(五、四五〇噸) ドーセットシャー(九、九七五噸) パース(六、九八〇噸) エキゼター(八、三九〇噸) インウォール(一〇、〇〇〇噸)

其七 自昭和一七・五・中旬 至同 六・中旬 獨蘇戦争

(一) ケルチ攻略

五月十三日以後、獨軍はクリミヤ半島の西端ケルチ要塞市に對して集中攻撃を加へ、同十五日遂にケルチ市に突入し、市街・港灣等を占領、十九日には該市兩側の要塞陣地をも激戦の後奪取し、かくてケルチ攻略戦は完了した。此の方面の戦闘に於て、獨・羅軍は蘇聯軍歩兵十七個師三個旅團、騎兵二個師及び戦車隊四箇旅團を殲滅した



十九日獨軍司令部特別發表に依る戦果左の如し。

敵戦死傷者多數、捕虜十四萬九千二百五十六、鹵獲品砲一千三百三十三門、擲彈筒三百七十二、戰車二百五十八臺、自動車三千八百十四臺、馬四數千、その他武器多數。なほ、空中戦で空軍部隊は蘇聯機三百二十三機を撃墜せるほか、獨軍はケルチ半島周邊水域で蘇聯船十六隻、合計一萬三千六百噸及び水雷敷設艇一隻、沿岸監視艇二十一隻を撃沈するとともに中型船十隻を大破した。

(二) ハリコフ方面

一方、ケルチ半島戦ともにも獨蘇南部戦線のハリコフ地区に於て一大激戦が展開された。即ち、チモシエンコ元帥麾下の蘇聯軍は、十八日以來百萬の兵力を以てハリコフ附近に大包圍網を擡げ、五十二噸の超重戦車以下多數の戦車を集めて大反攻に出で、之に對し獨軍はポック元帥麾下の機械化大兵團を以て對抗、こゝに一大戦車戦が行はれた。

獨各紙は、二十日初めて上記五十二噸の新型戦車に就ての説明を載せてゐる。右に依ると、この新型戦車は長さ七ヤード(約二十一尺)高さ四ヤード(十二尺)幅四ヤード餘で無限軌道の幅は一フイート餘、装甲は正面四インチ、側面三インチである。最大時速は三十二キロに達し、イソム砲及び機銃二を備へてゐる。此の戦車一臺分の材料で電車一臺とレールを二百ヤード敷設す

ることが出来るといはれる。獨軍司令部は五月二十三日午後同日現在の獨蘇戦線綜合戦況を左の如く發表した。

(一) 去る五月十二日ソ聯軍の攻撃をもつて開始したハリコフ地区の戦闘は、二十三日の戦果をもつて實質上ドイツ軍の完全勝利に歸した。即ち同地区防衛のドイツ軍は開戦後五日目の十七日すでに防勢を攻勢に轉じ更にソ聯軍の後方連絡遮断と同時に前線部隊を包圍殲滅、過去二日間においては獨蘇聯合軍は大攻勢を展開ソ聯軍を完全に撃退した。同戦闘におけるソ聯軍兵力は、歩兵二十ヶ師團、騎兵三ヶ師團、戦車十五旅團に達し、その被害極めて甚大であつた。(二) 去る十四日より二十三日に至る十日間の東部戦線におけるソ聯空軍の彼つた飛行機撃破数は四百五十二の多數に上り、一方ドイツ空軍の損失は四十五機であつた。ハリコフ戦線の死闘は二十三日あた

り最高潮に達した模様である。

二十四日、獨軍はハリコフ南方に於て赤軍三軍團を完全包圍、大激戦を展開し、二十九日ハリコフ附近の大包圍殲滅戦は、獨軍大勝の裡に終結した。ヒュット大本營は三十一日ハリコフ大砲圍殲滅戦の赫赫たる獨軍綜合戦果を次の如く發表した。『ハリコフ周辺の大激戦はいまや獨軍の赫赫たる勝利をもつて終結した。わがフォン・ポック元帥指揮下の正面戦區においてクライスト上級大將麾下の獨軍團、パウルス將軍麾下の獨軍部隊はソ聯軍の激烈なる大規模攻勢に遭遇せる獨軍の防禦作戦をソ聯軍に對する一大包圍殲滅戦に逆轉させ輝かしき戦勝を獲得した。コルネリエ・ドラガリナ將軍麾下のルマニア軍一軍團並にハンガリア、イタリアスロヴァキアの諸軍各一部隊も獨軍と相協力して戦ひその軍旗に新たなる榮光を加へた。レール上級大將、フルーグバイル大將麾下の獨空軍は、はやくも戦闘開始當初において完全なる制空

權の獲得に成功、ソ聯軍に對する假借なき攻撃によつて地上作戦を援助した。右戦闘において歩兵約二十ヶ師、騎兵七ヶ師、戦車十四ヶ旅より成るソ聯軍第六、第九、第五十七の各軍團は完全に殲滅された。ソ聯軍捕虜は目下二十四萬の多數に達し敵軍の受けた流血の損害は極めて甚大である。わが軍の肉獲または破壊せる敵軍事資材は装甲戦闘車輛千二百四十九、砲二千二十六、飛行機五百三十八、其他の小兵器は枚舉に暇がない。

(三) セバストポリ攻撃開始

獨軍當局は五月二十二日、獨軍はケルチ方面作戦を完了し、獨空軍は更にクリミア半島西南端のセバストポリに對し大爆撃を開始、蘇聯殘敵防衛軍に大損害を與へてゐる旨發表した。

六月十日の獨軍司令部發表に依ればセバストポリ攻略戦において空軍の有効なる掩護をうけた獨軍は激戦の後數要塞を奪取するに成功した。

同じく十四日の獨軍司令部發表に依れば、セバストポリにおいては激烈な戦闘が繼續してゐる。ドイツ軍はソ聯軍陣地へ次第に深く突入、同市周辺の多數堡壘を攻撃しつゝあり、十四日にはそのうち特に重要なスターリン堡壘を占領しこれを奪還せんとする敵の逆襲をすべて撃退した。この反撃によつて敵は甚大な損害を蒙つた。ドイツ空軍は地上部隊の掩護に當つてゐるが、また同港入口において一萬噸級船舶一隻を撃沈した。

伊空軍、地中海に活躍

イタリア軍司令部は六月十五日特別コンミュニケをもつて、イタリア空軍はチュニス附近の地中海水域においてイギリス巡洋艦二隻、驅逐艦一隻を撃沈並に戦艦一隻、巡洋艦二隻、空母一隻を大破した旨次の如く發表した。

「イタリア空軍偵察機は去る十三日チュニス附近の地中海を折柄航行中のイギリス護送船團を發見、直に爆撃機および雷撃機の編隊が大舉出動、



これと死闘を交へた結果、イギリス巡洋艦二隻、驅逐艦一隻を撃沈、更に空母一隻、戦艦一隻、巡洋艦二隻に魚雷を命中大破、また敵空母艦載機との空中戦においてイギリス機十五

機を撃墜した。」
英巡洋艦の損害 (一) 英海軍省は英巡洋艦ベネロビー號(五、二七〇噸)がマルタ島のラヴァレッタ港に碇泊中、獨伊空軍の猛爆を受けて大損害を蒙つた旨五月二十五日發表した。(二) 英海軍省は英巡洋艦トリニダッド(八、〇〇〇噸)が撃沈された旨六月一日發表した。但し撃沈の日時および場所は公表されてゐない。

其八

自昭和 一七・六・中旬
至同 七・中旬

獨蘇戰線 獨軍はケルチ作戦終了するや、セバストポリ要塞に猛烈な砲撃爆撃を加へてゐたが、逐次攻略の歩武を進めた結果、七月一日遂に之を攻略した。セバストポリには蘇聯黒海艦隊が駐屯してゐた。主力艦一隻、巡洋艦七隻、潜水艦四隻より成るものであるが、是等はノヴォロシイスク港方面に逃れたであらう。

ヒトラー總統大本營は七月一日夜次

の如くセバストポリ占領を發表した。(一) セバストポリ攻撃のフォン・マンシュタイン將軍麾下の獨羅軍はリヒトホーヘン大將の指揮する空軍部隊の有効なる掩護下に猛攻二十五日間、遂に世界最強を呼號せるセバストポリの赤軍要塞を完全に攻略、要塞地・市街・港灣各地の空高く感激の獨羅兩國旗を懸へした。(二) セバストポリの防衛陣地は堅固な保壘、岩山を穿つた石の要塞或は地下要塞、コンクリートで固めたトーチカその他無数の要塞をもつて武装したもので、攻撃に参加したドイツ、ルーマニア兩軍隊は空陸呼應の完全なる協同作戦下に死を恐れぬ戰鬥精神を以て之を猛攻、奪取したものである。

而して獨逸軍當局七月一日正午の發表に依れば、ドイツ軍は同日正午セバストポリ市を一舉に占據するとともに同日拂曉より東部戦線に互つて愈々對ソ總攻撃の火蓋を切つて落し、今や東部戦線二千五百キロの全線凄壯の殺氣

に満ち、ドイツ軍は赤軍の徹底的殲滅を目指して必死の奮進を開始した。かくて獨軍は、ケルチ、セバストポリを攻略することに由り、黒海方面を清掃し、後方連絡の障礙を除くともこれに前進基地をたらしめ、他方北氷洋に於ける逆封鎖を強化して米英の援蘇物資流入を断ちつゝ、東部戦線大攻勢の火蓋を切り、ハリコフ・クルスクの線に先づ猛攻を起した。これ實に兩都間二百キロの線が蘇聯戦線にとつて中央部の薄弱點を成してゐたに由るものとおもはれる。

クルスクの東方百二十五キロのスターライ・オスコルを攻略した獨軍は、ここから三方面に分れて進み、一軍は獨軍司令部七月七日發表に依れば、ドン河を突破、敵の頑強なる抵抗を排除、七月七日遂にヴォロネジ市に突入、之を完全に占領した。一軍は南東百キロのオストロゴシスクに迫り、更に一軍は南々東百八十キロのロツソシを突き、またヴォロネジを攻略した軍の一部は、

南方百キロのオストロゴシスクを突く體制をとつたと傳へられる。またハリコフ東方のクビヤンスクを攻略した爲軍は、北東百五十キロのロツソシを七月九日に陥入れたといひ、蘇聯軍を三角形地帯に包圍殲滅せんとする爲軍の形状が判然と看取される。

また七月十一日爲軍發表に依れば、獨空軍は新攻勢開始以來、最初のコーカサス爆撃を行ひ、コーカサス海岸の港灣設備に爆弾の雨を降らせた。而して、獨軍司令部七月十八日發表に依れば、獨軍機甲部隊と歩兵快速部隊はドン河下流に到着、また獨軍は十七日歩兵部隊を以てヴォロシロフグラードを占領した。

北阿戰線 北阿に於ける獨伊兩軍の英軍追撃戦は、沙漠戦の特性として補給の困難から、決定的戦果を収め得なかつた。併し、五月二十六日マルマリカに對して開始された樞軸軍の大攻勢は本格的で、間斷なく續けられ、六月二十一日トブルクを奪還した。之に關

する公表次の如し。

獨軍司令部六月二十一日特別發表「ロメル將軍麾下の獨伊軍は二十日トブルク要塞に對し猛攻を加へ、その大部分を占據、二十一日早朝英軍使は伊軍參謀に同要塞の完全降伏を申出た。よつて獨伊軍は直ちに同市並に港灣を占領し、將官數名を含む二萬五千の英軍を捕虜とした。獨伊軍の鹵獲した武器彈藥は莫大な數に達してゐる。獨伊軍は東方に遁走する英軍を急追し、エルジャ並にビル・エル・ゴビを占領した。伊軍司令部六月二十一日正午發表に依れば、二十日獨伊軍とは英軍激戦を展開、これを粉碎した結果、二十一日午前七時英軍はトブルク要塞司令官の名に於てわが二十一軍團指揮官に對し正式に降伏を申出た。また伊軍機械化部隊は同日エジプト國境西方十六キロのバルジオを占領した。

樞軸軍は更に敗殘の英軍を追及し、二十九日には早くも要衝マルサ・マトルーを攻略した。之に關する獨軍司令

部六月二十九日特別發表、次の如し。

「北阿の獨伊軍精銳部隊は二十九日早朝エジプト防衛の要衝マルサ・マトルーを遂に電光石火的に占領した。イギリス軍は獨伊軍の猛攻を阻止すべく必死に抵抗したが、わが精銳なる獨伊軍はこれを物ともせず、強襲に次ぐ強襲をもつて遂に敵軍を壓伏せしめて同市を攻略した。右攻略に當つてドイツ軍第十九師團の諸部隊は赫々たる武勳を擧げた。現在までのところ獨伊軍の獲得した敵捕虜は約六千、戦車三十六臺その他軍需品は多數に上つてゐる。」

かくて、英國にとつては、アレキサンドリア軍港並にスエズに對する空襲の脅威が切迫し、英國地中海艦隊の活動力甚だしく削減されたるに反し、獨伊軍の兵站輸送線的安全性は増大し、スエズ攻略延いて地中海制壓の態勢は次第に完備されるに至つた。且つまた英國側は埃及防衛のためシリア及イラク駐屯軍の一部を割愛せねばならなくなり、この方面の防備の手薄に乗じ、

やがて西亜各地にも漸次戦機が熟し、スエズ海峡作戦の展開が豫想されるに至った。

地中海の海空戦

地中海の戦局に關して、更に公表があつたので左に掲記する。

獨軍司令部發表(一)地中海方面に於て伊海空軍と緊密なる協同の下に作戦中の獨空軍大編隊及び獨海軍部隊は英海軍並に敵船群に甚大なる損傷を與へた。正ち大西洋より來航の護送船團に對する既報伊軍攻撃の大戦果とは別個に有力な海軍部隊の護衛の下にアレキサンドリアより來航せる英護送船團をも完膚なきまでに撃滅した。(一)六月十三日より同十五日に至る三日間に互り獨空軍及び海軍部隊は間斷なくこの護送船團を攻撃、巡洋艦及び驅逐艦四隻、護送船二隻及び商船六隻、合計五萬六千噸に上る艦船を撃沈した。(一)驅逐艦一隻、商船八隻は雷撃を受け火災を起し或は大損傷を受けたので是等の艦船もまた全部撃破されたもの

と認められる。(一)他の軍艦六隻及び商船六隻もまた爆撃乃至雷撃によつて大損害を受けた。(一)護送船團を護衛中の英戦艦三十三機は空中戦に於て撃墜され獨軍も十機を失つた。(一)護送船團の残存艦船は支離滅裂となつて退散した。(一)今回の護送船團攻撃に際しシユケ司令官麾下の獨潜水艦は英巡洋艦一隻を撃沈、緊密なる協同作戦の妙を發揮した。(伯林六・一六發同盟)

伊軍司令部六月十六日發表(一)地中海に於ける大海空戦は伊海空軍の赫赫たる戦果をもつて昨夜終了した。(一)六月十五日朝、輕巡洋艦二隻及水雷艇五隻より成る伊第七海軍部隊はジブラルターよりマルタ島に向け航行中の敵有力護送船團に對し猛烈果敢なる攻撃を行つた。敵船團は巡洋艦二隻、水雷艇十三隻及び驅逐艦數隻より成る護送艦艇を有し、數に於て遙かに優勢であつたが、我が方の攻撃により戦列を亂し、煙幕を張つて遁走を企てた。爾後

の戦局に於て伊巡洋艦ユーージニオ・デ・サヴォイア號及びモンテ・クッコリ號は敵巡洋艦一隻に集中砲火を浴びせ、これを撃沈したほか驅逐艦二隻を大破他の巡洋艦及び驅逐艦各一隻に魚雷攻撃を加へ、更に驅逐艦一隻に砲火を集中、これを撃沈した。なほマルタ島東西部に於ける戦局に於てわが重巡洋艦は敵空中魚雷を受けて撃沈され、一方水雷艇一隻は大損傷を蒙つたが、辛うじて基地に歸還した。(一)アレキサンドリアよりマルタ島に航行中の他の敵船團に對しては我が爆撃機及び潜水艦が襲撃を加へ甚大なる損害を與へた。(一)六月十四日地中海西部に於て、英空軍は更に七機を喪失、さきに發表したものを合せて二十七機を失つたこととなる。なほ昨日の戦局に於て敵は十九機を喪失、我方の歸還せざるもの四機であつた。

(備考) 北阿に於けるトルク、マルサ、マトルー占領等の樞軸側の大捷の原因は左の諸項に依ると傳へら



獨蘇北方戦線圖



タスリーグンラド附近圖

る。

- 一、英軍の補給戦が、同國地中海艦隊の退却によつて不利となれること。
- 二、印度洋に於ける日本潜水艦の脅威も之に影響を與へてゐること。
- 三、英軍側に戦闘機の少かりしこと之れは航母を以て海岸に近づき、之を放つことも出来なくなり又西阿利加沿岸から空襲することも

不可能なりしこと。

- 四、獨逸軍のロメル將軍の手に成る冷房裝置附戦車及び對戦車砲の大威力あるもの、創製されたこと。
- 其九 自昭和一七・七・中旬至同 八・中旬
- 獨蘇戦線 昨多獨軍はロストフ市に一時入城したが、作戦上放棄した。ソ聯軍は該市の防備を新たに守り、

ソ軍の線は之を軸としてヴォルガ河方面に後退してゐたが、獨軍はロストフ市を遮二無二奪取すべく猛攻撃に移り本年七月下旬に入るや、樞軸聯合軍は西・北・東の三方より該市を包圍し、集中總攻撃を開始した。七月二十二日獨軍及び樞軸同盟軍は強力なるソ聯軍防禦線を突破し、ロストフ市街に到達而して二十四日、該市は陥落した。之に關する獨軍司令部同日特別發表左の

如し。

獨軍とスロヴァキヤ軍より成る樞軸同盟軍は空軍援護のもとに二十四日午前ロストフの堅固なる赤軍防備線を激戦の後全面的に撃破して市中に突入、コーカサスの北門ドン河口の水陸交通の要衝たるロストフ市を占領した。目下市中の赤軍残存兵の掃蕩戦が行はれてゐる。

ロストフ市の喪失はソ聯の工業的能力を甚しく弱めたに相違ない。即ち、該市がコーカサスへの門戸をなしてゐるといふ事のみから觀てもソ聯の蒙る打撃は重大であらう。

一方、獨軍の鋭鋒はスターリングラード市にも向けられたが、七月下旬に至るや、急進中の獨軍快速部隊は同市北西方八十軒の地點に到達し、數日後獨軍並に樞軸同盟軍はカラチ方面の作戦で、同地南方に於てドン河の強行渡河に成功、スターリングラード、クラスノダル鐵道上の戰略的要衝プロレタルスカヤに突入、完全に之を占領、

同鐵道の遮断に成功した。これに由り北コーカサス西部はソ聯本土より完全に孤立化したわけである。獨軍は更に餘勢を驅り進撃を續行七月三十一日未明、一舉にサリスタ市に突入した。

八月二日ヒ獨總統大本營は、スターリングラード西方正面のドン河彎曲部に於て獨伊兩軍が對岸一帯に於けるソ聯軍重要陣地を完全占領せる旨正式發表した。該大本營が特に斯かる發表をなしたことはフオン・ボック元帥が同地點よりスターリングラードに對する大攻撃開始の決定的據點を確立し得た證左と觀られ、茲に獨軍はスターリングラード市を僅か五十軒の前方に望み該市の總攻撃態勢は成つたものと觀測されるに至つた。

スターリングラードこそはソ聯重工業の中心たるのみならず、コーカサスとソ聯本土を結ぶ最後の要衝であり同時にソ聯交通の大動脈たるヴォルガ河の要點をも成すものと云ふべく、従つてスターリングラード攻防戦はコー

カサス作戦を決定づけるであらう。

コーカサスに進撃を續行中の獨軍は激烈な市街戦の後重要工業都市ウオロシフスクを占領、次で北コーカサスの重要鐵道連絡點チホレツカを占領し、黒海、裏海を繋ぐ大鐵道線路を切斷した。更に獨軍はアゾフ海の要港エイスク及ロストフバクラー鐵道の要衝アルマゲイルを占領、獨機械化部隊は尙も破竹の進撃を續け、八月九日要衝ピヤチゴルスク(アルマゲイル東南二百軒)に到達、激戦の後これを占領、同日夜獨軍機械化部隊はマイコープ油田地帯の中心部たるマイコープを遂に占領した。而して十五日にはロストフバクラー鐵道の略ぼ中間ゲオルギエフスクを占領した。

他方、マヌイチ運河北方で作戦中の獨軍は迅速果敢な急進撃を續け、遂にカルムイク自治共和國の首都エリスタ(アストラハン西方二八〇軒)を占領した。かくて北コーカサスに於ける獨軍の

作戦は終末に近づきつゝあり、バクー、グロズヌイ、アストラハンの制壓も近く行はれるであらうから、モスクワの危険は愈々増大するであらう。他方北阿に於ても樞軸軍は進撃を續行してゐるので、やがて英國の一牙城たる西亜・中亞に迫るを思ふ時、コーカサス作戦と關聯して歐洲動亂の歸趨が注目される。

西地中海の海空戦

英國は埃及に於

て逼迫状態に陥つた同地英軍を救ふべく、二十一隻から成る大型貨物船を中心に戦艦三隻、空母四隻、その他多數の巡洋艦、驅逐艦數十隻、小艦艇數隻を配する合計四十六隻の大護送船團を形成、地中海を経てアレキサンドリアに向け航行せしめつつあつたが、伊軍潜水艦隊に偵察機隊は八月十一日早曉、西部地中海水域でジブラルタルより東方に向つて航行中の該船團を發見、獨伊空軍は緊密な協力の下に該水域で之を邀撃、強烈な敵の抵抗を冒して果敢な戦闘の後、獨潜水艦は英航母

イーグルに魚雷四發を命中せしめて撃沈し、又獨海空軍は商船四隻を撃沈した。

該海空戦の戦果、獨伊兩軍司令部發表によれば、大體左の如し。

撃沈 巡洋艦三隻(マンチエスタを含む) 航母一隻(イーグル) 驅逐艦二隻、輸送船九隻、商船二十二隻

破損 戦艦二隻(大破) 航母二隻(英フネリアス及び米ワスプ型であり、前者は大傾斜し、後者は爆弾大の直撃を受けて大火を發しマルタに向け遁走) 巡洋艦三隻、大型輸送船、油槽船六隻、輸送船若干隻(マルタ島に到着)

撃墜 英飛行機四十二機

なほ辛うじて獨伊軍の攻撃を免れた英殘存艦隊はジブラルターに歸港

其十

自昭和一七・八・中旬至同 九・中旬

獨蘇戰線

スターリングラード攻防

戦は、獨・蘇兩軍ともに主力を動員して龍虎相搏つ一大血戦を演じてゐたが八月十七日、ドン河彎曲部全地域は完全に獨軍の手中に歸した。十八、十九日クレツカヤ方面の獨軍は蘇軍の頑強な抵抗を排してドン・ヴォルガ兩河間に構築された半永久陣地を奪取し、二十日、ス市南方のコテルニコフ方面の獨軍は蘇軍の陣地に突入した。かくて獨軍は此日以後、空軍を總動員してス市内外に晝夜を分たず猛烈な爆撃を續行、該市に大火災を生ぜしめると同時に軍需工場其他の軍事施設に多大の損害を與へた。八月末スターリングラード地區に於て獨歩兵師團及び機動部隊は、強力なる獨空軍部隊の援護下に、強固な赤軍防備陣地を突破した。九月に入るや獨戰車部隊はス市西郊に到達、堅固な赤軍防衛陣を猛爆の後突破、ス市を眼下に俯瞰する高地上の重要陣地を占領した。中旬に至り、獨軍は遂にス市南部に突入、激戦の後十五日

該市中央停車場を奪取した。廣大なる獨蘇戦線の總てから、戦局の重要性は次第にス市に移り今やス市は獨蘇全軍の決戦場としての様相を呈するに至つた。ス市を獨軍が占領すれば名實共にコーカサスは孤立し、獨軍は南北何れに向ふも自由となる譯である。

一方、獨軍はルーマニア軍と協同して、ノヴォロシスク軍港の陸海要塞を攻略したる旨、獨蘇統大本營は九月六日發表した。該港を攻略した獨軍歩兵部隊は更に南下進撃を強行、激戦の後十二日該市南方の沿岸要塞を占領した。

かくて獨軍は北コーカサス西部の完全制壓と呼應して、東部カスピ海邊に迫りつつあり、ス市の陥落また刻々に切迫の状態にあれば、日ならずして北コーカサス全部の制壓を見ることであらう。

北阿戦線 埃及のエル・アラメイン戦線は、七月頭初以来膠着状態に陥つ

舟五隻の輸送船に分乗した英軍主力は、獨軍の砲火並に空襲により多大の損傷を受けて敗退、獨空軍は之を追撃して反覆爆撃を行つた。英側の損害は次の如くである。

- 地上砲火による撃沈 驅逐艦三隻、水雷艇二隻
- 空軍による撃沈 驅逐艦一隻、快速水雷艇一隻、護送船一隻、輸送船五隻
- 空軍による損傷 巡洋艦四隻、驅逐艦四隻、快速水雷艇四隻、曳行船一隻
- 上陸用舟艇一隻、輸送船五隻
- 一、十九日夜獨蘇艦隊は上陸待機中の英艦隊を奇襲し、英兵を満載せる上陸用舟艇一隻、大型砲艦二隻を撃沈、大型船一隻、快速水雷艇數隻に損害を與へた。

マダガスカル島再攻撃 ギイシー政府は、英軍及びド・ゴール軍が九月十日佛領マダガスカル島に對し不法攻撃を開始せる旨發表した。之に依れば、九月八日ド・ゴール軍はマニガ北方十五キロの地點に上陸作戦を企圖したが

てゐたが、八月三十一日未明、ロメル元帥麾下の獨伊軍はアレキサンダー麾下の英軍に對し猛攻撃を開始した。戦闘はなほ繼續中であるが、戦況は樞軸側に有利である。アレキサンドリア港スエズ運河の制壓を目ざして進んでゐるものと思はれる。樞軸軍はマルサマトルーの占領以來、戦車を主力とする機械化師團の充實並にその他兵力の増強を始め陣容の建直しに忙殺されたためか、一時鋭鋒を休めてゐたが、それ等の整備と共に、酷暑の季節過ぎたので、右の如き活動を開始したものと推測される。

デ・エツプ上陸作戦 英、米、カナダ、ド・ゴール各軍より成る約一個師團の上陸部隊は、八月十九日早朝、北佛デイエツプ市の海岸に上陸したが、獨軍沿岸警備隊の爲め同日午後四時以降、敵は大陸に一兵も残さぬ程度まで完全に掃蕩され、捕虜千五百人と多數の死傷者、武器を残り、更に艦船十數隻を撃沈破されて目的を達せずして敗

退した。

獨軍當局は八月二十日、デイエツプ上陸に失敗して遁走した英艦隊に對し引續き猛爆を加へた旨、次の如く發表した。

「獨逸空軍は廿日デイエツプ上陸戦に失敗して遁走せるイギリス艦隊を追跡し、ボーツマスの軍港及びドックをはじめ英南部海岸の軍事目標に對し痛撃を加へた。その際わが方は十九機を喪つた。なほデイエツプの戦闘に於てわが戦闘機隊及び高射砲隊は、イギリス機百十二機を撃墜、これに對し、わが方は僅か十七機を失つたに過ぎぬ」

なほ、獨軍司令官特別發表に依る英側の損害次の如し。
デイエツプ英軍上陸部隊掃蕩戦に於ける獨軍の死傷者は總計四百名に過ぎなかつた。佛沿岸の軍事基地、砲兵陣地鐵道施設は獨軍の勇戦により何等の異常はなかつた。多數の巡洋艦、驅逐艦その他の護送艦艇に護られ、後續部隊として待機中だつた

獨蘇戦線 スターリングラード攻防

戦は、獨蘇兩軍ともに死力を盡して戦ひ愈々最終段階に入つたとおもはせるものあり、獨軍は蘇軍がス市に構築せる堅牢な要塞と多數のトーチカ及び鐵條網の内外側に敷設せる數十萬の地雷を突破して該市に突入した。之に對しヴォルガ河を控へて背水の陣を布いた蘇軍は、昨秋のモスクワ戦に於けるが如く獨軍の大攻勢を食ひ止めんと必死の防禦陣を布いて力戦これ努めた。蘇軍にとり最も苦手なのは獨空軍である。制空權は獨軍が大體握つてゐるので、獨機は縱横に蘇軍陣地の上を飛び交ふので、蘇軍は極めて不利に陥るのである。獨軍は猛爆を加へ、分厚き彈幕を張り、蘇蘇守備軍の戦意喪へたりと看るや重輕戦車を以て突進、一角に間隙を作り、此所より歩兵隊は各種の兵器に擁護せられつゝ突貫、自兵戰に依り蘇兵を撃破、擲彈を使用してトーチカ、永久濠に突入するといふ戦法を採つたもののやうである。

其十一 自昭和一七・九・中旬至一〇・中旬

かくて、獨軍ス市突入後、獨軍の作戦は蘇聯軍をヴォルガ河の線に押し著け之を殲滅せんとするにあるものの如く、二十日以後も市街戦は猛烈に續行された。二十五日、獨軍は相繼いでヴォルガ河畔に到達したが、ス市に籠城する赤軍は依然猛烈に抵抗し、二十八日、獨軍はス市北部區域の蘇聯防衛線を撃破前進、三十日、該市攻防戦は中央部に移行、獨機千臺は集中大爆撃を敢行した。

其後、該市攻防戦は一進一退の激戦を續けたが、獨軍の著實なる前進により漸次包圍圈は縮小された。之に對し蘇聯軍のス市北方よりする牽制作戦は次第に威力を失つたが、其の原因は連日の戦闘に由る兵器・彈藥の消耗と兵士の疲勞にあるものゝ如くである。かかるうちに十月八日、獨軍スポークスマンは次の如く言明した。

「ス市攻略戦は今や大轉換の機に達した。ドイツ軍はすでにス市の中心部を占領するとともにヴォルガ河右岸を制

壓してス市残存ソ聯軍への補給路を完封するに至つた。これをもつてドイツ軍の本格的攻勢は終了したと稱してよく、今後はス市の工場地帯の一角に残存するソ聯軍陣地に對して系統的な集中砲撃と空軍の猛爆を續行、殘敵を殲滅することだけが残されてをり、ス市の完全占領は最早問題ではない。」

一方、獨軍はテレーク河を渡つてテレーク及ウラジミロフスキーの兩要衝を占領した旨、九月二十一日獨軍當局より發表した。なほ蘇軍はス市への獨軍の攻勢を牽勢すべく、中部方面ルジヨフ地區に於て執拗な反撃を繰返してゐるが、獨軍の報告に依れば、蘇軍は莫大なる損害を被つたもののやうである。

また新聞通信に依れば、コーカサス戦線の獨軍は二百機以上の空軍を以てグロズヌイ油田に對し新攻勢に出て十月四日夕刻百餘臺の戦車隊は蘇軍陣地深く突入した。

獨軍、援蘇輸送船團を潰滅 獨空軍

は九月十三日有力な英海軍護衛の下に北氷洋を経てソ聯港灣に向け航行中の約四十五隻より成る大輸送船團を發見、獨爆撃機編隊に潜水艦の一隊は折柄の悪天候と北氷洋上の冷氣を冒して出動、これを北氷洋上に捕捉、數日間に亘り激戦を交へた結果、爆撃機隊は其の中商船二十五隻合計十七萬七千噸を撃沈他の八隻を大破した。更に獨空軍は護衛艦中驅逐艦一隻哨戒艇二隻を撃破他の驅逐艦一隻に火災を生ぜしめた。又獨潜水艦は逃走する右護送船團を急追、商船五隻計二萬九千噸に魚雷を命中、更に驅逐艦二隻に魚雷を命中せしめたが、悪天候のため其の沈没は確認し得なかつた。過去六日間に英國は商船三十八隻二十七萬噸を喪失した。右の中には油槽船數隻が含まれてをり外に軍艦六隻が撃沈されてゐる。

今回の北氷洋に於ける護送船團攻撃戦で沈没を免れた僅かの英船も大部分は重大損傷を被つた。

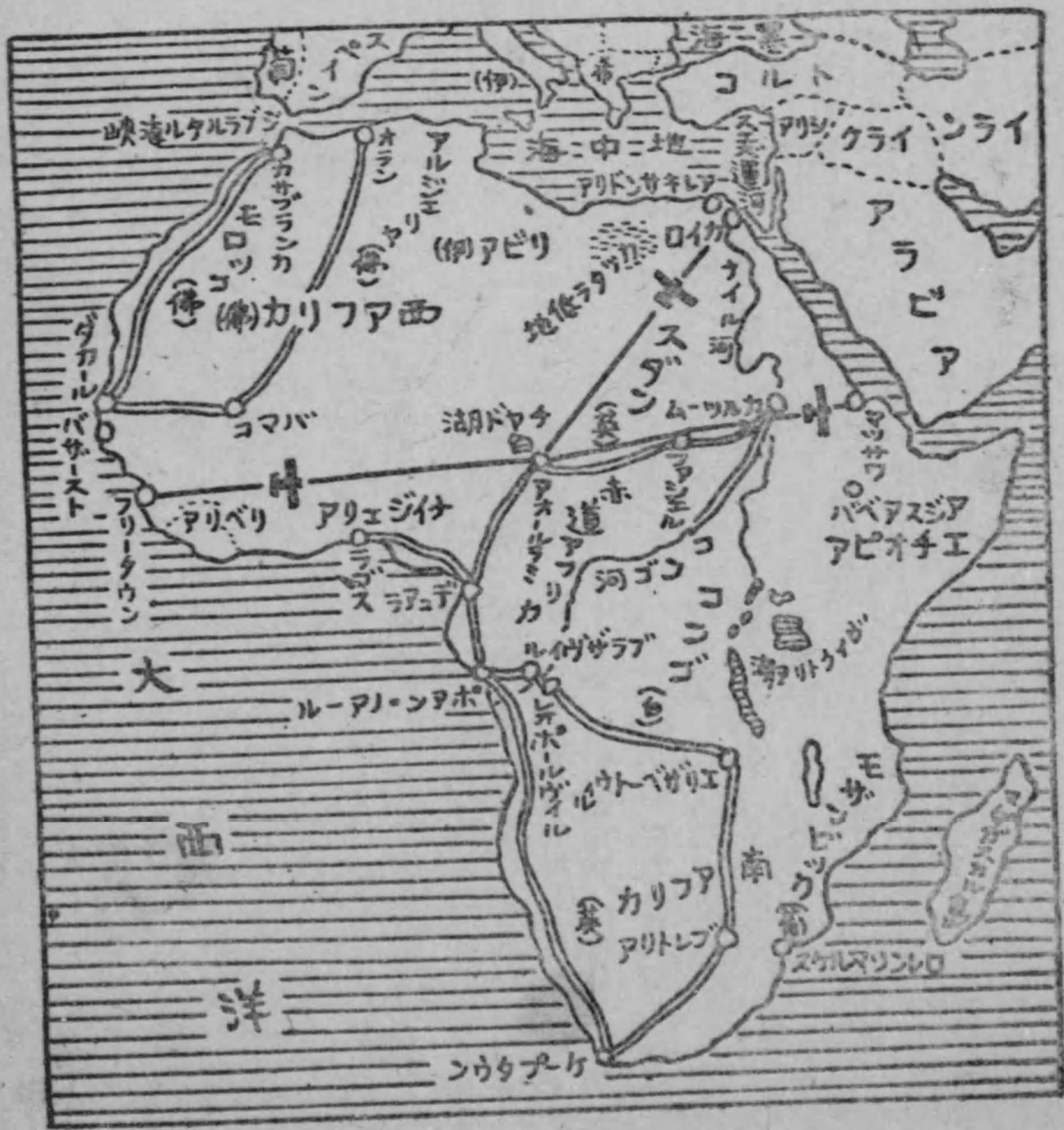
九月二十五日、英海軍省は驅逐艦ソ

マリ號(一、八七〇噸)及び掃海艇一隻が沈没した旨發表した。兩艦とも九月十二日から三日間北氷洋で行はれた獨空軍、潜水艦隊の英米護送船團襲撃の際撃沈されたものである。

獨空軍、黒海に活躍 黒海ヴォルガ河上ラドカ湖上などに於て獨空軍は、ソ聯商船十一隻を撃沈、二十六隻並に浮ドックに損傷を與へると共にソ聯砲艦一隻、魚雷艇一隻、掃海艇一隻、護衛艦一隻、掃海艇二隻、砲艦三隻、護衛艦四隻に損傷を與へた。

獨潜艦、南西阿・北米で活躍 獨潜艦は南阿の聯合國海軍基地ケープタウン附近沖合で敵商船十二隻合計七萬四千噸を撃沈したほか、西阿沿岸水域北米セント・ロンス河沖及び北大西洋で敵船十隻合計六萬七千噸を撃沈、かくてドイツ潜水艦が撃沈せる敵商船は二十一隻十四萬一千噸に達した。

英軍、トブルク襲撃失敗 英軍は九月十三日夜北阿のトブルク港に對し空軍大編隊による長時間の爆撃を加へた





圖方地西北同及カリフア

のち巡洋艦及び驅逐艦等軍艦六隻の援護の下に落下傘部隊を降下せしめんとはかつたが、樞軸守備軍は直ちに攻撃を加へ英軍の企圖を完全に挫折せしめた。その際樞軸守備軍は軍艦二隻に爆弾を命中火災を生ぜしめ、内一隻はのちに沈没した。また獨逸軍は空中戦で英機二機を撃墜、地上砲火でまた四機を撃墜した。

米遠征軍アフリカ上陸 英國筋情報に依ると、米國の遠征軍がアフリカ西海岸のベルギー領コンゴ、レオポールヴィル、佛領赤道アフリカのリーブルヴィル、ドウアラ、ボア

ン・ノワール、リベリア黒人共和國英シエラ、レオネのフリータウンに上陸し、コンゴ上陸の米軍部隊はアフリカ横断道路によつてエチプト戦線に急派された模様であり、既に此の経路をとり従来相當多數の米軍と軍需品が北阿に輸送されたと傳へられる。また他の情報に依ると、レオポールヴィルに到着したのは米國の技術使節團で、右は北阿竝に西亞戰遂行に必要な各種軍需資材及び軍隊の揚陸輸送路改善を目的とするものであるといはれてゐる。

嘗て佛領赤道アフリカのド・ゴール軍はリビアのチベスチ緑地に出現し、南方より北阿のイタリヤ軍を牽制したこともあり、フリータウンに上陸した米軍がかかる行動に出る可能性は十分あり、ダカールは米英垂涎の地で第二戰線結成の候補地の一つとみられてゐる關係上、米軍がリベリアに上陸したことは、シエラ・レオネの英軍と協力同方面進出に備へる布石であるともみ

られてゐたが、フランス政府は十月十六日夜「ダカール方面に於て戰闘的活動が開始された」旨發表した。

其十二 自昭和一七・一〇・中旬至同

獨逸戰線 東部戦線に於ける中部地帯の氣候は、十月中旬を迎へるや急激に寒氣を増し、ヴォルガ河の水は氷のやうになり、加ふるに寒風冷雨は荒涼たる草原を蔽ふに至つた。ソ聯側は「冬將軍」の到來に多大の期待を懸け獨逸軍筋では連日の降雨に道路が泥濘と化した爲め、赤軍後方の集結及び輸送が甚しく阻害されてゐるとなし「泥將軍」の到來が赤軍の作戰計畫に重大な誤算を來したと觀測したものゝ如くである。併し、スターリンググラーードの市街戦は殆ど天候に關係なしに行はれ、獨逸軍の猛攻は依然として繼續した。該市攻撃中の獨逸軍部隊は十月十四日から十五日にかけてス市北部工場地帯深く突入、大工場數個を占領するに成功し

たが、獨逸軍司令部は右戰闘の詳細を次の如く發表した「十四日夜ドイツ歩兵戰軍部隊はス市北部のソ聯陣地三ヶ所に對し攻撃の火蓋を切つた。即ち北部地區に残つてゐるジェルジンスキー・トラクター大工場、赤色バリケード機械工場、赤色十月兵器工場は完全に要塞化され、今日まで頑強極まる抵抗を續けてきたので、これに對し攻撃が再開されたのである。わが歩兵及び機甲部隊は先づ大規模の後ジェルジンスキー工場と赤色バリケード工場との間に楔を打ち込むに成功し、先頭部隊はヴォルガ河畔に到達した。それと同時にジェルジンスキー工場に對しても猛砲火を浴せその後これを占領、此方面でもわが部隊はヴォルガ河畔に到達した。かくて同方面のドイツ軍部隊は十五日正午に至り付近一帯の街角に足場を確保、午後更にソ聯軍の抵抗を排除して夕刻つひに右三大工場全部を完全に制壓し、こゝにソ聯側が誇つたス市内最強陣地は潰滅し去つたのである」

ソ聯情報局も十月十四日深夜「獨逸軍はスターリンググラーード市内の戰略要點の殆ど全部を占據するに至つた」と發表、該市の陥落は目睫の間に迫れることを自ら示唆した。

十八日、獨逸軍はス市の赤色バリケード工場を完全占領し、赤軍の抗戦力は漸く低下するに至つた。二十日、ス市上空に於て大規模の空中戦が再開された。二十一日、該市「赤色十月工場」を中心とする市街戦は最高潮に達し、二十三日に同工場の大半は陥落した。十四日獨逸軍は該工場の大半を占領し、ヴォルガ河岸に進出した。同日、獨逸軍當局は同日現在の戦況を説明し次の如く述べてゐる。「獨逸軍は去る十四日總攻撃開始以來まづジェルジンスキー工場と赤色バリケード工場を血祭りにあげたのち、赤色十月工場に主力を集中しつゝあつたが、この怪物工場は南方に連絡する鐵道とともにス市ソ聯軍最後の防壁をなすことゝして、ソ聯軍は殘る全部の大砲と機關銃をこゝに集め、

工場の機械設備を崩して強固なバリケードを二重三重に構築し最後の抵抗を試みたものである。従つて攻める側の獨軍にとつては得意の火力と急降下爆撃を浴びせる餘地なく、結局歩兵と戦車部隊が遮二無二白兵戦をもつて風潰しにバリケードを潰してゆく他なく、言語に絶する苦戦の後、漸く同工場の最大防壁を攻略することが出来たのであつた。

一方、コーカサス作戦の獨軍は、十月十七日、マイコープ、ツアプセ街道の要衝シアミアンを占領し、二十日、ツアプセ攻略を目指す獨軍は、該市の包圍態勢を完成した。而して二十三日該港攻撃の獨軍は遂に同市の死命を制する北東方高地を激戦の後、赤軍の猛攻撃を退けて完全に之を確保した。

かくて獨ソ戦争は、獨軍のスターリングラード攻略に由るヴォルガ河畔進出と、南コーカサスの孤立化の爲に一段階を翻し、こゝに開戦二年目の冬を

迎へることゝなつた。

北阿戦線 十月二十日、埃及戦線では大空軍戦が行はれた。即ち、樞軸軍及び英軍はそれ〴〵二百機から成る空軍大編隊を出動せしめ、英空軍は飛行機五十五臺を撃墜された。之に呼應し兩軍の地上部隊間にも激戦が展開された。英軍は全線に亘り大規模の反撃に出で強力なる戦車部隊、歩兵部隊並に多数の飛行機を以て樞軸軍を攻撃したが、各所で撃退され多大の損害を被つた。英軍は奇襲戦法を用ひたが、苦戦の様態であつた。其の後戦線は終始激烈に繼續され、樞軸軍は屢々敵の前進を阻止した。

更に十一月一日、英軍は過去に於ける甚大な人的物的損害にも拘らず全兵力を集中して、獨伊軍第一戦突破の無謀なる攻撃を強行、爲めに空陸ともに大激戦が行はれた。翌二日、獨の機甲部隊と英戦車隊の間に開かれた戦車戦はアフリカ戦線未曾有の大規模なものであつた。この戦線の全過程に於て獨

伊の各部隊は獅子奮迅の敢闘振りを發揮し、戦列を離れた英戦車は多数樞軸軍の手に捕獲された。

佛領アフリカに米軍侵攻 過日行はれた米遠征軍の西アフリカ各地への上陸に引續き、米英兩國海空軍は十一月初旬に入るや、急にジブラルターに集結増強されつゝあつたので、各方面から多大の注目を集めてゐたが、米陸軍省は十一月七日次の如く發表した。「米陸軍は米英海空軍掩護の下に七日午後三時佛領北アフリカの大西洋岸並に地中海岸の各所に上陸を敢行した。今次上陸作戦の指揮官は米遠征軍司令官アイゼンハヴァー中將である」この結果ラヴァル佛首相は十一月八日夜、米國代理大使タックに對し國交關係を斷絶する旨、公式通牒を手交した。九日、米國は對佛國交を斷絶した。

同日、英當局は前英地中海艦隊司令長官カニンガムが佛領北アフリカ侵入の米英聯合艦隊司令長官である旨發表した。同日、佛政府は次の如く發表し

た。「カサブランカ沖及びアルジエからオランに至る海岸沖では海戦展開中である」と。

佛陸海空軍總司令官ダルラン提督はアルジエに於て米軍と休戦協定を調印し、以後米軍司令官はダルランを佛領植民地の最高司政官に任命した。

獨伊軍と米英軍との間には隨所に激戦が展開されたが、十日朝八時過ぎ獨爆撃機は佛領北阿海岸沖で英航空母艦アーガスに直撃弾二發を命中せしめた。該艦は同日夕刻ドイツ急降下爆撃機により再度攻撃を受け、撃沈されたものと見られてゐる。第二回の攻撃に直撃弾二個命中し、第三弾は同艦側面近くで爆發、ドイツの乗組員は現場を離れるに先立ち同艦の艦尾が水中に没したのを認められたから、同艦の沈没は確實と見られてゐる。

なほ同攻撃で六千噸級巡洋艦一隻大破、大型輸送船一隻も數個の爆弾を浴びて炎上した。一方、北大西洋に作戦中の獨潜水艦

は、クキン・エリザベス型英戦艦一隻を雷撃大損傷を與へた。英戦艦が雷撃をうけて大爆發を起す状況は獨潜水艦から確實に目撃されたといふ。

また獨潜水艦は佛領モロッコ大西洋岸沖に於て英パーミンガム型巡洋艦(九千噸)一隻、驅逐艦一隻及び商船三隻計二萬二千五百噸を撃沈、更に西地中海に於て七千噸級輸送船一隻を撃沈した。また獨戦艦隊はブーシー港を襲撃、一萬六千噸級輸送船一隻及び商船一隻を撃沈、他の商船十四隻計十七萬噸に大損害を與へた。

イタリア空軍雷撃機及び戦闘機の大編隊も、アルジエ東方百九十軒のブリンダー級巡洋艦(七千二百七十噸)一隻、驅逐艦一隻、大型魚雷艇一隻、商船二隻(うち一隻は一萬噸級)に魚雷を命中させて大破、更に商船三隻に爆弾を投じうち一隻を撃沈した。この他イタリア空軍はブーシーの港灣設備に多大の損害を與へた。

更に、十五日拂曉リノ・エルレール少佐麾下のイタリア潜水艦はブーシー灣内に於て英巡洋艦リアンダー級(七二七〇噸)に魚雷二發を命中せしめ之を撃沈した。

現伊軍、佛非占領地帯に進駐、十一月十一日午前、佛占領地帯駐屯の獨軍に對しヒットラー總統より佛非占領地帯への進駐命令が發せられ、獨軍は直ちに進駐を開始した。總統の發した進駐命令要旨次の通り「英米兩國は歐洲の一角に據點を確保すべく種々畫策し、現在佛領土の一部を侵略した。以上の情勢に鑑み余はフランス植民地帝國防衛のためドイツ軍に對しフランス非占領地帯に進駐を命ずる。余は英米兩國の攻撃に對しフランス國民保護の任に當らんとするものである。ドイツ政府はフランス政府との緊密なる協力の下にフランス植民地帝國、特にフランス領アフリカ植民地を保全する爲に努力しあり」

伊政府は、伊軍が十一日朝獨軍と同

西亞、東歐、北阿交界地方及印度洋方面圖



時に佛非占領地帯に進駐した旨、正式に發表した。進駐せる所は、ニースマルセイユ、コルシカ島である。而して、獨軍最高司令部十一月十五日發表に依れば、獨伊軍の同日迄のフリカ戦線に於ける戦果は次の通りである。

輸送船、貨物船及び商船十三隻計十萬二千噸撃沈、一萬噸級輸送船一隻撃沈、輸送船、貨物船、商船四十二隻計卅一萬五千噸を大破、戦艦一隻を大破戦艦不能に陥らしめ、巡洋艦三隻撃沈、航空母艦三隻に損傷を與へ一隻を戦艦不能に陥らしめた。巡洋艦十四隻に損傷を與へ、驅逐艦並に哨戒艇四隻撃沈、驅逐艦及び哨戒艇七隻に損傷を與へ、更に戦艦一隻をも小破した。

獨港の遠征作戦 獨軍最高司令部十一月一日發表に依れば(一)獨潜水艦は南アフリカ最南端アグルハス岬より遙か東方のインド洋上に於て聯合軍輸送船團を強襲、輸送船八隻、計五萬二千

五百十八噸を撃沈、インド洋上に於て獨軍初の戦果をあげた。(二)大西洋に於て作戦中の獨潜水艦は十月卅日カナリー群島沖合で敵護送船團に攻撃を加へ、敵船十四隻(合計十萬一千噸)を撃破後、殘敵を追つて更に聯合國商船四隻、計三萬百十三噸を撃沈、附近水域に於ける撃沈船は總數十八隻、計十三萬一千百卅一噸に及びかくて獨潜水艦は過去六日間に總計四十一隻、廿五萬噸を撃沈した。

其後の各方面戦況摘要

(昭一八、四月)

獨蘇戦線 スターリングラード市の大部を占領してゐた獨軍は蘇軍の大反攻により其の後方連絡線を断たれ孤軍奮闘してゐたが、終に其の無線通信も絶えた。蘇軍の反攻は其後も活潑に行はれ、ロストフ、ハリコフを奪回し勝

に乘じ獨軍を南西方に壓迫せんとして蘇國軍の士氣大に上つた。之に對し獨軍及獨國民は一致して此

の反攻逆撃に悲壯な決意を示し、ハリコフを奪取し、更に陣容を整へて夏季大攻勢に出でんとしてゐる。

北阿戦線 前記獨蘇戦に於ける蘇軍大攻勢と連繫して米英軍は昨秋アフリカ北西モロッコ、アルゼリアに上陸チユニスに向つて攻勢をとり北阿樞軸軍の背後を脅すと共にチユニスよりする伊本土進襲を策するに到つた。

茲に於てアレキサンドリア間近迄進撃してゐた獨伊軍は恨を残して背進を開始し、リビア、トリポリを捨て、長行軍の後チユニスに此方面の全力を集結することとなつた。之により獨伊軍はチユニスの一角に於て不敗の態勢が完成され内線の優位を得て西に或は南に屢々攻勢を採り、米英及舊佛僞軍を撃破しつつある。

其他 西印度、南米、大西洋、印度洋、太平洋の佛植民地は多くは英米により不法占領せられ、又南米はアルゼンチンの外全部米英陸營に抱き込まれた。

財 團 法 人
軍 人 會 館

圖

書

部

詳細ハ本文四九三頁參照

電 話 九 段

自 二 〇 〇 〇 番
至 四 一 〇 〇 九 番

他 邦 軍 備 狀 況

上 篇、一 般 國 防 情 報 及 陸 軍 々 備

米國陸軍の全貌及其の主要兵器
米國軍備の飛躍
米國軍需生産狀況
英國の抗戦力
濠洲の防備、軍備、軍擧
印度の國防及軍備
蔣軍の近狀
蘇滿國境の風雲
滿洲國軍
中華民國軍

下 篇、列 國 海 軍 現 勢 (昭和十七年七月 調)

米國海軍主力艦艇一覽表
同新銳、建造中及計畫艦艇
英國殘存艦艇表
ソ聯海軍艦艇表
列國海軍艦艇竣工建造狀態 (昭和十六年調)
ドイツ海軍艦艇表
伊國海軍艦艇表
各國水上機母艦要目性能比較

各 國 工 作 艦 一 覽 表

參 考 篇、大 東 亞 戰 前 の 列 國 軍 備
米、英、ソ、獨、伊 及 列 國 代 表 艦 艇 比 較 表

米 國 陸 軍 の 全 貌 及 其 の 主 要 な る 兵 器

第 一 章 編 制 及 制 度

米國陸軍は米國憲法の定むる所により、國會に屬し、大統領の統帥下にある、次の系圖に示す如し。
米國憲法—大統領—陸軍大臣—

陸 軍 次 官

參 謀 總 長 (陸 軍 現 役 將 校 中 の 最 高 官)

一九一六年六月三日附發布の國防法により米國陸軍を六區分す。即ち、
正 規 軍 (Regular Army)
米 國 護 國 軍 (National Guard of the United States)
平 時 護 國 軍 (National Guard while in the service of the

United States)

豫 備 將 校 團 (Officer's Reserve Corps)

(ps.)

在 鄉 將 校 團 (Organized Reserves)

登 録 豫 備 兵 (Enlisted Reserve Corps)

(ps.)

されど通常は簡單に三大要素

正 規 軍 Regular Army.

護 國 軍 National Guard

豫 備 軍 Organized Reserves.

に大別さる。而して(一)兵科、(二)部に(三)局よりなる。

一、兵 科

- 1、歩兵 2、騎兵 3、野戰砲兵
- 4、海岸砲兵 5、航空兵 6、工兵 7、通信兵

二、部

- 1、高級副官部 2、査閱總監部
 - 3、法務總監部 4、輜重運輸部
 - 5、經理部 6、軍醫部
 - 7、兵器部 8、化學戰部
 - 9、教誨部
- 三、局 護國軍局

一般には兵科の任務は戦闘を交へるにあり、部の任務は彈藥、糧食、被服を輸送し、醫學的治療をなす等兵科の戰鬥を間接に援助するにあり。されど工兵及通信兵の如き多少の例外はあり兵科は完全に將校及下士官兵を以て編

第一表

部	隊	單位	兵	長ノ階級
分	Squadron	隊	三名以下	軍曹又ハ伍長
複	Section	分	二	軍曹
小	Platoon	隊	四	小中尉
中	Company	隊	八〇—二〇〇	大尉
大	Battalion	隊	二〇〇—八五〇	少中佐
聯	Regiment	隊	八〇〇—一、三〇〇	大佐
旅	Brigade	團	五、〇〇〇—六、〇〇〇	旅團少將
Division	師	團	三角編成歩兵師團 四角編成歩兵師團 八、五〇〇	少將
騎兵師團	一種類ナリ	團	一〇、〇〇〇	騎兵師團

成されあるも、部の中には將校のみを以て編成され、下士官兵を有せざるものあり。
兵科の部隊單位を總括せば第一表の如し。

正規軍

正規軍は米國陸軍の根本をなすものにして、國土の守備に任じ、自らの教育に當ると共に護國軍及豫備軍の教育指導に任ずるものなり。且又國民の軍事思想普及を圖り、又豫備將校養成隊 Reserve Officers' Training Corps 略して R.O.T.C. (後述す)の指導に任ず。
一九三九年に於ける正規軍の兵力第二表の如し。
戦略上四つの軍管區に分けられ、行政上九つの軍管區に分けらる。

- 第一軍管區
司令部所在地 マサチューセツツ州ボストン市
- 第二軍管區
司令部所在地 紐育州ガヴァナースアイランド
- 第三軍管區
司令部所在地 メリーランド州ボルチモア市
- 第四軍管區
司令部所在地 オハイオ州コロンバス市
- 第五軍管區
司令部所在地 イリノイ州シカゴ市
- 第六軍管區
司令部所在地 トランタ市
- 第七軍管區
司令部所在地 テキサス州サンアントニオ市サムヒューストン
- 第八軍管區
司令部所在地 ネグラスカ州オマハ市
- 第九軍管區
司令部所在地 加州桑港市
ワシントン州、オレゴン州、アイダホ州、モンタナ州、ワイオミング州、ユタ州、ネ

第二表

軍	兵力	階級
軍 (場合ニモリ Army Corps 一稱ス)	五、〇〇〇—九、〇〇〇	中將
軍 (米國陸軍全體ト區別スル爲時ニ Field Army 一稱スルコトアリ)	二〇〇、〇〇〇—四〇〇、〇〇〇	大將

註一 第二欄の最大數は戰時兵力にして平時は其の凡そ三分の二なり。
註二 三角編成歩兵師團一名輕速歩兵師團とも稱せらる。

一九三九年六月三十日に於ける正規軍各兵科及各部の兵力量

兵科及部	將校	下士官兵	其他
歩兵	三、六一三	五七、三四七	
騎兵	九一四	九、八六二	
野戰砲	一、六六二	二二、六三八	
海岸砲	一、〇六八	一八、九二一	
航空兵	一、六七〇	二〇、八三八	
通信兵	七八二	五、四八一	
通信用兵	二八八	三、六八七	
高級副官	八九		
法務總監	八九		
輜重運輸	六〇八	一〇、四三七	
經理部	一一九	四七八	
兵器部	二八六	二、七二九	
化學戰部	九八	八〇三	

軍醫部	一、五〇九	九、〇五二
教導部	一二四	五、四三九
特種部隊	九	七七五
陸軍士官學校教授		一、二七四
准士官(別項に含ま れざるもの)		六七二
陸軍士官學校生徒		二、七二一
陸軍看護婦隊		
計(フキリツピン を含まず)	一一、九九三	一六七、七一二
合計(フキリツピン を含まず)	一八三、四二六	二、七二一
フキリツピン駐屯軍		
歩兵	一一	二、三二五
騎兵	二	五五九
野戦砲兵	五	九七九
海岸砲兵	八	一、二六六
工兵	四	三二一
通信兵	一	一二四
輜重部	八	四三三
經理部	一	六
兵器部	三	四七
軍醫部	三	三〇七
計(フキリツピン)	三九	六、三六七

ヴァダ州、アリゾナ州の一部、加州、アラスカ領
一九三九年九月三十日には正規軍には歩兵五師團を有す。

- 第一師團 紐育州ブルックリン・フォートハミルトン
 - 第二師團 テキサス州サンアントニオ市フォート・サムヒューストン
 - 第三師團 ワシントン州フォート・リユーキス
 - 第五師團 イリノイ州フォート・シエリダン
 - 第六師團 ワシントン州フォート・リユーキス
- その他ジョージア州フォート・ベニングには一軍團あり。その他にも各所に軍隊を配置しあり。機械化騎兵及輕戰車兵は各所にあり。又高射砲隊は米國土中各所に分散しあり。一般に正規軍の大部分は國內各所に小兵力づつに分散しあり。之はアメリカン・インディアン等に對して防備する必要あり

合計(フキリツピン)	六、四〇六
正規軍計	一三、〇三二
正規軍合計	一八九、八三二
其の他現役勤務中の者	
現役勤務退役將校	七
現役勤務豫備將校	八八九
囑託軍醫	八九六
合計	九二七
現役勤務者總計	一九〇、七五九

し昔日の遺習なり。現今歩兵一箇師團が一箇所に集中しあるは、ハワイ領シヨッフキールドのみなり。正規軍が現今まで斯くの如く分散し居ることは、其の集結を困難ならしめ、大部隊の演習に不便なるも一面市民の軍事訓練上著しく便利なり。正規軍の聯隊數は一乃至一〇〇師團數は一乃至二五にして平時と戦時とにて其の數量の伸縮は自由になしあり。

此の正規軍の分散しある事の不利を除く爲一九三四年に新規演習豫定を立案せり。本演習豫定案によれば毎年一回四つの軍管區の内一つづつ正規軍、護國軍及豫備軍を集合し演習を行ふ。其の演習の行ひ方に二種あり、或年に於ては高級隊長及參謀のみが國內の或地方に集合し演習を行ふ。之を指揮者演習 Command Post Exercise 略して C. P. X. と稱す。此の演習を行ひ置きたる後翌年實際に軍隊を動かし演習を行ふ。

一九三九年末に五つの三角編成師團が集合せられ翌年一九四〇年春迄冬季演習が行はれたり。

正規軍將校にして退役せるものの内希望者は豫備將校として登録することを得る制度なり。
數年後には是等豫備將校の數は七五、〇〇〇に達する豫定なり。一九三九年中の登録は將校一六、五〇〇、下士官兵二一〇、〇〇〇にして内航空兵は將校四、〇〇〇、下士官兵三七、〇〇〇之に對し航空機は二、四〇〇より五、五〇〇に増加せり。

護國軍は國民中の志願兵を以て編成し目下將校一五、〇〇〇、下士官兵二三五、〇〇〇あり。四八州デイストリクト・オブ・コロンビア、ハワイ、ポルトリコ及アラスカにあり、一、五〇〇箇所に分散しあり。正規軍と同様の各兵科及各部より成る。
護國軍は元來各州及各地方に於て個

個に編成せられ、夫々獨立して統制しあり、唯一朝有事の際にのみ國家の統制下に入るものとす。従つて平時は服制に至るまで個々に制定しありたり。されど一九〇三年國會を通過せる法律により従前より餘程國家統制に近付き正規軍に類似の形態を取るに至り、服制、使用兵器、訓練等全く正規軍と同一になれり。而して同法律により、正規軍將校と同一將校が配屬せらるることとなり、同一兵舎に於て教練を受くることとなれり。其の後一九二〇年の國防法及一九三三年の護國軍規程により上記米國陸軍三大要素の一となれり。而して護國軍將校は正規軍將校と同一基準により銓衡せられ米國陸軍將校となり、國家より米國護國軍將校として配屬を命ぜらるることとなれり。而して護國軍將校は有事の際に直に大統領の命令により米國護國軍將校となるものなり。但し國會が宣戰布告をなさざる場合には護國軍將校の自己の承諾なくして一年度内十五日以上強制的

第三表

護國軍歩兵師團及其の所在地

管區	師團	州
I	第二六師團	マサチューセッツ州
I	第四三師團	ガネチカウツ州、メイン州、ロードアイランド州、ヴァーモント州
II	第二七師團	紐育州
II	第四四師團	ニュージャージー州、紐育州
III	第二八師團	ペンシルヴェニア州
III	第二九師團	メリーランド州、ヴァージニア州、デイストリクト、オブ・コロンビア、ペンシルヴェニア州
IV	第三〇師團	ジョルジア州、北カロライナ州、南カロライナ州、テネシー州
IV	第三一師團	アラバマ州、フロリダ州、ルイジアナ州、ミシシッピ州
V	第三七師團	オハイオ州
V	第三八師團	インディアナ州、ケンタッキー州、西ヴァージニア州
VI	第三二師團	ミシガン州、キスコンシン州
VI	第三三師團	イリノイ州
VI	第三四師團	アイオワ州、ミネソタ州、北ダコタ州、南ダコタ州
VI	第三五師團	キヤンサス州、ミズリー州、ネブラスカ州
VII	第三六師團	テキサス州
VII	第四五師團	アリゾナ州、コロラド州、ニューメキシコ州、オクラハマ州
VIII	第四〇師團	加州、ネヴァダ州、ユター州

に米國護國軍將校として召集を受けることはなきものなり。州知事は其の州の法律の定むる所に従ひ其の州の護國軍を召集し訓練其の他を命じ得。護國軍全員は米國及各自の州に對し忠節を誓ひ米國大統領及各自の州知事の命に服従することを誓ふ故に彼等は米國國家の有事の際に、國家に奉公するのみならず、又同時に各自の州の地方的有事に際しても奉公するものなり。第一次世界大戦當時各州各地方より總計五〇〇、〇〇〇の軍隊が召集せられたり。佛蘭西に派遣せられたる師團の内五分の二は護國軍なりき。

護國軍は毎年其の豫算の可なり大なる部分を國會より受け、之により兵器其他器材、制服、自動車、馬、飛行機を整備し、建築並に既建築物の修理を行ひ又將校を正規軍學校へ派遣す。州の豫算を以て建築及兵舎の維持、野外演習及有事の際の特殊支出其の他に當つ。護國軍は師團、旅團、聯隊等正規

管區	師團	州
X	第四一師團	アイダホ州、モンタナ州、オレゴン州、ワシントン州、ワイオミング州

第四表 護國軍騎兵師團及其の所在地

管區	師團	州
II III	第二一騎兵師團	紐育州、ペンシルヴェニア州、マサチューセッツ州、ガネチカウツ州
V VI	第二二騎兵師團	ペンシルヴェニア州、オハイオ州、ケンタッキー州
IV VIII	第二三騎兵師團	アラバマ州、ジョルジア州、ルイジアナ州、テネシー州、イリノイ州、ミシガン州、キスコンシン州
VII IX	第二四騎兵師團	コロラド州、アイダホ州、アイオワ州、キヤンサス州、ワシントン州、ワイオミング州

軍と同様の編成を有す。各軍團管區に於ける各部隊は平時は各軍團管區司令官の指揮下にあり。而して國家有事の際には自動的に米國陸軍として其の司令官の指揮下に入るものとす。護國軍歩兵師團及其の所在地は第三表の如し。尙此の外にも上記各州及ニューハン

プシアアイア州、デラウエア州、アラカンサス州、ボルトリコ、ハワイ等に師團番號を附せざる各部隊あり。護國軍の部隊は正規軍及豫備軍と同様番號を以て命名されあり。聯隊は一〇〇乃至三〇〇の數字、歩兵師團は二六乃至七五の數字を有す。其等數字の後に州名を附す。古き歴史を有する部

隊にては古名を其儘用ふるものあり。又或部隊にては古名と新名とを併用するものあり。例へば

第一歩兵聯隊(メリーランド州護國軍)
ワシントン砲兵聯隊(第一四一野戰砲兵聯隊(ルイジアナ州護國軍))
等の如し。

護國軍將校は軍事研鑽の爲陸軍各學校に通學し、又優秀なる將校は正規軍の實施學校へ派遣せらる。

護國軍軍人にして特殊事情の爲現役勤務に耐へざる事となる場合、又は個人的希望により退役し度きものは豫備護國軍に編入され、時に召集訓練を行ふことを得。但し豫備に編入せるものは戦時の他は再び現役に復することなし。平時に於ける護國軍兵力は第五表の如し。

護國軍局

護國軍局は米國全土に分散しある護國軍を全般的に統括する爲陸軍省内にある一局にして、陸軍大臣に隸屬す。

第五表

一九三九年六月三十日に於ける護國軍の兵力量

少將	旅團少將	歩兵	騎兵	野戰砲兵	海岸砲兵	航空兵	工兵	通信兵	高級副官	法務總監	輜重運輸部	經理部	軍醫部	兵器部	化學戰部	教諭部	豫備護國軍計
一七	六三	五、五一五	七九八	三、一九五	九二六	四六八	四九五	一四五	一三七	九七	六七三	四七	一、五三七	八六	二二	二三四	一四、四五五
一七	六三	八三	一九	五七	二〇	一七	一七	一七	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一四、四五五
一七	六三	九一、九八〇	一〇、九一九	三六、七一五	一三、七七四	一、八四八	八、二〇五	一、九〇八	一、九〇八	一、九〇八	一、九〇八	一、九〇八	一、九〇八	一、九〇八	一、九〇八	一、九〇八	一、九〇八
一七	六三	九七、五七八	一一、七三六	三九、九六七	一四、七二〇	二、三一六	八、七一七	二、〇五三	一三七	九七	五、八六四	四七	一三、七六三	五九三	二二	二三四	一九七、九二四
一七	六三	二〇、三〇六	二〇、三〇六	二〇、三〇六	二〇、三〇六	二〇、三〇六	二〇、三〇六	二〇、三〇六	二〇、三〇六	二〇、三〇六	二〇、三〇六	二〇、三〇六	二〇、三〇六	二〇、三〇六	二〇、三〇六	二〇、三〇六	二〇、三〇六

局長は護國軍將校にして大統領に任命せられ、任期は四箇年、少將とす。部

下として正規軍及護國軍の各兵科、各部將校三十名を有す。

本局は平時に於て護國軍の諸事務をとり、豫算を掌り、各州、各地方及ドイツトリクト、オブ、コロンビアに如何に其の兵力を分配すべきかを陸軍大臣に申言す。又陸軍省諸政策計畫を護國軍に傳達し、護國軍の操典教範を編纂す。

豫備軍

豫備軍は戦時に於ける動員を遂行する爲に存するものにして平時は正規軍將校、豫備將校團、登録豫備兵より成る。豫備將校團は軍事訓練を受けたる國民にして、定期的召集訓練を續行しあるものなり。平時は各兵科及各部の豫備將校に任ぜられあり。戦時は召集により現役勤務に服し、平時は各自の承諾により毎年二週間以上延長教育召集を行ふものとす。(各自の承諾によるとは稱するも、やむを得ざる特殊事情無き限り承諾せざることをなし)

現在の豫備將校の大部分は、豫備將

校養成隊及國民軍事教練隊 Citizens' Military Training Corps 略して C. T. C. (後述す)の卒業生及其の他特殊技能者中任命せられたるものより成る。極めて少数は登録豫備兵となりあり豫備將校團中四五〇〇名は官吏にして國民防護隊 Civilian Conservation Corps 略して C. C. C. (後述す)の指導幹部として活躍しつゝあり。尙又豫備將校中には一年間正規軍に現役勤務するものあり。又他の一部は航空兵又は軍醫となり、現役に編入せるものありかくして一九三九年六月三十日に於ける豫備將校数は一〇四、五七五なり。

豫備將校團は戦時に於ける米國陸軍將校の補充のために存するものなり。而して平時より動員計畫が立てられり。其の最初に定められたる部隊に殆ど終生所屬するものとす。平時は教育召集として一年に二週間國民軍事教練隊又は正規軍又は護國軍に勤務す。其の内成績優秀なるものは三箇月間陸軍實施學校にて勉學す。又極少數の優秀なるものは參謀本部部員として勤務す。航空兵少中尉は最大五箇年迄連續勤務す。其の數數百名に及ぶ。一九三九年度に於て二週間の教育召集を受けたる豫備將校は國民防護隊に勤務せるものを除きても其の數三萬に達す。

總括

一九三九年度に於ける米國陸軍三要素の兵力第六表の如し。

一九三九年六月卅日に於ける米國陸軍三要素の兵力量

正規軍	護國軍	豫備軍	總計
一三、〇三二	一四、四五五	一〇四、三七五	一三、〇三二
七七五	二一一	二一一	七七五
一七四、〇七九	一八三、二五八	三、〇五四	一七四、〇七九
一八七、八八六	一九七、九二四	一〇七、六二九	一八七、八八六
四九三、四三九	四九三、四三九	四九三、四三九	四九三、四三九

一九四〇年に於ける總數は五八五、〇〇〇なり。(中略、第七表略)

第二章 兵科

兵科即ち戰鬥部隊單位は左記七種に分れる。

- 1、歩兵 2、騎兵 3、野戰砲兵
- 4、海岸砲兵 5、航空兵 6、工兵 7、通信兵

米國陸軍に於ても、我が陸軍と同様軍の主力は歩兵にありと考へられ、其の他各兵科の用法は我が國と同様である。

大なる戰鬥に於ては兵科(部も同様)の部隊單位は併せられて、師團、軍團、軍を構成す。併し各兵科は夫々特異の事情を有するを以て、各兵科を綜合し、一の統制下に置く。之が爲ワシントンの陸軍省内に各兵科總監あり。

各兵科總監は其の兵科の事項に關し參謀總長を輔佐し、他兵科及部との協力をなす。各兵科總監は軍隊内の其の兵科を統帥するのではないが、各兵科實施學校及其の評議會を統制し、其の

研究を促進し、運用、使用兵器の改良、新兵器の補充を掌る。此等の事項は多く各兵科單獨に決定し得るものにあらずして、他兵科及部との調和均衡を保つを要するものなるを以て、常に相互の協調を行ふ航空兵、工兵、通信兵の各總監は、各自及他兵科へ兵器資材の供給をなし、各兵科總監は各兵科の操典、教範の編纂を行ふ。各兵科總監は護國軍局長及豫備行政部長をも輔佐し、護國軍及豫備軍の組織、教育、訓練、整備、一般管理に關する事項を掌り、各兵科は相互に良く協力し、各部に輔佐され、米陸軍の堅實なる進歩發達を期し、國防の完壁を目指す。

歩兵 聯隊

歩兵は前述の如く戰鬥の主力にして徒歩兵及戰車より成る。

歩兵師團は他兵科及部を包含する大なる部隊單位で、三角編成歩兵師團(別名、輕速歩兵師團)では左記より成る。

- 野戰砲兵聯隊 二
- 工兵 大隊 一
- 輜重運輸部大隊 一
- 軍醫部大隊 一
- 通信兵中隊 一
- 戰時兵力 約一二、五〇〇
- 内 歩兵 七、二〇〇

- 野戰砲兵聯隊 二
- 工兵 大隊 一
- 輜重運輸部大隊 一
- 軍醫部大隊 一
- 通信兵中隊 一
- 戰時兵力 約一二、五〇〇
- 内 歩兵 七、二〇〇

- 歩兵 旅團 二 (各二箇聯隊より成る)
- 野戰砲兵旅團 一 (三箇聯隊より成る)
- 工兵 聯隊 一
- 輜重運輸部聯隊 一
- 軍醫部聯隊 一
- 兵器部聯隊 一
- 通信兵部聯隊 一
- 戰時兵力 約一八、五〇〇
- 内 歩兵 一〇、六〇〇

騎兵、航空兵、化學戰部、戰車、戰砲兵、工兵を更に適宜臨時に追加する。

上記編成は一九三九年に改正せられた新編成なり。歩兵一箇聯隊は十四中隊より成り

- 聯隊司令部中隊 一
- 補助中隊 一
- 大 隊 三

右の各大隊は、小銃中隊三、機關銃中隊一より成り、小銃中隊と機關銃中隊とはAよりMまで(Jを除く)の文字を以て銘名す。各大隊に於ける第四番目の中隊(即ちD、H及M中隊)は機關銃中隊にして、七・六二耗機關銃、一・二・七耗機關銃及口径八一耗白砲(迫撃砲)を備へる。

中隊より師團に至る各歩兵部隊單位の戰時兵力は、第八表の如し。平時兵力は戰時兵力の約三分の二なり。

歩兵の主兵器は、小銃及銃劍、戰車機關銃である。他の補助兵器は、手投彈、七・七二耗自動銃、拳銃、一三耗機關銃、三七耗對戰車砲、六〇耗迫撃砲、八一耗迫

第八表

中隊より師團に至る歩兵部隊單位の戰時兵力

部隊單位	將 校	下士官兵	計
小銃中隊	六	一六二	一六八
重機中隊	六	一四三	一四九
大 隊	二七	六七二	六九九
聯 隊	一一五	二、四二六	二、五四一
旅 團(概數)	一一二	四、七二七	四、九三九
三角編成(輕速)師團	註一	註一	註一
四角編成師團	註二	註二	註二

註一 三角編成(輕速)師團は旅團を有せず
註二 他兵科及部を含む

擊砲。

軍裝は、野外制服として鐵兜、シヤツ、ソボン、脚絆、靴、襪及季節に應じ雨具又は上衣、外套を有し、其の他兵糧囊、水筒及コップ、背囊、毛布、天幕、棒、防毒面、蓋蓋類り用圓匙、豫備糧食を持つ。

右の他に次の如き各自武器を所持す

小銃兵は、小銃、銃劍、彈丸一三六發、手投彈一

自動銃兵は、自動銃彈丸一八〇發、彈倉九(各二〇發づつ入)
輕機關銃兵は、輕機關銃彈丸一八〇發、彈倉九(各二〇發づつ入)
尙其の他輕機關銃兵、彈藥兵、連絡

兵、戰車兵は、拳銃及拳銃弾二一發を所持する。

小銃兵荷重は凡そ二九疋、自動銃兵及輕機關銃兵は三四・五疋、上記拳銃を所持する兵は二〇・四疋なり。併し此等の兵は屢々機關銃其の他重量大なるものを相當の距離運搬するを要することもあり。冬季の服装は更に三・二疋を増加するが屢々戰闘に入るに先だち毛布其の他豫備被服を除去し、凡そ四・一疋を輕減し得る。

此等兵各自が所持するもの他に、歩兵聯隊の運搬車は一日分の糧食及飲料水及凡そ一日分の彈藥を運搬し、それ以上の分は歩兵師團の運搬車より補充する。尙其の他各種の補充に關しては後章に於て述べることにする。

戰車以外の歩兵器の性能は、第九表の如し。

戰車は路上速度六〇軒毎時にして、野戰に於ても輕快迅速なる動作に適し又迅速なる部隊移動を考慮して設計せられてゐる。

第九表

步兵兵器の性能

兵器	口径(耗)	最大射程(米)	發射速度(發/分)	彈藥一發の重量(瓦)
小銃 M1903	七・六二	五、五〇〇	七一〇	二八・四
小銃 M1 (半自動銃)	七・六二	五、五〇〇	一五一三〇	二八・四
自動銃	七・六二	五、五〇〇	一五〇	二八・四
機關銃	七・六二	五、五〇〇	五二五	二八・四
重機、關銃	一二・七〇	七、五〇〇	五〇〇	一一三・四
三七耗對戰車砲	三七・〇〇	七、五〇〇	三〇	一・八一五(疋)
六〇耗白砲	六〇・〇〇	一、三〇〇	三〇一五〇	一・〇九(疋)
八一耗白砲	八一・〇〇	三、二八〇	三〇一三五	三・二七(疋) 及七・一六(疋)
拳銃	一一・四三	一、六〇〇	一、六〇〇	四二・五
手投彈			五〇	五九〇

第十表

戰車部隊の戰時兵力

部隊單位	戰車數	將校數	下士官兵	總兵力
中隊	一七	六	一一三	一二九
大隊	五四	一一	五二二	五五二
聯隊	一六二	二二	一、八七〇	一、九九一

戰車は別に獨立せる部隊を編成す。各部隊單位の戰時兵力第十表の如し。平時一箇中隊は戰車數八臺を有し、十一箇中隊を以て一箇聯隊を編成する。

一九三九年六月三十日に於ける歩兵力第十一表の如し。

戰時には直ちに動員により正規軍五箇師團、護國軍一八箇師團、合計二三箇歩兵師團を増設する計畫である。

騎兵

騎兵は輕快迅速なる移動に適する戰闘兵科なり。大別して二種に分け、乘馬騎兵及機械化騎兵とす。乘馬騎兵は敵に遭遇せば通常下馬し歩兵と同様徒歩にて戰闘を交へ、又若し敵兵小にして、奇襲の功を奏し得る場合には敵中に突撃す。機械化騎兵は裝甲自動車又は騎兵戰車を以て移動し戰闘する。

騎兵師團は其の主力を騎兵とし、歩兵を除き他のすべての兵科及部を具備す。其の編成は、騎兵旅團三、野戰砲兵聯隊二、工兵大隊一、輜重運輸部大

第十一表

一九三九年六月三十日に於ける歩兵力量

正規軍	護國軍	豫備軍	聯隊	將校	下士官兵
三九	八三	一二四		三、六一三	五七、三四七
				五、五一五	九一、九八〇
				三六、四三七	一、六四九

隊一、軍醫部大隊一、通信兵中隊一にして、戰時兵力一〇、〇〇〇である。

騎兵師團は乘馬騎兵師團、機械化騎兵師團の二種に分かれ、すべて輕快なる移動を目的とし、例へば乘馬騎兵師團の野戰砲兵は六頭馬車にして、全員乘馬し(野戰砲兵の部参照)尙他の兵科及部の兵員もすべて乘馬する。

戰時編成に於ける乘馬騎兵聯隊は、聯隊司令部中隊一、機關銃中隊一、特殊兵器中隊一、小銃中隊九の十二箇中隊より成る。

聯隊司令部中隊は運搬車、通信機關及機關銃と無線とを備ふる裝甲自動車偵察小隊を有し、機關銃中隊の機關銃は馬背に架し、乘馬せる他の馬で擊率

される。

騎兵の有する武器は、拳銃、小銃、七・六二耗空冷式機關銃、七・六二耗水冷式機關銃、一一・四耗トンプソン機關短銃、一二・七耗機關銃、三七耗對戰車砲、一〇六・八耗迫撃砲で、此等の性能は歩兵のものと同様である。

機械化騎兵聯隊は八箇中隊より成り聯隊司令部中隊一、整備中隊一、偵察中隊一、機關銃中隊一、騎兵戰車中隊四である。

聯隊司令部中隊には、一〇六・八耗迫撃砲小隊を有し、之は主として敵の對戰車砲に對する防禦の爲、發煙彈を射つ。

騎兵戰車四個中隊は其の騎兵戰車を

以て機關銃又は機關短銃により敵兵、敵戰車及敵航空機と戦ふ。

指揮車は裝甲自動車にして、機關銃を有し又無線電話電信機により部下戰車を指揮する。

現在米軍は二つの機械化聯隊を有し之に機械化野戰砲兵を附して一箇旅團を編成する。戰時には更に、航空兵戰團部隊を附加する計畫である。

正規軍は騎兵は、上記機械化騎兵聯隊二箇の他に、十二箇聯隊を有す。

正規軍は騎兵は、上記機械化騎兵聯隊二箇の他に、十二箇聯隊を有す。フキリツピン駐屯軍には、一乘馬騎兵聯隊あり、護國軍は、十九箇聯隊から成る。前記及一九三九年六月三十日に於ける米國陸軍騎兵の兵力量を總括すれば第十二表の如し。

野戰砲兵

野戰砲兵は單獨には戰闘せず、併し地上及空中よりする敵攻撃に對しては獨立して防禦する力を具備する。又其の強力な火器(野砲、加農砲、榴彈砲等)により他兵科を掩護する。

野戰砲兵の部隊は其の所有する砲の

第十二表

米國陸軍騎兵聯隊數及現有兵力

聯隊	數	種類	將校數	下士官數
正規軍	一四	二 機械化騎兵(機械化野戰砲兵を附加し一箇旅團を編成す)	九一四	九、八六二
駐屯軍	一	三 乘馬騎兵		一〇、九一九
護國軍	一九	乘馬騎兵	七九八	
豫備軍	二四	乘馬騎兵	四、九三五	二二四

口徑により

輕砲兵、中砲兵、重砲兵

の三種に分類し、其の運搬の方法により

乘馬砲兵、鞍馬砲兵、馱載砲兵、自動車牽引砲兵

に分類する。

輕砲兵は先づ第一に敵軍の小部隊及輕易なる物體(例へば輕機關銃の如き)に對して攻撃する。中砲兵は敵軍の大

部隊及重要其の他野戰要塞の破砕並に

敵砲兵の攻撃に用ひ、重砲兵は敵の防禦構造物、砲、建築物、橋梁等を破壊する。

輕砲兵の兵器は、七五耗野砲、七五耗野戰榴彈砲、七五耗馱載榴彈砲、一〇・五耗榴彈砲、鞍馬又は自動車牽引此等の兵器は移動極めて迅速にして、輕砲兵は主として歩兵、騎兵の直接掩護に當る。

中砲兵の火砲は、一五・五耗榴彈砲にして、自動車牽引により迅速なるこ

と輕砲兵と同じ。

重砲兵の兵器は、一五・五耗野戰重砲、二〇三・二耗榴彈砲、二四耗榴彈砲此等の陣地設置には、地形により一時間乃至六時間(發射迄に要する時間)を要し、重牽引車により牽引する。

以上の諸兵器の性能は第十三表の如し。

七五耗馱載榴彈砲は六相に分解し之を六頭に馱載す。一相の最大重量は一・二・三耗である。二四〇耗榴彈砲は四相となし、一相の最大重量七・三四〇耗である。

野砲の砲手達は目標を直視し得ることとが殆んどないので、觀測所を置き此所より有線又は無線電話にて連絡する此等の觀測所に於ては正確な照準及計算を行ひ、又彈著の觀測をなし、又は航空機或は緊密氣球よりの觀測により修正を加へる。最近制式となれるものにC-6自動觀測氣球がある。之は操縦並に移動すべて機械的で、取扱は簡易である。

第十三表

口徑(耗)	砲種	射程(米)	砲の重量(耗)	彈丸の重量(耗)
七五	榴彈砲(馱載)	九、五〇〇	〇・六七〇	六・七
七五	野砲 M2型	一三、六〇〇	一・六五〇	六・七
一〇五	榴彈砲	一二、一四〇	二・六一〇	一四・六
一五五	榴彈砲	一二、四〇〇	四・〇七〇	四二・一
一五五	野戰重砲	一六、〇〇〇	一三・六〇〇	四二・一
二四〇	榴彈砲	一六、四〇〇	二六・六〇〇	一五三・〇
二〇三(八吋)	榴彈砲	一八、七〇〇	一三・四二〇	八八・七

野戰砲兵は歩兵と異なり、單獨に戰闘することなく、殊に迅速に移動しつ

つある敵部隊に對しては一齊射撃に於てのみ威力を發揮し得る。其の一齊射撃の最小單位は四門一箇中隊、次の大なる單位は大隊である。砲兵大隊は

輕、中、重共各二箇中隊より成り、輕砲兵及中砲兵聯隊二乃至三箇大隊より成る。一般に野戰砲兵一箇聯隊は、六箇乃至九箇中隊より成り、砲は二四門

乃至三六門を有する。

野戰砲兵の最大の部隊單位は旅團にして、之に二種類あり、其の一は師團砲兵旅團にして、之は四角編成歩兵師團に編入され、七五耗野砲兵聯隊二、一五五耗榴彈砲兵聯隊一より成る。

三角編成歩兵師團は、砲兵聯隊二箇を有する。即ち輕砲兵聯隊一(大隊三より成り、各大隊は七五耗野砲中隊三)、中砲兵聯隊一(大隊二より成り、

各大隊は一五五耗榴彈砲中隊二。此等の階級は、嚴密に言へば四角編成歩兵師團に於ける如き旅團の形を有するものではない。

輕砲兵は戰鬥に方り、攻撃防禦共に歩兵の掩護を目的とする。

他の一の砲兵旅團は、軍團砲兵旅團にして、一五五耗榴彈砲兵隊二、一五五耗野戰重砲兵隊一、砲兵陣地標定大隊(音源標定機及火光標定機を有す)、より成る。此の旅團は軍團を編成する各師團内の砲兵の他に編成せられ主任務は軍團の前線に於て敵砲兵を沈黙させることにより、師團砲兵の主任務である敵小銃軍、機關銃軍の殲滅を容易にする。軍團砲兵は亦屢々師團砲兵の増強に用ひられることがある。

乘馬騎兵師團の野戰砲兵は、乘馬砲兵隊(軌曳七五耗榴彈砲)一である。又機械化騎兵旅團の野戰砲兵部隊は機械化砲兵大隊一(二乃至三箇中隊より成り、一箇中隊は七五耗榴彈砲四門半無軌道牽引車にて牽引する)

野戰砲兵の戰鬥に於ける最重要なる問題

問題は彈藥の補充で、七五耗野砲を有效なる發射速度を以て、三時間射撃を繼續せば、五〇〇發以上の彈丸を要し重量五噸以上に達する。従つて野戰砲兵は常に後方部隊より彈藥車列に依る彈藥の補充を要する。又砲兵隊隊相互間及歩兵隊隊間の通信連絡も極めて重要なれば、野戰砲兵の司令部中隊は必ず通信設備を有し、放列、觀測所、發射指揮中央部、歩兵司令部、騎兵司令部

部門に通信連絡を行ふ。

野戰砲兵部隊は其の口径及運搬方式の種類により、夫々其の兵力量を異にする。七五耗自動車牽引輕砲兵隊の戰時兵力量は中隊一五、大隊五一六、聯隊一一八七であつて、中及重砲兵に於ては之より更に大である。一九三九年六月三十日に於ける米國野砲兵の平時兵力量は、第十四表の如し。

種類	將校	下士官兵
正規軍	一、六六二	二二、六三八
護國軍	三、一九五	三六、七一五
豫備軍	一三、九一五	三八六
		聯隊司令部 三〇
		聯隊司令部 七
		聯隊司令部 五八

海岸砲兵

海岸砲兵の主任務は、長射程の固定砲又は移動砲により海岸殊に大港灣を

防備し、敵の上陸竝に空襲を防ぐことで、従つて國防動員計畫(後述す)に基き、海軍と密接なる協力をなし其の實

を擧ぐ。

海岸砲兵は亦高射砲部隊を有し、最も人口多き都市、工業地帯、陸軍の重要な中央機關、司令部所在地等を防備す。斯くの如く海岸砲兵は、港灣防備及防空の二種類に分け或場合には二箇聯隊以上を以て旅團を編成する。

港灣防備聯隊には數種類あり。

- 一、海岸要塞の固定加農を有するもの
- 二、大口徑列車砲を有するもの、沿岸を又は一海岸より他海岸へ迅速に移動し隨所に於て放列を布き得るもの
- 三、大貨物自動車により隨所に移動し得る大口徑砲を有するもの

此等個々の聯隊は、各自の防衛の爲獨立して高射砲を具備する。

海岸砲兵の有する火砲には、七六・二耗加農(彈丸六・八耗射程凡そ一〇耗)より四〇・六四耗加農(彈丸一噸、射程三二耗)の各種がある。

港灣防備砲兵の有する固定砲は、次

の三種に大別さる。

- 一、敵艦船の裝甲を侵徹する目的とするものには
 - 三〇・四八耗長射程重砲、三五・五六耗長射程重砲、四〇・六四耗長射程重砲
- 二、敵の稍々小なる船舶を射撃するを目的とするものには
 - 一五・二四耗加農、二〇・三二耗加農、二五・四耗加農、三〇・四八耗白砲
- 三、友軍の水雷敷設水域中を迅速に航行し來る敵高速水雷艇を射撃し友軍陸軍の敵上陸阻止を援助するを目的とするものには
 - 七・六二耗乃至一五・二四耗加農

がある。

列車砲及重自動車砲は固定防備無き海岸に上陸せんとする敵軍を阻止する主任務とす。自動車牽引砲は一五五耗加農にして、實物は野戰砲兵の有する一五五耗野戰重砲と同一にして其の彈丸重量は四三耗、射程は一六耗である。

る。

列車砲は、二〇・三二耗加農、三〇・四八耗白砲、三五・五六耗加農の三種。海岸砲兵には又電氣水雷を敷設し、敵艦船が其の上を航行するとき、電氣スイッチに依り水雷を發射し之を爆沈する。此等水雷の敷設船として大は一〇〇〇噸以上、小はモータボートに至る迄使用する。一九三九年に於ては一〇〇〇噸以上の船を八隻所有する。

敵艦船を射撃するには、目標を精確に觀測標定する必要がある、彈丸が發射されてから、彈着迄少くとも數秒、長きは三十秒以上を要するので、極めて航速の大なる船舶に對しては現在位置より八〇〇米の前方未來位置を射撃せねばならぬ。従つて觀測所に於て敵艦船の時々刻々の位置を精確に標定し、未來位置を計算し、これに風、氣温、場合によつては地球表面の曲率迄も計算に入れて修正を加へ、各彈の發射照準をする。海岸防備砲兵は斯くの如き觀測所、航跡追跡室、探照燈、計

算機、計算機通信装置等を備へる。

海岸防備砲兵は重き火器を用ふるに反し、對空防備砲は極めて輕快に動く火砲を有する。高射砲隊は又防備すべき部隊が移動するに伴ひ、之と共に迅速に移動し新位置に於て放列陣を敷く。少數の高射砲は重要箇所を防備する爲、固定位置に設置し、其の他は機械化せられ、探照燈其の他全部自動車に依り移動し得る。高射砲隊の移動速度は一日五〇〇軒以上である。

現今の海岸砲兵高射砲隊の有する標準兵器は、七六・二耗高射砲（彈丸五・九噸、射程高度六・四軒）にして時限信管を附す。其の一箇中隊は四門を有し、一分間に一〇〇發を發射する。各中隊に一箇宛の指揮装置を有する。本装置は極めて複雑な内部機構を有し、時々刻々敵機を照準追跡し居ることにより計算をなし、砲の發射すべき方向を求め、電氣的に指示目盛を各砲に傳達する。砲手は單に其の目盛を讀み他の目盛を廻轉して砲を正しき方向に向ければ可である。

高射砲は更 凡そ八億燭光の探照燈を有し、夜間之により目標を照射する尙照空手をして、容易に敵目標を發見せしむる爲に空中聽音機を有す。即ち空中聽音機を以て豫め目標の方向を探知し置き、然る後探照燈を其の方向に向けて照射する職法を取る。勿論探照燈は放列を中心として、相當大なる半徑の圓周上に配置し、尙更に其の遙か外周に監視哨を配置する。四門の高射砲を有する一箇中隊が用ふる連絡用電話線の長さは、實に一六〇軒に達する。

一九三八年頃スベリヤ會社にて發表せる三箇喇叭式空中聽音機は重量比較的小にして且分解組立式なる爲便利なりと稱せられ、米國陸軍に於て二、三の部隊に試験的に整備せられた。七六・二耗高射砲は長射程に適する如く作られたもので、低空を飛翔する飛行機には効果的でない。斯くの如き場合には寧ろ輕兵器により連續的に大量の射撃を與ふるを可とする。此の目的の爲に、ブローニンズの一二・七耗機關銃及三七耗高射砲を用ふる。口径一二・七耗機關銃は徑一二・七耗の曳光彈の流を射ち出す。此の曳光彈は其の發する輝光により彈道を凡一六〇〇米の遠方迄見ることが出来、射手は容易に其の彈道を目標に合致せしめることが出来る。發射速度は一分間五〇〇乃至六〇〇發なり。三七耗砲の彈丸は四五四瓦である。

高射砲隊の戰時兵力は、
照空 中隊 一
探照燈 一五臺
高射砲中隊 三
七六・二耗高射砲 計一二門
高射砲中隊 三
三七耗砲 計二四門
高射砲機關銃中隊 一
機關銃 計四八門
最近（一九四〇年以降）新たに九〇耗高射砲完成し試験の結果制式とし逐次之を以て七六・二耗高射砲と置換へつ

つある。他兵科部隊にありては、低空飛行する敵機に對して小銃、自動銃、機關銃等の一齊射撃を以て自ら防禦する。

一九三九年六月三十日に於ける海岸砲兵高射砲隊の数は、正規軍五箇隊、護國軍一〇箇隊であるが、一九三九年制定の軍備擴張計畫により、右一五箇隊の外更に二二箇隊を増加することとなつた。

一九三九年六月三十日に於ける海岸砲兵の兵力量は第十五表の如し。

航空兵

航空兵は敵航空兵と戦闘し其の航空基地を攻撃し、兵站部工場其の他すべての軍事施設を爆撃する。米國海軍の航空部隊は、艦隊と協力して敵艦隊を撃沈し、沿岸に近接する敵を撃退す。之に反し陸軍の航空兵は、上述の如く空中戦と敵地の攻撃を主任務とするものだが、場合によつては海軍の航空部隊と協力して、敵艦隊の撃退に參與することもある。

第十五表

海岸砲兵の兵力量

	將	校	下士官兵	聯	隊	數
正規軍	一、〇六八	一八、九二一	二九	港灣防備對空防備	二四	二四
護國軍	九二六	一三、七七四	二五	港灣防備對空防備	一九	一九
豫備軍	八、七五三	二四四	五七	港灣防備對空防備	一〇	一〇

世間では屢々米國「空軍」なる語が用ひられるが佛國、獨逸に於ける如き陸軍海軍と對立した獨立の「空軍」が存在するのではなく、我が國と同様陸軍海軍各個々に航空兵科を有するのである。

航空兵は三種の基本的戰用機を有する。驅逐機（遊撃機、戰闘機）、爆撃機、偵察機

は爆撃機と行動を共にし、之を防禦し敵の驅逐機を攻撃する。爆撃機には輕、中、重三種ある。輕爆撃機は機關銃と爆彈を搭載し、友軍の掩護をなす。重爆撃機は長距離爆撃及長距離離洋偵察に適した設計である。中爆撃機は中間距離の爆撃及偵察の目的にて、重爆撃機よりも稍々輕快に製作す。偵察機の目的は近距離の偵察、寫眞撮影、軍の指揮、傳令、軍團、師團間の連絡等をなす。此等各種の軍用機はすべて機關銃を備へ、發動機の許す限り最大の速度

を得る如く設計す。非戦闘機には練習機、輸送機、試作機の三種がある。練習機には初等型、基礎型等がある。輸送機は兵員及貨物を輸送す。試作機は改良新型研究中のものである。

一九三九年六月三十日に於ける航空兵力量は第十六表の如し。

正規軍	一、六七〇	二〇、八八八
豫備役中	八四六	
護國軍	四六八	一、八四八
其の他	二、一五六	四〇三
豫軍		
將校		下士官兵

一九三九年制定の陸軍擴張計畫により、一九四〇年中に上記總計は四五、〇〇〇に増加した。

航空兵部隊單位の有する飛行機數凡そ次の如し。

航空兵小隊 三乃至五機

航空兵中隊 六乃至八機
航空兵大隊 一三乃至二八機
航空兵聯隊 六一乃至一二一機
航空兵旅團 一二五乃至二五〇機
航空兵科將校の出身に次の三種あり。

- 一、陸軍航空士官學校を卒業し、航空兵少尉に任ぜられたるもの。
- 二、陸軍士官學校卒業生にして、航空機操縦技術を修得し、航空兵科に轉科せるもの。
- 三、豫備將校(中等學校以上に於て豫備將校養成隊を卒業の後、豫備將校となりたる者の内、航空兵科に決定せられたる者は、操縦訓練を受け豫備航空兵將校となり、最大五箇年迄の短期現役勤務をする)

操縦技術優秀なる航空兵將校は、選ばれて一部は民間飛行學校に派遣せられ(米國に於ては、民間飛行學校に優秀なるものあり)一部はテキサス州サン・アントニオの陸軍飛行學校に派遣される。

航空兵基地には數種あつて、基地(飛行場)を有する部隊單位は、航空兵大隊、航空兵聯隊、航空兵旅團である。基地に於ては航空機、航空兵部隊及整備隊がある。又航空兵學校、研究機關、豫備航空兵基地(此處にては航空機と指導者と整備隊とを備へ、毎年召集訓練を受ける豫備航空兵將校の基地となる)、護國軍飛行場、軍團、航空路分遣隊(此處には小整備隊があり、軍團司令部屬の航空機の保守及陸軍航空路を通過する飛行機の保守を行ふ)等あり。

一九三九年六月三十日に於ては、八三箇所の基地を有し其の内四一は正規軍飛行場にして(三五は米國本土内に六は米國本土外にあり)、又一九は護國軍飛行場、一七は豫備軍飛行場である。

テキサス州ランドルフには最新式設備を誇る飛行場あり。航空兵科はオハイオ州デイトン市ラ

イト飛行場に極めて規模大なる研究機關及材料部を有し、陸軍のみならず、民間航空技術にも大いに貢献し、此處に於ける研究の目標は新型航空機、發動機、部品改良研究及其の試験飛行にある。此處でなされる準成層圏飛行の實驗は未來の航空術に大なる貢獻をなすであらう。高層空氣に於ける低き氣壓により人體に支障を來さざるやう、強固な壓搾空氣室の研究をなし、又高層飛行に於ける航空醫學の研究をなす等、研究項目は枚擧に遑がない。尙又、此のライト飛行場に於てなせる重要な研究は、自動着陸装置、二〇〇馬力以上の發動機、其の他の部品の材料、其の他航空の安全確實性及速度増大の爲に必要な各種の研究等がある。

航空兵科は又陸軍次官指揮の下に戦時に於ける航空機、發動機、部品の製造に關し民間工業の指導並に計畫を立てる任務を有し、又民間飛行場の位置を指定す。陸地測量部其の他政府に

於て地圖作製に當つては、寫眞測量をなし助協力する。洪水等不慮の災害に際しては其の偵察をなし、援救の指導及必要な通信、連絡、輸送等をなし、化學戰部と協力して毒蟲驅除藥散布をなす。又米國地理學會と協力して成層圏の探検をなし、ビュロー・オブ・スタンダードと協同しては航空機用諸材料及合金類の試験をもなす。

ダグラス	B-18	中機撃機
ロックヒード	XP-38	驅逐機
ベル	XFM-1	驅逐機
カーチス	A-18	戰鬥機
カーチス	P-36	驅逐機
カーチス	XP-40	驅逐機
ノースアメリカン	O-47A	偵察機

戦時に於ける工兵の最重要なる任務の一は道路構築で前線に於ける道路のみならず、兵站線の道路構築も亦重要なものであり又鐵道、電燈、電力、給水、其の他兵科及他部に特定せられぬすべての事項を任務とす。

更に他の一の任務は測量及地圖作製にして、之は單に地圖作製の資料を準備するのみならず、實際に大量印刷し他兵科及部の各方面へ可及的速かに配布し、戰術、軍略に資す。工兵は上述の如き種々の任務を有するが、其の戦時に於ける任務は簡單に次の二に要約される。

友軍の行動補給を容易ならしめ、敵軍の行動を妨害する。戦時には工兵は其の任務分擔により次の如く分類される。

- 工兵戦闘隊 (主として前線に於て行動し他の兵科を援助す)、工兵一般隊、工兵分立大隊、工兵輸送中隊、工兵舟橋部隊

尙其の他次の如き特殊部隊あり。

- 工兵裝裝大隊、工兵舟橋大隊、工兵鐵道大隊、工兵給水大隊、工兵寫眞(地圖)大隊、工兵貯藏及修理中隊

工兵は平時は單に其の戰時任務の訓練を行ふのみならず國內の河川、港灣の改築、洪水防禦、其他公共事業の指導を行ふ。

通信兵

通信兵は陸軍の通信手を訓練するを

任務とする。

自動自轉車、飛行機、傳書鳩、電話、遠隔打字機、電信、無線電話により陸軍の通信を迅速に行ふ。又軍用通信器材、氣象器材、寫眞器材の改良を行ひ、訓練教育用及史料文獻用の寫眞竝に活動寫眞を作製する。

戦時には通信兵部隊は、師團以上の部隊司令部相互間の通信をすべて掌る。歩兵、騎兵、野戰砲兵は各獨立して前線に於ける通信機關を有する。

戦時に於ては通信兵は其の通信上役立つ民間所有電話及電信架線は隨時之を徵用する。

第一線に於ては架線は屢々切斷されることがあるので、通信兵は此の第一線の砲火の中にあつて架線の修理をなす必要を生じ、場合によつては歩兵と同敵と戦戈を交へる、依つて通信兵も亦一の戰鬥兵科である。

通信兵は數種類の長距離用通信機材を有し、貨物自動車にて運搬し、重要な司令部の建築物又は天幕内で操作す

ンモスにある通信兵研究所に於て行ふ。

戦時に於ては傳書鳩は又他の通信手段なき場合極めて信頼性ある迅速なる通信法である。陸軍は戰時數千の鳩飼育家により多數の鳩の供給を受くるやう準備してゐる。

一九三九年六月三十日に於ける通信兵の兵力量は第十七表の如し。

第十七表

種類	將校	下士官兵
正規軍	二八八	三、六八七
護國軍	一四五	一、九〇八
豫備軍	二、二六二	九

正規軍

大 隊 二

步兵師團所屬中隊 五

無線探偵中隊 二

騎兵師團所屬中隊 一

護國軍 大 隊 一

步兵師團所屬中隊 一八

る、小型通信材は手で運搬し、野外若くは新壕内にて操作する。騎兵用通信器材は馱馬に裝し、馬上若くは地上にて操作する。又戰車用、裝甲自動車用航空機用、無線電信電話器がある。航空兵の用ふる特殊無線電話器は、ラジオビーコン、ラジオコンパスをも含有し、飛行機相互間及飛行機地上間の通信及インターフォンと稱し飛行機搭乗者相互間の通話等すべて通信兵科の掌る所である。

陸軍は自ら固定無線局網を有す。之により陸軍省は直接國內各地の部隊と通信連絡をなす。即ちワシントンには直接各軍團管區司令部及ポストン、ニューヨーク、シカゴ、サンフランシスコ、バナマ、ハワイ等の各司令部と通信を行ひ得。マニラはハワイ中繼及サンフランシスコ中繼の二線にて連絡され、アラスカはシアトル中繼にて連絡さる。此等通信網は總計一四六の無線局より成る。目下米國全土に免許證を有する素人

無線探偵中隊

騎兵師團所屬中隊 一

第三章 部

高級副官部

高級副官部は我國の考へ方よりすれば官衙の如きものであるが、米國陸軍では之を部として編成して居る。

- 主要任務は 1. 陸軍全般の統制、2. 教育、3. 操典教範の編纂、4. 補任、5. 軍團管區司令官を通じて豫備軍・國民軍事教練隊・國民防護隊等の教育指導

賞勳、等である。長は旅團少將にして部員將校は約一〇〇〇名より成る。

査閲總監部

當部も官衙の如きものであるが、部として編成せられ、主要任務は定期並に隨時檢閲である。然し査閲官は單に實狀を報告するのみで、所罰等の決定は行はぬ。長は少將、部員將校准士官約一〇〇名より成る。

法務總監部

無線家五〇、〇〇〇名あり。通信兵科は其の内優秀なるもの一二、〇〇〇名を選抜し、有志者團を組織し、軍團管區、州、在郷軍人區等を連絡し一團とす。陸軍素人無線家團隊を結成しあり此の團隊は現に洪水其の他の災害に際し、大なる貢獻をなしあるを以て、戰時大いに活躍する所あるを期待されてゐる。

通信兵は又敵軍の通信を妨害し、ラジオゴニオメーターにより敵無線局の位置を探知し、陸軍の全無線事務を管理する等の任務を有す。無線探偵中隊が之に任ずる。

通信器材に關する民間の發明改良を陸軍に取り入れるには相當の設計變更を行ふ必要あるを常とする。此等の業務の内航空無線器材に關するものはオハイオ州ライト飛行場にある通信兵航空無線研究所に於て行ふ。

電話、電信、氣象、無線及航空無線を除く一切の軍用通信器材に關するものは、ニュージャージー州フォート・マ

諸種の軍事的法律事務を専門に掌り裁判等をなす。
法務總監は少將、法務官約九〇〇名より成る。

輜重運輸部

當部は從來輜重部又は運輸部と譯されて居るが筆者は標頭のやうに譯した。我國の輜重兵とも運輸部とも稍異なるので、或は軍陣部とも譯した方が穩當かも知れない。

兵の生活に必要な衣食住の供給を任務とし、兵器、彈藥、その他特殊物品の運搬供給は通例行はない。

當部は又鐵道及水路による軍隊輸送に任じ、現在紐育州ブルックリン及加州桑港の二州に軍用港を有し、又多數の軍用船を有する。

軍用自動車及軍用鐵道貨車の改良擴張及調達を行ふが、戰車其の他特殊自動車は兵器部の任務とする。

平時に於ては兵舎の建築、道路構築及修理を行ふ。(戰時戰場に於ては悉く工兵科の任務とする)尙又燈房、照明、

して居る。

製造された兵器、彈藥、各種兵器材料の耐久力試験精度試験を行ふ爲、メリーランド州アバーディーン試験場があり、此處に於ては實戰と同一の諸條件を實際に具現して試験を行ひ、之に合格せるものは實際に信頼し得るものである。殊に試作兵器の試験審査に際しては數回試験を繰返し最後に試験部隊を編成して、十分なる實地演習試験をなし確信を得たる後始めて制式制定をなすものであつて、制定後不具合を發見するが如きことがないやう細心の注意を拂つて居る。

近來に於ける米國陸軍の兵器改良の顯著なるものは、一九三六年に於ける歩兵用半自動小銃の採用がある。之は口径七・六二(三〇寸)小銃と名付けられるもので、自動裝填式である爲從來の小銃の二倍半の發射速度を有し射手の疲勞僅少である。瓦斯利用空冷式機構であつて重量四・一五、彈倉には八發裝填し得る。その他三七耗

給水、燃料の補供に任ずる。その他重要な任務の一つは葬祭であつて、戦死者の慰靈も全部當部に於て行ふ。

長は總監、少將にして、副總監、旅團少將三名あり。總兵力約二五、〇〇〇、運輸大隊、貨車大隊(又は中隊)、整備大隊(又は中隊)、糧食大隊(又は中隊)、格納大隊(又は中隊)より成る。

經理部

任務は全陸軍の豫算を掌り、俸給、諸購入品、兵器材料、營繕等すべての支拂をなす。總兵力約一、五〇〇なり。

軍醫部

軍醫總監、少將一名、軍醫監、旅團少將四名(内一名は齒科醫)、將校團五下士官兵、文官より成る。總兵力豫備を合せて約四〇、〇〇〇である。

現在七箇の軍醫部大隊あり、内五箇大隊は歩兵師團に他の二箇大隊は騎兵師團に配屬せられて居る。

兵器部

當部の任務は砲、小銃、戰車、彈藥その他各種の兵器の研究、設計、製作

高射砲及三七耗對戰車砲、一九四〇年の最新式九〇耗高射砲の改良がある。

化學戰部

當部の任務は敵軍の使用する毒瓦斯煙幕等に對し防護並に除去を圖り、又敵軍に對し瓦斯、可燃性物質、煙等を注射し、友軍の進撃を援けるにある。

主兵器は化學迫撃砲、ライヴェンス注射器、携帶注射筒である。

化學迫撃砲は口径二〇一・六耗、腔鏡を有し彈丸の重量一一・三三(全重量の三分の一は瓦斯)射程二、四〇〇米、發射速度一分間に二〇發である。

ライヴェンス注射器は彈丸の重量二七・二耗(全重量の二分の一は化學藥品なり)、射程一、五〇〇米にして、之を多數並べ一齊に發射し、大量の瓦斯を敵に打ちつけるのである。

携帶注射筒は瓦斯腔により注射するものであつて彈丸の重量二四・九耗(全重量の二分の一以上は化學藥品である)友軍の前線に之を並べ一齊に噴射する。従つて之は風向が敵の方向に

及各兵科部へ分配補給を掌る。

兵器部總監、少將、大監二名、旅團少將にして一九三九年に於ける兵力第十八表の如し。

第十八表

正規軍	三〇〇	三、〇〇〇
護國軍	一〇〇	、五〇〇
豫備軍	三、〇〇〇	
將校數	下士官兵數	

其他文官約一五、〇〇〇

工廠六、試驗場一、補供部一五を有し、各軍團管區司令部及士官學校には兵器部整備中隊各一あり、其他全國に三十一の兵器中隊がある。兵器部は航空兵科に對する兵器の整備も行ふ。

工廠は戰時には擴張するのであるが、其の全需要の十分の一を充し得るに過ぎず大部分は民間工場に注文する必要ありと考へられて居る。従つて兵器部は後述の如く工業動員計畫を立案

向ひ適當なる時期に限り使用し得るものである。一九三九年に於ける化學戰部の兵力第十九表の如し。

第十九表

正規軍	一〇〇	一、〇〇〇
護國軍	三〇	
豫備軍	二、二〇〇	
將校數	下士官兵數	

其他多數の文官を採用す

他兵科部將校中一部は化學戰學校に派遣せられ勉學の後各自の兵科部に歸り主として瓦斯防禦に關する指導をなす。之を瓦斯將校と呼ぶ。

當部の兵器製造研究改良の中心はメリーランド州エツヂワッド工廠である。此處には又化學戰學校、貯藏部及化學戰部々隊がある。(歩兵學校内にも化學戰部の小部隊がある)化學戰部は尙其の他米國內外各地の部隊所在地に分遣せられて居る。

海軍は特別に化學戰部を有せず、陸軍化學戰部は常に海軍並に他官廳と良く協力する。(海岸砲兵の項に述べた如く陸海軍の協力は相當緊密であつて、兩者に於て同様のことを重複研究し、相對立することを避けて居る)

教誨部

陸軍全員を宗教的並に道徳的に善導し人格の向上を圖るを任務とする。大學専門學校の神學部卒業者中より詮衡の上中尉に任じ最高を大佐とす。總數豫備を合せ一、四〇〇である。

第四章 民間に對する軍事思想普及事業

陸軍は民間軍事思想普及を圖り色々事業を行つて居るが、其の内最顯著なる一例は國民防護隊 Civilian Conservation Corps 略して C. C. C. を編成し、正規軍將校、聯邦官吏中の豫備將校、海軍及海兵團豫備將校其の他合計五、〇〇〇名が其の指導に當つて居る。中隊を以て單位とし編成は凡そ陸軍に準じ、現在全米國に約一、五〇〇

十分なる倉庫を準備して萬全を期して居る。

○米國軍備の一大飛躍

一昨年五月獨逸機械化部隊に依りマヂハ要線線が突破されて佛國の運命が決定した時、ルーズヴェルト米大統領は米國の國防強化を宣言し「世界第一の絕對國防」の實現に乘出したが、今や米國の軍備は僅々一年にして左表の如く一大飛躍を遂げ、陸軍では昨年五月現在既に百三十萬以上の軍隊の徵募、編成を終へ、海軍も亦三萬五千噸十六吋巨砲積載の超弩級戰艦ノースカロライブ號及びワシントン號の二隻を完成して刻々參戰準備を整へてゐる。

△陸軍々備状況

- 一、將校及び下士官兵數
- 四〇年五月 二六〇、七八〇
- 四一年五月 一、三二〇、〇〇〇
- 四二年一月 一、五一五、四六八
- 一、輕戰車(九トン乃至十五トン)
- 四〇年五月 四四六

中隊ある。然し之は陸軍の一部ではなくて防護隊長は政府の官吏が任せられて居る。

第五章 軍需工業動員計畫

米國陸軍の工廠の製造能力は全能力を擧げたる状態に於て、戰時兵器計畫の一割を充すのみであると云はれて居る。従つて殘部九割は何うしても之を民間工場より供給を受けなければならぬ。兵器部に於ては軍需工業動員計畫に基き、二萬の工業會社につき其の生産品の種類及生産高につき調査せる結果、其の内一萬は動員計畫に適當すること判明し、又會社も快諾し計畫に協力しつゝある。依つて全國を十四の「供給地方」に分割し、其の各々に司令部を置く。司令官には其の地方の生産能力に適應せる人を任命する。戰時需要の總量より工廠の生産量を差引き、其の餘りを上記十四地方に配當する。各地方司令官は其の地方内の會社と接渉して其の生産し得る量を決定する。此のやうな順序により第一次の計畫は

進捗して居る。

然し兵器計畫と云ふものは常に情勢に適應する如く改良して行かなければならぬ爲、工業動員計畫其れ自身も亦之に伴つて變化して行かねばならぬ。従つて民需工業會社も常に此の如き軍需の變化に即應し、遲滞なく之を供給せねばならぬ。又陸軍と海軍の工業動員計畫が互に干渉し合ふやうなことがあれば、此の計畫の遂行は期せられないのであつて、之を統括する爲陸海軍兵器計畫統制委員會が設立された。兩省計畫の細部遂行に至る迄此の委員會が統制する權限を有し極めて圓滑に行はれるやうになつたと云ふ。

此の様に計畫に最善の注意が拂はれ民間各工場が最善の努力を以て、民需工業から軍需工業に轉換したとしても完全に豫定計畫通りの能率を擧げ得るに至る迄には、動員計畫發令後少くとも一年以上は要するものと考へられて居る。従つて此の間の供給は何うしても貯蔵に俟たねばならぬ故、工廠には

造中一二

- 一、巡洋艦 四〇年五月三五、建造中八、四一年五月三七、建造中五二、四二年一月三七、建造中五四
- 一、驅逐艦 四〇年五月二一九、建造中四〇、四一年五月一六四(對英讓渡によつて減少) 建造中二〇〇、四二年一月一七四、建造中一九〇
- 一、潛水艦 四〇年五月九五、建造中一九、四一年五月一〇七、建造中八〇、四二年一月一〇八、建造中七九
- 一、各艦合計
- 四〇年五月三六九、建造中七七、四一年五月三三一、建造中三六一
- 四二年一月三四二、建造中三五〇

△空軍々備状況

(陸海軍合算)

- 一、操縱士
- 四〇年五月 六、二四六
- 四一年五月 一〇、六三九
- 一一、六三九

四二年一月	一、二二、〇〇〇
一、飛行機	
四〇年五月	五、一〇〇
四一年五月	八、二五〇
四二年一月	一五、三〇〇
一、一箇月間の飛行機生産数	
四〇年五月	五〇〇
四一年五月	一、五〇〇
四二年一月	二、三〇〇

○米國軍需生産状況

(一七、一〇、一三、東朝記事) 今井特派員報

昭和十七年九月二十一日米軍需生産局長官トナルド・ネルソンは、カンサス市における米在郷軍人年次大會で、米軍需生産は現在既に米全生産の四割を占めてゐる、しかししてこの比率は明年中頃には六割に達するであらうと誇示してゐた、また彼は七月下旬本

年上半期における米軍需生産の概要を發表し、

米國現在の軍事支出は、一日一億五千八百萬ドル——年額五百七十八億八千九百萬ドル——であり、これは米參戰直前の昨年十一月の軍事支出、一日六千七百萬ドルに比べ、僅か半年間に於いて、九千六百六十萬ドルの飛躍的増加を示してゐる。この七箇月の軍事支出はすでに米國民所得の三割六分であり、これを過去三箇年間に於ける比率と比較するに、昨年度は一割四分、一昨年度は四分、一九三九年度は僅かに二分といつた數字を示してゐる。

と述べ、本年七月すでに米軍需生産は年六百億ドルに近い巨大なる數字を示しつゝあることを誇つてゐたのであるが、この米國軍需生産の參戰後の飛躍的發展を軍需生産局發表について見るに、昨年十一月を一〇〇とする月別指數(飛行機、船舶、戰車、火炮、彈藥その他各裝備品を含む総合的生產指數)は、

一九四〇年	七月	二三
	十二月	五〇
一九四一年	一月	四一
	二月	四五
	三月	五二
	四月	六〇
	五月	五七
	六月	五九
	七月	六四
	八月	七二
	九月	八三
	十月	九一
	十一月	一〇〇
一九四二年	十二月	一二四
	一月	一四九
	二月	一六五
	三月	一九九
	四月	二四八
	五月	二五八
	六月	三〇三
	七月	三五〇

といつた上昇ぶりを示し、七月の指數

は昨年十一月に比べ三倍半に達してゐる、米國軍需生産の今年年度の指標は本年一月六日ルーズヴェルトが議會に對する教書において、一九四二年度には飛行機六萬臺、戰車四萬五千、高射砲二萬、商船八百萬トン、一九四三年度には飛行機十二萬五千、戰車七萬五千、高射砲三萬五千、商船一千五百萬トン及びこれに相當する各軍需品であると明示してゐるが、次にこれ等主要武器軍需品の參戰後における米生産状況を概観してみよう。

飛行機生産状況

本年度生産目標六萬機に對し、これが發表當初は大體四萬機位しか生産されないであらうとみられたのであるが、現在の速度で生産が進行すれば先づ五萬機の生産は可能であらうとの見方が有力化してゐる。當地における資料に基づき、現在までのその生産状況を見るに、一月は二千乃至二千五百機、三月は三千乃至三千三百機、五月は四千機(大統領の言明による)七月は五

千機といふ状態であり、八月の生産はすでに本年度の目標年六萬機を可能ならしめる數字を示してゐる。なほ大統領の本年度生産目標六萬機は、練習機その他一に對し、軍用機三の割合であつたが、八月の生産實數では軍用機約六割を占めてゐるので、目下のところ練習機その他の生産比率が豫定より少し多いが、いづれにせよ、米飛行機生産は先づ豫定通り進展してゐると見るべきである。

船舶建造状況

本年上半期における米船舶竣工トンは、二百三十隻、二百五十四萬四千トン(一月十五隻、二月二十八隻、三月二十七隻、四月三十六隻、五月五十八隻、六月六十六隻)であり、これに七月の七十一隻七十九萬三千トン、八月の六十八隻七十五萬三千トン、九月九十三隻百九千八百トンを加算すると、本年初頭より九月までに四百六十二隻、五百十萬トンといつた數字を示し、大統領の今年度目標八百萬トンに對しい

まだ三百萬トン不足してはゐるが、九月の造船高はすでに百萬トンを超え、米船舶業者が達成に極力努力しつゝあつた「一日三隻建造」の目標を突破してゐる。

米國のリバチー型船舶(一萬五百トンの完成に要する日數は大體百五十日とされてゐるが、八月の平均建造日數は八二・〇九日であり、最も建造の早い米西岸のカイザー造船所は、龍骨据附後十三日と三時間半(過去の同造船所の記録は二十九日)でこれを組立てるといふ新記録を樹立してゐる。

其他の軍需生産状況

米軍需生産局の七月の公表によれば本年上半期に於ける重、輕戰車生産は昨年度における生産量を凌駕してゐるのみでなく、五月には千五百臺以上の生産が確保されたとしてゐる、しかしながら目下のところ米國の戰車生産は所期の計畫より相當遅延しつゝある模様で、その理由は從來の形式を改良するため器具、その他の製造設備に相當

の改善を要し、これがため手間取つてゐるのであるとされてゐる。また高射砲の生産は、これまで米國がかゝる精密武器の生産に経験乏しく、部分品の生産に相當嚴密な試験を要するため、これまたその生産が豫定よりある程度遅れてゐる模様である。しかし本年上半期の高射砲生産は、昨年度の全生産の約三倍半に達してをり、一部火砲(野砲ならびに對戰車砲)は月二千門の割合で、また機關砲は月五萬挺の割合で生産されてゐると報せられてゐる。

増産の極點

かくの如く米國武器軍需品の生産は開戦以來急速なる上昇を示してゐるが、去る十月一日ネルソン軍需生産局長官が、九月の武器軍需品生産状況を發表した時、九月の生産は八月の水準と大差なく、月初めの豫想より一割四分方下廻つてゐると言明し、増産の一路を辿つてゐた米軍需生産が、九月に入つて漸く頭打ちの觀を呈してゐることを自認した。これは果して如何なる

理由に基くものであらうか、米軍需生産が間もなくかゝる沈滞を示すであらうことは、既に去る七月頃より豫想されたところであり、七月二十七日の週刊誌タイムは、

金に糸目をつけず無茶苦茶に急ぐ米國の軍需生産計畫は、今週鐵の不足で、到るところで矛盾を暴露するに至つた、この矛盾はベルリンと東京で喝采を博するであらうが、世界一の鐵生産を誇る米國にとつては、一會戰で敗北を喫するよりも、より大きな恥辱である、米海軍委員会は鐵の不足でニューオルレアンスのヒツギンス造船所に對する二百隻の造船注文を取消したのみでなく、既に工事に着手してゐた。工費六千五百萬ドルの同造船所の擴張計畫を中止せしめ、一千萬ドルに達する豫備工事を無駄にしてしまつてゐる、また同じく鐵の不足で、デトロイトのクライスラー戰車工場が數週間にして、作業を停止せねばならない状態とな

り同市で聯動装置と、車軸を製造してゐるシボレー工場および、フィツシャー車體會社の第一工場は閉鎖のやむなきにいたつてゐる。と報じてゐた、即ち開戦以來一路武器軍需品生産を増強しつゝあつた米經濟は七月に入つて工場生産力と、資材配給の全面的不均衡を暴露し、その結果一部工場は操業短縮または閉鎖のやむなきにいたつたのである。

力と物の配給不均衡

今米國でどんな資材がどの程度に不足してゐるか、この生産力と資材配給の不均衡が如何なる理由により招來されたか。

今米國で最も深刻な缺乏に悩んでゐる軍需資材は、鐵、鋼、ゴム、錫、ニッケル、アルミニウム、タンダステン、マンガ、クロム、マグネシウム等であり、特に武器軍需品生産の基本資材である鐵鋼生産が、飛躍的に増大し來つた軍需生産に追隨できず、甚

だしく跛行性を暴露するにいたつたことは、開戦以來一路躍進を續け來つた米軍需生産に今後は相當の制動をかける可能性あるものとして注目に値する、いま最近米國における鐵鋼需給關係の概要を見るに、

一、一九四二年度における鋼鑄塊の生産能力は、大體八千九百萬乃至九千萬トンであつたが、上半期におけるその実績は四千二百五十七萬二千四百七十七トンに過ぎなかつた、かく米の鐵鋼生産が戰時下にも拘らず能率を發揮してゐないのは、主として屑鐵の不足によるものである。

二、米軍需生産局は去る七月この上半期生産の實情に基き、本年第三四半期の鐵鋼割當てを行つたが、鋼板の割當は需要の八割五分しかゆきわたらず、鑄物ロール等に至つてはその比率は更に低かつた、現在米鐵鋼生産の約半は直接軍需品製造に振向けられ、二割五分は武器貸與法による對聯合國供給と新工場の建設に向け

られその残りが修繕用と必要缺くべからざる民需に振當てられる。

三、米戰時生産局は開戦とともに、鐵鋼九百七十一萬トンの増産計畫を樹て、これに必要な工場設備の建設に四百萬トンの鐵鋼を豫定してゐたが、そのためより必要な軍需生産における鐵材の不足がいよゝ甚だしくなつたので、遂に同計畫の一部を中止せざるを得なくなつた。

軍需資材不足の原因

以上述べ來つた如く、米國現下の軍需生産計畫をもつてしては、たとひそれが全能率を發揮したとしても、今後鐵鋼生産は著しく不足をつけ、したがつてその急増産を企圖するに非ざれば益々増大し行く需要に到底追隨して行けない状態にあるのであるが、米戰時生産局は前述の如く、今夏暴露された深刻なる鐵鋼需給の破綻の結果として鐵鋼増産計畫の一部を犠牲にし、これを軍需生産に振向ける非常措置に出た、かくて鐵鋼生産は今後益々増大し

行く軍需を賄ひ得ず、時の経過と共にさらに一段と需給の跛行性を擴大する傾向にある、これが今の米經濟の最大の悩みであらう、その他ゴム、銅、錫、ニッケル、アルミニウムなどの重要資材も軍需の進展とともに、鐵鋼様今米國で相當鋭い需給の破綻を暴露してゐるのであるが、米國におけるかくの如き深刻なる軍需資材の不足は他によつて招來されたか、それは大體次の諸原因に基くものである。

一、南方資源地域に對する日本の制覇(マレーの錫、支那のタンダステンなど)

二、平和産業の軍需産業への轉換が豫想以上に早かつたこと(當局の言明によれば豫定の二分の一の期間で達成されたとされてゐる)

三、國內輸送力の不足

四、戰時生産局の資材割當を無視する陸海軍の獨占(この陸海軍の獨占により戰時生産局による資材の綜合的統制が不可能となつてをり、或る工

場は原料が極度に不足してゐるのに、他の工場は有り餘る資材を手持ちしてゐるといつた現象が生じてゐる。かくの如く、開戦以來増進の一路をたどつてゐた米軍需生産は、九月に入つて漸く沈滞を暴露するに至つたのであるが、この點につきネルソン米戦時生産局長官は八月二十二日の新聞記者會談で、

開戦當初の米經濟は焦眉の急を告ぐる武器、軍需品を何を差しおいても逸早く生産する必要に驅られ、事態の組織化は、時の経過に待つはかばかはないといつた方向に動員されたのであるが、参戦以來既に半箇年以上を経過した現在においては、この非常事態を清算して戦時下經濟の組織化に努めねばならない。と語つた、米經濟はネルソンがかく言明してゐる如く、間もなく開戦直後の混亂を清算し、民需を極度に抑壓して更に或る程度の軍需生産の上昇を確保する戦時經濟の高度化に努力するであ

らうが、たとひ米經濟が、今後かく高度に戦時化されたとしても、資材の不足は擴大された軍需生産力に引續き大きな制約を加へ、したがつてあの野心的なルーズヴェルトの軍擴案は、今更でよりも今後において、より大きな難關に到達すると見るのが妥當ではないだらうか。

人的資源配置難關

以上は開戦後における米軍需生産の物的方面の諸發展であるが、今後更に米軍需生産を制約する懸念あるものとして、現在米國でも問題となつてゐるのは人的方面の問題である、すなはち過般米國の社會保安局は一つの調査報告を發表し、

米の人的資源は、敵國との軍需生産上の競争において結局最後のなかつ容易に克服し得ざる難關となるであらう。

と述べて、人的資源の合理的配置の必要を強調したが、この社會保安局の調査報告によれば、一九四二年末にお

る米軍隊ならびに諸産業が、必要とする人的資源は、軍隊五百五十萬、諸産業五千三百二十萬、合計五千八百七十萬、一九四三年十二月においては、軍隊九百萬、諸産業五千三百三十萬、合計六千二百三十萬となつてゐる、かくして同報告は、米軍需産業の人的資源吸収状態につき、

「昨年十二月において、軍需工業に

就業の米労働者数は、六百九十萬であつたが、本年七月には千二百五十萬と約二倍に近い増加を示し、今後更に急速に増大する軍擴に應ずるためには本年末において、千七百五十萬、明年末には二千萬人の老成なる労働者の必要が豫定されてゐる」と述べてゐる、この軍需産業における人的資源吸収の急速なる上昇に歩調を合せ、米軍部もまた一九四三年末までに一千萬人（この報告によれば、明年末までにおける米軍の動員は九百萬になつてゐるが、現下の軍擴進展状況をもつてすれば、米軍部は明年末まで

に一千萬の動員を可能ならしめるのではないかとの見方が有力化してゐる。の動員を行はんとしてゐるが、その結果米軍需産業の一部は早くも人的資源の不足を痛感し始めてゐる、即ち近著のニューヨーク・タイムス紙は、去る九月二日クリヴランドのテリー・メタルのトレードは「軍部の動員進展の結果として、米製鐵工業は明年一月末までにその就業労働者の一割二分を失ひ、同年末には二割五分を失ふことが豫想されるに至つた」と報道してゐると傳へてゐる。

陸軍整備目標完了

次に結論として以上述べ來つた米國の物的、人的資源の動員が、すでに米軍隊の抗戦力をどの程度に昂めたかを概観して見よう。

開戦當初における米陸軍兵力は二百萬（うち航空兵力五十四部隊）しか整備されてゐなかつたのであるが、本年一月、その本年における擴張目標を兵力百六十萬、航空兵力八十四部隊と

なし、合計三百六十萬の兵員整備を企圖した。然しながら、去る五月これを二百五十萬増強案（結局本年度末の全兵力四百五十萬）に修正し、今この新目標の實現に向つて邁進しつゝあるのであるが、既に述べた米軍需生産力の飛躍的擴張により本年度に於ける兵員四百五十萬の整備は、實現可能と見られ、二十八日ルーズヴェルトは米陸海軍は四百萬に達したと言明したが、この言明は米陸軍が五月の修正前に既に、本年度當初の目標三百六十萬の整備を成就してゐたことを裏書してゐる、米國は自ら民主主義の軍需工場と誇稱し、英、ソ聯、重慶その他に對する武器軍需品の供給を宣傳してゐるが、本年六月までに英ソ聯重慶に引渡した武器彈藥類は、米生産量の一割二分に達せず純粹の軍事品は僅かに十億ドルで、米國生産量の八分の一に過ぎなかつた、このことは聯合國援助の宣傳にも拘らず、米軍部はその軍需生産の大部分を自國軍隊の整備に使用

してゐることを裏書してゐる、しかし自國軍隊整備を第一目標として、自國抗戦力の増強に努力してゐる米陸軍はその航空ならびに機械化部隊をどのやうに整備したのであらうか、當地の資料に基づきその概要を窺ふに、裝甲師團は本年一月より九月までに七個師團が新設され、合計十一個師團となつてをり、更に近く三個師團新設を計畫してゐる、陸軍航空隊は参戦當時四個師團であつたが、開戦後海外に派遣されたものはすべて新設部隊であり、既に判明せるものだけでも、パナマ、ハワイ、印度、英國の四個師團を數へてゐる、本年當初の陸軍整備目標三百六十萬のうち、約百萬は航空兵力の擴充に振當てられるものとされてゐるが、質は別としても、量においては去る七月すでにその大體を實現した模様で、その結果、臺灣、西亜方面にもすでに九航空部隊が派遣されてゐるのでないかと推測される。

○英國の抗戦力

(九月三十日新聞報)

生産力

英國は一昨年五月ダンケルク敗退戦に遠征軍の全裝備を失ひ、當時英本土にある兵器は一個師團を裝備するにも足らず、タンクは僅かに機銃を有する輕戦車三百臺に、歩兵戦車五十に過ぎなかつた、それが二年餘の今日、英本土だけで完全裝備の兵百七十五萬、機械化師團五を算へ、西亜、印度を含めれば二百五十萬近くの兵へ裝備をほどこしてゐる、然も昨年ソ聯へ二千臺の戦車を送り得るほどになつた、戦前の飛行機月産約五百臺は、今日一千五百を越えて二千臺に近く、戦車も亦月産一千臺は確實とされ、昨年中における英國の武器生産高は、「民主國家群の兵器廠」と自稱する米國を凌いだ、質においても英國は實戦の經驗を加味してゐるだけ米國に勝るとも劣らない。昨年殊にその後半において、英國の

軍需工業生産高はかなりの躍進を見た感がある、新設、擴張された工場は一齊に運轉し始め、労働力總動員のためには國民労働徵用令の全面的發動を見た、本年三月戦時生産相に就任したりツトルトンは新設の戦時生産省を生産參謀本部に編成し、外は米國と連絡協調を維持しつつ、内は陸海軍の各軍需省の生産を統合調整し、原料配給の優先順序を定めんとしてゐる、更に全國十一地區にわたる地方生産局を再組織して、地方生産管理官を任命し中央、地方を通じて軍需生産力の擴充に努めてゐる。

然しこの増加した生産力も、最近では、殆ど量的には頂點に達した觀がある、労働力についてみれば、一昨年五月の國民労働力徵用令が、昨年から全面的に發動され、全國男女の産業登録も實施されるに至り、然もその動員方法は後半期において、從來の懇談的態度から強制的となつた、殊に失業者が殆どなくなつた今日、婦人労働力に對

する需要は極めて緊急なものとなつた原料は船舶喪失に伴ふ輸送力の減退によつて、これ以上の輸入は望みなく他方工場設備の新設擴張は、政府の財政支出で賄はれる關係上、資金に糸目はつけなくても、現在までにすら原料不足で怠業を餘儀なくされ勝ちであつた工場設備である、これ以上擴大するのは無理であらう、従つて英國の生産力は量的には最高限度に達してゐるとみられるわけである。

補給力

船舶問題、昨年末において英帝國及びその傘下にある聯合會の船舶の實情は、一千トン以上のものについてみれば左の如き情勢にあつた。

一九三九年ロイド年鑑による英帝國の保有高	一、八七五
以來昨年末に至る船舶建造高	一七五
米國より購入高	七五
聯合國提供船腹	七二五

合計

二、八五〇

これに對し開戦の當初より、昨年末に至る船舶喪失数を九五〇萬グロストンと見れば、昨年末の英國船舶保有高は差引き大體一千九百萬グロストンと思はれる、しかし米誌「フォーチュン」によれば戦時護送船制度による速力の低下等、表面に現れない實質的な船舶の喪失トンは最小限二割五分となるので、これに迂回航路その他の戦時運輸力減少率を加算すれば、残存の一千九百萬グロストンから少くも六百萬グロストンは實質的な喪失ト数として差引かねばならない、また自治領、植民地の存続に必要な分および陸海軍徵發船舶数を六百萬グロストンとみれば、英本國が自存上使用し得る船舶は僅か七百萬グロストンに低下する勘定となる、更にこれによつて本年五月末までの状況を推算するに英國の造船高を五十萬グロストンとみて、年末の數字に合算すれば、一千九百萬グロストンとなるが、一方大東亞戦以來わが帝國海軍および獨海軍が、英國に與

へた損害は數上の計算により少くも二百二十萬グロストンはあつたのであるから、英帝國の保有高は一千七百三十萬グロストン程度となる。

この内、大東亞戦による自治領用船舶の喪失から陸海軍徵發船および植民地用船舶を百萬グロストン減じて、五百萬グロストンと假定しても残りは千二百三十萬グロストンにすぎず、前述の戦時下運輸率の低下による實質的喪失ト数を、六百萬グロストンと見て、これを差引けば英國が自存上運用し得る船舶は僅か六百三十萬グロストンと推算される有様となつた。

英國政府は最近の船舶損害數の公表をせまる輿論に對して頑として應ぜず秘密の内に悲境を糊塗してゐるが、その險惡の度は今や前大戰の最惡の月よりも尙惡化する事を洩らした、前大戰當時の最大損害數が一箇月約八十九萬グロストンであるから、本年六月頃の損害は九十萬グロストン以上上つた事は想像出来る。

この情勢が繼續する限り、米英の大

動脈は暫時封絶され、ひいては英國を餓死せしめる事も出来るであらうが、それだけに又米英共最近に商船建造と護衛船の建造と、護送方法の改善に必死である、新造船ト数を沈めるだけで、日獨伊は月に三十五萬グロストン、さらに英本國の生存を危殆にし、米英の連絡を斷つには潜水艦戦を激化し、米英現在の保有船舶ト数を多量に沈めて行かねばならない。

財政力

國民經濟生活、政府の白書によれば昨年度において、英國民は總國民所得の五十二パーセントを戦争のために費消し、個人所得の四割迄税として政府に徴收されてゐる、然も所得税こそ最高限度に達したといふので増徴されなかつたが、その代り本年度には酒、煙草類、娛樂税、替澤品販賣税等消費税の増徴となつたので、國民の租税負擔率は四割六分と推測されるに至つた、しかし労働者の實質的收入がふえてゐる事は、労働者側の不満をなだめ

てをり、今の處悪性インフレーションによつて國民生活が破壊をきたし、これによつて英國が内部崩潰によつて抗戦力を失ふが如き兆候は見えてゐない。

兵力

英本土防衛、英本土は、今日完全に要塞化してしまつた、英國には今百七十五萬の正規兵とやゝ同数の地方國防軍、それにカナダ軍がイギリス五軍管區、スコットランド軍管區、北アイルランド軍管區の七軍管區にわたつて配備され、最近若干の米軍も駐屯してゐるが、然も海には本國艦隊があり、これに米海軍の來援を得てをり、飛行機数は現在約一萬五千機とされてゐる、英國が内外に對する約束を無視して、歐洲大陸にソ聯援助の第二線を開かないのは船舶の不足、獨軍の守備堅固なものによる事勿論であらうが、英國としてはたとひソ聯が敗れても、最後には英本土にたてもつても抗戦を續ける方針のもとに出来るだけ軍の犠牲をさげんとしつゝあるのではなからうか。

抗戰意志

英國の抗戦力を破砕することは、英國民にこれ以上抗戦しても無益だと思ひ知らせることである、チャーチル内閣の政治力が強かつたのは要するに國民が鈍感であり、想像力が鈍く戦局の不利を感知することさへ出來ず、チャーチルの指導下にやがては前大戦の如く最後の勝利を得るだらうと夢みてゐることに起因してゐたものである。

然るに、從來殆どこの大戦に負けることを想像することすら出來なかつた彼等にも、大東亞戦争における相次ぐ敗戦以來は、英國も敗れるかもしれなといふ氣持を抱かせ始めた、抗戦意志、勝利への確信は漸次ゆらいできてゐる、即ち終局において英國の抗戦がいつまで繼續されるかはこれを英國の事情に求めるよりも、寧ろ日獨伊側の建設的努力にこれを求めなければならぬであらう。

○濠洲の防備、軍備、軍擴

一、軍備増強の經過

濠洲は其の防備をシンガポール及香港の英海軍に依存し、蘭印を以て其の前衛とし殆ど裸となつてアフリカ等に陸軍を送つて居たから今次大東亞戦争勃發特に其の急速なる進展に周章狼狽しあるべきは當然である。陸海軍の劣弱に加ふるに其の最大缺陷は交通不便にして一度海上権を失へば其の陸上兵力は單に海岸に沿へる鐵道に依り外殼地帯を移動し得るのみを以て之を容易に遮断せられ易き點に在る。

陸軍は戰前常備軍七萬、市民軍四萬、外に就役し得るもの三十五歳以下の壯丁、九十五歳三十五歳以上六十歳以下の者九十七萬あり。一九四〇年陸軍兵力を二十二萬に増強し、其の後逐次増加を見て居る。

海軍はシドニー及ポートダーウキンに軍港を置き、一萬トン級巡洋艦三、

五千トン級同二、驅逐艦六に過ぎなかつた、それが昭和十一年限りで日本が軍縮條約を脱退し、無條約時代が出現したので、濠洲はあわてゝ軍擴に乗り出し、翌十二年から軍擴三年計畫を樹立、軍需工業の擴充にも必死の努力をこつた。第二次歐洲大戦の勃發はこれに一層の拍車をかけ、昨年十月の聯邦議會を通過した本年度軍事費は總豫算三億二千二百萬濠洲ポンド（一濠洲ポンドは約十三圓）のうち二億二百萬濠洲ポンドを占め、この額は南歐洲大戦における濠洲全軍費の四分の三に上つてゐる。

大東亞戦開戦前の兵力を見ると、三年前僅かに四萬五千の常備兵が一躍廿五萬、マツケー下國防軍と義勇軍七萬五千を擁してゐる他に、北アフリカ、バルカン、西亞、香港、マレー等へ廿萬の遠征軍を送つてゐた、海軍は一萬トン級のオーストラリア、キヤンベラ、七千トン級のバース、ホバート、シドニー、五千トン級のアデレードの

大巡洋艦に驅逐艦五、砲艦二、潜水艦十五といはれ、それに濠洲と同じ自治領ですぐお隣のニュージラランドの巡洋艦三、小艦艇若干を合せていはゆるアンザック艦隊を形成してゐた、空軍は約五百機といはれたが、米國からの増援で相當な數に上つてゐた。

濠洲は日本の廿一倍といふ老大な面積に、その人口は僅か東京市にひとしい七百萬だが、その九割五分は英國人で、しかも九割弱までが濠洲生れの二世、三世である、世界唯一の「一大陸、一國家、一民族」といはれる所以である、アンザック兵が悉く純粹の英國人から成つてゐることは民族問題で惱む他の英領植民地に比して特長といへばいへるわけだが、その昔の流罪人やゴールド・ラッシュに浮かされて流れ込んだ一旗組の子孫たちだけに柄の悪いこと夥だしい。

また海軍は大東亞戦開戦以來米英の尻馬に乗つて出動しては見たものゝ、二月十九日ポート・ダーウインで特設

巡洋艦一隻が撃沈され、ついで同月末七千トン級巡洋艦バース、ホバートの二隻がジャバ沖の藻屑と消えた、これと同型のシドニー號も昨年十一月濠洲本土沖で獨海軍のため撃沈されてゐるので、アンザック艦隊はこゝにその大半を喪失したわけだ。

また一方濠洲の軍需工業は急速に擴充され、第二次歐洲大戦前に比し彈藥、小銃の生産力は十五倍、爆彈は廿五倍、小銃彈は二百倍となり、いまや全濠洲の軍需生産力はインドを凌ぎ、カナダと相並んで「大英帝國の兵器廠」と呼號してゐた、然しマレーを失ひ蘭印なき今日、どこにその原料資源を求めらるか國內生産資源のみでは彼らの誇る大軍需施設も徒らに晝寝をしてゐるはかはないであらう。

濠洲の戦史は英本國に對する犠牲の一語に盡きてゐる、前歐洲大戦に歐洲へ派遣されたアンザック兵卅三萬のうち戦死五萬六千、戦傷十五萬八千、無事凱旋したものは僅かに三割五分であ

つた。

今次歐洲大戰でも一昨年末派遣されたアンザック兵は、ギリシヤおよびクレタ島の敗戦で七千三百八十二名、リビア戦線では一萬三千三百五十五名を失つた。またマレー戦線では濠洲軍五萬のうち損害一萬七千卅一名に上り、内一萬六千七百七十四名は消息不明で、多分日本軍の捕虜になつたであらうと濠洲軍當局は三月十三日發表した。ジャバ島作戦でも准將ブラックバイン以下濠洲軍の消息は日本軍の上陸以來杳としてあとを絶つてしまつた。

祖國防衛の美名の下に丸裸にされた濠洲は、いまやはるかなる米國の救援に最後の希望をかけた。日本の攻勢に立ち向はんとしてゐる、マレー戦線から生命から逃げ歸つた敗將ベネットを教育總監に仕立て、兵士の訓練に敗戦の教訓を活かさうとしてもすでにもう手遅れである。

二、軍擴に伴ふ軍需産業

濠洲は今回の歐洲大戰が勃發する以

前よりいはゆる原始産業から、第二次産業たる工業への轉換が高關稅政策の保護の下に極めて徐々にはあるが行はれてゐた、しかし軍需工業に關しては貧弱なものであつたことは愈々歐洲戦争が緊迫した一九三八—三九年(七月一日に始り、六月三十日に終る會計年度)の軍事總豫算が漸く千四百萬磅(濠貨)に過ぎなかつたのを見ても大體想像がつかう。

三、飛躍する武器生産

その後、一九三九年九月歐洲大戰が起つた、一九三九—四〇年豫算には軍事費に總額五千萬磅を費し、時のメンジス内閣が國內一部の反對を押切つて地中海方面に濠洲兵四個師團派遣を斷行することゝなつた、一九四〇—四一年の豫算には、これらの海外派兵の費用並に全國防關係の豫算一億七千萬磅を計上、この時から濠洲の軍需産業は漸くその緒についたといつてよいのである、しかもこの間フランスのドイツへの降伏といふ歴史的事實はさすがに

太平洋に、太平の夢をむさぼつてゐた濠洲にも相當の衝撃を加へ、地中海方面への派遣軍隊の裝備と、同時に當時漸く雲行險惡となりつゝあつた太平洋自體の情勢に備へて濠洲をして、西南太平洋の兵器廠たらしめる想定のもとに銳意軍需工業の擴充につとめるやうになつた、かくて歐洲戰勃發直後から今回の大東亞戦争の始まる數箇月前、即ち一九四〇—四一年度末たる昨年六月末までの二十五箇月間において大體次の如き軍需工業の躍進を見たといつてゐるのである。

(一) 濠洲は歐洲大戰勃發前までには政府直營の軍需品製造工場として僅かに十一工場(ヴィクトリア州九、ニュー・サウス・ウェールズ州二)を持つてゐるに過ぎなかつたが、一九四〇年末には更に十一の政府工場(ヴィクトリア州三、南濠洲三、クインズランド三、ニュー・サウス・ウェールズ二)を増設したし、またこの間更に十三工場(ヴィクトリア

三、タスマニヤ、クインズランド、西濠洲、ニュー・サウス・ウェールズ八、南濠洲二)の建設に着手した、同時に一九四〇年末までに政府工場以外に軍需品請負工場として民間の約百工場が運轉を開始した。

(二) これらの新増設、並に民間工場は織物、電線、工作器具、鋸鑄爐を始め、藥品類、バラシユート、エンジン、飛行機部分品および機體、各種大砲、小銃、彈藥、爆藥、精密機械、裝車、戰車、無電機機械等各種の從來濠洲では殆ど生産してゐなかつたものをつくるやうになつた。

(三) 工作器具の如きは濠洲では歐洲戰勃發前この種の工場は僅か四工場を數ふるに過ぎなかつたが、戦争第二年末にはこれら工作器具製作工場は全國で百三十一を數ふるに至り、一年前には僅かに國內需要の一割を生産するに過ぎなかつた小規模の工作器具の約七割を國産で充し得るに至つたといはれてゐる。

(四) 次に飛行機生産については、從來自動車エンジンから輸入に仰いでゐた濠洲が、ヴィクトリア州にある聯邦航空エンジン製作工場その他においてプラット・ホイットニーのワズプ・エンジンなどの製作に成功し、ヴィクトリア、南濠洲、ニュー・サウス・ウェールズ州等の各鐵道工場、ヴィクトリア州の聯邦飛行機製作工場、ゼネラル・モーターズ工場、ニュー・サウス・ウェールズ州のデ・ハヴィランド飛行機工場、ならびにメルボルンのフィッシュヤース・ベンド、シドニーのマスケット飛行場にある組立工場を綜合することによつてタイガー・モス・ワフツト練習機、ウイラウエイス、ボーフォード等の各種飛行機製作を進め昨年九月末までに大體一千臺の國産機をつくつた(もつともこれらの中極く少數のボーフォード爆撃機のみはみんな練習機に過ぎず、第一線機といはれるものはボーフォードの

み、それも昨年九月頃までには數臺の試験機をつくつてゐるに過ぎない)。

以上の實例から見れば濠洲が今次大戰前の原始産業態勢から急速に軍需工業への轉換を行ひつゝあることは明かに看取され、當局の發表によると一九四〇—四一年度のこれら軍需品の生産高だけでも、大體三千三百萬磅に達しこれは戦前の一九三八—三九年度の生産額の十八倍に上つたと誇示してゐる。しかし、この十八倍は戦前の生産額が小額であつただけに、宣傳的價値以外に大して驚く數字ではなく、かつ右に挙げた實例も實際にはまだ計畫中に屬したり、事實生産行程に入つてゐても大量生産にまでいつてゐないものも相當ある。

そこで昨年五月英本國から歸朝した時のメンジス首相は、軍備並に軍需工業の大刷新の要を力説し、内閣を改造して戦争組織相や、飛行機製産相を專任し、軍備の大擴充を目論んだが、當

のメンジス自身は、クレータ島の敗戦の責任、ならびに聖國一致内閣問題で自らの策に倒れて失脚し、更にこれを繼いだフアッデン内閣は、強制貯蓄制度などを盛り込んだ豫算案で、組閣僅か一箇月にして倒れ、かくて昨年十月に現カーチン労働党内閣が成立した、カーチン内閣はフアッデン内閣の強制貯蓄案が低額収入者のみをしほるものとしてこれを退け、逆に有産或は高給所得階級に重い増税案を中心に軍隊給與増額、老齢者年金増額などその獨得の社會主義的色彩をもつた豫算案を提出したが、その軍事費總額は海外遠征費を含め二億千七百萬磅であつた、かくてカーチン内閣は統一濠洲黨並に統一地方黨の内閣たるメンジス、フアッデン兩内閣がかく海外遠征軍の強化に専念して濠洲本土防衛をおろそかにした點を非難し、労働黨多年の方針たる濠洲本土防衛第一の角度から、極力軍備擴張に狂奔せんとしたのであるが、その出端に日本の對米英宣戰布告とな

り、濠洲は大東亞戦争の渦中に投げ込まれたのである。

當時の濠洲は前述の如く、メンジス内閣時代から、平和産業から軍需工業への轉換の地均し工事こそある程度まで進んでゐたが、實際第一線の新しい裝備を完全になし得る程度には遙かに遠く、特に航空兵力機械化部隊等はほとんどとるに足らなかつたといつてよく、狼狽したカーチンは遂に米國に頼りその武力救援を要求すると同時に一九四一—四二年度の當初豫算中の軍事費二億一千七百萬磅に、更に一億磅を追加し、約三億一千萬磅を費消し、更に一九四二—四三年度豫算として濠洲としては全く空前の四億五千萬磅（戦前の比率で換算して邦貨約六十億圓）を去る八月の議會で一氣に押通した。

大東亞戦争後の各種軍需工業の實績については、勿論これを知る由もないが、大體において前、前々内閣の築いた基礎工事の上に漸く軌道をつくり、

運轉を開始したものと見られ、特に飛行機生産に主力を置いてゐることは容易に推測される。

四、軍需資源

かくして現カーチン内閣は、我が公正なる對濠態度表明にも耳をかさず、一路日本の銳鋒の前に濠洲本土防衛に汲々たる有様であるが、彼らの目論む軍需擴充計畫を阻害する各種の要因も少くないのである。その最も重大なものは、石油、ゴムの二大軍需原料の不足と、人的資源の缺乏である。

イ、原料問題

濠洲は鐵石炭、鉛、亜鉛等は勞力問題が解決すれば資源として相當の埋藏量があり、先づ事缺かぬものといつてよいが、石油とゴムは殆ど致命的といつてよい程國內生産力をもつてゐない、石油は戦前主として米國、蘭印に仰いでゐたものであるが、蘭印が我が手に陥ち、米國よりの輸入も油槽船の不足、我が潜水艦の活躍等によつて非常な制限を受けるに至つた、石油の切符制は大東亞戦以前か

ら行つて貯蔵にとめてはゐるが、この問題は濠洲人が何よりも自動車の下ライヴを最大の享樂の一つとしてゐただけに非常な政治問題と化し、國民の不人氣を最も恐れる濠洲の政治家は、石油の民需制限を極力遠慮したため、戦前に、民需切下げを斷行する勇氣なく、ためにそのストックも大したものではなかつたといはれてゐる、これを補ふため、濠洲當局は代用燃料の生産に躍起となり、ニュー・サウス・ウェールズ州、クインズランド、タスマニヤ等のオイル・シエールによるクルード・オイル生産、並に小麦、糖蜜などからする燃料用アルコール製造を目をらんでゐる、その中オイル・シエールはニュー・サウスウェールズだけで四千萬トンの埋藏量があるといはれ、これは三十五億ガロンのクルード・オイルに相當するといはれ、相當力こぶを入れてゐるやうであり、燃料用アルコールも小麦、糖蜜などから一年大體二百五十萬ガロンから七百五十萬ガロン程

度を得るべく、工場建設の計畫を進めてゐるが、勞力、機材の不足は、これらをまだ實際に豫定通り生産するには随分日時を要するやうである。

次にゴムに至つてはマレー、蘭印からの輸入村絶し、米國からの輸入も米國自身の現状から見ても不可能に近く、専ら國內のゴム回収を行つてゐるやうであるが、國內のゴム回収を囑物入りでやつた結果が、五百トン程度を蒐め得ただけだつたといふ噂もある、アルミニウムはまた従來米國から輸入してゐたが、この濠洲向けのアルミニウムが英本國に持つて行かれたと憤慨してゐるほどで、やむなく昨年ごろから濠洲にもアルミニウム工場ができたといふ騒ぎをしてゐる程度であるから、果してどの程度の生産をなし得てゐるか疑はしいものである。

ロ、人的資源問題

濠洲では、今度の歐洲大戦に参加以來、一九四一年六月末までの二十五箇月間に大體四十二萬人の人間が直接、

間接に新たに軍需産業に動員されたといはれてゐる、これらは軍隊に登録した二十五萬人を補ひ、結局十七萬餘の新勞力を軍需産業職線に加へた結果となつてゐるが、これらの四十二萬人の人的資源が動員された源泉は、

(イ) 失業者中から十四萬人

(ロ) 平時は就職を欲しなかつたものを職場に動員することによつて六萬人

(ハ) 勞働力の自然増加六萬人

(ニ) 平和産業からの轉換十六萬人計四十二萬人となつてゐる

がすでに(イ)(ロ)の源泉は殆ど枯渇したといつてよく、結局今後の勞力動員は専ら平和産業からの轉換と婦人の産業職線への動員に頼るほかない、現在の濠洲の人的資源問題は、専らこの點にかゝつてゐるが、個人主義の國であり、勞働者の勢力の強いこの國では、この平和産業から軍需産業への切換へは非常な難問題であり、政府當局の必死の努力にかゝはらず、なかなか

か進捗しなかつた、しかも現在の軍需工業の生産計畫を豫定通り進めるためには、一九四一―四二年度においてさらに廿三萬の労働者が是非とも必要であるといはれてゐたし、さらに一方陸海空軍側では同年において少くとも二十萬人を登録させる必要があると力説し、またこの登録者のほかにミリシャ(國土防衛軍)として年二十萬人は、少くとも六箇月間宛強制訓練を受けることになつてゐたはずである。

濠洲で十四歳以上六十歳までの男子は大體二百五十萬あまりといはれてゐるが、この僅かの人的資源を軍需工業と軍隊とが、互に分け取らうと躍起となつてゐるのであるから、如何に人的資源の缺乏が濠洲の宿命的な悩みであるかと判らう、最近首相カーチンが現在の戦争遂行上、軍備と軍需工業に最小限度更に三十一萬八千名の人間が必要であると述べ、婦人の産業戦線動員を強調してゐたのも、この悩みを端的に物語つてゐるものだ。

右の二點のほか、勞資の對立が依然として存在すること、濠洲の内面的な悩みと矛盾は少くない、しかしとにかくカーチン現内閣が、日本の脅威を強調することによつて資本家を脅かし、労働者をなだめすかし、一方米の救済を唯一の頼みの綱に抗戦の一路を歩んでゐることは、無視することはできない、一九三八年―三九年には濠洲の軍事費が國民總所得の僅か一分五厘にしか當らなかつたのが、昨年度は國民總所得十億ポンドに對し、その三割強に當る三億一千萬ポンド、今年度に至つては約十一億ポンドの國民總所得に對し、四割強の四億五千萬ポンドを軍事費につき込みつゝある事實とも、一應注意を要する點であらう。

○印度の國防及軍備

(借行社記事)

軍事研究會

印度の國防

一、陸上
印度の國境は悉く險峻にして道路なき大山脈に圍まれ、僅かに西北方山地のみ錯雜なるも高低ある爲カイベル及ポランの二峠を以てアフガンの首都カブール及カンダハルに通じ、別に南部イランに入る道路あり、何れも自動車を通じ國境までは鐵道を通じてゐる、國境に近きペシヤワル及ケツタには大部隊を駐屯せしめ、要塞もある。即ち從來印度の國防の重點は西北方ロシアに向つてをり、日英同盟も主として此の目的で結ばれたものである。海岸の状況も、比較的西岸は平地狹隘にして直ちにデカン高原の分水嶺たる西ガッツ山脈に衝突し、古來英國自身の印度侵略も常に東岸よりせられた、一面印度の人口最稠密なる地も經濟特に工業の中心も東部に在り、國防上有利であつた。

然るに今次大東亞戦争に依り、唯一の防禦とせしシंगाポールを失ひ、ピルマ亦攻略せられ、近く背後より直接

其の中心部を我が攻撃に暴露したのであるから其の狼狽は想像に餘るものがある。

アフガニスタン及イランは、古來緩衝國としてロシアの印度及印度洋進出に對する防禦であつたが、英國の全面的崩壊を見れば固より單に、西部アジアよりする印、濠洲の撤退等に依るソ軍の南下に依りても、大なる脅威を受け、獨ソ戦無かりしならば今日既にソ聯は印度洋に進出してゐたかも知れない程である、況や將來獨逸軍の西部アジア進出緩衝諸國の英國離反等のこと生起せんか、愈々印度に危機迫り英國の困窮は蓋し甚大なるものがあらう、印度人の向背疑はしく特に西北國境州に住む蕃族は有事の日、敵か味方か分らないと云はれるに於て、益々然りである。

今日此等陸海空軍が増強せられ、又歸還せしめられつゝあるは言を俟たない。尚セイロン島と本土との中間ポーク海峡は水淺く、アダム橋の堤防狀鐵

道に依り連結せらるゝも、其の間は斷絶し波濤せられて、汽船を通じ汽車もそのまゝ渡船に依り通過しあるは軍事上注意すべき點である。

二、海上印度の國防(印度洋兵要地理)

カナダを除く英植民地の大部は、印度洋を圍みて其の周邊に在り、植民地以外の印度洋諸國も悉く其の勢力範圍にして、恰も印度洋は英國の湖水の如く英國を以て印度洋帝國となすも、敢て過當ではなかつた。然るに大東亞戦争勃發と共にタイ國先づ離れ、マレー半島の攻略に次でビルマ及東印度諸島も亦我が手に歸し、印度と濠洲との中間は大きく中斷せられて、英の生命線は西は印度より重慶に、東は米國より南太平洋諸島を経て濠洲に至つて盡き其の端末に位置する蔣政權及印、濠洲は孤影悄然我が脅威下に在り、全印度洋は今や太平洋と共に我が皇軍活躍の前に開放せられ、獨伊の東進と相俟つて印度洋帝國全體の崩壊も遠からざるを想はしむるに至つた。

今印度洋の東西兩側を比較するに、東側は斷然複雑にして所謂亞濠地中海地方を含み、要機に富み、産業概して進みあるに反し、西側は僅かに紅海―スエズの關門と、喜望峯航路とに要機を備ふるのみにして、他は概して未開又は不毛の地であり、高原直ちに海に迫りて良港に乏しい。此の點恰も太平洋の東西兩側と反對の現象を呈し、國防、特に封鎖作戰に影響する所甚大である。

英國はシंगाポールに、太平洋及印度洋防衛の全責任を負はしめ、其の他には殆ど軍港らしき設備あるものを有してゐないが、稍々軍港として見るべきものを北方より數ふれば、セイロン島にトリンコマリ及コロンボあり、印度西岸ボムベイ島に、ボムベイがある。ペルシヤ灣内にコウエイト港及メナマ島があり、メナマには油田がある。アデンは附近の英領ペリム島、對岸の佛領ジブチ軍港及オボク港と共に紅海を扼する要害の地であるが、氣候

は全然大陸内部の如く、無住のアラビヤ沙漠の一角に在り、酷熱乾燥一年以上降雨なきことがあり、岩壁を切つて天水溜を作り、尙海水蒸溜をも行つてゐる程である。それより南下して赤道以南に至れば、東南の季節風に惠まれ降雨過度に多く、ナイルの定期的洪水を導き、又密林海岸に達して開設を妨げて居る。英領ケニアのモンバサ及ザンジバルは、共に同名島上に在る良港で、平時我が大阪商船の寄港地であり前者には領事館あり、天然ソーダ及棉花を、後者は世界第一の丁子を輸出する。英國はモンバサに軍事施設を施し最近米國亦之に軍事設備を行ひ、英國が之を暴露せりとて物議を醸せるは記憶に新なる所である。ダルエスサラム港は、舊獨領タンガンイカの首府で、獨人の經營せるもの、ベイラ港はポルトガル領東アフリカに在り、英領ロデシヤ州に至る鐵道を以て、コンゴ河の水運と連絡し、大陸横斷の交通線をなし、ロレンソマルケスは同じく英

領トランスバール州に入る門戸にしてモザンビクと共に、何れも良港であり經濟、政治共に實權は英拓殖會社の手に在る。

更に南すれば、南阿聯邦あり、東部は雨量適度農牧に適し、世界第一の金鑛もあり、白人稍々多く、和蘭系のブーア人九分、英人八分合して百七十萬を算し、カナダ及濠洲の如く自治殖民地をなしてゐる。ダーバン港は軍港でもあるが特に石炭の輸出盛んであり、ケープタウンは上下兩院の所在地にして、縦貫鐵道の起點でもあり、南阿第一の商港で羊毛、金、金剛石等を輸出する。要港設備を有し其の附近のシマンスタウンには軍港がある。其の他東岸ポートエリザベス、イーストロンドン、アルゴアベーム、夫々相當の良港で、アルゴアはダーバン及ケープタウンと共に我が商船の寄港地であり、ケープタウンには我が領事館もある。昨夏以來英國が事實上其手に收めたマダカスカル島嶼、佛領で世界第四の

大島であり、我が本州の二倍半に餘るも人口三百八十萬佛人は一萬五千に過ぎない、大體高原にして、東南の季節風を受け、東岸には四時降雨あり、高温多濕悪疫流行白人の墓地と稱せらるゝが高地は夏季の外雨量少く、草地にして健康牧畜に適する。

東岸のタマタブは、首府タナナリゾオの外港で鐵道を以て連絡してゐる、其の東方海上英領モーリシアス島は交通、軍事上の要點で軍港がある。

三、大東亞戰爭開始後の印度軍備増強

大東亞戰爭直前より英國は、インド軍を國境守備軍、國內治安維持軍、沿岸警備軍、海外派遣軍、豫備軍の五つに区分し、五箇年計畫で整備を急ぎ、特に騎兵と空軍、輸送部隊の機械化に力を注いだ、この經費は英國の負擔四億五千萬ルビー、インド負擔の基本軍事費三億六千七百六十六萬三千ルビーと決定された、このためインドの國防費は従來に比べてざつと一億ルビーの減

少を示したなど英國妥協政策の巧妙さを見せた、また機械化によつて兵員の淘汰が行はれ、インドの派遣軍は大萬三百人から四萬六千餘人に減少される計畫であつた、その後國際情勢の緊迫に伴ひ、インド國防省は五箇年計畫を二箇年計畫に短縮、そのためインドの臨時國防費は一九四〇—四一年二億四千萬ルビーから、四一—四二年度三億五千萬ルビーに増大、直接税の増徴と戰時公債の發行を餘儀なくされるに至つた。

更に、使用兵器の自給を圖り、兵器工廠擴充費四千萬ルビーを計上し、商業省に主要軍需委員會を新設したが、間もなく四千萬ルビーを七千萬ルビーに増額して兵器工場の擴張を行ふことに決定を見たのであつた。

この英國の支配によるとはいへ、インドの自主的大軍備擴充計畫は果してどの程度まで實現したか、一應、宣傳に寧日なき英側の發表によれば膨大な數字を掲げてゐるが、しかし、インド

は未だほんの基礎的な技術訓練の時代であつて、軍の機械化といふよりもむしろ機械化部隊を整へるための兵員の養成時代であつて、全印に入箇所の飛行訓練所、裝甲戰軍學校の五倍擴充、化學武器學校の三倍擴充、一般將校の大量養成等がほつ／＼實現した程度であらう、大體、チャットフィールド計畫その物が戰前の英國軍と同一水準にインド軍を機械化するといふのであるが、樞軸軍にくらべて素質と機械化において著しく劣勢であつた英國軍を水準とするインドの機械化部隊の實力は大體想像に難くない、ビルマ、マレー戰線における彼等が日本の武力の前に如何に振舞ひ得たか、如何なる慘敗を喫したかを見よ、結論は明瞭なことである、またヨーロッパ戰線における結果、船腹の飢饉に伴ふ近代武器軍需資材の移入困難、更に米英の援印力の激減によつて重機械化はほとんど中止の餘儀なきに至つたであらう、それに科學的頭腦にあける印度民族の本質的

缺陷、英の植民地壓迫による組織的教育の缺陷、傳統の固執、インド労働者の半農的性格に基づく能率不振と技術者の不足などもこの場合の大障礙である。

その上、國內の參戰反對運動と不安は海外派遣部隊の制限となつて現れ兵員募集上の致命傷でもある、ましてヤシガボールの牙城が落ち、そこへの派兵が大失敗に終つた現在、インドの軍擴こそ何處へゆくのが深い。

かく軍の機械化は極めて緩慢であるが、インド軍隊の軍事目的が國外機動に變更され、依然として英の軍司令官の指揮下にあつて、反樞軸的動きを示しつゝあることは、英ソ共同戰線の成立した今日、インド軍の政治的意義こそ注目し得る、更に國內の不安さへ解決すれば少くとも二百五十萬の兵力を動かし得ると稱する點、我等の看過し得ない幾多の問題を包含してゐるのである、即ちインドが單なる英國の植民地としてばかりでなく、自主的な意

味において、いはゆる『東方圏』の中心として、軍備の擴充に乘出した意圖につき、我等は斷じて單純にして好人物であつてはならない、單なる民族運動よりも近代國家的に組織されたインテリの行方を見極めてかゝるべきである。

○蔣軍の近狀

一、配備及編成

大東亞戰爭開戦以後に於ける重慶軍事行動の主なるものとして擧げ得るものは、我が浙贛作戰に對する防衛戰、西北地區の兵團及空軍の強化、第五期整訓の實施等であらう。

昨年支那派遣軍が大兵力を以て徹底的に敢行した浙贛作戰は、敵第三戰區の主力を撃滅し、對日空襲根據地を覆滅せる外、國民政府に對する脅威を除き、敵の江南經濟的地盤を剝脱し、我が必需資源を獲得するなど、敵に與へた打撃は少くない。それに此の我が作戰の規模が大きかつただけに、重慶で

は各種の疑心暗鬼を抱いて、之が防衛對策に大童の有様であつたのである。その後我が作戰の一段落に伴ひ漸く平靜を取戻し、その作戰の成果を検討し、爾後の對策に腐心してゐる有様である。

今年五、六月頃より蔣介石は西北強化の工作を開始した。西安附近には從來中央軍として胡宗南の指揮する一箇集團と、五箇軍の兵力があつたが、蔣介石は更に兵力を増強し、三箇集團軍に改編、中央直系軍の勢力を強化した。その目的とするところは明かでないが、共產黨に對する對策と西北方面開發のための兵備強化とも見られる。西北方面強化のため從來西北ルートに沿ふ地區にあつた回教徒軍を青海省方面に移駐せしめ、そのあとに新に中央系の軍隊を配置し、更に最近多數の飛行場を新設整備するなど、西北支那の積極的中央化を畫策してゐる。以上の軍事強化に並行し政治的に、經濟的にも施策中であるところより考へるの

に、既に緬甸ルートが無効となつた今日、窮餘の策として殘された對外ルートを強化し、又日本軍の雲南進撃作戰の場合を考慮して自力抗戰の後方基地たらしめようとする遠望深慮から出たものとも見られる。

在支敵空軍は先般來奥地に退避して専ら損耗の回復に努力して居つたが、米派遣空軍の増援により漸次態勢を盛りかへし、最近北中南支、北部佛印、ビルマ等の我が占據地區の上空に時々現れ爆撃を行つてゐる。重慶空軍勢力は七、八月頃第一線機自機内外ならずやと判斷せられるが、米國機は著著印度カラチに到着して居るところより見れば、今後相當に強加せられ、再び航空ゲリラ戰を展開するに非ざるかと思はれる。

二月以降を第五期整訓と稱し、各軍の態勢整備に努めて居つた重慶當局は九月を以て一先づ整訓を打ち切り各隊の檢閲を實施した。之を要するに重慶の軍事的動向はそ

の後大した變化なく、たゞ米國の空軍援助は今後相當うるさくなるのではないかと思はれる。

重慶陸軍の現有兵力

中央直系軍 約 六十師
同 傍系軍 約 五十師
地方軍 約百五十師

地方軍内譯

舊東北十四師、舊宋哲元軍十三師、山東軍八師、山西軍二十五師、四川軍三十四師、雲南軍六師、廣東軍十五師、廣西軍十三師、陝西軍五師、寧夏軍四師、甘肅軍六師、青海軍一師

新編若しくは不明軍五〇師

これ等の大部分が各戰區に配備せられ、我が第一線と對峙してゐるのである。各戰區の配備狀況は次の様になつてゐる。

(括弧内は戰區總司令)

第一戰區(蔣鼎文) 河南、山西
第二戰區(閻錫山) 山西
第三戰區(顧祝同) 浙江、福建

第四戰區(張發奎)

廣東

第五戰區(李宗仁)

湖北、河南

第六戰區(陳誠)

湖北南部、湖南北部

第七戰區(余漢謀)

廣西

第八戰區(朱紹良)

甘肅、綏遠

第九戰區(薛岳)

湖南、江西

この外四川、貴州方面に約十萬、我が占領地域内の兵匪北支方面四、五十萬、中支方面二、三十萬、更に獨立師、騎兵師、共產軍(北支二十五萬、中支五萬と稱せられる)及多數の民兵が居る。昨年四月、何應欽は對米英放送において「支那は現在前線に三百箇師、五百萬の兵力を有してゐる。そして日本軍の背後に八十萬の遊撃隊、六十萬の正規軍が配置され、戦線は南北實に二千八百哩に擴大した」と宣傳してゐた。しかし一方我が軍の不斷の掃滅戰により莫大な損害を被り、先に大本營からの發表によれば、事變五年の綜合戦果は敵の遺棄死體二百三十八萬、死傷逃亡歸順などを加へると損失

は少くも五百萬以上と推定せられたとある。勿論敵は殆ど無盡蔵と云はれる人的資源を有することとてこの甚大なる損耗も一應恢復し得る可能性を有するものと認めなければならぬ。軍の指揮能力は上層部に於ては先きの第二次長沙作戰の實績に徴するも、尙相當なものであると云へる。部下の掌握及命令の實行も、亦概ね適確である。之に反し下級幹部以下の戰意は低調であつて、一般に日本軍には抵抗するも、勝算なしとの先入感を抱いてゐる。之がため戰意昂揚の手段として宣傳、抗日思想の鼓吹、國家民族意識の強調に努めてゐる。

軍師の單位は昨年度に於て約二十箇師を増編したが、編成は頭大不尾の弊に陥り、戦力は却つて漸次低下し、兵員裝備の實数は概ね編制の七割内外であつて、逃亡者が續出してゐる景況である。その戦力は我が歩兵一箇大隊を基幹とする兵力を以て能く敵一箇師を撃破し得る現況である。之に鑑み敵は

昨年未所謂軍師加強辦法を公布し(實情は編制を縮少し内容を強化した)二箇軍(三箇師)の戦力を以て我が一箇師團に對抗せしむべく整訓目標を示し鋭意整備訓練に努力して居つた。

蒋介石の統制力は逐次強化せられ、往時の地方軍閥的色彩を殆ど拂拭し全軍の四〇%以上に該當する直隸系軍の約半數を各戰區内に、爾餘を奥地要點及西北、西南支那に配置し、地方軍との接配置により威令の徹底を圖つてゐる。裝備は火炮、戰車等の重兵器を除き、その他は大部分を自給自足して居るが、給與の改善維持及兵員の補充には相當深刻に苦しんでゐる有様である。

二、抗戰力判斷及其背景

抗戰五年來軍は最近戰慄極度に喪失し、戦力は著しく低下するに至つた、それでも蒋介石の統帥力は依然強く現在重慶軍は約三百師、三百萬と共産軍二十五萬、さらに遊撃隊數萬を有してゐる、しかし軍長以下が私腹を肥や

し、威令全く地に墜ちるに至つた、蒋介石は大いに憂慮してゐる。

軍の編成は三個師をもつて一軍とし、軍師の單位を増加してゐる、一個師は一萬人位だが最近は逃亡兵や戰死傷者によつて半數の四、五千人に減少してゐる、しかも裝備においては外國から武器輸送が止つたため、從來師團には步、騎、砲、工全部揃つてゐたが、これから砲を取り上げ大砲は軍に持たせるやうになつた、このため今までの師團單位が軍單位でなければ間に合はなくなつた、そこで蒋介石は從來とりつた遊撃戰法を更に組織化して日本軍に當ることを全軍に通達してゐる。

空軍は現在三百餘機を持つてゐるが實戰に供し得るものは五分の一位にすぎない、支那本土からの日本本土空襲の米蔣合作の空軍基地設定に關しては既に周知の如く、代將クラゲットが大東西戰争前に比島から支那に赴き、衢州、玉山、麗水、桂林等の實地調査

が行はれてゐたが、今次の浙東作戦により、これらの基地は潰滅するに至り、重慶空軍はわが荒鷲の鵬翼下に偪伏するに至つた。

更に之を政治的方面より見れば、抗戰五年にして大東西戰争を迎へた重慶政權にとつて焦眉の急は民衆の戰意の維持昂揚をはかることであつた、敗戰五年をデマ宣傳によつて民衆を盲目にし更に最近では以前にもまして米英デマ宣傳の先棒をかつぎ、民に誤つた自信を植付けようとしてゐる、しかしこれらは今さら兎を脱ぐことは出来ぬといつた情性、いひ換へれば自棄氣分が支配してゐるのである。

そしてこのやうな窮地に追込まれながらも、重慶はなほ國內統制の強化、抗戰陣營再編成の必要に迫られ、矢張り各種の法令を出してゐる、中にも蒋介石の獨裁政治ぶりを強化する意味において、これを法文化した國家總動員法を去る五月五日實施し、この實施成績如何は全く重慶存亡の分岐點であ

ることを民衆に切實に訴へてゐる、近代國家としての生活意識にめざめてゐない一般民衆がこれに即應するや否やは多大の疑問がある。

他方本願の蒋介石も今や、はかなき自力抗戰に出るより方途なく、民衆を鞭うつて抗日戰線に盲目的に驅りたてようとしてゐるのである。

次に經濟的方面に於ては從來重慶の經濟機構は對外依存によつて組立てられて來たが、皇軍の上海租界の接受、香港攻略、ビルマ・ルートの潰滅、さらに今次浙東作戦による沿海よりする毛細管的密輸入地點の喪失等により、その經濟的窮狀はまことに甚大なものがある。

うじて收支をつくらつてゐる、國內交通についてはビルマ・ルートの遮斷等によつてガソリン不足から極度に乗用車、トラック、乗合自動車等の運轉を制限し、このため物資輸送に大困惑を來してゐる。

物資は輸送問題で偏在し、局部的には食糧難に喘いでゐる、かくの如く、重慶政權では最近特に戰時經濟の統制強化、財政の中央集權化、土地の均分政策等の實施によつて經濟上の窮局を打開しようとしてゐるが、その施策は徒らに混亂と矛盾のみに包まれ、全く行詰まつてゐる。

これを要するに重慶政權は大東西戰争下の今次の浙東作戦を中心にするたつて全く崩潰の兆候を示してゐるものといへより。

○蘇滿國境の風雲

本編は、東朝特派員池田記者が、昨夏現地を實地踏査した同紙記事より抄

録轉載したものである。此種情報の得難き今日、東亞蘇軍の片貌を窺ひ、併せて我關東軍の威容を想見する資料として、此一篇を北方唯一の軍備情報として、採録した次第である。(編者)

獨ソ戰の發覺部隊

黒河の對岸ブラゴエシチエンスクには、凡そ〇個師團を容れるソ聯の兵舎街がある、元來この街は、この正面最大の軍事據點であつたが、今やこの兵舎街には、若干の留守部隊を残すだけで、歐ソ方面に引揚げてゐるといふ、もちろん戰略的考慮に基くものではあらうが、黒河の街と目と鼻の間にあるブラゴエシチエンスクの街に、大軍を並べておくよりは、滿領に對する刺戟は遙に少い、次のソ軍の陣地帯は、ブレイヤ河の河口にある。

ブレイヤ河の上流には、かねてソ聯當局が、力瘤を入れて建設した工業地帯があると聞く、この河口の陣地は、その工業地帯への進入を防ぐためのものであらうが、次は同江對岸のワラワ

ヤ島および、その一帯から数百キロ下流のゴロウインスキーに至る陣地である、これは恐らく、黒龍江沿岸における、最も大規模な陣地であらう、但し、この對岸の滿領は、廣漠たる無住の大濕地帯で、結氷期以外は、全く行動不可能の地帯とされてゐる、従つて同陣地は専らユダヤ人自治州を防衛するためのもので觀られてゐる、もつとも、この陣地の背後には、アムール鐵道の要衝ビロビヂャンがあるから、ビロビヂャン防衛の第一線陣地とも考へられる、ビロビヂャンからこの江岸陣地を連ねる鐵道が陣地に沿つて西に走つてゐる、次は撫遠正面の陣地である。

涯しなき大濕地帯

撫遠からハバロフスクまでは、直線距離にして、僅かに五、六十キロ、晴れた日、撫遠の一角に立てば、ハバロフスクの車馬の往來まで看取出来るといふ、だが滿領側は、撫遠を除けば、涯しもない無住の地濕地である、にも

抑らずソ軍は、撫遠の正面に、ザプロフスキー―滿領の三角洲―ウスリー江岸のカザクヴィーチエフを結ぶ、一聯の陣地を持つてゐる、しかしソ軍はこの一聯の陣地を造るために、滿領の三角洲を不法占據して、これに多くの兵舎を建て、軍事機關を進めた、またカザクヴィーチエフの背後にある九四二高地に、大規模な築城を完成した、かくの如く、ソ軍が不法を敢てしてまで構築したこの陣地も要するに極東鐵道の重要據點、ハバロフスクを防衛せんがためであつたのだ。

大規模な野戰陣地

カザクヴィーチエフから、上流ロゼンガルトフカまでの間、およそ二百キロに至るソ領沿岸には、ほとんど見べき陣地がない、この間山脈、濕地帯、密林の中に、若干の小部落はある

が、何れも四、五十名以下の國境警備隊を配置してゐるだけである、一方この間の滿領も、恐ろしい大濕地だけに有事の場合でも、この地域のみは、恐らく無風地帯であらう、但し、ロゼンガルトフカの附近に遡ると、俄然情勢は一變する、ロゼンガルトフカ正面陣地の右翼は、グイドナヤ江岸から始まる、この江岸の野戰陣地はかなり大規模なものだ。

それから二十キロ足らずの上流に、軍都ロゼンガルトフカがある、江岸から若干の草原を距て、廣い波狀地に、堂々たる威容を示してゐる、ハバロフスク以來初めて見る大兵團である、この大兵團の任務は果して何か一朝有事の際、國境附近を走る極東鐵道を護るためか、それとも滿領の完達山脈をかゞふものか、乃至は完達山脈からの出撃に對する防衛措置か。

我が將兵の意氣軒昂

次に大規模な陣地はビギンの正面である、この陣地もやゝ下流滿領の四排

對岸から始つてゐる、この一帯の地形はソ領が高地続き、滿領は平地を距て、完達山脈となつてゐるから地の利ソ領にあるとも考へられる、この上流ソ領の林の中にソ軍の兵舎がある、兵舎の上手は、岩山続きだが、この稜線には點々と掩蓋陣地を見る、ビギンに近づくに従つて、稜線の陣地は大規模のものとなる、次はビギン河口のワシリエフスカヤである、五、六十戸の部落だが立派な兵舎がある、こゝから二十キロ前後通つた所に、ビギンの街があり重要な軍事機關があるといふ、ビギンとワシリエフスカヤの間、ビギン河をはさんで手ごろな山がある、それがビギンの直接的防塞をなし、堅固な陣地があることはいふまでもない、この陣地の眞向ひに饒河がある、ビギンまで十四、五キロの近距離だ。

饒河には〇〇が居る、街には活氣が溢れ、ソ軍の大陣地を前にして意氣軒昂たるものがある、それからかなりの上流、オリギンスコへの江岸に、若干

の野戰陣地があつて、いよゝイマン陣地帯にかゝる、この邊で注目されるのはグベロウオの飛行場だ、昨年までは百機に餘る重爆や戰闘機が頻りに飛んでゐたが、最近著しくその數が減つて来た、クニヤジエフスキーの上流邊りから本格的な陣地になつてゐる、上からサリススキーの兵舎も要塞化したホロウソカ山も見える、次の平地にある新しい建物六棟と、その背後にある、百棟位の建物は全部軍事機關でないし兵舎だといふ、若干の間をおいて、左手にイマンの街がある人口二萬

キロ上流のソ領に、第二驛がある、その背後が極東鐵道沿線有数の街ウスリーである、こゝは、イマンより大きな都市で、イマン以上の大軍があるといふ、但し、この正面の滿領は概して人跡未踏の大濕地帯である。

概念的な國境線

興凱湖の西北角、當壁嶺から、第二十五號界標―第二十四號界標―砂山―鏡山の頂上を結んで國境線は、由來國境不明確な部分で、いはゞ概念的な線だけである、この一帯はソ領が地理的に有利であることが認められる、そのうへ古來住民が國境の觀念なしに、彼我双方に居住し、その往來が極めて頻繁だつたので、國境問題も多いやうである、鏡山以南は彼我ともに、山岳重疊たる地形で、ソ軍は相當の陣地を構築してゐるものと想像されるが、はつきり判らない、さらに神東山頂、第二十一號界標以南の大密林は滿ソ領とも行動不可能の地帯と觀察されてゐるものか、ソ領にも注目すべき陣地はな

いやうだ。

次に問題なのは綏芬河正面のグロデ
コーヴォ平野である、この國境は第
十九號界標から、ソ領の山と滿領の山
との間を南に走つて第十八號界標にの
びてゐる、但し、この國境線にも、何
ら障り物はない、國境線に沿ふソ領側
の各山々には、何れも野戦陣地があ
る、それから數キロ背後にも五つの山
が並立してゐるのが見えるが、これに
も堅固な本陣地があるらしい、その内
側には、いはゆるグロデコーヴォの平
野が展開してゐる、この平野には、ア
ンドレーエフスキー、グロデコーヴォ
オ、バラノールンブルグスキー、タ
ロモイの街がある。

何れも、大部分は、軍事機關ならび
に兵舎、軍用倉庫である、この四つの
街へは、極東正面軍の本據ウオロシ
ロフから、鐵道が通じてゐる、これは
かつての國際線、グロデコーヴォ支線
である。

黙々任務を盡す將兵

アンドレーエフスキーには、兵團司
令部があり、それから前方の山々の陣
地へ、幅七メートルの立派な道路が通
じてゐる、またバラノールンブルグ
スキーの郊外などには飛行場があり、
四六時中、戦闘機が待機してゐるとの
ことである、グロデコーヴォ平原の東
側の山脚にも、ベトンの永久陣地が一
面に出来てゐるさうだ、さらに、この
平野の東北角、メズヴェツヤの山に
は、砲兵部隊が進出してゐるといふ、
〇〇〇山、〇〇山にも、それ〴〵ト
チカがある、要するに、グロデコー
ヴォの平野は東部國境におけるソ軍のマ
ジノ・ラインの重點である、この正面
にある皇軍將兵は、日夜、精魂の限り
を盡して訓練に當り、かつはソ領の動
靜を監視してゐる、これらの將兵に
は、全く娛樂もなければ、慰安もない、
將兵の胸底にはたゞ祖國を思ふ烈
々たる至誠あるのみである、この將兵
の勞苦を、銃後の國民は肝に銘じてお
かねばならぬ、グロデコーヴォの大陣

地を過ぎると、その南には重疊たる山
嶽が、滿ソ兩國の自然の防衛地帯をな
してゐる、その南が、一般に重視され
てゐる東寧正面の陣地だ。
こゝは左、滿領の郭亮船溝から右、
〇〇〇臺に至る數キロの陣地帯だ、〇
〇臺地の「くの字」形の谷にY字界標
がある、次の隆起は各種の山や丘陵を
形成してゐるが、次の丘の附近にボル
タフカがある、百五、六十戸の部落で
ある、部落右端の山脚に、兵舎が二棟
あり、一方は空家だが、一方には一、
二個中隊の部隊が入つてゐるさうだ、
〇〇山の右に連なる臺地が〇〇臺であ
る、その臺地の右端にある峰は東部四
三一高地、次は〇〇〇臺この延線にボ
クロフカがある。

壓倒的な皇軍の威力

次が西部四三一と二一五高地、さら
にサンチャゴ谷をへだて、二六九高地
がある、その右の臺地が〇〇臺だ、こ
の臺の背後に、ソ軍の基地ヤンヘイザ
があるといふ、この臺地ならびに高地
して黙々任務に精勵し、北邊の護りを
固めてゐる我が關東軍將兵に對しては
感謝の熱涙を禁じ得ない。

しかも國境における壓倒的な我が大
兵力の後方には、四千三百萬の滿洲國
民が控へ民族協和、一徳一心の大精神
の下に團結し、大東亞戰爭の激動中に
も拘らず微動だにしてゐない、彼らは
全く盟邦日本の實力に信頼し切つて安
居樂業を營んでゐる、また我が開拓戦
士は剛健な氣魄をもつて、年々北邊の
荒地を征服し、増産に力を注ぎ、今で
は單に滿洲國內の消費を充すのみでな
く、進んで戦ふ祖國日本への寄與を多
からしめんと努力してゐる。

〇滿洲國軍

概説

滿洲國軍の統帥權は組織法第十二條
に「皇帝は陸海空軍を統率す」と明か
にされてゐる。そして統帥權の委任を
受ける者は治安部大臣で、元首に對し

の前面の草原に胡布圖川が流れてゐ
る、國境線はY字界標から、胡布圖川
に沿つて南に走つてゐる、川縁の木立
の中には、ソ聯の舊税關の建物がある、
それにはいま、一個小隊位の部隊が疎
張つてゐるらしい、その手前が滿領の
三岔溝の街だが、既に廢墟となつてゐ
る、こゝも東部國境におけるソ軍のマ
ジノ・ラインの最も重要な一環であ
る、従つて左の〇〇〇山から、右の〇
〇臺にかけて百數十のトーチカがある
といふ、中には一朝有事の際、地下か
らせりあがつて来るトーチカもあるさ
うだ、ソ聯極東正面軍の本據、ウオロ
シロフは、こゝから僅か六十キロの
地點にある、攻防ともに重大關心をも
たざるを得ない。

これから以南は、ある地點を過ぎる
と、双方共に猛獸の出没する密林ない
し疎林地帯だ、この森林地帯のソ領
に、セパテキの兵舎がある、この兵舎
から朝鮮とソ領との國境まで、二百數
十キロの間を、ソ軍〇箇師團で警備し

てゐると傳へられてゐる、一個師團の
擔任正面は原則として、四キロといは
れてゐるが、ソ軍の〇箇師團がその數
十倍の正面を受けもたされてゐるとす
れば流石のソ軍も、こゝまでは手がま
はらないと見える、但し、理春平地に
下ると、ソ軍もバラバシ附近からその
國境線に、一聯の陣地を構築してゐる
が、ソ軍が、如何にバラバシ以南の國
境を固めようとも、この地方に壓倒的
な我が關東軍および朝鮮軍の威力は、
何としても否定出来ないであらう。

安居樂業の滿洲國民

以上は滿ソ國境線上におけるソ領側
の概況であるが、記者が蜿蜒三千餘キ
ロに亘つて視察した國境は、今や滿目
蕭條として凍結し、ソ軍陣地を指顧の
間に望んで彼我ともに不氣味な沈黙を
はらんでゐる、しかもこの凍てついた
天地の間にあつても國際情勢の波動は
脈々として波打つてゐるかに感ぜられ
た、この林の如き靜寂と緊張した空氣
の中にあつて、日夜酷暑と勞苦を克服

ては幕僚長であると同時に軍に對しては總司令官であつて參謀司、軍政司は幕僚群である。國軍は陸軍及江上軍を以て之を直轄軍としてゐる。直轄軍は主として國防の任に當ると共に、これまで必要に應じて、國內の治安肅正に協力し來たが、日本軍隊の援助によつて國內の治安はもとより國防の備へも日を遡うて充實を見せらる。しかも康徳四年十一月三十日には日本帝國關東軍司令官兼任特命全權大使と滿洲國國務總理大臣との間に「滿洲國內に駐屯する日本國軍の軍事關係法規適用等に関する件」に關して公文を交換し、同年十二月一日に勅令を以て右に關する法令を公布、即日實施するに至つたので、日滿の共同防衛は一層の全きを示すに到つた。

治安部は康徳四年七月一日の政治行政機構改革に伴ひ、これ迄統軍の最高機關であつた軍政部に、民生部の管下にあつた警務司の中の治安警察の事務を統合して斯く改稱されたものであ

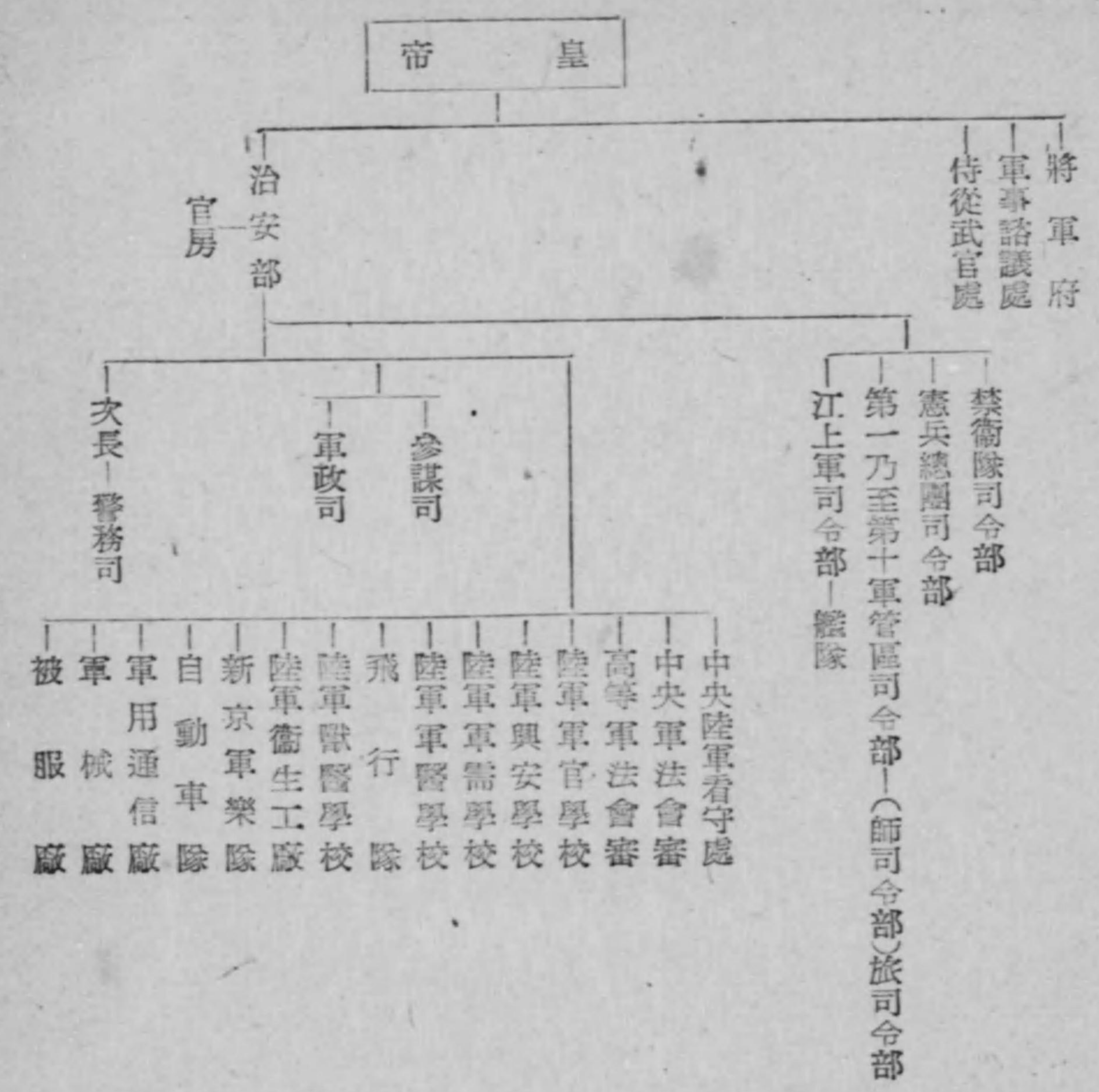
治安部は官房の外に軍政關係の部門として參謀、軍政の二司と警察行政を擔當してゐる警務司とからなつてゐる。

國軍の編成は、中央直轄軍と第一から第十に至る軍管區司令部と江上軍（康徳六年二月江防艦隊を改稱）を以て組織せられ、又別に軍事顧問部が設けられて國軍の指導の任に當つてゐる。尙ほ討匪遊動軍として武名を馳せた靖安軍、これまでの警察隊、保安隊を改編した治安隊の各部隊がある。

直轄機關には軍用通信廠、軍械廠、軍需廠、陸軍衛生工廠の各本支廠を、軍隊としては禁衛隊、憲兵總團、防空部隊（高射砲隊、飛行隊等）、通信隊、自動車隊、軍樂隊等、學校としては奉天陸軍軍官學校、陸軍興安學校、憲兵訓練處、陸軍軍需學校、陸軍軍醫學校、陸軍獸醫學校等を統轄し、馬政局、測量局（近く設置）、造兵所等を監督する外、各軍管區所在地その他主要地に治

- 安部病院を持つてゐる。これを系統的に示せば別掲の表の通りである。
- 滿洲國軍の細説**
- 一、滿洲國軍 は日滿議定書に基づき日本軍と協同一體となつて國家の防衛に任ずる滿洲帝國の軍隊である。
 - 二、構成民族 民族協和の滿洲國では軍は在住民族によつて構成する特殊性を有し、日本人は志願制に依る滿洲將校として軍の核心的存在となり、その發展進歩の根幹をなしてゐる。
 - 三、兵種（兵科） 憲、步、騎、砲、工、航空、江上、輜重、軍需、軍醫、司藥、衛生、獸醫、獸務、技術、軍法、軍樂の兵科部から成り、その官等階級は別掲の表の通り日本軍と略々同様である。
 - 四、編成（配置） 軍隊編成は師（師團）旅（旅團）團（聯隊）營（大隊）連（中隊）排（小隊）班（分隊）から成り、歩騎兵團には軍旗を親授せられ、軍隊士氣の中心である。部隊は步、騎、機關銃、迫撃砲、野山砲、高射砲、通信、自動

滿軍隷屬系統表



車、飛行機部隊を集成、又は混成しその戦力は國內警備と一部の外戦に堪え得る。憲兵團は滿軍獨特のもので憲兵業務のほか精銳な戰鬥部隊として活動することが出来る。その他にも各種の特殊又は特設部隊がある。

五、江上軍 江上軍は國境河川の警防に任ずる艦艇部隊である。（後記）

六、兵役制度 建軍以來募兵志願制を實施して來たが、國運の隆昌と國民の總意は次第に滿軍を認識し來り遂に昭和十六年から必任義務的徵兵制度を實施することに決定し、國兵法（別記其之項参照）公布、滿洲國在住男子の大部は兵役に服することになり、これによつて滿軍が更に兵員素質に格段の精強を加へるにいたつた。建國後僅か十年で國民皆兵制度を行ひ得ることは滿洲國の驚異的發展を示すものである。

七、教育訓練 從來國內討匪に寧日のなかつた滿軍は、近年、國內治安の確立に伴ひ討伐第一主義から訓練第一主義に大轉換を行ひ、専ら將校以下の素

軍需部	科								兵科別
	輜重兵	航空兵	江上兵	工兵	砲兵	騎兵	歩兵	憲兵	
准陸軍軍需尉	准陸軍輜重尉	准陸軍航空尉	准陸軍江上尉	准陸軍工兵尉	准陸軍砲兵尉	准陸軍騎兵尉	准陸軍歩兵尉	准陸軍憲兵尉	准尉
上士	上士	上士	上士	上士	上士	上士	上士	上士	軍
中士	中士	中士	中士	中士	中士	中士	中士	中士	中
少士	少士	少士	少士	少士	少士	下士	少士	少士	士
士	士	士	士	士	士	士	士	士	士

陸軍武官官等表 (准尉官軍士)

軍樂部	軍法部	技術部
中陸軍軍將少	中陸軍軍將少	中陸軍技術將少
將上	將上	將上
校中	校中	校中
校少	校少	校少
校上	校上	校上
尉中	尉中	尉中
尉少	尉少	尉少
尉	尉	尉

質の向上と軍事能力の向上に全力を傾注してゐる。勿論多少遺憾の點が少いとはいへぬが近年に於ける内外各種の軍事要素は満軍の健實な向上發展を推進せしめるものである。

學校教育は奉天陸軍軍官學校其他教育訓練するだけでなく優秀な幹部將校は日本士官學校、陸軍大學その他實施學校等にとし、派遣留學させ、専ら優良軍隊の練成に努めてゐる。

八、軍隊給與 從來比較的簡素な給與にあつた満軍は之に依つて遺憾な事件も發生したが、近代戦力の要素は給與に依る培養にあることと、最近滿洲國國富の膨張は今次の陸軍給與令の公布となり、大改善を加へて満軍給與を引上げるに至つたので、今後は満軍將兵は安んじて不惜身命、任務に邁進し得

獸務部	衛生部	軍需部	科								兵科別
			輜重兵	航空兵	江上兵	工兵	砲兵	騎兵	歩兵	憲兵	
中陸軍獸醫將少	中陸軍衛生將少	中陸軍軍需將少	陸軍上將	陸軍中將	陸軍少將	陸軍上校	陸軍中校	陸軍少校	陸軍上尉	陸軍中尉	陸軍少尉
將上	將上	將上	陸軍上校	陸軍中校	陸軍少校	陸軍上尉	陸軍中尉	陸軍少尉	陸軍上尉	陸軍中尉	陸軍少尉
校中	校中	校中	陸軍上尉	陸軍中尉	陸軍少尉	陸軍上尉	陸軍中尉	陸軍少尉	陸軍上尉	陸軍中尉	陸軍少尉
校少	校少	校少	陸軍中尉	陸軍少尉	陸軍中尉	陸軍中尉	陸軍中尉	陸軍中尉	陸軍中尉	陸軍中尉	陸軍中尉
校上	校上	校上	陸軍少尉	陸軍少尉	陸軍少尉	陸軍少尉	陸軍少尉	陸軍少尉	陸軍少尉	陸軍少尉	陸軍少尉
尉中	尉中	尉中	陸軍中尉	陸軍中尉	陸軍中尉	陸軍中尉	陸軍中尉	陸軍中尉	陸軍中尉	陸軍中尉	陸軍中尉
尉少	尉少	尉少	陸軍少尉	陸軍少尉	陸軍少尉	陸軍少尉	陸軍少尉	陸軍少尉	陸軍少尉	陸軍少尉	陸軍少尉
尉	尉	尉	陸軍中尉	陸軍中尉	陸軍中尉	陸軍中尉	陸軍中尉	陸軍中尉	陸軍中尉	陸軍中尉	陸軍中尉

陸軍武官官等表 (軍官)

部		衛生部	獸務部	技術部	軍法部	軍樂部
陸軍衛生尉	陸軍獸務尉	陸軍技術尉	陸軍軍法尉	陸軍軍樂尉	陸軍軍樂尉	陸軍軍樂尉
上	上	上	上	上	上	上
士	士	士	士	士	士	士
中	中	中	中	中	中	中
士	士	士	士	士	士	士
少	少	少	少	少	少	少
士	士	士	士	士	士	士

ることとなつた。昭和十三年公布の陸軍武官令と今次の陸軍給與令の制定に依り、軍人の身分、待遇が確保され、軍事恩給、褒賞勲位、武功等それ〴〵定められ軍事援護法に依り家族及び遺家族にまで國家の恩恵が徹底することになつてゐる。給與令による武官俸給は別掲の表の通りである。(表略)

九、滿軍の戦力 建軍以來の軍自體の努力向上と日本軍上下の誠心よりする指導援助は滿軍閣的存在であつた滿軍を今日に至らしめたもので、その戦力に於ては尙ほ指導向上を必要とする點も少なくないが、滿軍自體にも各種の良

い特性があり、その異常なる忍耐力、行軍力、給養方面に於ける簡易性等美點長所も決して少なくない。今後に於ける日本軍のよりよき指導と、日滿國民統後の後援及び滿軍自體の向上精神はやがて東亞協同體としての滿洲國の持つ國防力として日本軍との共同作戰に充分の戦力を發揮するものと期待し得られるのである。

國兵法

康德七年二月十五日の最後の審議委員會で國兵制度に關する決定案を得、更に四月十一日には國兵法及び國兵施

行令を公布して、同月十五日から之を實施してゐる。

國兵法の大綱は次の如くである。

一、兵役服務義務者の範圍

(イ) 滿洲帝國內に住すなはち生活の本據を有する帝國人民たる男子は法の定むる處により兵役に服務する義務を有す

(ロ) 在滿日本人(朝鮮人を含む)

については志願による服役を認む
(ハ) 六年の徒刑または禁錮以上の刑に處せられたるもの及び壯丁適齡をすぎ帝國人民となつたものは服役せしめず

二、壯丁の適齡は滿十九年とする。

(すなはち前年十二月三十一日よりその年の十二月三十日までの間において年齢十九歳に達する壯丁)

三、服役の種類を現役のみとする。

四、服役期間は三年とし在役期間の短縮に關しては左の如き特例を設ける。

(ハ) 家庭に對する名譽章の交付 遺族徽章の授與、就職優先權の附與、各種生計補助、公式祝祭典における優遇。

江上軍

江上軍司令部は哈爾濱に在る。司令部は艦隊司令部であると同時に鎮守府でもあつて、司令官以下は陸上司令部で執務したり、また旗艦で指揮したりする。

哈爾濱は江上軍の策源地であつて、司令部の外に我が海兵團に相當する補充隊を初めとし、病院、電信所、修船所等も設けられて居り、艦艇は毎年江上結氷するに至れば現地に冬營營備を續行すべき一部を除いて大部分此處に歸つて翌年の活動に備へて訓練や修理を行ひながら、冬を過す。

黒河、富錦及虎林の各要地には軍需品補給、通信乘員休養の爲辦事所が置いてある。謂はゞ之が前進根據地である。

(イ) 現役三年を要せざる兵種にあるもの。

(ロ) 教養あり在隊間の成績優良なる者に對して一年以内の短縮をする、現役三年を要しない兵種とは例へば看護兵、自動車隊、工務兵その他軍に於て教育上その年数を短縮しても差支へない兵科にあるもので、教養あり在隊間の成績優良なるものとは大體中等學校以上の卒業生で軍隊の成績優秀なるものをいふ。これらに對しては出来る限りその教養を活す方法を講じたもので兵役義務者が學校教育を受けたことによる特權ではない。

五、徵集

(イ) 壯丁適齡に達した時は原則として家長が徵兵適齡届を當該市街村長またはこれに準ずるものに提出することを要し壯丁検査は本籍(生活の本據)所在の徵兵區に於て行ふが、他の徵兵區に於ても行ひ得ることとし適齡者の便宜を考慮

してゐる。犯罪者は當然その犯罪の決定あるまで徵集を延期する。國民高等學校およびこれと同等以上の學校に在學中のものは徵集を延期することが出来る。

(ロ) 徵集の決定を受けたものといへども家族中同時に二人以上現役兵として入營し家事上支障を生ずる時は一人の在營期間中この者の入營を延期することが出来る。

六、免除、現役兵に徵集されぬ者及び在營期間中兵役に耐へぬ疾病その他身體若くは精神に異狀を生じた者は當然兵役を免除されるが、その他特に本人がなれば家族の生活困難の者にも兵役免除の特權が與へられる。

七、特典

(イ) 現役兵に關する交通費の減免 農牧繁期休暇の附與。

(ロ) 除隊兵に對する名譽證の交付 就職優先權の附與、公式祝祭典における優遇。

所屬の艦船は軍艦、砲艇及雜役船に種別される。其の軍艦は艦首に金色蘭花の御紋章を附して居る。

滿洲國艦艇一覽表

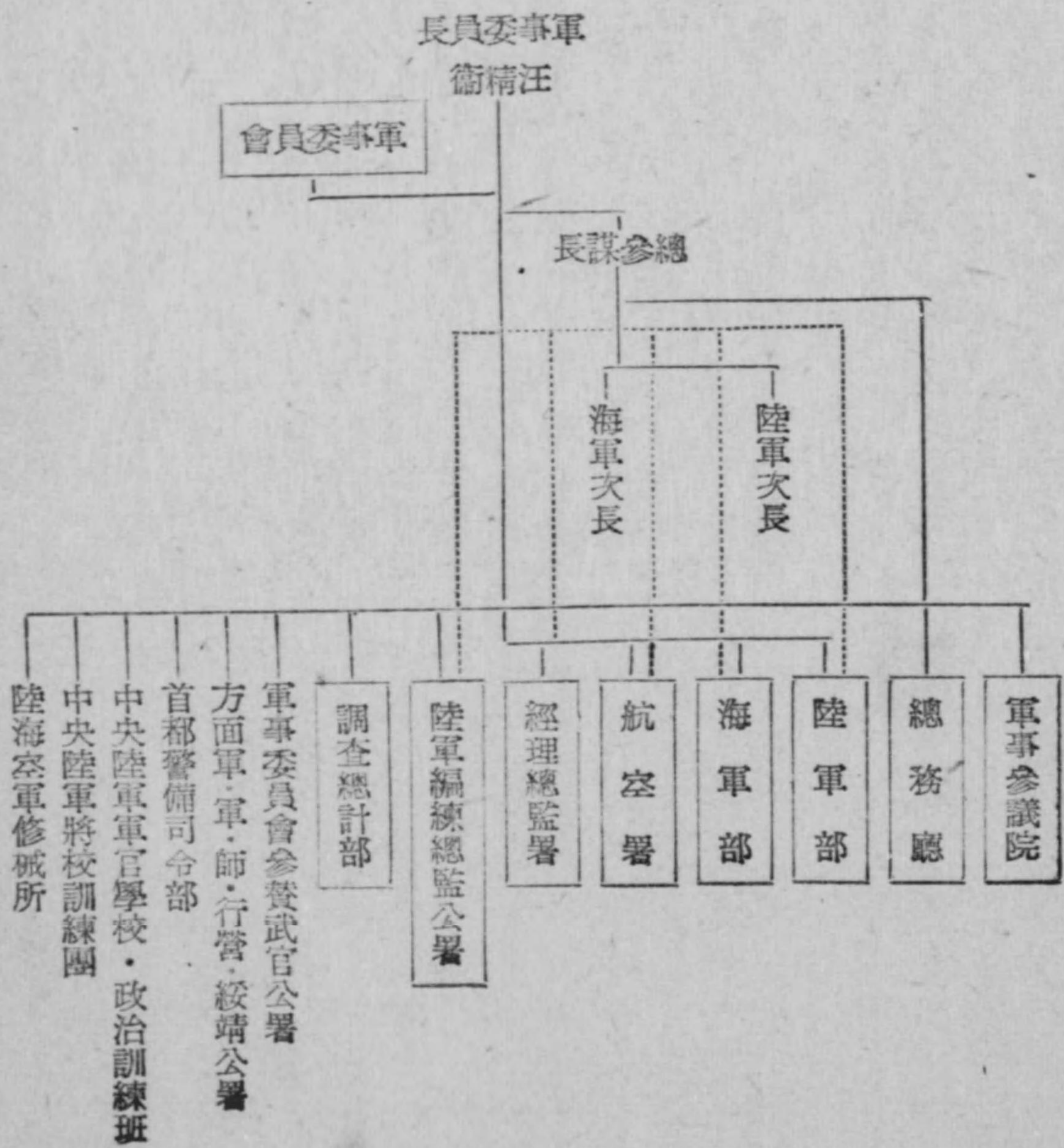
艦種	艦名	長サ	幅	吃水	排水量	速力	兵裝	進水年
定邊	Tingpian	五八米	八・八米	〇・九米	基二九〇噸	二三・〇節	三挺高角機銃	昭和九年
親仁	Chinjen	"	"	"	"	"	"	"
順天	Shuntien	五五	八・八	〇・九	基二二〇	三・五	"	"
養民	Yangmin	五五	八・八	〇・九	基二二〇	三・五	"	"
大同	Tatung	三〇	二・〇	〇・五	基一五〇	一〇・五	三挺高角機銃	昭和九年
利民	Limin	"	"	"	"	"	機銃	昭和八年
利綏	Lisui	五〇	八・〇	〇・八	基二五〇	一三・〇	五七耗二機銃	明治三年
江通	Chiantung	五〇	五・五	〇・九	基二五〇	四・五	七五耗一機銃	"
江精	Chiangching	五〇	九・五	一・〇	基三〇〇	七・五	"	明治三年
江平	Chiangpian	"	"	"	"	"	"	明治三年
利濟	Lichi	四八	一三・〇	一・〇	基三二〇	七・五	"	明治三年
濟民	Chimin	二〇	三・〇	〇・七	基一五〇	八・五	機銃	昭和九年
惠民	Huimin	一四	〇・七	〇・七	基一〇〇	八・五	機銃	昭和八年
普民	Pumin	"	"	"	"	"	"	"
恩民	Enmin	"	"	"	"	"	"	"

中華民國軍の陣容

國民政府は大東亞戰爭勃發以後の情勢に即應すべく、このほど暫期的な軍事機構の大改革を完成、支那大陸におけるわが第一線部隊に呼應して、和平地區治安の確保と重慶處理に邁進する國府軍に一段と威容を加へることとなつた。すなはち中央軍事機關を平時狀態より戰時體制に改組するを先決條件とし、各部の實情を検討の上五月上旬第一案を作成し研究を遂げた結果、統率力を強化し、かつ新國民運動要綱を實踐して範を垂れるべき軍隊の整備と強化を根本精神とする具體案を得去る八月二十日中央政治委員會において正式決定、これの關係法令も近く公布されることとなつた。

改組の要點は、從來の軍事委員會辦公廳、參謀本部、軍政部、軍事訓練部、政治訓練部の五機關を調整合併して、新たに陸軍部、陸軍編練總監公署、および總務廳を設け陸軍、海軍兩

國府軍事委員會組織系統表



部を軍事委員會に直屬せしめ、汪軍事委員長のもとに總參謀長制を設けて軍令、軍政の統一と統率力の強化を期したことである、しかし改組の根本精神を、

(一) 總參謀長に事務處理の全責任を負はしめ、これに必要な権限を附與した。

(二) 徹底的な縮編を斷行して一課といへども増加せざるの根本方針を堅持し精銳主義を第一要件とする。

の二點におき具體的處置として、

イ、從來の各部並立制を廢して總參謀長制とし、その下に各機關を統合一元化したる機關をおいた。

ロ、有能者の適材適所主義に徹し情實の餘地なからしめる。

ハ、一人一所主義を採り、特定職の外兼職を認めない。

ニ、徹底的な縮編の結果餘裕を生じた軍官および歸順軍官を收容する機關を設けて、將來の準備ならびに臨時

任務に就かしむる便をはかる。

ホ、内部の各組織は極力簡素にし精銳主義によつて人件費を節約する。

ハ、中央機關の人事權を軍事委員長の專行制とした。

の該點が實行されたのである、かくてこれに伴ふ人事は總參謀長に前開封綏靖主任劉福芬上將、陸軍部長に前軍政部長鮑文樾上將、陸軍編練總監に前參謀長葉達上將、總務廳長に黃自強中將が任命されたのであるが、改組された各機關の職責權限はつぎの通りである。

◇總參謀長 軍事委員長の幕僚としてこれを輔佐し、軍事委員會各部を指導調整し、委員長に對して事務統轄の責めに任ずるものとし、その下に總參謀次長二名を置き、一名は陸軍中(少)將をもつてこれに當て、海軍部を除く各部の指導調整に當り、一名は海軍中(少)將をもつてこれに當て、海軍部の統制を行ふこととし、それ〴〵總參謀長を輔佐することと

なつてゐる。

しかしながら總參謀長は、軍事委員會の副委員長ではなく、鮑くまで内部にあつて、軍事委員長を輔佐するものであるから、統帥事項および重要事務の處理は、軍事委員長に事故ある場合も、當然總參謀長に委譲されるものではなく、すべての軍事的實權は汪委員長の掌握するところとなつてゐる。

◇總務廳 總參謀長の指揮を受けて、各部署の指導調整に關する事務ならびに豫算、人事その他重要な編成裝備に關する事項を司り、總參謀長の最有力な輔佐機關として總參謀長の事務處理は總務廳に一元化されてゐる。

◇陸軍部 軍事委員長に直屬して陸軍に關する軍令、軍政事項を處理し、主管事項について各陸軍部内陸軍諸學校の教育を實施する。

◇編練總監 軍事委員會所轄各部隊の整備訓練を實施し、歸順部隊の改

編、再訓練をはじめ既存部隊を正規の國軍とするための訓練改編にあたり、建設途上の軍容整備を擔當する。

右のうち從來の參謀本部と軍政部を統合して軍令、軍政を一本建とした理由は、國府の現状に基いて統帥權に對する軍政の制肘を避け、軍令、軍政の區別困難な事項についての兩者の摩擦を調整し、委員長の下に有機的な運営を期したものである、陸海軍の軍政事項の軍事委員會統合に伴つて、現在陸海軍兩部は軍事委員長に直屬すると共に、行政院にも一部歸屬してゐるが、將來は完全に行政

政院から離れて國府の五院十部制は五院八部制となり、機構の簡素化が實現されることになつてゐる。

中央機構の改革と相まつて、國軍の修編整備も着々斷行されてゐるが、陸軍兵力は鮑文樾上將麾下の第一方面軍〇個師、孫良誠上將麾下の第二方面軍〇個師を骨幹とし、第一集團軍直轄第一軍、第二軍、獨立師、獨立旅を主要地域に配置し、軍政黨教四位一體の蘇北行營、武漢行營は管下の兵力機能を最高度に發揮しつゝ討匪と建設の兩工作を推進せしめてゐるほか開封、廣東の兩綏靖主任公署が、それ〴〵管下の各師、兵團を指揮し總兵力は今や四十五

個師約五十萬を算へてゐる。また國軍

の手足となるべき保安隊も、逐次整備され、上海特別市保安隊をはじめ、江蘇、安徽、湖北、各省保安隊が編成を終つて治安確保の任務についてをり、空軍はこのほど日本より譲渡された飛行機をはじめ、〇〇機の陸軍機と、空軍教導隊を基幹として訓練を急ぎつゝあり、一方海軍は砲艦ならびに砲艇隊、武裝快速艇〇〇隻の陣容をもつて廣東、南京、威海衛に要港司令部を置き、大陸まで海および揚子江など諸内河の警備に當つてゐる。

米國海軍主力部隊一覽表

(艦名) は沈没艦を示す 昭和十七年八月調

深谷 甫編

艦	名	基準排水量(噸)	長さ(米)	幅(米)	主砲(種)	副砲(種)	高角砲(種)	カタパルト機	搭載力(節)	乗員	竣工	改装年
モ	ン	タ	ナ	五五〇〇	この級五隻は本年度に建造中止							

他邦軍備状況

(ホ) エンタープライズ	レキシントン(新)	テイコンデロガ	オリスカニヒル	パンスカド	ラソド	カボツ	ハソク	フク	キートン	イートン	ボントレビッド	エセツク	航空母艦
一九九〇	二二二	二五	一	一	二二七八	二五二〇	八二	三四二二六	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	
二二二	二五	一	一	二二七八	二五二〇	八二	三四二二六	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	
二二二	二五	一	一	二二七八	二五二〇	八二	三四二二六	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	

他邦軍備状況

オニハ	メニ	ルイ	アル	アユ	ニツ	ミツ	ウイ	ケイ	ワノ	イサ	マセ	アラ	ウエ	コエ	メリ	テリ	ニユ	アス
一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一
一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一
一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一

ヨークタウン	1400	210	24.6	23.78	1	720	1931
ワシントン	1450	233	24.6	23.78	1	720	1931
レキシントン	1500	233	24.6	23.78	1	720	1931
レキシントン	1500	233	24.6	23.78	1	720	1931
サラトガ	1500	233	24.6	23.78	1	720	1931
超大型巡洋艦	約10000						建造中
グアラ							建造中
ハワ							建造中
フエリ							建造中
サモ							建造中
新型重巡洋艦	15000						建造中
ポルトモ							建造中
ピット							建造中
セント							建造中
他に一〇隻							
重巡洋艦							
ウイ	10000	175	18.7	20.3	2	437	1931
クイン	9400						
ミン	9375						

サン・アラシスコ	9950						
タスカル	9975						
ミネアポリス	9950						
ニュー・オルレアス							
この級中五隻はソロモン海戦にて撃沈さる							
インディアナポリス	9950	178	20.1				1931
ボート	9800	177					1931
ヒューガ	9550	174					1931
ルイス	9500						
ノース	9500						
ベント	9500						
サコ	9500						
ライト	9500						
コシ	9500						
ライ	9500						
モントベリア							
デンワ							
アマステルダム							
サンタ・ファイ							
タラハツ							
バーミンガム							
モビル							
フリント							
パサデナ							
スプリング							
ファイルド							
トベカ							
アルバ							
ロチ							
エスター							
コロ							
ンバス							
デ							
モ							
ア							
ン							
ニュー							
ヘー							
ヴン							
ハン							
テイ							
ン							
グ							
ト							
ン							
デ							
ート							
ン							
ウ							
イル							
ミ							
ント							
ン							
ビ							
ロ							
キシ							
ー							
グ							
ブ							
ロ							
イ							
デン							
ス							
マン							
チ							
エ							
スター							
フ							
アー							
ゴ							
チ							
エ							
イン							
ダ							
ルス							
マイ							
ア							
ミ							
ウ							
イル							
クス							
バー							
オー							
ク							
ランド							
ド							
タク							
ソン							
スポ							
ケン							
レ							
ノ							

艦名	基準排水量(噸)	長さ(米)	幅(米)	主砲(種)	副砲(種)	高角砲(種)	發射管	カタパルト	搭載機	速力(節)	乗員	竣工年	改装年
ササン・デューゴン	6000	160.3	25.8	—	—	機銃12	—	—	—	—	—	—	—
アトランタ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
コロラド	10000	182.8	18.7	5.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—
セント・ルイス	10000	183	18.8	5.2	4.7	1.3	2	4	10000	19.3	—	—	—
ポエニックス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ホノルル	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
フライデルフィア	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ブルックリン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
サザン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
メンフィス	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
(マープルヘッド)	7000	168	16.9	5.2	4.7	7.6	2	3	3.7	5.6	—	—	—
デトレイト	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
コロン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
シラモント	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
シラモント	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ミルウォーキー (オ) マーキー (オ) 就役中 八七隻 (内多数の沈没艦もあるも確實の隻数不明) 建造又は計畫中 七三隻

驅逐艦 就役中約二〇〇隻 (内一五隻以上沈没) 建造又は計畫中一九三隻

潜水艦 就役中 八七隻 (内多数の沈没艦もあるも確實の隻数不明) 建造又は計畫中 七三隻

米國海軍新銳建造中及計畫艦艇

アメリカ戰艦艦艇沈没の記録はハワイ海戦のアリゾナ型、メリーランド型、カリフォルニア型、ユタ、オクラホマ型各一隻、珊瑚海海戦においてカリフォルニア型一隻、南太平洋海戦において艦型未詳の戦艦一隻であり、其後の發表により、更に戦艦艦艇が加へられたが、大東亞戰勃發を契機に戦艦から航空母艦へと重點を變更、建造中の戦艦は空母に模倣替へを行つてゐるアメリカ海軍にとつて、この戦艦の損害は蔽ひ難い痛手である、大東亞戰勃發直前(一九四一年秋現在)における米海軍主力艦として公表されてゐたものは次の如くである、なほ「建造中」の欄にあるワシントン、ノースカロライナ、

▽アイカンサス (二六、一〇〇トン、廿一ノット、卅六種砲十二門、十三種砲十六門、一九一二年九月竣工)

▽ニューヨーク (二七、〇〇〇トン、廿ノット、卅六種砲十門、十三種砲十六門、一九一四年四月竣工)

▽ペンシルヴァニア (三三、一〇〇トン、廿一ノット、卅六種砲十二門、十三種砲十二門、一九一六年五月竣工)

▽アリゾナ (三二、六〇〇トン、廿一ノット、卅六種砲十二門、十三種砲十二門、一九一六年十月竣工)

▽ニューメキシコ (三三、四〇〇トン、廿一ノット、卅六種砲十二門、十三種砲十二門、水雷發射管二門、一九一四年三月竣工)

▽テキサス (二七、〇〇〇トン、廿ノット、卅六種砲十門、十三種砲十六門、一九一四年三月竣工)

▽ネヴァダ (二九、〇〇〇トン、廿ノット、卅六種砲十門、十三種砲十二門、一九一六年三月竣工)

▽オクラホマ (二九、〇〇〇トン、廿ノット、卅六種砲十門、十三種砲十二門、一九一六年五月竣工)

一八年八月竣工)
 ▼ミシシッピ (三三、〇〇〇トン、
 廿一ノット、卅六種砲十二門、十三
 種砲十二門、水雷發射管二門、一九
 一七年十二月竣工)
 ▼アイダホ (三三、四〇〇トン、廿一
 ノット、卅六種砲十二門、十三種砲
 十二門、水雷發射管二門、一九一九
 年三月竣工)
 ▼テンネシー (三三、三〇〇トン、廿
 一ノット、卅六種砲十二門、十三種
 砲十二門、水雷發射管二門、一九二
 〇年九月竣工)
 ▼カリフォルニア (三二、六〇〇トン
 廿一ノット、卅六種砲十二門、十三
 種砲十二門、水雷發射管二門、一九
 二一年九月竣工)
 ▼メリーランド (三一、五〇〇トン、
 廿一ノット、四十種砲八門、十三種
 砲十二門、水雷發射管二門、一九二
 一年七月竣工)
 ▼コロラド (三一、五〇〇トン、廿一
 ノット、四十種砲八門、十三種砲十二
 門、發射管二、一九二三年八月竣工)
 ▼ウエストバージニア (三一、八〇〇
 トン、廿一ノット、四十種砲八門、
 十三種砲十二門、水雷發射管二門、
 一九二三年十二月竣工)
 建造中
 ▼ワシントン (三五、〇〇〇トン、廿
 八ノット、四十種砲九門、十三種砲
 十二門、十三種高角砲八門、一九四
 一年五月竣工、未就役)
 ▼ノースカロライナ (三五、〇〇〇ト
 ン、廿八ノット、四十種砲九門、十
 三種砲十二門、十三種高角砲八門、
 一九四一年四月竣工、未就役)
 ▼サウスダコタ (三五、〇〇〇トン、
 廿八ノット、四十種砲九門、十三種
 砲十二門、十三種高角砲八門、一九
 三九年七月起工)
 ▼マサチューセッツ (三五、〇〇〇ト
 ン、廿八ノット、四十種砲九門、十
 三種砲十二門、十三種高角砲八
 門、一九三九年七月起工)
 ▼インディアナ (三五、〇〇〇トン、
 廿八ノット、四十種砲九門、十三種
 砲十二門、十三種高角砲八門、一九
 三九年十一月起工)
 ▼アラバマ (三五、〇〇〇トン、廿八
 ノット、四十種砲九門、十三種砲十
 二門、十三種高角
 砲八門、一九四〇年二月起工)
 ▼アイオワ (四五、〇〇〇トン、卅
 二ノット、四十種砲九門、十三種砲
 二十門、一九四〇年六月起工)
 ▼ニュージャージー (四五、〇〇〇トン
 卅二ノット、四十種砲九門、十三種
 砲二十門、一九四〇年九月起工)
 ▼ミズリー (四五、〇〇〇トン、卅二
 ノット、四十種砲九門、十三種二十
 門、一九四一年一月起工)
 ▼ウイスコンシン (四五、〇〇〇トン
 卅二ノット、四十種砲九門、十三種
 砲二十門、一九四一年一月起工)
 未起工
 ▼イリノイス (四五、〇〇〇トン、卅
 二ノット、四十種砲九門、十三種十二
 門、一九四二年豫算通過)

▼ケンタッキー (四五、〇〇〇トン、
 卅二ノット、四十種砲九門、十三種二
 十門、一九四一年豫算通過)
 ▼モンタナ (五八、〇〇〇トン、一九
 四一年豫算通過)
 ▼オヒス (五八、〇〇〇トン、一九四
 一年豫算通過)
 ▼メイン (五八、〇〇〇トン、一九四
 一年豫算通過)
 ▼ニューハンプシャー (五八、〇〇〇
 トン、一九四一年豫算通過)
 ▼ルイジアナ (五八、〇〇〇トン、一
 九四一年豫算通過)
 九四一年豫算通過)
 以上の如くで表の上では艦籍を除外
 されてゐた「ユタ」を除き、艦數合計
 は既成十七隻、五十三萬四千三百ト
 ン、建造中八隻、三十二萬トン、未起
 工七隻、三十八萬トンとなつてゐる。

英國 殘存艦艇表

戰艦・重巡洋艦

(艦名)は沈没艦 昭和一七年一〇月調

深谷 甫編

艦名	基準排水量(噸)	長さ(米)	幅(米)	備砲(種)	發射管(節)	竣工年	改裝年
ラメイオン	8000	111	11	40・六	1	建造中	
テメレオン	"	111	11	"	1	"	
(不)	"	111	11	"	1	"	
(不)	"	111	11	"	1	"	
キング・ジョージ・五世	35000	235・四八	31・元	35・六	3	一九三九	一九四三
(プリンス・オブ・ウェールズ)	"	"	"	35・六	3	一九三九	一九四三
デューク・オブ・ヨーク	"	"	"	35・六	3	一九三九	一九四三
アソン	"	"	"	35・六	3	一九三九	一九四三

況 状 備 軍 邦 他

(キヤンペラ)	(オーストリア)	サツ	カン	バ	(コンウオール)	ケ	サ	シ	ロ	デ	ノ	(ド)	(ヨ)	(エ)	重巡洋艦
九八〇	九七〇	"	"	"	"	1000	"	九八〇	九八五〇	九七五〇	九九二五	九七五	八二五〇	八五九〇	
"	一八〇	"	"	"	"	一八〇	"	"	"	一八〇	"	一八〇	一六五	一六五	
"	二〇・八	"	"	"	"	二〇・八	"	"	"	二〇・一	"	二〇・一	一七・七	一七・七	
"	二〇・三、一八、一〇・二、高機一四 四・七、七、四、高機一四 高機一八	"	"	"	"	二〇・三、一八、一〇・二、高機一八 四・七、一四、高機一六	"	"	"	二〇・三、一八、一〇・二、高機一八 四・七、一四、高機一六	"	二〇・三、一八、一〇・二、高機一八 四・七、一四、高機一六	二〇・三、一八、一〇・二、高機一八 四・七、一四、高機一六	二〇・三、一八、一〇・二、高機一八 四・七、一四、高機一六	
"	五三・八、					"	"	"	"	五三・三八	"	五三・三八	五三・三六	五三・三六	
"	三二・五	"	"	"	"	三二・三	"	"	"	三	"	三	三	三	
"	一九二八	"	"	"	"	一九二八	"	"	"	一九二九	"	一九二九	一九三〇	一九三一	
"	"	"	"	"	"	一九三八	"	"	"	"	"	"	"	"	

況 状 備 軍 邦 他

(クキン・エリザベス)	(ワースペイト)	ヴ	(バ)	マ	ロ	レ	レ	ラ	(レ)	レ	(フ)	ロ	ネ	ホ
"	"	三〇〇〇	"	二二〇〇	"	"	"	二九一五〇	"	三二〇〇〇	三二二〇〇	三三九〇〇	三三九五〇	"
"	"	一八五	"	一八五	"	"	"	一七七	"	三三九	二四七	"	二〇一	"
"	"	三二・七	"	三二・七	"	"	"	三二・一	"	三二・三	三二・二	"	三二・三	"
"	"	三六・二、一八、一五・二、一八 一〇・二、高機一八、四・七、一四 高機一八	"	三六・二、一八、一五・二、一八 一〇・二、高機一八、四・七、一四 高機一八	"	"	"	三六・二、一八、一五・二、一八 一〇・二、高機一八、四・七、一四 高機一六	"	三六・二、一八、一四・二、一八 一〇・二、高機一八、四・七、一四 機銃一四	三六・二、一八、一四・二、一八 一〇・二、高機一八、四・七、一四 機銃一四	四〇・六、一八、一五・二、一八 二二・高機一六、四・七、一四 高機一四	四〇・六、一八、一五・二、一八 二二・高機一六、四・七、一四 高機一四	"
									"	五三・三八	五三・三六	"	六〇・九、一八	
"	"	二	"	二	"	"	"	三	"	二九	三二	"	二二・五	"
"	"	一九二五	"	一九二五	"	"	"	一九二六	"	一九二六	一九二〇	"	一九二七	"
"	"	一九二五	"	一九二五	"	"	"	一九二六	"	一九二六	一九三〇	"	一九二七	"

リ 聯 海 軍 艦 艇 表

昭和十七年九月調

深谷 甫編

(艦名) は歐洲戦争中の沈没艦
(黒) は黒海艦隊所屬他はバルチック艦隊所屬
(東) は東洋艦隊所屬

艦名	基準排水量(噸)	長さ(米)	幅(米)	備砲(種)	發射管(種)	速力(水上水中)	竣工年	改装年
戰艦								
トレイイ・インテルナシヨナ	3500	233	33	160六九、一五二二三	なし	30	建造中	
不	名約4000	ト	ト	四〇六	ト	三	黒海にて建造中獨逸軍に捕獲さる	
マラツト	2300六	一八一	二六・五	三〇・五二三、三二一六 七・五高、六、高機八	四四	三三	一九二四	一九三一
オクテイアブルスカヤ・レポルテイア	2350	"	"	"	"	"	"	一九三三
パリスカヤ・コンムナ	230二六	"	"	"	"	"	"	一九二八 一九二七
航空母艦								
クラスノエ・ズナミヤ	11000	ト	ト	一〇・二高、三	ト	30	建造中	

列國海軍艦艇竣工建造狀態

(昭和十六年調)

艦名	竣工せるもの	建造中のもの	合計は推定	艦種	竣工せるもの	建造中のもの	合計は推定
重巡洋艦							
ヴォロシロフ (黒)	九〇〇	ト	ト	一八九九、一〇・二高、四	ト	ト	一九三〇
オルヂョニキーゼ	八〇〇	一八三	一八	一八一九、一〇・二高、四 三・七高、四、高機一四	五三・三六 三三	建造中	
クビシエフ	"	"	"	"	"	"	一九四〇
マキシム・ゴルキー	"	"	"	"	"	"	一九三九
キローフ	"	"	"	"	"	"	一九三八
クラスニ・カザズ (黒)	八〇〇	一五八	一五・三	一八・四、一〇・二高、六 三・七高、四、機銃一四	五三・三二 三〇	一九三二	
輕巡洋艦							
(クラスノエ・クリム) (黒)	六〇〇	一五八	一五・三	一三・一五、一〇・二高、六 七・五高、四、機銃一〇	五三・三二 三〇	一九二五	
チエルボナヤウクライナ (黒)	六三〇	"	"	"	"	一九二四	
米艦							
戰艦	一五	一七	三二	潛水艦	一〇三	八二	一八五
航空母艦	三六	一二	一八	計艦	三一六	三二九	六四五
巡洋艦	一五五	一七〇	三二五	母艦	一四	九	二二
英國				英國	六	六	一二

エ	ケ	ラ	輕	重	B	航	裝	シ	ア
ケール	ケール	ニユル	巡洋艦	巡洋艦	グラフ・ツエツペリ	航空母艦	甲艦	シヤル	アドミラル
ムツル	ムツル	イユル			ツエツペリ			ナル	ス・マ
ヒスル	ヒスル	ブン			ツエツペリ			ホル	マ・ン
スル	スル	チベ			ツエツペリ			ス	・テ
スベール	スベール	ツル			ツエツペリ			ナ	ル・ビ
ン	ン	ヒヒ			ツエツペリ			ウ	ツ
五〇〇〇	六〇〇〇	六〇〇〇			一九三〇			三〇〇〇	三〇〇〇
一五六	一六九	一七〇			二五〇			二二二	二四二
一四・三	一五・二	一六・四			二六・九			三〇	三五・九
高機一四	一五・九、八・八高機一六、 一七・七高機一八、 一八・八高機一四	一五・九、八・八高機一六、 一七・七高機一八、 一八・八高機一四			一五・六、一〇・三高機一〇、 一七・七高機一三			一八・六、一五・八、一〇・五 高機一六、一七・七高機一八、 一八・八高機一四	一八・一、一五・三、 一〇・五高機一六
五〇・四	五三・五二二	五三・五二二			四〇			四	四
一	二	二			三			一	一
六三〇	五九二	六三三			一九三〇			九三三	一九三六
一九二五	一九三〇	一九三一			一九三〇			一九三三	一九三六
一九三三	一九三〇	一九三一			一九三〇			一九三三	一九三六

ド	ヒ	戰	伊	佛	獨
フリ	ヒ	艦	太	蘭	逸
ド	ヒ		利	西	水
イ	ヒ		水	水	水
ツ	ヒ		逐	逐	逐
ツ	ヒ		洋	洋	洋
チ	ヒ		艦	艦	艦
ユ	ヒ		母	母	母
ラ	ヒ		艦	艦	艦
ン	ヒ		計	計	計
ド	ヒ		艦	艦	艦
四〇〇〇	四〇〇〇		一	一	一
一	一		二	二	二
一	一		三	三	三
一	一		四	四	四
一	一		五	五	五
一	一		六	六	六
一	一		七	七	七
一	一		八	八	八
一	一		九	九	九
一	一		一〇	一〇	一〇
一	一		一一	一一	一一
一	一		一二	一二	一二
一	一		一三	一三	一三
一	一		一四	一四	一四
一	一		一五	一五	一五
一	一		一六	一六	一六
一	一		一七	一七	一七
一	一		一八	一八	一八
一	一		一九	一九	一九
一	一		二〇	二〇	二〇
一	一		二一	二一	二一
一	一		二二	二二	二二
一	一		二三	二三	二三
一	一		二四	二四	二四
一	一		二五	二五	二五
一	一		二六	二六	二六
一	一		二七	二七	二七
一	一		二八	二八	二八
一	一		二九	二九	二九
一	一		三〇	三〇	三〇
一	一		三一	三一	三一
一	一		三二	三二	三二
一	一		三三	三三	三三
一	一		三四	三四	三四
一	一		三五	三五	三五
一	一		三六	三六	三六
一	一		三七	三七	三七
一	一		三八	三八	三八
一	一		三九	三九	三九
一	一		四〇	四〇	四〇
一	一		四一	四一	四一
一	一		四二	四二	四二
一	一		四三	四三	四三
一	一		四四	四四	四四
一	一		四五	四五	四五
一	一		四六	四六	四六
一	一		四七	四七	四七
一	一		四八	四八	四八
一	一		四九	四九	四九
一	一		五〇	五〇	五〇
一	一		五一	五一	五一
一	一		五二	五二	五二
一	一		五三	五三	五三
一	一		五四	五四	五四
一	一		五五	五五	五五
一	一		五六	五六	五六
一	一		五七	五七	五七
一	一		五八	五八	五八
一	一		五九	五九	五九
一	一		六〇	六〇	六〇
一	一		六一	六一	六一
一	一		六二	六二	六二
一	一		六三	六三	六三
一	一		六四	六四	六四
一	一		六五	六五	六五
一	一		六六	六六	六六
一	一		六七	六七	六七
一	一		六八	六八	六八
一	一		六九	六九	六九
一	一		七〇	七〇	七〇
一	一		七一	七一	七一
一	一		七二	七二	七二
一	一		七三	七三	七三
一	一		七四	七四	七四
一	一		七五	七五	七五
一	一		七六	七六	七六
一	一		七七	七七	七七
一	一		七八	七八	七八
一	一		七九	七九	七九
一	一		八〇	八〇	八〇
一	一		八一	八一	八一
一	一		八二	八二	八二
一	一		八三	八三	八三
一	一		八四	八四	八四
一	一		八五	八五	八五
一	一		八六	八六	八六
一	一		八七	八七	八七
一	一		八八	八八	八八
一	一		八九	八九	八九
一	一		九〇	九〇	九〇
一	一		九一	九一	九一
一	一		九二	九二	九二
一	一		九三	九三	九三
一	一		九四	九四	九四
一	一		九五	九五	九五
一	一		九六	九六	九六
一	一		九七	九七	九七
一	一		九八	九八	九八
一	一		九九	九九	九九
一	一		一〇〇	一〇〇	一〇〇

伊國海軍艦艇表

昭和一七年七月調

深谷 甫編

艦名	基準排水量 (噸)	主砲	副砲	及高角砲	發射管	カタバ	塔載機	速力 (節)	乘員	竣工年	改装
戰艦											
イロ	3500	38.1	15.2	9	ナシ	ニ	ニ	30	不明		
ヴィットリオ・ベネト											
リツト											
アンドレア・ドリア	23300	33.1	13.5	9				27	1915	1915	
カイオ・デユイリオ											
ギユリオ・チエザレ											
コンテ・デイ・カヴァール											
重巡洋艦											
ポル	10000	20.5	10	7	ナシ	一	二	36	1913		
ボ											
ゴ											
ザ											
フ											
ト											
ト											
リ											
エ											
ス											
テ											

艦名	基準排水量 (噸)	主砲	副砲	及高角砲	發射管	カタバ	塔載機	速力 (節)	乘員	竣工年	改装
舊式裝甲巡洋艦											
(サン・ギオルギオ)	933	25.4	19.8	10	一	一	一	33	1910		
輕巡洋艦											
アミラリオ・コンスタンツォ・チアノ											
艦名未定											
ギエツベ・ガリバルデイ	787	15.2	10.8	3	二	四	三	35	1916		
ルイギ・デイ・サヴォイア											
デユカ・デリ・アブルヂ											
ユゲヒオ・デイ・サヴォイア	723	15.2	10.6	3	一	三	三	35	1917		
エマヌエレ・フィリベルト											
デユカ・ダオスタ											
ライモンド・モンテクツコリ	691		10.6	3	一	三	三	37	1915		
ムチオ・アツテンドロ・スフォルツ											
アルマンド・ディアツ	508		10.6	3	一	二	二	37	1915		
ルイギ・カドルナ											
(バルトロメオ・コレオニ)	509										
ギオヴァンニ・デル・パンデネレ											
アルベルト・デイ・ギユツサノ											
アルベリコ・ダ・バルビアーノ											
パ	388	15.8									
タラント (舊獨艦ストラスブルグ)	383	15.7									

建造中

各國水上機母艦性能比較表

國名	艦名	排水量	寸	法	速力	搭載機	武裝	裝
日	ノカチチ	14050	長さ 139m 幅 17.7m	吃水 8.1m	12	16	2×12cm 2×8cm	
	トセトヨ	17000	151m 20.4m	8.4m	14	16	2×14cm "	
	チミ	9000	176m 18.8m	5.8m	17	17	6×12.7cm "	
英	ホバ	4800	135m 11.1m	18.5m 15.2m	5.0m 5.3m	20 11	9	4×12cm 3×4cm 12M.G 14M.G
	トカ	6900	135m 11.1m	18.5m 15.2m	5.0m 5.3m	20 11	9	4×12cm 3×4cm 12M.G 14M.G
米	ラカ	8675	136m	17.7m	8.5m	15	8-12	2×12.7cm 2×7.6cm
	トカ	8625	136m	17.7m	8.5m	15	8-12	2×12.7cm 2×7.6cm
伊	ヂュセ	4890	122m	14.4m	5.2m	21.5	20	4×10.2cm 4M.G
	トカ	8625	136m	17.7m	8.5m	15	8-12	2×12.7cm 2×7.6cm
佛	コヤ	10000	153m	12.8m	7.1m	20.5	26	12×10cm 8×3.7cm 12M.G
スエ	トカ	4823	130m	15.4m	4.5m	27.5	11	6×15cm 8×25cm 4M.G 6×53.3cm 6×53.3cm

各國工作艦一覽表

國籍	艦名	排水量 (噸)	長さ (米)	幅 (米)	備砲	機銃	速力 (節)	乗員	竣工年
日本	明石	9000	—	—	13・七高	—	13	—	昭和二年
英國	レソ	11300	131・四	23・六	10・三高	機銃四	13	550	1913
米國	アジャ	建造中	—	—	—	—	—	—	—
"	ヘク	"	—	—	—	—	—	—	—
"	ジエ	"	—	—	—	—	—	—	—
"	メル	9100	—	—	—	—	—	—	—
"	メデ	8135	110・三	21・三	13・七高、七・六高、五・四	機銃一四	13	400	1913
"	プロ	6135	—	—	13・七高、七・六高、一	機銃一四	13	400	1913
"	ベス	6135	137・九	18・六	13・七高、七・六高、一	機銃一四	13	400	1913
伊國	クア	7185	123・九	18・六	10・三高	—	13	300	1917
ソ聯	クラ	1982	72・四	10・九	—	—	13	—	1912
"	セル	5910	107・三	14・三	—	—	13	—	1910
ブラ	ベル	7000	111・五	15・四	13・四、五・一	—	13	—	1912

深谷 甫編

軍人會館内

陸軍御用達

第一東洋軒

麴町區九段一丁目五
電話九段(33)自四一〇〇九〇番

本店

京橋角
第一相互館七階

第一東洋軒

電話京橋(56)七三六〇一六番

軍事史料篇

目次

- 一、帝國軍制の沿革
- 二、皇軍偉績(明治以後國外戰)
- 三、近代重要國際戰爭梗概

- 四、西洋著名戰爭名(十九世紀前半迄)
- 五、第一次世界大戰損害

一、帝國軍制の沿革

我が帝國の 皇統一系天壤と與に窮まりなく國運鞏固にして千古動かないのは、皇祖文武の威徳を以て皇道を四海に展べ給ひしより、列聖相承け能く其の道を遵守せられ國民亦忠君愛國の念熾盛にして尙武の氣象に富み、良く皇業を輔翼して君民一體祖業を恢弘紹述した結果であつて、我が軍制は其の基礎を實に此の光輝ある國體に置くものである。

神武天皇の中洲を平定し給ふや、文武一途海内皆兵にして、此の大權は悉く 天皇親ら之を總攬し給ひ帝國軍制の基礎が確立した。神功皇后の遠征によつて皇威遙かに三韓に及び、爾來我が武威隆々たるものがあつた。大化の改革に及び徵兵の制を採用し文武の制度は整備せられたけれども、昇平久しきに亙ると共に朝廷の政務漸く文弱に流れ、朝臣は和漢釋古の家と稱して朝要に方り、武士は弓馬の族と稱して諸國に占據し、文武全く岐れ皇綱紐を解

きて兵權遂に武門に歸し、祖宗の垂胎し、列聖の經營し給へる所も一時墮亂するに至つた。

源賴朝幕府を鎌倉に開くや兵馬の權全く之に歸し、爾來北條氏、足利氏等の武門遞々政を執り漸く封建の制を爲し、群雄列藩擅に私兵を養つて遂に我が國體に戻り、祖宗の遺訓に背戾するに至つた。此の間元寇の覆滅、秀吉の外征時に我が武威を海外に示したこともあつたが、國家的發展は殆ど見るべきものがなかつた。然るに明治の聖代

に至り兵馬の制亦我が國固有の學國皆兵の本性に服し、精銳無比の國軍が建設せられ、爾來七十年數次の外戰に連勝し、特に今次事變に際し帝國將兵の勇戦は克く皇威を宇内に宣揚し以て東洋平和の確保に邁進しつつあるのである。

次に年代を逐うて國軍の變遷を述べて見よう。

陸軍軍制の沿革

太古(神代) 太古に於ける軍制は荒蕪として之を審かにすることは出来な
いが武を以て國を盛め給へることは確實であつて、尙武の氣は蓋し我が帝國成立の重要な要素なるは明白である。

上古(神武天皇即位より紀元一三〇五年太化改新に至る) 此の千三百五十年間に於ける軍制は専ら簡易を主とし、海内を擧げて兵とし之が兵權は總て皇室に在り、征討ある毎に、天皇躬ら元帥となり、時として 皇后

皇太子の代らせ給ふことはあつても之を臣下に委ね給ふことはなかつた。仲哀天皇の親征、日本武尊の東征、神功皇后の遠征等皆之が證左である。垂仁天皇の朝屯倉を創められて漸次之を増加して殆ど國都に逼るに至り各地に部曲を置き之をして屯田を耕し糧食を結ましめ、各部は皆臣、連、伴造、國造を以て之を綱領し、其の最も貴き者を大臣、大連とし征伐の事あるとき、臣、連、伴造國造は各々其の部曲を率ゐて大臣、大連に聽命したが欽明天皇以降臣、連、伴造を擧るの節漸次積りて互に權勢を争ひ内難を構ふるに及び、遂に之を制し得ざる状態に立至つた、特に崇峻、推古の二朝に於て甚しいものがあつた。

中古(紀元一三〇五年太化改新より紀元一八四五年鎌倉開府に至る) 大化中興の新政は屯倉を廢し、臣、連の領する所の各部を罷めて以て悉く公民と爲し、兵權全く朝廷に歸し、兵部

省を置きて軍事を掌らしめ、文武始めて職を分つに至つた。然し兵農一に出づること尙舊の如きものであつた。

持統天皇三年(紀元一三四九年)勅して全國の人民四分の一を徴して兵と爲し、武事を演習せしめ給ふや學國皆兵の制一變して徵兵となり、次で文武天皇大寶令を制定あらせらるるや軍備大いに整ひ諸國に軍團を設け兵馬の權は平時は兵部省之を執り、事ある時は臨時任命する將帥之を擧り、又六衛の官常に其の所屬の兵を擧つて官團を守り、太宰府は防人司を指揮して外寇に備へ、諸國軍團は管下壯丁の三分の一を徵收して兵と爲し、之を訓練して衛士防人に供し、且地方の警備に任じ、軍團數約百三十、兵士十萬人に及んだ。

然るに爾後天下太平にして士氣漸く衰へ、聖武天皇の時特に壯者を募り健兒と稱して之を諸國に配備し、光仁天皇の朝地方の豪民弓馬に堪ふ

るものを點して番上せしめ、羸弱の兵士を農に赴かしめ、兵農分離の端を開き、爾後軍團は漸次其の實を失ひ朝廷及國衙亦兵力を有せざるに至り地方豪族の勢漸次増大して遂に武士となり、兵農全く分離するに至つた實に徵兵制度創設以來二百五十年である。

其の後醍醐天皇長祿五年(紀元一五八七年)延喜式を發布せられ軍制完備し大寶令に優るものがあつたが、兵權の實質は己に地方豪族に移つて制度も終に實行せられず、天慶の亂以來事ある毎に豪族の力を藉りて僅かに他豪族の叛亂を鎮定する状態となり、朝威大いに衰頹して兵制は紊れ、遂に兵は之を武門に聚めざるべからざるに至つた。此の國が本二百五十年である。

近古(紀元一八四五年鎌倉開府より紀元二五二七年大政奉還に至る) 後鳥羽天皇文治元年(紀元一八四五年)源賴朝六十六國の總地頭、總追捕使と

なるや筑紫奉行を設けて鎮西の綏撫に任じ、大藩をして京都を密衛せしめ鎮守府將軍に代ふるに陸奥奉行を以てして蝦夷に備へしめた。斯くて建久三年(紀元一八五二年)頼朝舊夷大將軍に任ぜらるるに及び兵馬の權は政權と共に全く武門に歸して了つた。但し其の兵尙士族のものであつたが、北條氏を経て足利氏兵馬の權を擧るに及び、全く封建の制を創め而も天下多事軍役與ること頗はしく諸國の武士は常に其の將帥の往くに隨つて東西に轉移し、天下の兵士皆其の兵を失つて了つた。

足利氏の衰ふるに及び、群雄割據互に其の領域を攻略して隱然侯國の勢を爲し、織田氏に次で豊臣氏天下を統一するに及び、其の幕下將校の封は朝野兼政將領は常に其の士卒を城下に聚めて轉移に便した。是に於て兵の土著せざるもの一定し、兵農全く分離し、徳川氏に及び封建制度が完成せられた。

爾後太平約三百年、兵備頗る緩み軍制漸く虛文に流れて實際の用には立たなくなつた。其の末期に至り兵器の進歩は銃陣砲隊の編成となり、城壘、砲臺の構築を促し軍制一部の改變を見たが、到底宇内の形勢は伴はず、動もすれば外侮を受けんとするの危機を招來した。かくて明治維新となり、政權の朝廷に歸すると共に封建の制を改め、兵制亦古に復した。實に頼朝開府以來約七百年である。

近代(紀元二五二七年王政復古以降)

明治元年 軍務官を設け兵制を統轄せしむることになつた。

明治二年 軍務官を廢し兵部省を置く。

明治三年 常備兵員を定め洋式を備酌して兵制を一定し、始めて徵兵規則を設けた。

明治四年 東京、大阪、東北、鎮西の四鎮營を設け、尙讀法七章を頒つた。